

十王堂遺跡

主要地方道日立笠間線道路改良
工事地内埋蔵文化財調査報告書

平成22年3月

茨城県高萩工事事務所
財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第332集

じゅう おう どう い せき
十 王 堂 遺 跡

主要地方道日立笠間線道路改良
工事地内埋蔵文化財調査報告書

平成22年3月

茨城県高萩工事事務所
財団法人茨城県教育財団



遺跡全景（南上空から）



第365号土坑管玉出土状況

序

茨城県では、市町村や県の枠を越える広域的な交流と連携を進めるため、また県土の均衡ある発展を支える基盤として、その骨格となる一般国道や主要地方道などの幹線道路網の整備が進められています。

その一環として整備される主要地方道日立笠間線は、近年市街地区域で発生している交通渋滞の解消と周辺環境の向上を図る上で極めて重要な役割を果たすものです。

しかしながら、この事業地内には埋蔵文化財包蔵地である十王堂遺跡が所在することから、これを記録保存の方法により保護する必要があるため、当財団が茨城県高萩工事事務所から委託を受け、平成20年4月から9月までの6か月間にわたって埋蔵文化財の発掘調査を実施しました。

本書は、その調査成果を取録したものです。学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深めるために活用されることによりまして、教育・文化の向上の一助となれば幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である茨城県高萩工事事務所から多大な御協力を賜りましたことに對し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、日立市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し深く感謝申し上げます。

平成 22 年 3 月

財団法人茨城県教育財団
理事長 稲葉 節 生

例 言

- 1 本書は、茨城県高萩工事事務所の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成20年度に発掘調査を実施した、茨城県日立市末広町5丁目174-2番地ほかに所在する十王堂遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。
調 査 平成20年4月1日～9月30日
整 理 平成21年6月1日～平成22年3月31日
- 3 発掘調査は、調査課長池田晃一のもと、以下の者が担当した。
首席調査員兼班長 三谷 正 平成20年4月1日～9月30日
主任調査員 市村俊英 平成20年4月1日～5月31日
主任調査員 齋藤貴史 平成20年4月1日～9月30日
調査員 清水 哲 平成20年7月1日～9月30日
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長村上和彦のもと、主任調査員齋藤貴史、調査員清水哲が担当した。
- 5 縄文土器の様相及び土偶の特徴については、瓦吹堅氏（茨城キリスト教大学講師）にご指導をいただいた。
遺構平面図及びエレベーション図の3次元測量は、有限会社三井考測に委託した。
旧表土から出土した和鏡の保存処理は、株式会社吉田生物研究所に委託した。
第363号土坑から出土した木材の保存処理は、財団法人元興寺文化財研究所保存科学センターに委託した。
第214号土坑から出土した炭化材及び第363号土坑から出土した木材の年代測定と樹種同定は、バリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、考察は付章として巻末に掲載した。

凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標を原点とし、 $X = +62,160\text{m}$ 、 $Y = +70,360\text{m}$ の交点を基準点 (A 1a1) とした。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…、西から東へ1、2、3…とし、 $Y = +70,360\text{m}$ 以西は東から西へ-1、-2、-3…として、「A 1区」「B-2区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa、b、c…j、西から東へ1、2、3…0と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1a1区」、「B-2b2区」のように呼称した。

- 2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は、次のとおりである。

遺構 SI-竪穴住居跡 SB-掘立柱建物跡 SD-溝跡 SK-土坑 SE-井戸跡 P-ピット

遺物 TP-拓本記録土器 DP-土製品 Q-石器・石製品 M-金属製品 W-木製品

土層 K-攪乱 KP-鹿沼バミス

- 3 土層観察と遺物における色調の判定には、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄著 日本色研事業株式会社）を使用した。

- 4 遺構・遺物実測図の掲載方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は200分の1、遺構実測図は原則として60分の1の縮尺で掲載した。

(2) 遺物実測図は、原則として3分の1の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合があり、それらについては個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構及び実測図中の表示は、次のとおりである。

 焼土・赤彩・施釉

 炬・火床面・繊維土器断面

 竈部材・黒色処理

● 土器 ○ 土製品 □ 石器・石製品 △ 金属製品 ----- 硬化面

- 5 遺物観察表・遺構一覧表の表記については、次のとおりである。

(1) 遺物番号は土器、拓本記録土器、土製品、石器・石製品、金属製品、木製品ごとに通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

(2) 計測値の単位は、 $\text{m} \cdot \text{cm}$ 、 $\text{kg} \cdot \text{g}$ である。なお計測値の()内の数値は現存値を、[]内の数値は推定値を示した。

(3) 遺物観察表の備考欄は、土器の現存率、写真図版番号を記した。

- 6 竪穴住居跡の「主軸」は、炬・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸(径)方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 N-10°-E)。

目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
概 要	1
第1章 調査経緯	5
第1節 調査に至る経緯	5
第2節 調査経過	6
第2章 位置と環境	7
第1節 地理的環境	7
第2節 歴史的環境	7
第3章 調査の成果	12
第1節 調査の概要	12
第2節 基本層序	12
第3節 遺構と遺物	14
1 縄文時代の遺構と遺物	14
(1) 竪穴住居跡	14
(2) 掘立柱建物跡	46
(3) 土坑	48
(4) 遺物包含層	187
2 弥生時代の遺構と遺物	251
(1) 土坑墓	251
(2) 土坑	253
3 平安時代の遺構と遺物	256
(1) 竪穴住居跡	256
(2) 溝跡	265
4 中世の遺構と遺物	266
井戸跡	266
5 その他の時代の遺構と遺物	269
(1) 溝跡	269
(2) 遺構外出土遺物	269
第4節 まとめ	274
付 章 十王堂遺跡出土遺物の自然科学分析	287
写真図版	PL 1～PL52
抄 録	
付 図	

十王堂遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

十王堂遺跡は、日立市中央部のJR常磐線常陸多賀駅から西へ約1.2kmの大久保中学校周辺に位置し、多賀山地のふもと、標高約60mの海岸台地上に立地しています。遺跡は大正時代の『常陸多賀郡史』に石皿や石斧などが出土する遺跡として紹介され、早くからその存在が知られていました。昭和30年代には、ストーンサークルを思わせる立石や列石が発見され、さらに縄文土器片や土偶・石棒・石冠などが出土し、縄文時代後期の遺跡として注目されていました。



今回、遺跡の一部が主要地方道日立笠間線の道路改良工事の事業地内に含まれていることから、財団法人茨城県教育財団が発掘調査を行いました。

調査の内容

今回の調査区は、丘陵裾から南東方向にのびる舌状台地の中央部にあり、地形は台地上から東西に向かって低くなっています。調査の結果、縄文時代中期から晩期（約5,000～3,000年前）の竪穴住居跡や掘立柱建物跡、貯蔵穴や柱穴、土器などを捨てた廃棄場（遺物包含層）などのほか、弥生時代中期（約2,200年前）の土坑墓、平安時代（約1,000年前）の竪穴住居跡や溝跡、中世後半（約400年前）の井戸跡を確認しました。



西側上空から見た十王堂遺跡（遠方に太平洋を望む）



南東部から中央部にかけての台地上から縄文時代中期～後期（約4,500～4,000年前）の竪穴住居跡14軒が見つかりました。第7号住居跡は平面形が円形で、中央部には石囲い炉と呼ばれる火を使って煮炊きする施設が確認できました。



炉跡（石囲い炉）は、住居跡の中央部に作られることが多く、暖や明かりをとる役割もしました。



住居内のイメージ



南東部から中央部にかけての台地上から縄文時代中期～後期の貯蔵穴と考えられる土坑23基が見つかりました。穴の形状が理科で使うフラスコに似ていることからフラスコ状土坑と呼ばれています。



南東部に位置する第19号土坑から、縄文時代中期前半（約5,000年前）の深鉢3点が出土しました。

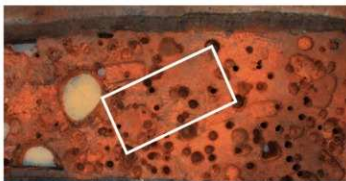


貯蔵穴イメージ

深鉢は、食材を煮炊きしたり、貯蔵したりした器です。



当時の人々は温度や湿度の差が小さい地中に穴を掘って、クリやクルミなどの食材を蓄えていたものと考えられます。



中央部西寄りの台地上から縄文時代晩期（約2500年前）の掘立柱建物跡1棟が見つかりました。規則的に並んだ穴は、柱を立てた穴です。柱をしっかりと立てるため、土質の異なる土を交互に入れて埋め固めていることがわかりました。



中央部から西部にかけて縄文時代晩期の柱穴と考えられる土坑が多数見つかりました。第363号土坑（柱穴）の底面付近から直径約40cmの柱材が出土しました。柱材が残っていることは珍しいことです。分析の結果、材質はクリで、今から2,560年前のものと判明しました。



東部の斜面部から土器や石器を捨てた廃棄場が見つかりました。多量の縄文土器片のほか、狩猟具の石鏃、調理用具の磨石や凹石、加工具の石錐、土を掘ったり木材を伐採したりする道具の石斧、マツリに使用されたと考えられる石棒や土偶など、当時の暮らしを映し出す様々な道具が出土しました。



捨てられた多量の土器片



石器



石棒



土偶



西部の谷部からお墓と考えられる弥生時代の土坑が見つかりました。土坑墓からは副葬品の壺と粉々に砕かれた管玉が出土しました。こうした事例は、福島県域で多く確認されており東北地方の影響を受けたものと思われます。

砕かれた管玉を接合すると8点になりました。アクセサリーとして使われていました。



南東部の表土中から和鏡が完全な形で出土しました。鏡の文様から海洋文鏡と呼ばれ、室町時代に作られたものです。上部の縁に穴が2か所空けられていることから、実用的なものではなく、お堂などに懸けられて祀られた懸け鏡ということが分かりました。遺跡名である「十王堂」との関連をうかがわせる資料です。

「十王堂」は極楽浄土を祈願し、閻魔大王をはじめとする10人の王を祀ったお堂です。中世庶民の間に流行した「十王堂思想」との関連についても興味深いところです。

調査の成果

当遺跡は、これまで縄文時代後期の遺跡と考えられていましたが、今回の調査の結果、縄文時代中期から中世にわたる複合遺跡であることが分かりました。南東部から中央部の台地上では、縄文時代中期～晩期や平安時代の集落域が確認できました。縄文時代の集落は、時代が下るごとに東から西へ移っていく様子が見られました。また、東部の斜面部は、縄文時代中期～後期の廃棄域（遺物包含層）となっています。特に中期後半には大規模な廃棄行為が行われていました。ここからは東北地方南部の影響を受けた土器がたくさん出土しています。さらに、西部の谷部では、弥生時代中期の土坑墓が確認でき、墓域であったことが分かります。このように当遺跡は、縄文時代と弥生時代の各時期にわたって東北地方の影響を受けた文化圏であり、当時、人や物の交流が盛んであったことがうかがえます。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

茨城県高萩土木事務所（平成21年4月から茨城県高萩工事事務所に名称を変更）は、日立市末広町において、交通の円滑化をはかるために主要地方道日立笠間線道路改良工事を進めている。

平成11年10月21日、茨城県高萩土木事務所長から茨城県教育委員会教育長あてに、主要地方道日立笠間線道路改良工事地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会があった。これを受けて茨城県教育委員会は、平成15年4月30日、5月1日に現地踏査を行い、平成15年5月26～28日、6月17～19日、平成19年11月7日及び平成20年5月14日に試掘調査を実施し、十王堂遺跡の所在を確認した。平成15年6月25日、平成19年11月30日及び平成20年5月14日、茨城県教育委員会教育長から茨城県高萩土木事務所長あてに、事業地内に十王堂遺跡が所在すること及びその取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成20年2月6日、茨城県高萩土木事務所長から茨城県教育委員会教育長あてに、文化財保護法第94条に基づく土木工事の通知が提出された。現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、平成20年2月8日、茨城県教育委員会教育長から茨城県高萩土木事務所長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成20年2月12日、茨城県高萩土木事務所長から茨城県教育委員会教育長あてに、主要地方道日立笠間線道路建設事業地内に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書が提出された。同日、茨城県教育委員会教育長から茨城県高萩土木事務所長あてに、十王堂遺跡の発掘調査範囲及び面積等について回答した。また、あわせて調査機関として、財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県高萩土木事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成20年4月1日から平成20年6月30日までの計画で発掘調査を開始した。

平成20年5月14日の試掘結果を受けて、茨城県教育委員会教育長は、平成20年5月21日、茨城県高萩土木事務所長、茨城県教育財団理事長あてに、十王堂遺跡の発掘調査範囲及び面積等についての変更協議書を提出した。平成20年5月21日、茨城県高萩土木事務所長、茨城県教育財団理事長から茨城県教育委員会教育長あてに、変更協議の回答書が提出された。財団法人茨城県教育財団は、平成20年9月30日まで期間を延長して発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

十王堂遺跡の調査は、平成20年4月1日から9月30日までの6か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

工程 \ 期間	4月	5月	6月	7月	8月	9月
調査準備 表土除去 遺構確認	■			■		
遺構調査	■	■	■	■	■	■
遺物洗浄 注記作業 写真整理	■	■	■	■	■	■
補足調査 撤収				■		■

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

十王堂遺跡は、茨城県日立市末広町5丁目174-2番地ほかに所在している。

日立市は、県の北東部に位置し、東は太平洋に面し、北は高萩市、西は多賀山地の分水嶺を境として常陸太田市、南は久慈川を境に那珂郡東海村に接している。

地形¹⁾は、市域西部の約6割を多賀山地が占めている。多賀山地は、阿武隈高地の南端にあたり、標高598.0mの神峰山、標高623.2mの高鈴山を中心に標高300～400mの高原状の地形が南北に連なっている。その周縁部には、500～150万年前の更新世多摩期の海進によって形成された標高70～150mの頂部平坦面をもつ丘陵が分布している。丘陵裾から海岸部までは標高20～60mの海岸台地で、12～13万年前の下末吉海進最盛期以降に形成された段丘状の地形が、太平洋に沿って幅1.5～2kmの帯状に広がっている。この台地上を小石川・十王川・東連津川・宮田川・鮎川・桜川・大川・金沢川などの中小河川が東流しており、樹枝状の谷津を発達させている。市域南端部の久慈川下流域は、関東平野の最北部をなす沖積低地である。約2万年前の更新世最終水期に深さ約60mの谷地形が開析され、その後の縄文海進期の内湾性堆積物や久慈川の河川堆積物が、標高5m以下の低平な平野部を形成している。

地質²⁾は、多賀山地の神峰山・高鈴山以南が粘板岩、雲母片岩、角閃岩などを主とする日立変成岩類、以北が花崗岩類で構成され、当地域の基盤層となっている。丘陵部や台地部では、その基盤層の上部に厚さ約5mの海成砂層や変成岩類の角礫からなる斜面堆積物が認められ、これを鹿沼軽石層を中位に挟む関東ローム層が覆っている。

当遺跡は、日立市中央部のJR常磐線常陸多賀駅から西へ1.2km、日立市立大久保中学校の南側に位置し、多賀山地東麓の桜川と大川に挟まれた標高59～60mの海岸台地上位の段丘面に立地している。調査区は南東に向かって緩やかに傾斜しており、西側の丘陵との境界付近には支谷が入り込み、東側はローム層が2m以上低くなる段丘斜面部となっている。谷部と斜面部には土石流堆積層が認められ、谷部ではローム層を浸食し、段丘斜面部では旧表土とローム層を覆っている。調査前の現況は雑種地である。

第2節 歴史的環境

当遺跡が所在する多賀山地東麓の丘陵部から海岸台地上には、旧石器時代から中世にかけての遺跡が数多く所在している。ここでは、当遺跡周辺の主な遺跡について概観する。

旧石器時代の遺跡は、市域では鹿野場遺跡、泉前遺跡、六ツヶ塚遺跡、宮脇A遺跡などの調査例がある³⁾。鹿野場遺跡では、礫器、搔器、石刃、泉前遺跡では搔器、石刃、尖頭器、六ツヶ塚遺跡ではナイフ形石器、搔器などが出土している。

縄文時代の遺跡は、多賀山地東麓の台地上や山沿いの地域に多く所在している⁴⁾。草創期は、堂の下遺跡で尖頭器、西大塚遺跡で有舌尖頭器が出土している。早期は、台地上のほかに山地の頂部平坦面にも遺跡が点在し、鹿野場遺跡で縄文鳥台式～茅山式期の住居跡が確認されているほか、遠下遺跡、大近平遺跡で当期の住居跡が見つかった。前期になると台地上の集落形成が顕著になり、泉原遺跡、前原

遺跡などの規模の大きい集落が形成されるようになる。また、泉原貝塚⁹の調査では、海水の砂泥底に生息するハマグリ、アサリ、サルボウのほか、海水と淡水が入り交じる汽水域に生息するヤマトシジミなどの貝殻が出土している。これらの貝類の生息環境から、貝塚周辺の低地部が干潮時には干涸になるような入り江であったと推定される。中期から後期前半にかけては遺跡数が急増する。市域では小河川に区切られた台地ごとに集落が分布しており、相互補完的な在り方を示し、助川海防城跡、諏訪遺跡(10)、上の内遺跡(12)、吉五郎台遺跡(15)などが確認されている。諏訪遺跡⁸からは30基のフラスコ状土坑が検出され、多数の土器とともに石器や炭化したクルミなどが出土している。出土土器は、県北地域における中期前葉の様相を良好に示す一群として、「スワタイプ」⁷あるいは「諏訪式」⁸と仮称される標識資料となっている。上の内遺跡⁹では中期後半から後期前半の堅穴住居跡129軒や土坑1,496基などが確認され、県内でも有数の大規模集落であることが明らかになっている。当遺跡(①)も縄文時代後期の遺跡として早くからその存在が知られている¹⁰。大正時代の『常陸多賀郡史』に石皿、石斧が出土する遺跡として紹介されているほか、昭和30年代にはストーンサークルを思わせる立石や列石が発見され、後期(堀之内式期、加曾利B式期)の土器に伴って出土した土偶や石冠、石棒が報告されている。また、当遺跡に隣接する宮の後遺跡(2)、根岸西遺跡(4)でも縄文時代の遺構が確認されており、宮の後遺跡¹¹では中期前葉のフラスコ状土坑、根岸西遺跡¹²では中期末葉から後期前葉の堅穴住居跡13軒、土坑28基がそれぞれ確認されている。市域では後期後半以降、遺跡数は減少し、晩期には激減する傾向が見られる。晩期の遺跡としては、上の代遺跡、大沼遺跡(28)などがある。

弥生時代の遺跡は、海岸台地上に点在している¹³。大沼遺跡では中期前半の弥生土器片が採集されており、県内における弥生文化開始期の土器として注目されている。

古墳時代は、多数の古墳や横穴が海岸台地の沿岸部に分布している¹⁴。古墳は、6世紀中葉の馬具が出土した西大塚古墳群、7世紀初頭の円墳や小石室が確認された河原子古墳群などがあり、横穴は赤羽横穴墓群、千福寺下横穴墓群などの調査例がある。

奈良・平安時代の日立地方は、久慈郡(笄月(密筑・高月・蜜月)郷・助川郷・高市郷)及び多珂郡(伴部郷)に属し、9世紀初頭まで活発に行われた蝦夷討伐の交通路として重要な役割を担っていたと考えられる¹⁵。当遺跡は、久慈郡笄月郷の西部に位置している。当時代の遺跡は、根岸西遺跡や泉前遺跡、諏訪遺跡、志々前遺跡(23)などで集落跡が確認されている。根岸西遺跡¹⁶では10世紀前葉の堅穴住居跡7軒、泉前遺跡では鍛冶工房を含む堅穴住居跡36軒や掘立柱建物跡8棟が見つかり、諏訪遺跡では「満」、「□家」、「具」などと墨書された土師器の坏が出土している。また、当遺跡周辺では竈跡が確認されており、成沢窯跡(11)は須恵器窯跡、石内窯跡(8)は瓦窯跡であることが知られている。

中世では、滑川浜館遺跡、要害城跡、金沢館跡(29)、大窪愛宕山城跡(33)、大窪天神山城跡(34)、大窪城跡などの城館跡がある。当遺跡の南西に位置する大窪愛宕山城跡・大窪天神山城跡・大窪城跡¹⁸は佐竹氏の家臣(宿老)として活躍した大窪氏の居城である。平安末期、常陸大掾平忠幹の九男宗幹が愛宕山に居館を構えたのが始まりとされ、応永年間(1394～1428)に奥州の石川詮光の三男茂光を養子に迎えた頃、大窪氏を名乗り、天神山に城を移したとされている。天正年間(1573～85)に入り大窪城が築かれ、佐竹氏の秋田移封を契機に廃城となっている。大窪城の跡地には天保10年(1839)に水戸藩の郷校である暇修館が置かれ、現在、建物が復元されている。

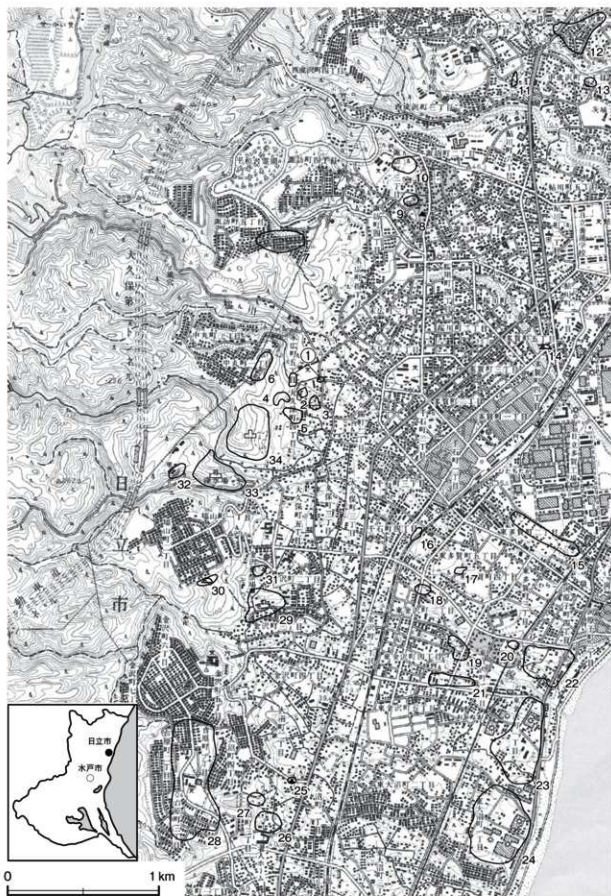
[※]本文中の<>内の番号は、第1図及び表1の該当番号と同じである。なお、本節は財団報告第261集を基にし、加筆したものである。

註

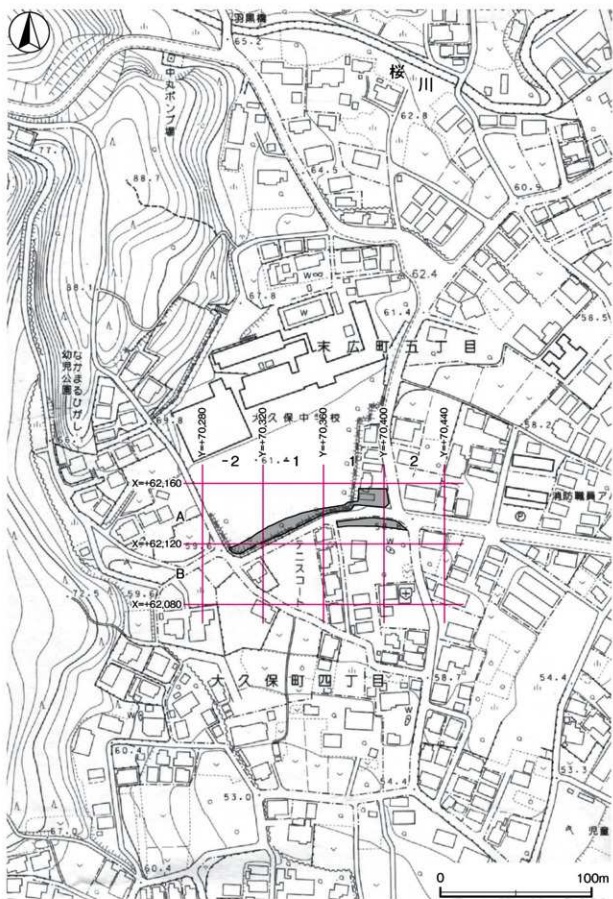
- 1) 日立市史編さん委員会 『新修 日立市史』上巻 1994年9月
茨城県農地局農地計画課 『土地分類基本調査 日立 5万分の1』 1995年3月
- 2) 註1文献と同じ
- 3) 茨城県考古学協会 『茨城県における旧石器時代研究の到達点-その現状と課題-』 2002年12月
- 4) 日立市史編さん委員会 『新修 日立市史』上巻 1994年9月
- 5) 日立市教育委員会 『泉原貝塚発掘調査報告書』『日立市文化財調査報告』第45集 1998年5月
- 6) 諏訪遺跡発掘調査団 『諏訪遺跡発掘調査報告書』『日立市文化財調査報告』第7集 日立市教育委員会 1980年3月
- 7) 鈴木裕芳 『諏訪遺跡出土土器群の再検討』『茨城県史研究』59 茨城県立歴史館 1987年10月
- 8) 海老沢隆 『茨城県内における縄文時代中期前半の土器様相(2)-諏訪式土器について-』『優良岐考古』第6号 優良岐考古同人会 1984年4月
- 9) 湯原勝美ほか 『上の内遺跡発掘調査報告書』『日立市文化財調査報告書』第46集 日立市教育委員会 1998年3月
小川和博 『上の内遺跡発掘調査報告書』『日立市文化財調査報告書』第61集 日立市教育委員会 2002年3月
- 10) 瀬谷義彦 『日立市大久保町十王堂ストーンサークル』『郷土ひたち』創刊号 郷土日立文化研究会 1960年2月
瀬谷義彦 『表紙写真』石冠と土偶』『郷土ひたち』第3号 郷土日立文化研究会 1961年6月
志田諒一 『日立市大久保町十王堂出土の石棒について』『郷土ひたち』第16号 郷土日立文化研究会 1966年10月
- 11) 日立市教育委員会 『宮の接遺跡発掘調査報告書』『日立市文化財調査報告』第48集 2001年3月
- 12) 渡邊浩実 『主要地方道日立笠岡線道路改良工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書 根岸西遺跡』『茨城県教育財団文化財調査報告』第261集 2006年3月
- 13)～15) 註4文献と同じ
- 16) 註12文献と同じ
- 17) 住谷久江 『泉前遺跡(二次)』『日立市文化財調査報告』第12集 日立市教育委員会 1982年11月
- 18) 青木義一 『6 大久保三城』『国図 茨城の城館』茨城県城郭研究会 2006年8月

表1 十王堂遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世
①	十王堂遺跡	○	○			○	○	18	屋代遺跡						○	
2	宮の後遺跡	○				○		19	弁才天遺跡	○		○				
3	根岸遺跡	○						20	西の内遺跡						○	
4	根岸西遺跡	○				○		21	高野遺跡	○		○				
5	堀内遺跡	○				○		22	天神後遺跡	○		○				
6	中丸遺跡	○	○					23	志々前遺跡	○		○	○			
7	小咲台遺跡	○						24	殻貝尻遺跡	○		○	○			
8	石内窯跡					○		25	大沼窯跡						○	
9	久保遺跡	○				○		26	若宮遺跡	○		○				
10	諏訪遺跡	○				○		27	仲道遺跡	○						
11	成沢窯跡					○		28	大沼遺跡	○	○		○			
12	上の内遺跡	○						29	金沢館跡						○	
13	池の川遺跡	○				○		30	北向後塚群							○
14	下孫一里塚						○	31	寺前遺跡	○	○	○	○			
15	吉五郎台遺跡	○		○	○			32	梅ヶ丘遺跡	○		○				
16	天王遺跡	○				○		33	大雀愛宕山城跡							○
17	太子谷遺跡	○	○					34	大雀天神山城跡							○



第1図 十王堂遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000分の1「常陸太田」・「日立南部」）



第2図 十王堂遺跡調査区設定図（日立市都市計画図2,500分の1）

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

十王堂遺跡は、日立市中央部に位置し、多賀山山地東麓の桜川と大川に挟まれた標高59～60mの海岸台地上に立地している。調査地は丘陵裾から南東へ伸びる段丘面の中央部付近にあたり、東側は段丘斜面部となっており、西側には小規模な谷が入り込んでいる。調査前の現況は雑種地で、調査面積は1.269miである。

調査では、縄文時代の堅穴住居跡14軒、掘立柱建物跡1棟、土坑62基、遺物包含層1か所、弥生時代の土坑墓1基、土坑2基、平安時代の堅穴住居跡6軒、溝跡1条、中世の井戸跡3基、時期不明の溝跡1条が確認できた。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）で245箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢・鉢・浅鉢・注口土器・壺形土器・蓋・ミニチュア土器）、弥生土器（鉢・壺）、土師器（坏・高台付碗・高台付皿・甕・甌）、須恵器（甕）、灰釉陶器（甌）、土師質土器（小皿・内耳鍋）、陶器（甕）、土製品（土偶・耳栓・土器片円盤）、石器（石錐・石錐・磨製石斧・打製石斧・磨石・敲石・石錘・浮子・棒状凹石・凹石・石皿）、石製品（石棒・石剣・垂飾り・管玉）、鉄製品（刀子）、銅製品（懸け鏡・銭貨）、木製品（柱材）などである。

第2節 基本層序

調査区東側の（A2b1区）にテストピットを設定し、深さ28mまで掘り下げて基本土層の観察を行った。土層は13層に分層できた。土層の観察結果は以下の通りである。

第1層は、現地表の工事造成土である。上層は砕石、下層は砕石混じりの暗褐色土で、層厚は30～40cmである。

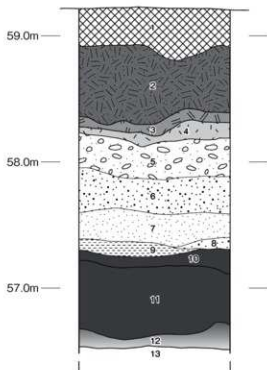
第2層は、黒褐色を呈する遺物包含層である。大形の土器片を多量、礫少量、焼土粒子・炭化粒子を微量含み、粘性・締まりともに普通で、層厚は40～60cmである。

第3層は、灰黄褐色を呈する遺物包含層である。土器片を少量、礫・焼土粒子・炭化粒子を微量含み、粘性はやや強く、締まりは普通で、層厚は4～9cmである。

第4層は、にぶい黄褐色を呈する遺物包含層である。ローム粒子を中量、炭化粒子を少量、土器片・礫・焼土粒子を微量含み、粘性は強く、締まりは普通で、層厚は5～15cmである。

第5層は、にぶい黄褐色を呈する土石流堆積層である。礫を多量、ローム粒子・焼土粒子を微量含み、粘性は普通で、締まりは強く、層厚は27～30cmである。

第6層は、灰黄褐色を呈する土石流堆積層である。砂を多量、礫を中量含み、砂質で、締まりは普通であり、



第3図 基本土層図

層厚は24～35cmである。

第7層は、暗褐色を呈する土石流堆積層である。ローム粒子を多量、礫を少量含み、粘性・締まりともに強く、層厚は20～26cmである。

第8層は、にぶい黄褐色を呈する土石流堆積層である。砂を多量、ローム粒子を少量含み、砂質で、締まりは強く、層厚は9cmである。

第9層は、にぶい黄褐色を呈する土石流堆積層である。ローム粒子を中量、砂を少量、礫・焼土粒子・炭化粒子を微量含み、粘性は強く、締まりは普通で、層厚は12cmである。

第10層は、黒褐色を呈する土石流堆積層である。ロームブロックを少量含み、粘性は極めて強く、締まりは普通で、層厚は8～19cmである。

第11層は、黒色を呈する旧表土層である。ローム粒子・七本桜軽石粒子を微量含み、粘性はやや強く、締まりは普通で、層厚は39～56cmである。

第12層は、褐色を呈するソフトローム層への漸移層である。七本桜軽石粒子を少量含み、粘性は強く、締まりは普通で、層厚は7～21cmである。

第13層は、明褐色を呈するソフトローム層である。七本桜軽石粒子を微量含み、粘性・締まりともに普通で、層厚は下層が未掘のため不明である。

遺構は、第2～4層が第1号遺物包含層の覆土に相当し、以西では第13層の上面で確認した。

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

当該時代の遺構は、竪穴住居跡14軒、掘立柱建物跡1棟、土坑620基、遺物包含層1か所が確認できた。以下、遺構及び遺物について記述する。なお、石器の一部（磨石、敲石、棒状凹石、凹石、石皿）については、観察表のみを記載した。

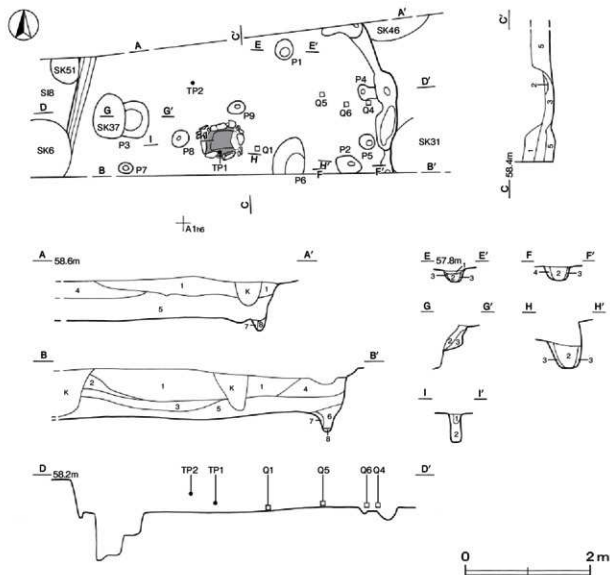
(1) 竪穴住居跡

第7号住居跡（第4～6図）

位置 調査区南東部のA1g6区、標高58.2mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第8号住居跡、第31・46・67号土坑を掘り込み、第1・6・37・51号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東西軸は5.2mで、北側と南側は調査区域外へ延びているため、南北軸は2.4mしか確認できな



第4図 第7号住居跡実測図

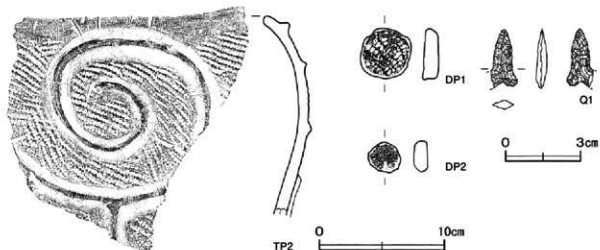
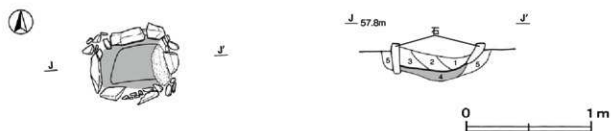
かった。平面形は円形と推測できる。壁高は56cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、特に硬化した部分は認められなかった。確認できた壁下を壁溝が巡っている。

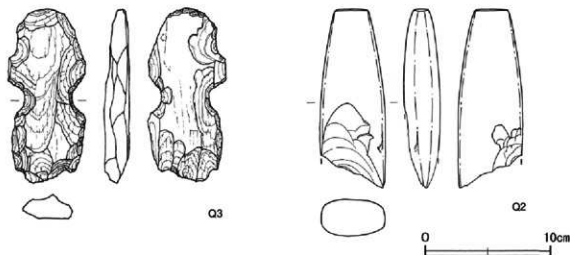
炉 中央部に付設された石囲い炉である。規模は長軸41cm、短軸37cmで、平面形は長方形である。炉床面は床面から16cmくぼんでいる。炉床部は火を受けて赤変し、硬化は弱い。

炉土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 赤褐色 | 焼土粒子多量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 におい黄褐色 | 砂粒多量 | | |



第5図 第7号住居跡・出土遺物実測図



第6図 第7号住居跡出土遺物実測図

ピット 9か所。P1～P3は深さ19～41cmで、位置と形状から主柱穴と考えられる。P4～P9は深さ7～45cmで、性格は不明である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量 | 4 濃い黄褐色 ローム粒子多量 |

覆土 8層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・炭化物・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 8 暗褐色 ローム粒子多量 |

遺物出土状況 縄文土器片1,075点、土製品2点(土器片円盤)、石器6点(石鏃1、磨製石斧1、打製石斧1、棒状凹石2、凹石1)が出土している。Q1は中央部、Q4～Q6は東側の床面、TP1は中央部、DP1は南東部、DP2は北西部の覆土下層、TP2は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利EⅢ式期)に比定できる。

第7号住居跡出土遺物観察表(第5・6図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考	
TP1	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	普通	口縁部縄文RL、横位、胴部縄文RL、縦位→沈線間磨治	下層	PL.26	
TP2	縄文土器	深鉢	長石・雲母・針状鉱物	橙	普通	縄文RL、充填→凹縁起線貼付	中層	PL.26	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴など	出土位置	備考
DP1	土器凹盤	4.1	4.0	1.3	26	長石・石英・雲母・針状鉱物	凹縁部研磨	下層	
DP2	土器凹盤	2.4	2.7	1.1	8.6	長石・石英・黒色粒子	凹縁部研磨	下層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q1	石鏃	(3.0)	(1.1)	0.4	(0.82)	チャート	基部一部欠損 両面押圧調整 凹基無茎鏃	床面	PL.44
Q2	磨製石斧	(14.1)	(5.2)	2.9	(337)	砂岩	刃部欠損 全面研磨 両凸刃	覆土中	PL.45
Q3	打製石斧	13.8	6.3	2.0	215	緑色片岩	両面調整 分銅形	覆土中	PL.45
Q4	棒状凹石	(14.1)	3.9	3.2	(240)	緑色片岩	凹痕表1、裏1か所	床面	
Q5	棒状凹石	12.2	6.2	3.3	479	緑色岩	凹痕表2、裏2か所 磨石転用	床面	PL.47
Q6	凹石	24.5	11.2	6.7	2580	緑色片岩	凹痕2か所	床面	

第8号住居跡 (第7図)

位置 調査区南東部のA1g5区、標高58.2mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第7号住居、第6・25・33・36・42・51号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北側と南側が調査区域外へ延びており、遺構の重複が激しいため、規模は東西軸4.7m、南北軸1.9mしか確認できなかった。平面形は遺存状況から径約5.4mの円形と推測できる。壁高は22cmで、外傾して立ち上がっている。

床 中央部の炉に向かって緩やかに傾斜している。特に硬化した部分は認められなかった。

炉 中央部に付設された地床炉である。北側が調査区域外へ延びており、西側が第36号土坑に掘り込まれているため、長径48cm、短径27cmしか確認できなかった。平面形は円形または楕円形と推測される。炉床面は床面から7cmくぼんでおり、炉床部は火を受けて赤変し、硬化は弱い。

ピット 7か所。P1は深さ132cmで、P2は第36号土坑に掘り込まれているため、深さ80cmだけが確認できた。位置と形状から主柱穴と考えられる。P3～P7は深さ8～25cmで、性格は不明である。

ピット土層解説 (P2～P7共通)

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 | 5 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 3 褐色 ローム粒子多量 | 6 褐色 ロームブロック中量 |

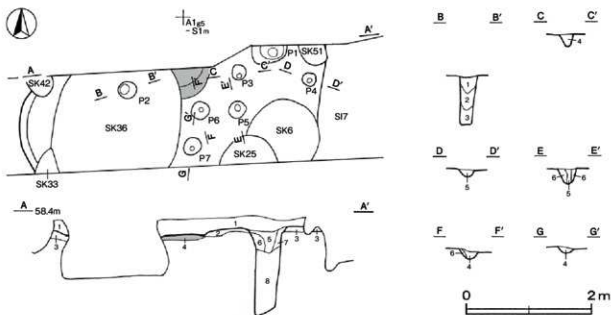
覆土 単一層である。均質な黒褐色土であることから自然堆積である。第2・3層は貼床の構築土、第4層は炉の火床部、第5～8層はP1の覆土である。

土層解説

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量 | 7 黒褐色 ローム粒子中量 |
| 4 暗赤褐色 焼土粒子中量 | 8 黒褐色 ローム粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片20点が出土している。土器片は細片のため図示できなかった。

所見 時期は、重複関係や出土土器から中期後葉と考えられる。



第7図 第8号住居跡実測図

第13 A・B号住居跡 (第8・9図)

位置 調査区中央部のA-1h5区、標高58.6mの平坦な段丘面に位置している。

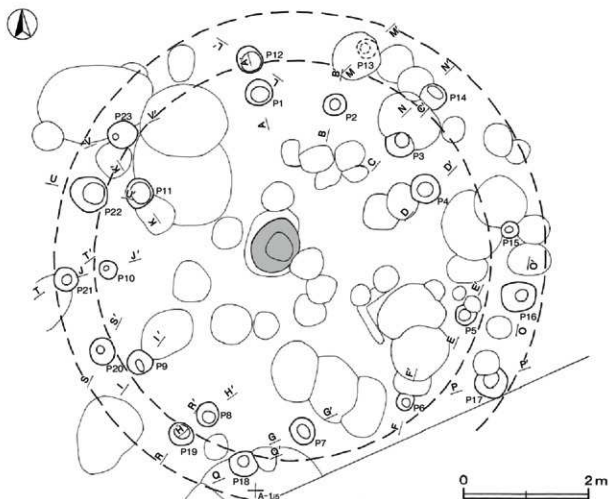
重複関係 第14・15号住居跡、第199・204・223・227・239・310・414・438・481・567・769・781・787・798・889号土坑を掘り込み、第12号住居、第198・429・567・760・800・894号土坑に掘り込まれている。その他、第201号土坑など34基の土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 炉を中心として壁柱穴が円形に巡る構造と推測できる。位置や規模、覆土の状況から2重に巡るピット列を抽出することができ、内側のP1～P11を第13A号住居跡、外側のP12～P23を第13B号住居跡とした。平面形は、第13A号住居跡が径約6.3m、第13B号住居跡が径約7.8mの円形と推測できる。いずれも掘り込みがローム層まで達していなかったため壁や床は確認できず、炉の帰属や新旧関係は不明である。

炉 中央部に付設された地床炉である。炉床面は確認面から5cmくぼんでおり、火床部は赤変、硬化ともに弱い。掘方は長径90cm、短径72cmの楕円形で、確認面から深さ15cmの皿状に掘りくぼめた部分に第6～9層の黒色土を充填して、その上面を炉床面としている。

伊土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------|-------|------------------------|
| 1 灰黄褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 にい黄褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 7 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | 炭化物少量、ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子微量 | | |

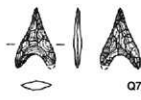
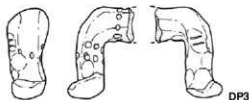
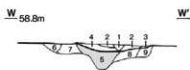
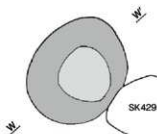
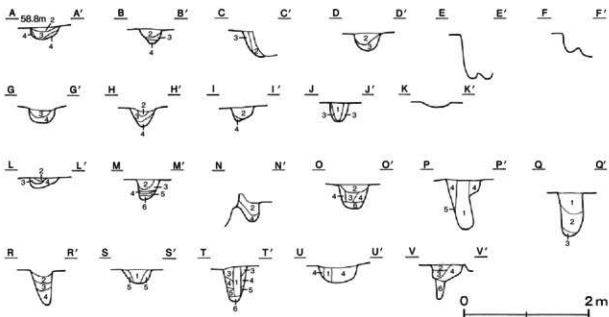


第8図 第13A・B号住居跡実測図

ピット 23 か所。P 1～P 11 は深さ 8～39cm, P 12～P 23 は深さ 22～78cmで、壁柱穴と考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量 | 4 灰黄褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック多量 |



第9図 第13号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 465 点, 土製品 1 点 (土偶), 石器 1 点 (石鏃) が各柱穴から出土している。TP 3 は P 7, TP 4 は P 11, DP 3・Q 7 は P 3 の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から後期前葉～中葉と考えられる。

第13号住居跡出土遺物観察表 (第9図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP3	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい褐色	普通	縄文 R1. 縦位回転施文→隆帯貼付→隆帯輪沈線	P7覆土中	
TP4	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	「ノ」の字状貼付文→円形施文・沈線	P11覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴など	出土位置	備考
DP3	土偶	(3.6)	(2.7)	1.6	(10.6)	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	右腕部片 円形竹管による刺突文	P3覆土中	PL43

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q7	石鏃	24	1.6	0.3	(0.68)	頁岩	基部一部欠損 両面押圧剥離 凹基無茎鏃	P3覆土中	PL44

第14号住居跡 (第10図)

位置 調査区中央部の A-1 g4 区, 標高 58.6m の平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第 13 A・B 号住居, 第 198・199・244・310・425・426・428・446・889 号土坑に掘り込まれている。
規模と形状 北側が調査区域外へ延びており, 掘り込みがローム層まで及んでいないため, 炉跡とピットしか確認できなかった。調査区壁の土層観察から, 平面形は炉跡を中心とする径約 5.8m の円形と推測でき, 壁高は 17～26cm で, 外傾して立ち上がっている。

炉 中央部に付設された石囲い炉である。規模は長軸 69cm, 短軸 57cm の長方形である。炉床面は確認面から 19cm くらい下で, 西側には深さ 11cm の円形のくぼみが認められる。上部には第 6 層の灰層が堆積している。炉床部は火を受けて赤変硬化している。第 9・10 層は掘方への埋土である。

炉土層解説

- | | |
|-------------------------------|---|
| 1 灰褐色 ロームブロック・焼土粒子少量・炭化物微量 | 7 にぶい褐色 ロームブロック中層・焼土ブロック微量 |
| 2 暗灰色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 黒褐色 ローム粒子微量 |
| 3 褐色 ローム粒子中層・焼土粒子微量 | 9 赤褐色 焼土ブロック主体 |
| 4 暗灰色 炭化粒子中層・焼土粒子少量・ロームブロック微量 | 10 暗褐色 ロームブロック・炭屑パミス (以下, KP と省略) 粒子少量・炭化物・焼土粒子微量 |
| 5 褐色 ロームブロック中層 | |
| 6 にぶい褐色 灰多量・ロームブロック・焼土ブロック少量 | |

ピット 2 か所。P 1 は深さ 44cm で, 位置と形状から主柱穴と考えられる。P 2 は深さ 18cm で, 性格は不明である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|------------------------------|--------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量・焼土ブロック微量 | 4 灰褐色 ロームブロック中層 |

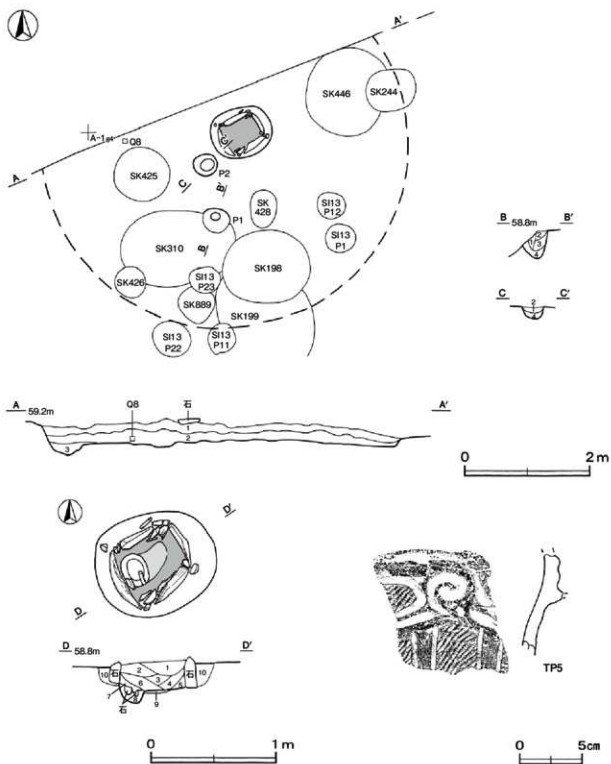
覆土 3層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------------------|--------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子中層・焼土ブロック・炭化粒子・KP 粒子少量 | 3 にぶい黄褐色 ロームブロック中層 |
| 2 灰黄褐色 ロームブロック中層・焼土ブロック・KP ブロック少量 | |

遺物出土状況 縄文土器片 74 点, 石器 3 点 (凹石 2, 石皿 1) が出土している。TP 5 は炉の覆土中, Q 8 は北側の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から中期後葉 (加曾利 E II 式期) に比定できる。



第10図 第14号住居跡・出土遺物実測図

第14号住居跡出土遺物観察表 (第10図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP5	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	縄文LR横位回転施文→段帯貼付→垂下沈線→沈線間磨消	炉覆土中	PL26

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q 8	凹石	27.6	15.7	12.2	87.40	角四石片岩	凹痕表5、裏2か所	下層	PL49
Q 9	凹石	37.0	26.0	12.3	279.00	緑色片岩	凹痕表10、裏2か所	覆土中	PL49
Q 10	石皿	40.7	28.3	13.0	198.00	緑色片岩	平坦な使用面	下層	PL49

第15号住居跡（第11・12図）

位置 調査区中央部のA-16区、標高58.6mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第537・552・771号土坑を掘り込み、第13号住居、第222・244・539・540・541・581・743号土坑など19基の土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北側のコーナー部が調査区域外へ延びている。規模は北西・南東軸5.7m、北東・南西軸5.6mの隅丸方形で、主軸方向はN-56°-Wである。壁高は29～32cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、特に硬化した部分は認められなかった。壁下を壁溝が巡っている。

炉 中央部の南東寄りに付設された地床炉である。第541・581・743号土坑に掘り込まれているため遺存状態は悪いが、長軸102cm、短軸78cmの楕円形と推定できる。炉床面は床面から26cmくぼんでおり、炉床部は火を受けて赤変硬化している。

圪土層解説

- | | |
|--------------------------------------|--------------------------------|
| 1 灰黄褐色 焼土ブロック・KPブロック少量、ロームブロック・炭化物微量 | 4 黒褐色 炭化物中量、ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 にい黄褐色 ロームブロック・KPブロック少量、焼土粒子微量 | 5 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子・KP粒子微量 | 6 黒褐色 炭化物多量、焼土ブロック少量、ロームブロック微量 |
| | 7 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| | 8 赤褐色 焼土ブロック主体 |

ピット 10か所。P1～P4は深さ47～56cmで、位置や形状から主柱穴と考えられる。P5～P10は深さ11～46cmで、補助的な柱穴と考えられる。

ピット土層解説（各ピット共通）

- | | |
|-------------------------------------|------------------------------|
| 1 にい黄褐色 ロームブロック・KPブロック・炭化物少量、焼土粒子微量 | 3 灰黄褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・KPブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | |

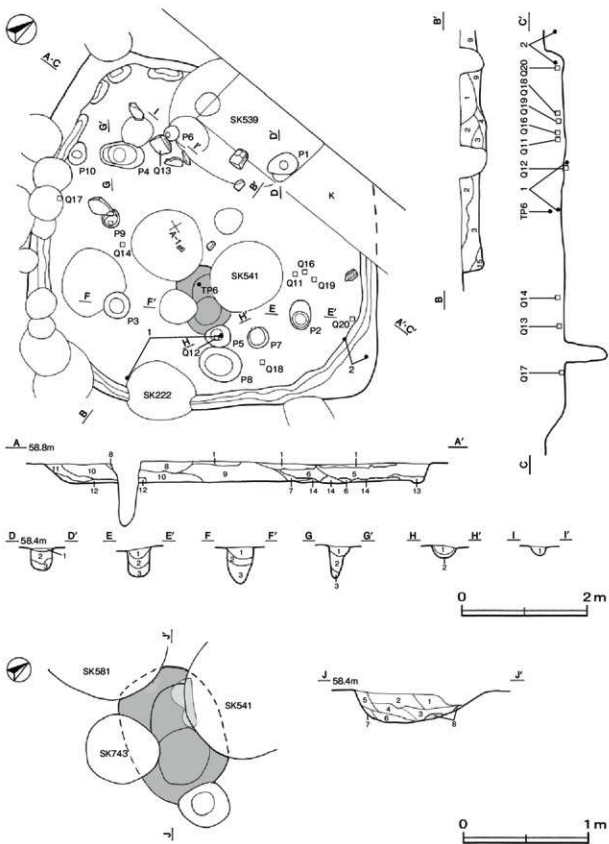
覆土 15層に分層できる。ロームブロックや鹿沼バミス粒子が多く含まれており、不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

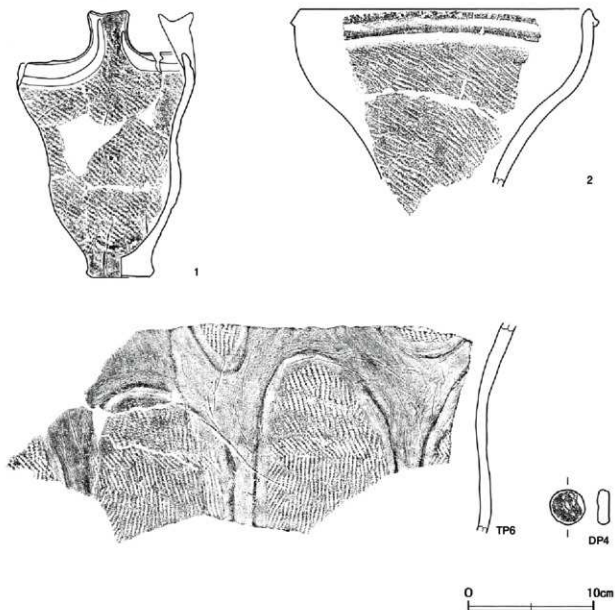
- | | |
|------------------------------------|---|
| 1 黒褐色 KP粒子少量、ロームブロック微量 | 9 にい黄褐色 KP粒子多量、ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗灰色 ロームブロック・KP粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 10 灰黄褐色 ロームブロック・KPブロック中量、炭化物少量、焼土ブロック微量 |
| 3 灰黄褐色 KPブロック少量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 11 にい黄褐色 KP粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・KP粒子微量 | 12 褐色 ロームブロック多量 |
| 5 暗褐色 KP粒子中量、ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・KP粒子微量 |
| 6 灰黄褐色 ロームブロック・KP粒子中量、焼土粒子微量 | 14 暗褐色 ローム粒子多量 |
| 7 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・KPブロック微量 | 15 暗褐色 炭化物・ローム粒子微量 |
| 8 暗灰色 焼土粒子・KP粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 縄文土器片669点、土製品1点（土器片円盤）、石器10点（磨石1、棒状凹石2、凹石4、石皿3）が出土している。また、長さ14～45cmの自然石が覆土下層から散在した状態で出土している。1・Q12・Q18は南東部の床面、2・Q11・Q16・Q19・Q20は東部、Q14は中央部西寄り、Q17は西部、Q13は北西部の覆土下層、TP6は中央部の覆土上層、DP4は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期末葉（加曾利EⅣ式期）に比定できる。



第11图 第15号住居跡実測图



第12図 第15号住居跡出土遺物実測図

第15号住居跡出土遺物観察表 (第12図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[13.0]	21.2	4.5	石英・雲母・針状鉱物	明赤褐	普通	縄文LR縦位斜施文→口縁部沈隆	床面	50% PL27
2	縄文土器	深鉢	[23.0]	(13.8)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	におい橙	普通	無層縄文L縦位斜施文→口縁部隆帯貼付	下層	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP6	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	におい黄橙	普通	縄文RL横位斜施文→微隆起線→磨消	上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴など	出土位置	備考
DP4	土器片	2.8	2.7	1.0	8.9	長石・石英・雲母	周縁部研磨	覆土中	

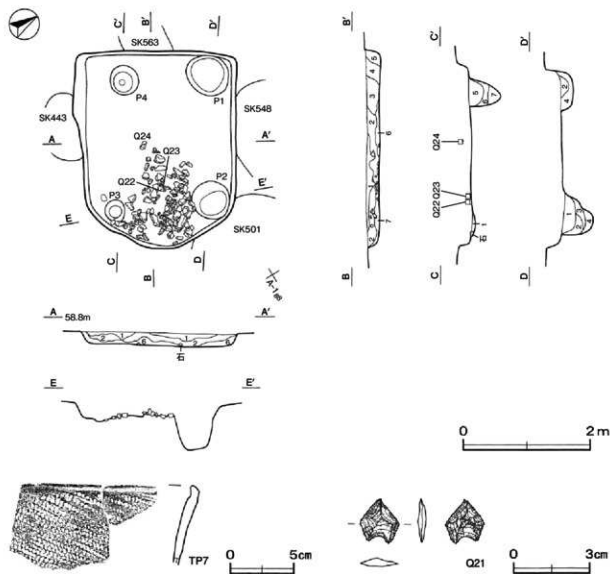
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q14	磨石	10.8	9.1	5.4	768	石英	表裏磨面 側面敲打痕	下層	PL47

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q 15	棒状凹石	14.2	5.9	3.5	425	緑色片岩	凹痕表1, 裏1か所	覆土中	PL47
Q 16	棒状凹石	16.2	7.8	4.4	835	緑色片岩	凹痕2か所 裏面礫石兼用	下層	
Q 17	凹石	17.5	14.5	8.0	2760	角閃石片岩	凹痕3か所	下層	
Q 18	凹石	28.1	15.8	5.4	3050	千枚岩	凹痕表15, 裏5か所	床面	PL49
Q 19	凹石	24.9	21.3	9.0	7870	砂岩	凹痕表2, 裏2か所	下層	PL49
Q 20	凹石	33.7	14.3	11.5	6350	緑色片岩	凹痕表2, 裏1か所	下層	
Q 11	石皿	24.6	17.3	8.3	7120	緑色片岩	平坦な使用面 凹石兼用 凹痕裏2か所	下層	
Q 12	石皿	47.0	23.0	8.0	10000	緑色片岩	平坦な使用面 凹石兼用 凹痕裏7か所	覆土中	PL49
Q 13	石皿	29.3	25.6	9.2	11200	角閃石片岩	窪状の使用面	下層	PL49

第17号住居跡 (第13図)

位置 調査区中央部のA-1g7区, 標高58.6mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第443・501・548・563号土坑を掘り込んでいる。



第13図 第17号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 規模は長軸3.1m、短軸2.6mで、長軸方向はN-58°-Wである。平面形は長方形で、南東側には張り出し部を有している。壁高は17～26cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、特に硬化した部分は認められなかった。

ピット 4か所。P1～P4は深さ6～52cmで、位置や形状から主柱穴と考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|---------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 |
| 3 灰黄褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 4 濃い黄褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

覆土 7層に分層できる。各層にロームブロックなどが含まれており、下層には自然石が多数投棄されていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------|-------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・KP粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | 焼土粒子・炭化物少量、ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・KP粒子微量 |
| 3 灰黄褐色 | ロームブロック・KPブロック少量、炭化物微量 | 7 暗褐色 | 中～大量多量、ローム粒子・炭化粒子・KP粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・KP粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片134点、石器4点(石鏃、敲石、棒状凹石、凹石)が出土している。また、南東側の覆土下層から長さ5～24cmの自然石が多数出土している。Q21は西部、Q22～Q24は南東部の覆土下層、TP7は西部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉(堀之内2式期)に比定できる。

第17号住居跡出土遺物観察表 (第13図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP7	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	明赤褐	普通	縄文LR縦位回転施文 口縁部内面沈線	上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q21	石鏃	17	1.5	0.3	0.67	瑪瑙	両面押圧酒磨 五角形 凹基無茎鏃	下層	
Q22	敲石	12.9	8.9	2.6	479	緑色片岩	端部敲打痕	下層	
Q23	棒状凹石	11.5	8.6	4.0	534	緑色片岩	凹痕表2、裏2か所	下層	
Q24	凹石	15.0	12.0	7.5	1940	緑色片岩	凹痕1か所	中層	

第18号住居跡 (第14図)

位置 調査区中央部のA-1e8区、標高58.6mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第267・823号土坑を掘り込み、第264・268・271・545号土坑に掘り込まれている。また、第266・279・316・430・484・485・487・492・526号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

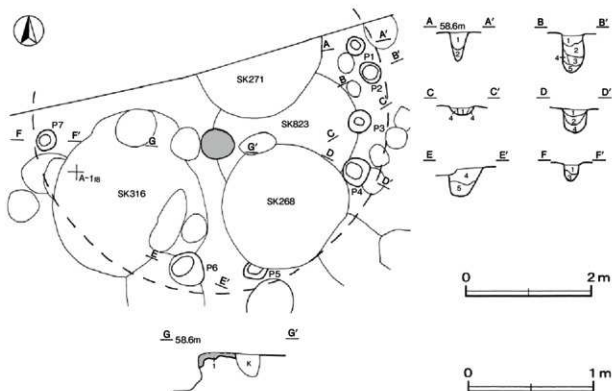
規模と形状 北側が調査区域外へ延びており、掘り込みがローム層まで及んでいないため、炉跡とピットしか確認できなかった。平面形は炉跡やピットの配置から、径約5.8mの円形と推測できる。

炉 中央部南寄りに付設された地床炉である。長径53cm、短径48cmの楕円形である。炉床部は火を受けて赤変し、硬化は弱い。

炉土層解説

- 1 濃い赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子中量

ピット 7か所。P1～P7は深さ14～51cmで、位置や形状から壁柱穴と考えられる。



第14図 第18号住居跡実測図

ビット土層解説 (各ビット共通)

- | | |
|-----------------------------|--------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 4 にんじ黄褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量 | |

遺物出土状況 縄文土器片 62 点が各柱穴から出土している。土器片は細片のため図示できなかった。

所見 時期は、重複関係や出土土器から後期前半と考えられる。

第 20 号住居跡 (第 15 ~ 20 図)

位置 調査区中央部の A-119 区、標高 58.6m の平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第 513・614・704・758・790・900・901・928 号土坑を掘り込み、第 286・288・602・603・613・674・676・740 号土坑に掘り込まれている。また、第 488 号土坑など 38 基の土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 南側が調査区域外へ延びており、遺構の重複が激しいため遺存状態は悪い。規模は炉跡やビットの配置から径約 7.6m の円形と推測できる。

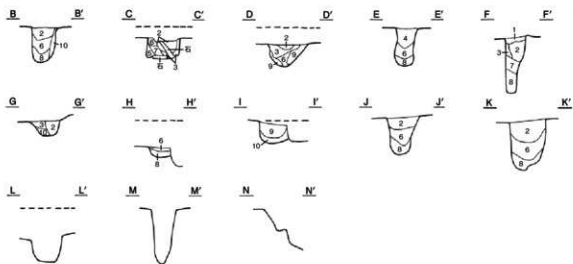
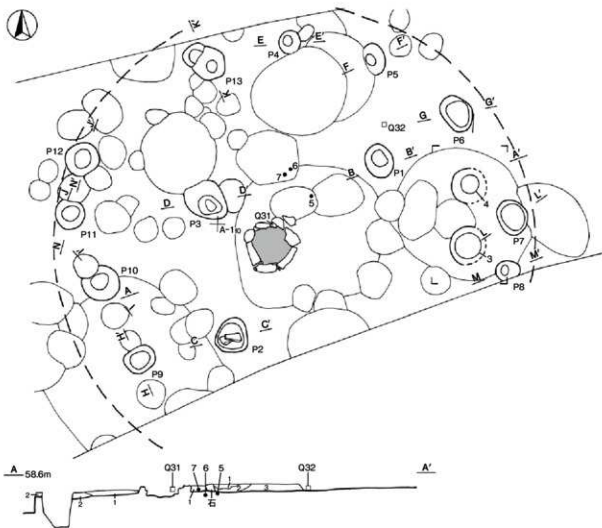
床 ほぼ平坦である。遺構の重複が激しいため、硬化した部分是不鮮明であった。

炉 中央部西寄りに付設された石囲い炉である。長軸 85cm、短軸 81cm で、多角形に自然石が配置されている。炉床面は床面から 10cm くらいであり、炉床部は火を受けて赤変硬化している。

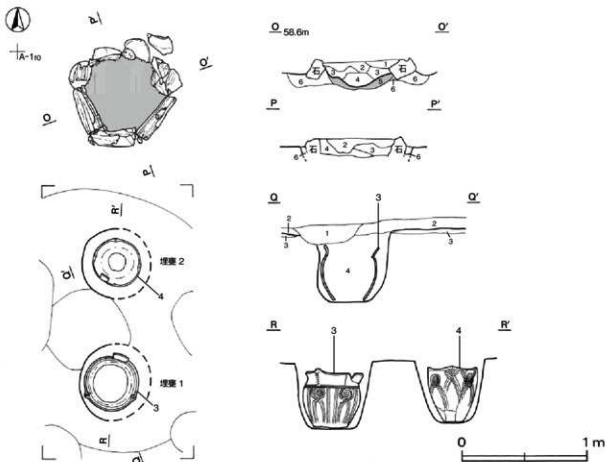
炉土層解説

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 灰黄褐色 ロームブロック中量 | 5 赤褐色 焼土ブロック主体 |
| 3 にんじ黄褐色 焼土ブロック中量、灰少量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量 |

埋壙 2 か所。東壁際に位置している。南側の埋壙 1 から 3、北側の埋壙 2 から 4 の大形の深鉢がそれぞれ出土している。3・4 は底部が打ち欠かれており、いずれも正位の状態で出土している。掘方は埋壙 1 が径 58



第15图 第20号住居跡実測图(1)



第16図 第20号住居跡実測図2)

～62cm、深さ58cmの円形、埋戻2が径55cm、深さ48cmの円形である。覆土は単一層（第3層）で、ロームや鹿沼バミスのブロックが含まれていることから埋め戻されている。

埋戻土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 黒褐色 | ロームブロック・KPブロック中量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 灰黄褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |

ピット 13か所。P1～P3は深さ51～60cmで、位置や形状から支柱穴と考えられる。P4～P13は深さ25～91cmで、壁柱穴と考えられる。

ピット土層解説（各ピット共通）

- | | | | |
|--------|------------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・KP粒子少量、焼土ブロック微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量、KP粒子微量 | 7 暗灰色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 灰黄褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 灰黄褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子・KP粒子微量 |
| 5 黒褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 | 10 暗灰色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |

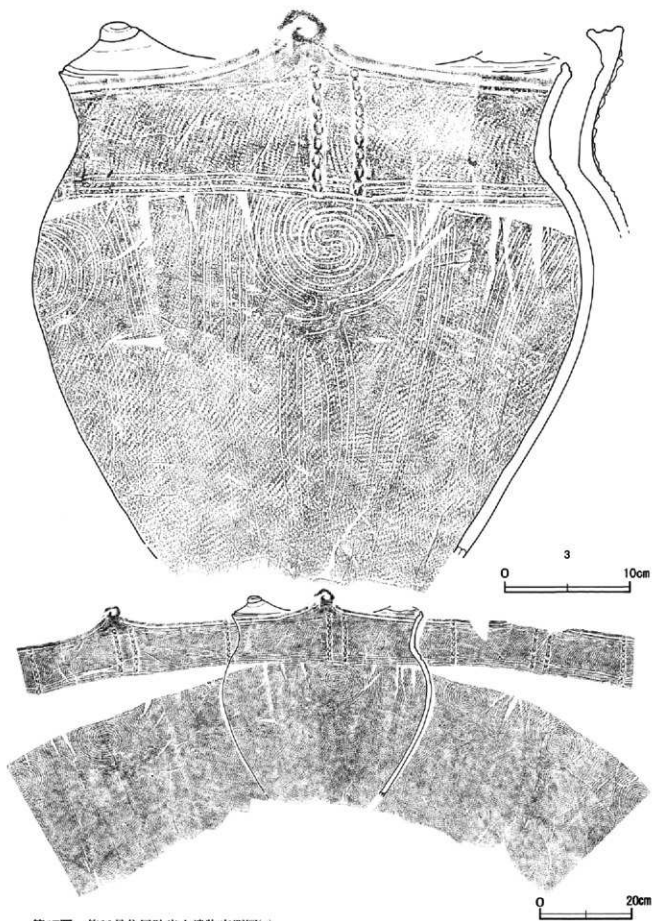
覆土 3層に分層できる。ロームのブロックや粒子が多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

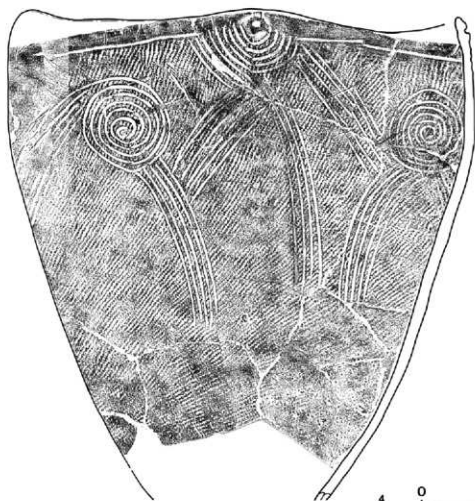
- | | | | |
|--------|-------------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、KPブロック・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 灰黄褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片770点、土製品1点（土器片円盤）、石器8点（石鎌1、磨石2、敲石1、棒状凹石2、凹石2）が出土している。5・6・7は中央部、Q32は北東部の床面からそれぞれ出土し、Q31は炉の構築材に転用されている。

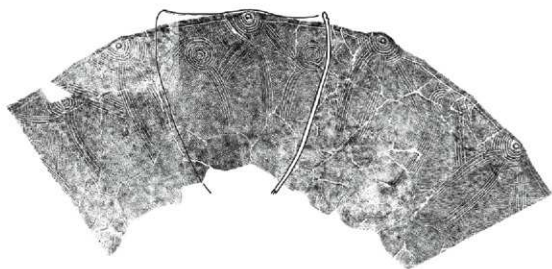
所見 時期は、出土土器から後期前葉（堀之内1式期）に比定できる。



第17图 第20号住居跡出土遺物実測図(1)

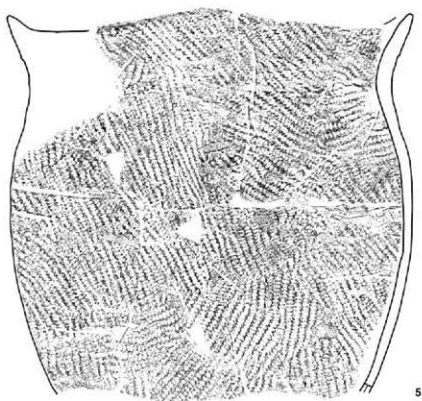


4 0 10cm

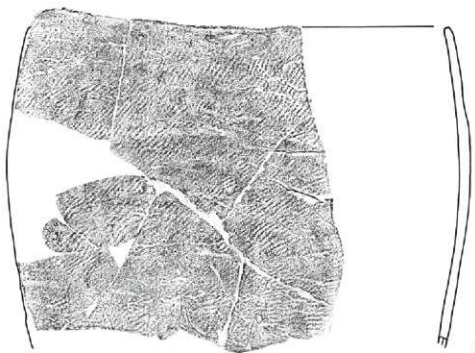


0 20cm

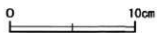
第18图 第20号住居跡出土遺物実測図(2)



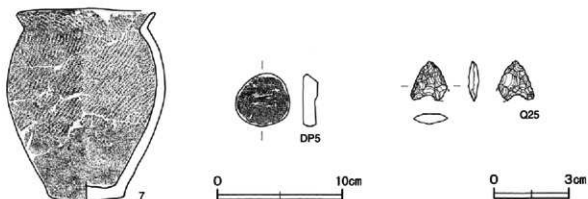
5



6



第19图 第20号住居跡出土遺物実測図(3)



第20図 第20号住居跡出土遺物実測図(4)

第20号住居跡出土遺物観察表 (第17～20図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
3	縄文土器	深鉢	39.5	42.5	-	長石・石英・赤色 鉄子・針状鉱物	にぶい橙	普通	3単位の表線 縄文RL1縁部単位・ 胴部単位→集合沈線→指状の段雲貼付	埋巻1	60% PL27
4	縄文土器	深鉢	34.5	(29.8)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい褐	普通	4単位の表線1線 縄文RL胴部 単位→集合沈線	埋巻2	80% PL27
5	縄文土器	深鉢	[32.3]	(29.8)	-	長石・石英・ 雲母	褐灰	良好	縄文RL胴部上半横位・下半単位 回転施文	床面	30% PL27
6	縄文土器	深鉢	[33.3]	(25.5)	-	長石・石英・雲母 ・針状鉱物	にぶい黄褐	普通	無節縄文L横位回転施文 結節	床面	10% PL27
7	縄文土器	深鉢	[11.0]	15.2	5.9	長石・石英・雲母・ 赤色鉄子・赤色粘土	にぶい黄橙	普通	縄文LR横位回転施文	床面	50% PL27

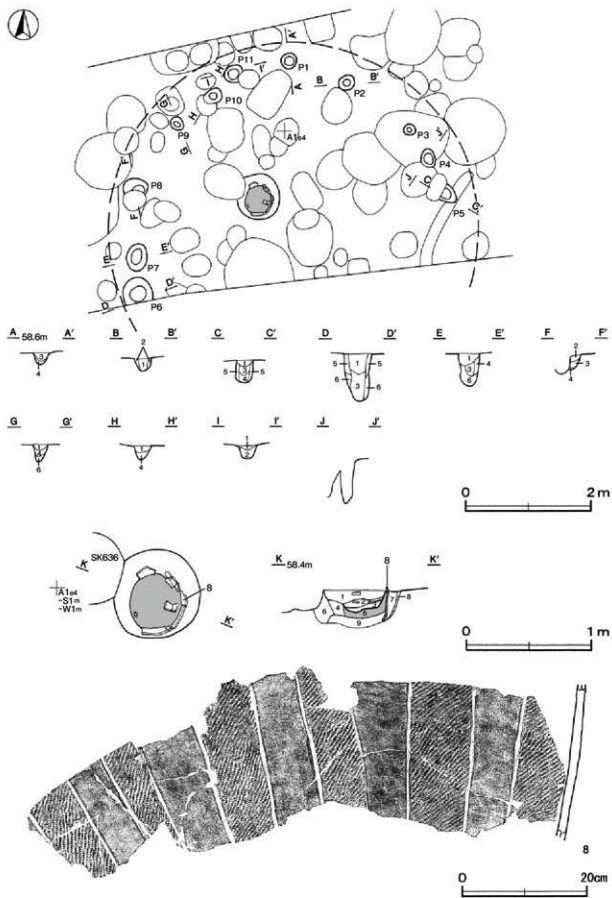
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴など	出土位置	備考
DP5	土器円盤	4.4	4.1	1.2	28.4	石英・雲母	周縁部研削	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q 25	石鏃	(1.6)	(1.5)	0.4	(0.77)	瑪瑙	両面押圧剥離 凹基無差鏃	覆土中	PL44
Q 26	磨石	9.6	8.3	3.7	502	砂岩	磨面全面	覆土中	PL47
Q 27	磨石	9.3	5.8	5.0	390	砂岩	磨面全面 被熱痕	覆土中	PL47
Q 28	敲石	19.0	5.5	2.6	456	緑色片岩	先端部 敲打痕	覆土中	PL47
Q 29	棒状凹石	9.0	8.5	6.9	1060	角閃石片岩	凹痕1か所	覆土中	
Q 30	棒状凹石	(12.5)	7.4	2.9	(493)	緑色片岩	凹痕表2, 裏1か所 磨石転用 被熱痕	床面	PL47
Q 31	凹石	26.5	16.0	9.5	4600	緑色片岩	凹痕4か所 被熱痕	炉石	PL49
Q 32	凹石	25.0	15.8	8.6	4780	緑色片岩	凹痕表3, 裏1か所 被熱痕	床面	

第26号住居跡 (第21・22図)

位置 調査区中央部東寄りのA1e4区、標高58.5mの平坦な段丘面に位置している。

確認状況 土器埋設炉1か所(第26号住居跡)、石囲い炉3か所(第27～29号住居跡)、壁溝1条(第30号住居跡)が確認でき、5軒の住居跡が重複していると判断した。いずれの住居跡も北側または南側が調査区域外へ延びており、104基の土坑と重複しているため、平面形や床面、壁の立ち上がりは不鮮明であった。柱穴の規模や配置、覆土の状況を検討した結果、炉を中心に壁柱穴や壁溝が円形に巡る構造と考えられたことから、各住居跡に属する可能性があるピットを抽出して平面形を推測した。覆土については土層観察用ベルト及び調査区壁で確認できた状況を解説している。また、平面形を捉えることができなかつたため、グリットごとに遺物の取り上げを行った。第26～30号住居跡あわせて縄文土器片4,405点、土製品2点(土器片円盤)、石器17点(石鏃2、打製石斧2、磨石1、石錘1、棒状凹石4、凹石6、石皿1)が出土しており、出土遺物については、出土位置が明確なものを記述している。なお、第27～30号住居跡についても同様である。



第21图 第26号住居跡・出土遺物実測図

重複関係 第30号住居跡を掘り込み、第27・29号住居、第636・639・648・657・658・718・723号土坑に掘り込まれている。また、第637号土坑など22基の土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 第27号住居に掘り込まれているため、覆土や床面は確認できなかった。平面形は径約5.8mの円形と推測できる。

炉 中央部の北西寄りに付設された土器埋設炉である。西側が第636号土坑に掘り込まれており、遺存状況から深鉢の胴部片が径54cmの円形に置かれていたと推定できる。炉床面は確認面から17cmくぼんでおり、炉床部は火を受けて赤変硬化している。掘方は径70cmの円形で、確認面から深さ30cmの皿状に掘りくぼめられている。

伊土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|----------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 7 に近い黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 灰褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 8 灰黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 灰黄褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック多量 |
| 5 赤褐色 | 焼土ブロック多量 | | |

ピット 11か所。深さ20～75cmで、規模や配置から壁柱穴と考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|--------|-----------------------|----------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 灰黄褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 に近い黄褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片23点が炉及びピットの覆土中から出土している。8は土器埋設炉の炉壁に使用されている。TP8は炉の掘方への埋土から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉～末葉（加曾利EⅢ～Ⅳ時期）に比定できる。



第22図 第26号住居跡出土遺物実測図

第26号住居跡出土遺物観察表 (第21・22図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
8	縄文土器	深鉢	-	(24.5)	-	長石・石英・針状副産物	にに近い褐色	普通	縄文RL縦位回転施文→重下沈線→沈線磨削	炉壁	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP8	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・針状副産物	にに近い黄褐色	普通	縄文LR縦位回転施文→微隆起線→磨削	炉掘方	

第27号住居跡 (第23・24図)

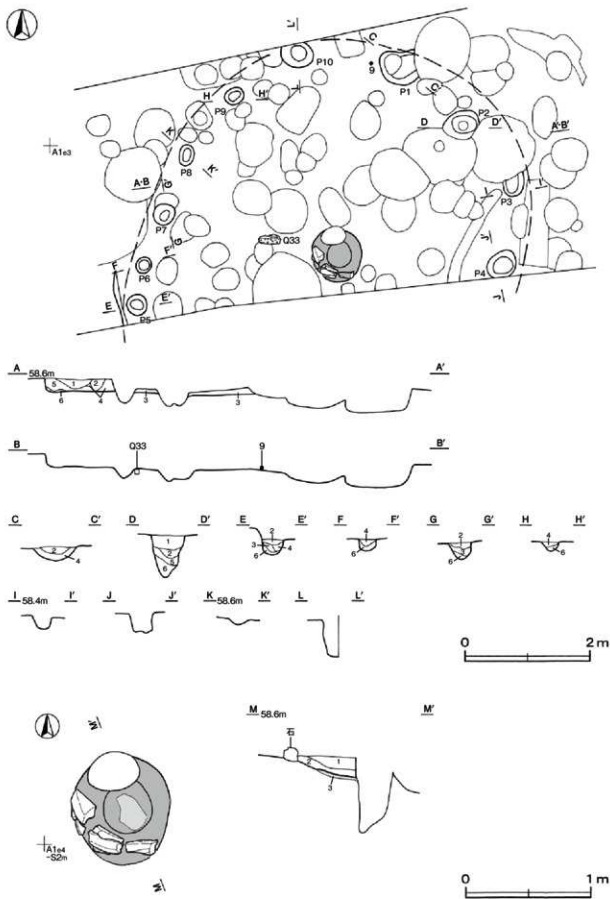
位置 調査区中央部東寄りのA1e4区、標高58.5mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第26・30号住居跡、第922号土坑を掘り込み、第29号住居、第647・648・657・672・718・801・864・866・923号土坑に掘り込まれている。また、第636・723号土坑など31基の土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 平面形は長径約7m、短径約6mの楕円形で、主軸方向はN-20°-Eと推測できる。

床 土層観察からほぼ平坦と推定できる。壁高は22cmで、ほぼ直立している。

炉 中央部に付設された石囲い炉である。北側が第648号土坑に掘り込まれているため遺存状態は悪い。石材



第23图 第27号住居跡実測図

3点が残っており、長方形または多角形状に組まれていたと推定できる。規模は短径77cmで、長径は83cmしか確認できなかった。平面形は楕円形で、長径方向はN-22°-Wである。炉床面は地山を確認面から16cmくぼんでおり、炉床部は火を受けて赤変し、硬化は弱い。

伊土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量
2 灰黄褐色 焼土ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量
3 にぶい赤褐色 焼土ブロック主体、灰中量

ピット 10か所。深さ12～66cmで、規模や配置から壁柱穴と考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 黒褐色 炭化物少量、ロームブロック微量
2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
3 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量
4 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
5 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
6 褐灰色 ロームブロック中量、炭化物微量

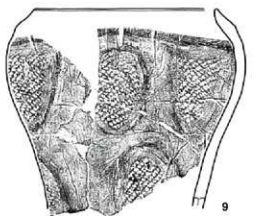
覆土 6層に分層できる。ロームブロックが多く含まれており、不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 褐灰色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量
4 にぶい赤褐色 ロームブロック中量
5 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
6 灰黄褐色 ロームブロック・炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片24点、石器1点(凹石)が出土している。9は北壁付近、Q33は中央部の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から中期末葉(加曾利EⅣ式期)に比定できる。



第24図 第27号住居跡出土遺物実測図

第27号住居跡出土遺物観察表 (第24図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
9	縄文土器	深鉢	[144]	(158)	-	長石・石英・雲母・針状配物	にぶい橙	良好	縄文RⅠ層位同転施文→隆起編→磨治	床面	25% PL26

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q33	凹石	41.1	15.6	8.1	5000	緑色片岩	凹面表16、裏1か所	床面	PL50

第28号住居跡 (第25図)

位置 調査区中央部東寄りのA1d5区、標高58.6mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第30号住居跡、第730・732号土坑を掘り込み、第29号住居、第562・736・756・801号土坑に掘り込まれている。また、第669号土坑など18基の土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

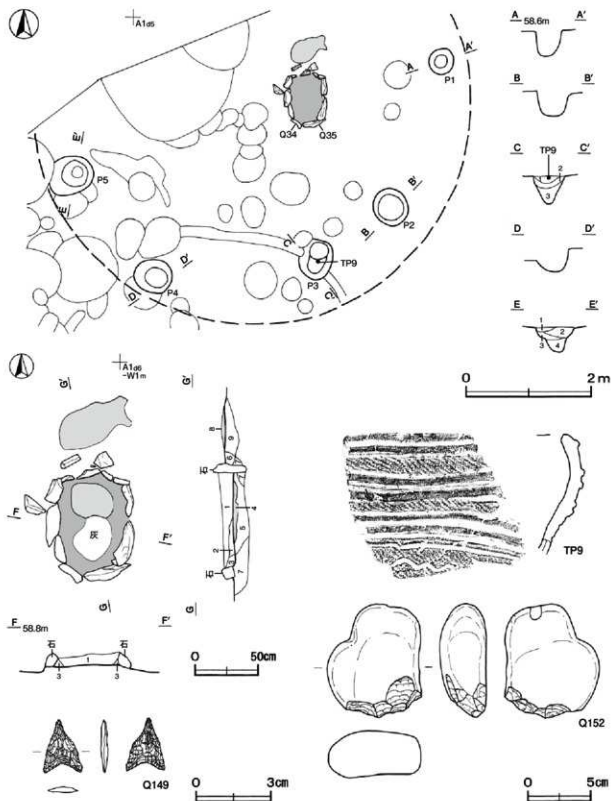
規模と形状 径約7.0mの円形と推測できる。

床 炉の北側に焼土が確認できたことから、その下面が床面とみられる。焼土は長さ63cm、幅32cmの不定形な範囲に広がっており、層厚は3cmである。

炉 中央部の東寄りに付設された石囲い炉である。長軸90cm、短軸71cmの長方形で、長軸方向はN-10°-Wである。炉床面は床面から7cmくぼんでおり、炉床部は火を受けて赤変し、硬化は弱い。

伊土層解説

- | | |
|---------------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 灰褐色 焼土粒子多量 | 7 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子微量 | 8 赤褐色 焼土ブロック主体 |
| 4 濃い赤褐色 焼土ブロック主体、炭中炭 | 9 暗褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物少量 |
| 5 暗褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ロームブロック微量 | |



第25図 第28号住居跡・出土遺物実測図

ピット 5か所。深さ36～45cmで、規模や配置から壁柱穴と考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 | 3 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 4 暗灰色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片29点、石器4点(石鏃、打製石斧、凹石2)が出土している。Q152はP2、TP9・Q149はP3の覆土中からそれぞれ出土し、Q34・Q35は炉の構築材に転用されたものである。

所見 時期は、重複関係や出土土器から中期後葉と考えられる。

第28号住居跡出土遺物観察表 (第25図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP9	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	灰褐色	普通	縄文RL横位回転施文→隆帯貼付→隆帯輪沈線	P3覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q149	石鏃	2.1	1.5	0.3	0.75	チャート	両面押圧磨礫 西基無蒸臘	P3覆土中	PL44
Q152	打製石斧	9.0	7.5	3.7	409	頁岩	下端両面調整	P2覆土中	PL45
Q34	凹石	23.1	31.3	7.9	6120	緑色片岩	凹痕表1,裏4か所	炉石	
Q35	凹石	27.3	14.6	7.8	4160	緑色片岩	凹痕1か所	炉石	

第29号住居跡 (第26～29図)

位置 調査区中央部東寄りのA1e4区、標高58.5mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第26～28・30号住居跡、第636・648・654～657・672・688・729・730・732・816・820・859・864・866号土坑を掘り込み、第650・687・801・921号土坑に掘り込まれている。また、第669・723号土坑など17基の土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 径約6.1mの円形と推測できる。

床 土層観察からほぼ平坦と推定できる。

炉 石囲い炉が中央部に付設されている。長軸73cm、短軸48cmの長方形で、長軸方向はN-40°-Wである。炉床面は確認面から27cmくぼんでおり、炉床部は火を受けて赤変硬化している。掘方は長径94cm、短径75cmの不整形円形で、確認面から深さ29cmの皿状に掘りくぼめられている。

炉土層解説

- | | |
|---------------------------------|--------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 赤褐色 焼土ブロック主体 |
| 2 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量 | 5 におい黄褐色 ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量 | |

ピット 6か所。深さ17～41cmで、規模や配置から壁柱穴と考えられる。

ピット土層解説 (P1)

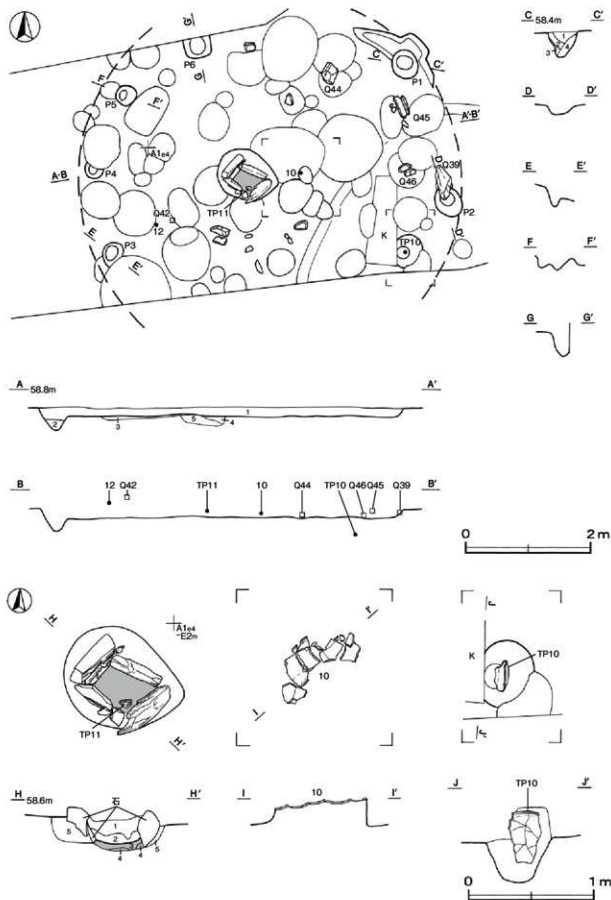
- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 3 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 | 4 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化物微量 |

覆土 単一層である。含有物の少ない均質な暗褐色土であることから自然堆積である。第2層はP4の覆土、第3層は貼床の構築土、第4・5層は炉の掘り方への埋土である。

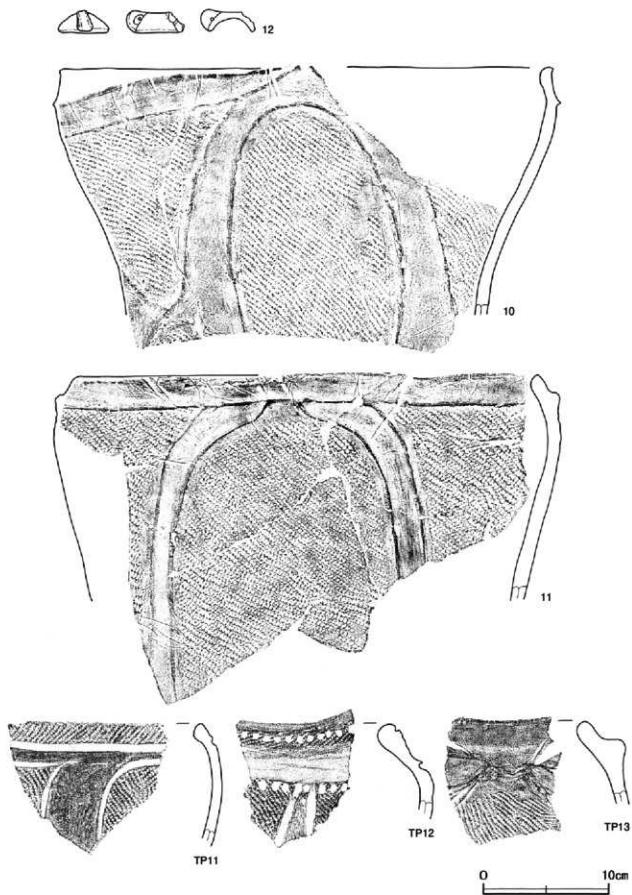
土層解説

- | | |
|---------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 | 4 黒褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 5 暗褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | |

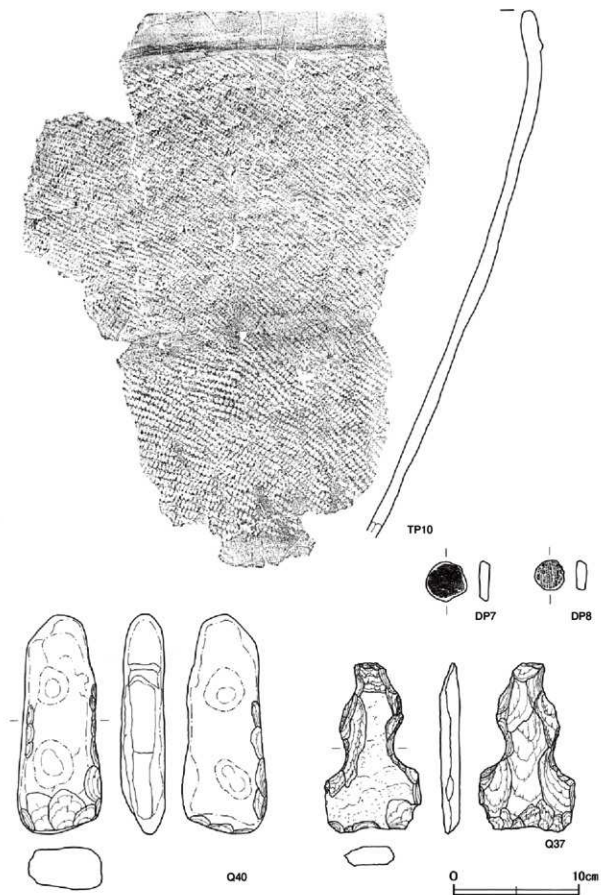
遺物出土状況 縄文土器片25点が炉及びピットの覆土中から出土している。また、重複関係で最も新しいこ



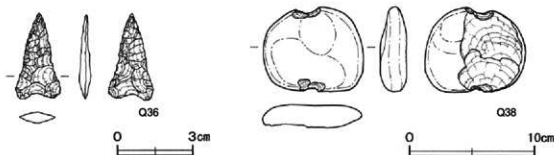
第26图 第29号住居跡実測図



第27图 第29号住居跡出土遺物実測図(1)



第28图 第29号住居跡出土遺物実測図(2)



第29図 第29号住居跡出土遺物実測図(3)

とから、グリットで取り上げた出土遺物の多くは本跡に伴うものと判断した。縄文土器片は明確に区別できないが、土製品2点(土器片円盤)、石器11点(石鏃1、打製石斧1、石錘1、棒状凹石4、凹石3、石皿1)のほか、壁際と中央部から長さ6～56cmの自然石が出土している。TP10は南東部に位置する埋室である。10は中央部の床面、TP11は坪の覆土上層、Q44は北東部壁際、Q39・Q45・Q46は東部壁際の覆土下層、12・Q42は西部の覆土上層、TP12は東部、11・TP13・Q40は中央部、Q36は西部の覆土中からそれぞれ出土している。

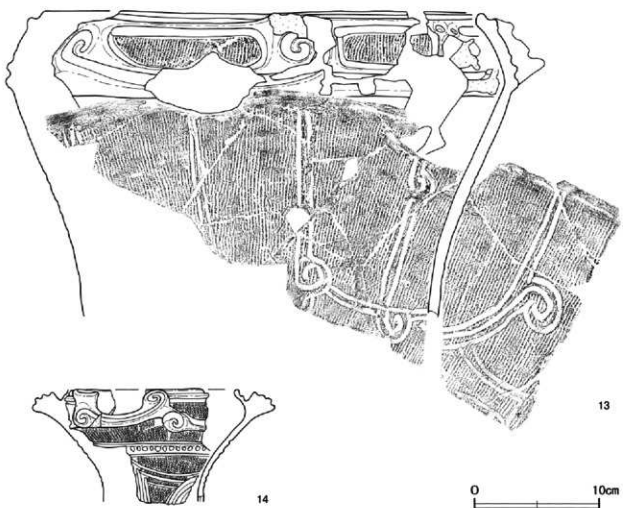
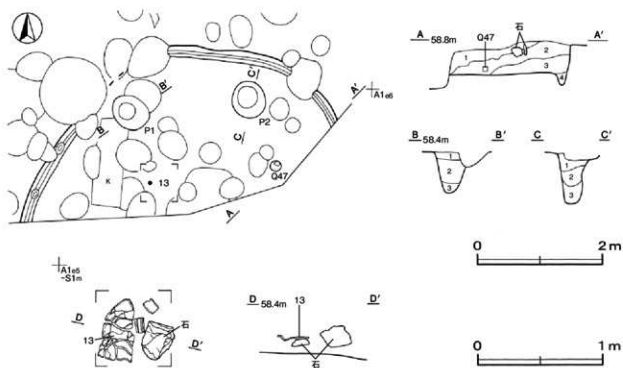
所見 時期は、出土土器から中期末葉(加曾利EⅣ式期)に比定できる。

第29号住居跡出土遺物観察表(第27～29図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
10	縄文土器	深鉢	[340]	(210)	-	長石・石英・針状鉱物	黒黒	普通	縄文LR縦位→微隆起線→磨消	床面	30% PL26
11	縄文土器	深鉢	[404]	(194)	-	長石・石英・針状鉱物	にぶい橙	普通	縄文LR縦位→微隆起線→磨消	覆土中	10% PL26
12	縄文土器	蓋	3.4	1.9	-	長石・石英・赤色粘土・針状鉱物	にぶい橙	普通	ミニチュア ナテ	上層	80% PL26
番号	種別	器種	胎土			色調	焼成	文様の特徴など		出土位置	備考
TP10	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物			にぶい橙	普通	縄文LR縦位回転施文→I線部微隆起線貼付		埋室	PL26
TP11	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物			黒黒	普通	縄文LR I線部横位・胴部縦位回転施文→沈線→磨消		坪上層	PL26
TP12	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母			にぶい橙	普通	縄文LR I線部横位回転施文→沈線・刺突文→I線部点下・沈線磨消		覆土中	PL26
TP13	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物			にぶい橙	普通	縄文LR I線部縦位・胴部横位回転施文→反頭状突起貼付		覆土中	PL26
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴など		出土位置	備考	
DP7	土器凹盤	3.2	3.1	0.8	10.4	長石・石英・黒色粘土・針状鉱物	周縁部研磨		覆土中		
DP8	土器凹盤	2.5	2.4	0.8	5.9	石英・雲母	周縁部研磨		覆土中		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など		出土位置	備考	
Q36	石鏃	3.4	1.8	0.4	1.66	瑪瑙	両面押圧剥離 凹基無蒸蝕		覆土中		
Q37	打製石斧	13.6	7.7	1.6	165.0	緑色片岩	両面調整 分銅形		覆土中	PL45	
Q38	石錘	6.8	8.0	2.0	166.3	頁岩	扁平な礫の両面を打ち欠き		覆土中	PL46	
Q40	棒状凹石	17.5	6.8	3.5	754	緑色片岩	打製石斧未製品転用 凹痕表2、裏2か所		覆土中		
Q41	棒状凹石	23.0	5.7	2.2	416	緑色片岩	凹痕表2、裏1か所		覆土中	PL48	
Q42	棒状凹石	13.0	7.5	3.2	446	緑色片岩	凹痕表2、裏2か所		上層	PL48	
Q43	棒状凹石	22.9	5.7	3.8	669	緑色片岩	凹痕2か所		覆土中		
Q44	凹石	38.3	25.3	8.4	9320	緑色片岩	凹痕2か所		下層		
Q45	凹石	29.8	7.8	9.6	2790	千枚岩	凹痕1か所		下層		
Q46	凹石	24.3	12.3	7.8	3400	角閃石片岩	凹痕6か所		下層	PL50	
Q39	石皿	49.3	18.8	6.6	8080	緑色片岩	凹石転用 凹痕6か所		下層		

第30号住居跡(第30図)

位置 調査区中央部東寄りのA1e5区、標高58.4mの平坦な段丘面に位置している。



第30图 第30号住居跡・出土遺物実測図

重複関係 第26～29号住居、第672・816・853・859号土坑に掘り込まれている。また、第678号土坑など12基の土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 南側が調査区域外へ延びており、東西軸5.3m、南北軸2.7mしか確認できなかった。壁溝やピットの配置から径約5.8mの円形と推測できる。

床 土層観察からはほぼ平坦と推定できる。壁高は47cmで、ほぼ直立している。確認できた壁下を壁溝が巡っている。

ピット 2か所。P1・P2は深さ65cm・82cmで、規模や配置から主柱穴と考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 3 黒褐色 ロームブロック微量
2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 4 灰黄褐色 ローム粒子少量

覆土 4層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 3 暗褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量
2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 4 灰黄褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片31点がピットの覆土中から出土している。また、グリットで取り上げた遺物のうち13-14、石器1点(磨石)は出土位置から本跡に伴うものと判断した。13は中央部、Q47は東部の覆土下層、14は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利E1式期)に比定できる。

第30号住居跡出土遺物観察表(第30図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
13	縄文土器	深鉢	[350]	(242)	-	石英・雲母・針状炭物	明赤褐	普通	燃赤文E層位同転施文→障部貼付→鹿子状・風刺状	下層	10% PL26
14	縄文土器	深鉢	[137]	(89)	-	長石・石英・雲母・針状炭物	灰赤褐	普通	燃赤文I層位同転施文→障部貼付→流籠・刷文	覆土中	15% PL26

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q47	磨石	16.0	13.0	10.1	2350	砂岩	層面2か所	下層	

表2 縄文時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	手続方向(長軸)	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高	床面	壁溝	ピット				炉	覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
								柱穴	柱穴	出入口	不明					
7	A16	-	[円形]	5.2×(2.4)	56	平坦一部	3	-	-	6	石坑中	自然	炭文I層位同転施文・磨石・棒状四石、四石、石籠	中期後葉	SK31-46-67→本跡→SK1-6-37-51	
8	A16	-	[円形]	(4.7×1.9)	22	緩斜	-	2	-	5	地味中	自然	縄文土器	中期後葉	本跡 →SK9-25-33-36-42-51	
13A	A-1h5	-	[円形]	[6.3×6.3]	-	-	-	-	11	-	地味中	人為	縄文土器、土偶、石籠	中期後葉	SK14-15SK199地14基→本跡→SK12SK198地5基	
13B	A-1h5	-	[円形]	[7.8×7.8]	-	-	-	-	12	-	地味中	人為	縄文土器、土偶、石籠	中期後葉	SK14-15SK199地14基→本跡→SK12SK198地5基	
14	A-1e1	-	[円形]	[5.8×5.8]	17-36	-	-	1	-	1	石坑中	人為	縄文土器、四石、石籠	中期後葉	本跡→SK13A-BSK198地8基	
15	A-1h6	N-56°-W	扇状方形	5.7×5.6	29-32	平坦一部	4	6	-	-	地味中	人為	縄文土器、土器片群、磨石、棒状四石、四石、石籠	中期末葉	SK37-502-771→本跡→SK13A-BSK222-244地18基	
17	A-1g7	N-58°-W	長方形	3.09×2.57	17-36	平坦	-	4	-	-	-	人為	縄文土器、石籠、磨石、棒状四石、四石	後期前葉	SK143-501-548-563→本跡	
18	A-1e8	-	[円形]	[5.8×5.8]	-	-	-	7	-	-	地味中	人為	縄文土器	後期前半	SK267-823→本跡→SK264-268-271-545	
20	A-1h9	-	[円形]	[7.6×7.6]	-	平坦	-	3	10	-	石坑中	人為	縄文土器、土器片群、石籠、磨石、棒状四石、四石	後期前葉	SK513地6基→本跡→SK286地6基	
26	A1e4	-	[円形]	[5.8×5.8]	-	-	-	-	11	-	石坑中	自然	縄文土器	中期後葉	SK30→本跡→SK27-29SK636地6基	
27	A1e4	N-20°-E	[扇形]	[7.0×6.0]	22	[円形]	-	10	-	-	石坑中	人為	縄文土器、四石	中期末葉	SK26-30SK922→本跡→SK29-SK647地8基	
28	A1d5	-	[円形]	[7.0×7.0]	-	-	-	5	-	-	石坑中	人為	縄文土器、石籠、打製石斧、四石	中期後葉	SK30SK730-732→本跡→SK29SK636地3基	
29	A1e4	-	[円形]	[6.1×6.1]	-	[円形]	-	6	-	-	石坑中	自然	炭文I層位同転施文・磨石・棒状四石、四石、石籠	中期末葉	SK26-28-30SK636地16基→本跡→SK650地3基	
30	A1e5	-	[円形]	(5.3×2.7)	47	[円形]一部	2	-	-	-	自然	縄文土器、磨石	中期後葉	本跡→SK26-29、SK672-816-853-859		

(2) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡 (第31・32図)

位置 調査区中央部西寄りのA-1h2区、標高58.6mの平坦な段丘面に位置している。

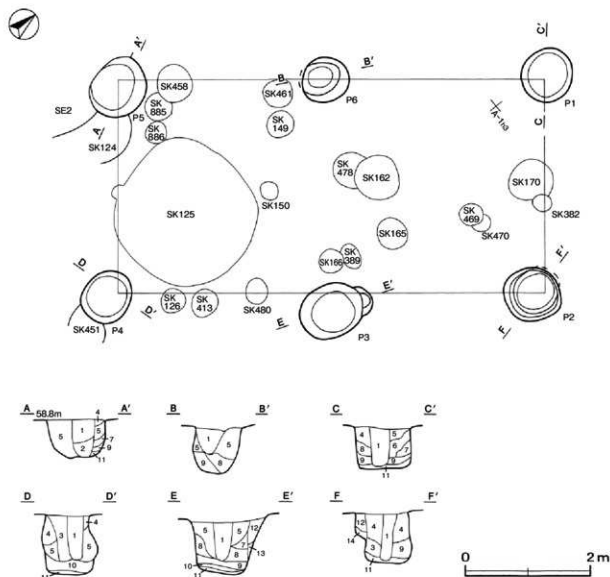
重複関係 第124・451号土坑を掘り込み、第2号井戸に掘り込まれている。

規模と構造 桁行2間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向はN-40°-Eである。規模は桁行6.8m、梁行3.4mで、面積は23.12㎡である。柱間寸法は桁行、梁行ともに3.4mで、等間隔に配置され、柱筋は揃っている。

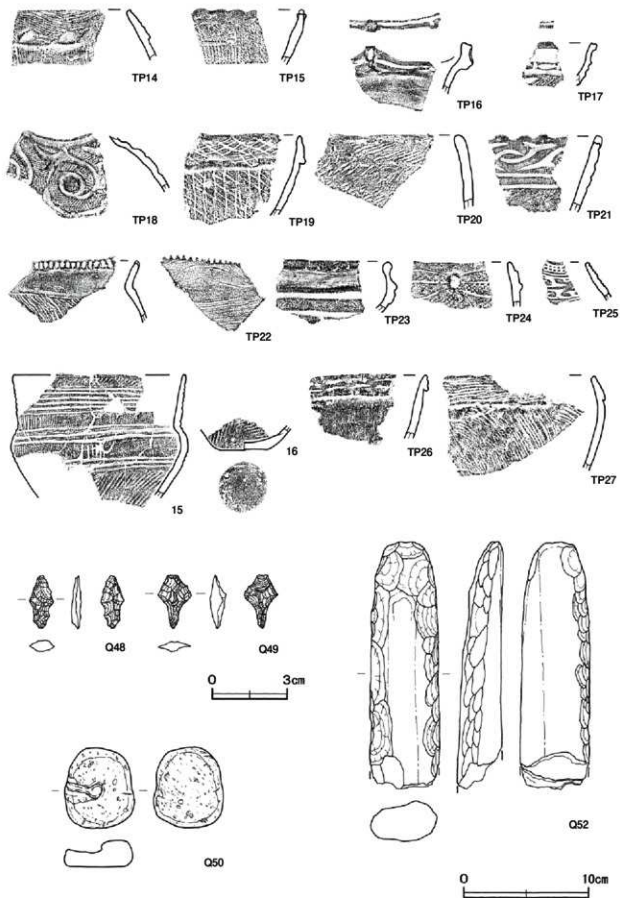
柱穴 6か所。平面形は円形または楕円形で長径80～120cm、短径70～85cmである。深さは60～96cmで、掘方の壁は直立している。土層は、第1・2層が柱痕跡で、第3～14層が埋土である。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 8 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量、炭化物微量 | 9 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 に近い黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量 | 11 黒色 ロームブロック微量 |
| 5 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化物微量 | 12 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量 | 13 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 7 に近い黄褐色 ロームブロック中量、炭化物微量 | 14 灰黄褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 |



第31図 第1号掘立柱建物跡実測図



第32图 第1号掘立柱建物跡出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 1,134点, 石器4点(石鏃, 石錐, 浮子, 凹石), 石製品1点(石剣未製品)が各柱穴から出土している。TP14～TP17はP1, TP18～TP25はP3, 15・16・Q49・Q50・Q52はP4, TP26・Q48・Q51はP5, TP27はP6の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から晩期後葉(大洞A1式期)に比定できる。

第1号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第32図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
15	縄文土器	鉢	(13.4)	(9.8)	-	石英・雲母・針状鉱物	橙	普通	口縁部・胴部縄文LR横位・胴部無筋文R縦位→平行洗線文	P4覆土中	10% PL34
16	縄文土器	深鉢	-	(2.0)	3.8	石英・雲母・針状鉱物	にぶい濁	普通	縄文LR横位回転施文 底部ナデ	P4覆土中	20%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP14	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	普通	無赤文R口縁部横位, 胴部縦位回転施文→口縁部指頭押圧	P1覆土中	PL34
TP15	縄文土器	深鉢	石英・雲母・針状鉱物	灰濁	普通	無赤文R縦位回転施文 口唇部押圧	P1覆土中	
TP16	縄文土器	深鉢	石英・雲母	にぶい濁	普通	口縁部沈線 胴部磨き	P1覆土中	
TP17	縄文土器	深鉢	長石・雲母	灰濁	普通	縄文LR横位回転施文→平行洗線	P1覆土中	
TP18	縄文土器	深鉢	石英・雲母	にぶい橙	普通	縄文LR光塩→玉抱き三叉文 赤彩	P3覆土中	PL34
TP19	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	無赤文R口縁部斜格子状, 胴部斜位→縦位回転施文	P3覆土中	PL34
TP20	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい濁	普通	無筋縄文L横位回転施文	P3覆土中	
TP21	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	黒濁	普通	胴部縄文LR横位回転施文→口唇部押圧→磨き→三叉文	P3覆土中	PL34
TP22	縄文土器	深鉢	長石・雲母・針状鉱物	灰濁	普通	口縁部刻み, 胴部無筋縄文R横位回転施文	P3覆土中	PL34
TP23	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	灰黄濁	普通	胴部縄文LR横位光塩→平行洗線	P3覆土中	
TP24	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒濁	普通	縄文LR横位回転施文→凹形浮文貼付→沈線	P3覆土中	
TP25	縄文土器	深鉢	長石・石英	灰黄濁	普通	雲彩文	P3覆土中	PL34
TP26	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	橙	普通	口縁部刺突文	P5覆土中	
TP27	縄文土器	深鉢	石英・雲母・針状鉱物	にぶい濁	普通	無赤文R口縁部横位, 胴部縦位回転施文	P6覆土中	PL34

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q48	石鏃	2.1	1.0	0.4	0.64	瑪瑙	両面押圧潤離 凸基有基眼	P5覆土中	
Q49	石錐	2.1	1.3	0.6	0.82	チャート	両面押圧潤離	P4覆土中	PL44
Q50	浮子	6.4	5.6	2.1	23.5	軽石	孔1か所 未穿孔	P4覆土中	PL46
Q51	凹石	22.3	18.3	6.9	3560	緑色岩	凹面表4, 裏3か所 被熱痕	P5覆土中	
Q52	石剣脇端 (19.6)	5.6	3.7	3.7	(533)	緑色片岩	敲打痕 被熱痕	P4覆土中	

(3) 土坑

今回の調査で, 縄文時代の土坑620基が確認できた。これらの土坑には, 貯蔵穴と考えられるフラスコ状土坑や円筒状土坑, 柱穴などが含まれている。以下, 遺構の形状や遺物の出土状況が特徴的なものについて解説し, それ以外のものは実測図と一覧表で記載した。

第1号土坑(第33～35図)

位置 調査区南東部のA1g6区, 標高58.1mの緩やかに傾斜する段丘面に位置している。

重複関係 第7号住居跡, 第67号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.20m, 短径1.04mの楕円形で, 長径方向はN-67°-Wである。深さは28cmで, 底面はほぼ平坦であり, 壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

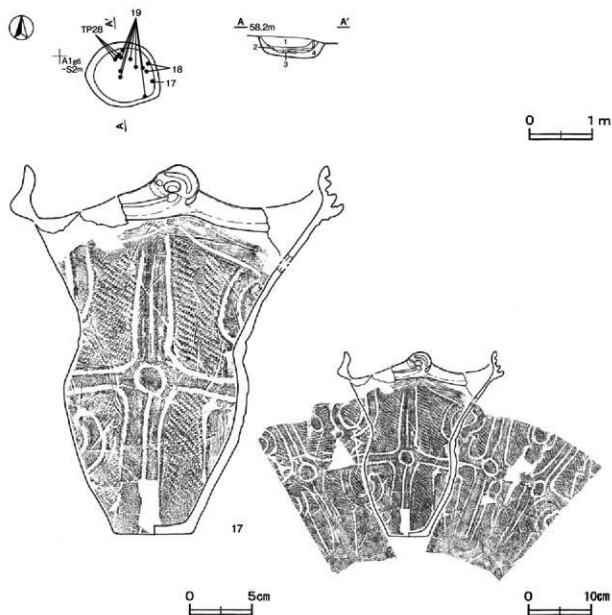
覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックや炭化粒子が含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

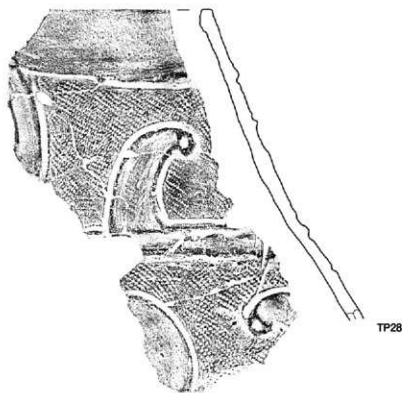
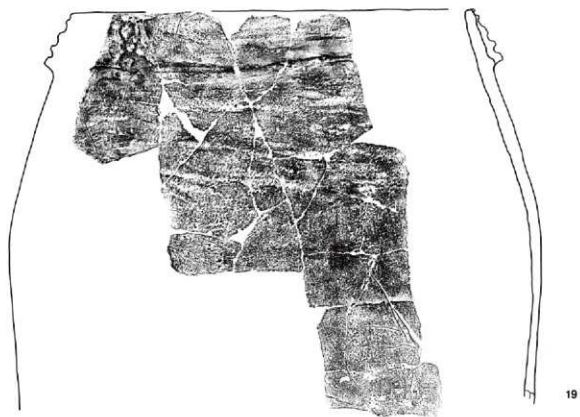
- | | | | |
|-------|-----------------------|------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 3 黒色 | 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 4 黒色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 208 点が出土している。17 は東壁際、18 は北東壁際、19 は東側、TP28 は北部の覆土中層から散在した状態でそれぞれ出土している。

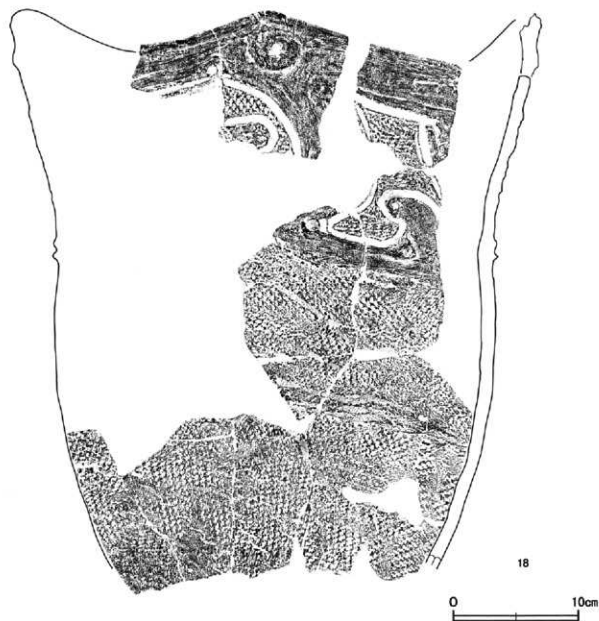
所見 時期は、出土土器から後期初頭に比定できる。



第33図 第1号土坑・出土遺物実測図



第34图 第1号土坑出土遗物实测图1)



第35図 第1号土坑出土遺物実測図(2)

第1号土坑出土遺物観察表 (第33～35図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
17	縄文土器	深鉢	[238]	[294]	6.3	石英・雲母・黒色 粒子・赤色粒子	明赤褐	普通	縄文LR縦位回転施文→沈線	上層	80% PL30
18	縄文土器	深鉢	[41.0]	(44.5)	-	長石・石英・雲 母・針状鉱物	にぶい褐	普通	縄文RLR縦位回転施文→沈線→ 磨消	上層	25%
19	縄文土器	深鉢	[34.0]	(31.5)	-	石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	ナデ	上層	15%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP28	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	縄文RL縦位回転施文→沈線	中層	PL30

第6号土坑（第36図）

位置 調査区南東部のA1g5区、標高58.4mの緩やかに傾斜する段丘面に位置している。

重複関係 第7・8号住居跡を掘り込み、第25号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南側が調査区域外へ延びており、第25号土坑に掘り込まれているため、開口部は東西径が1.18mで、南北径は0.97mしか確認できなかった。平面形は円形と推測できる。底面はほぼ平坦で、東西径が1.52mで、南北径は1.10mしか確認できなかった。平面形は円形と推測できる。深さは80cmで、壁は底面から内傾し、くびれ部から外傾して立ち上がっている。底面からくびれ部までの高さは58cmである。

ピット 深さ22cmで、性格は不明である。

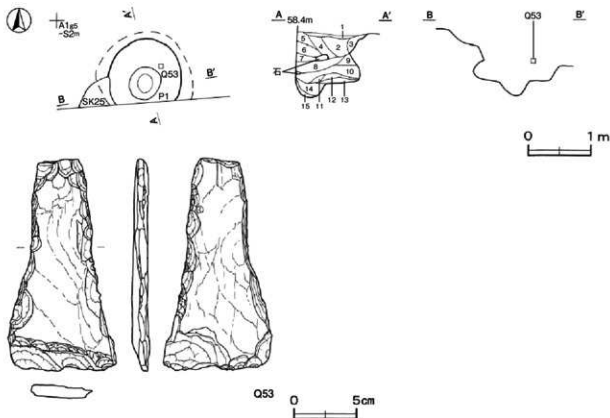
覆土 13層に分層できる。ロームのブロックや粒子が多く含まれていることから埋め戻されている。第14・15層はP1の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|--------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 13 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 14 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 15 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 8 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片234点、石器1点（打製石斧）が出土している。加曾利E式前半の土器片が出土しているが、細片のため図化できなかった。Q53は中央部の覆土中層から出土している。

所見 フラスコ状土坑である。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第36図 第6号土坑・出土遺物実測図

第6号土坑出土遺物観察表（第36図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q 53	打製石斧	16.9	8.7	1.4	209.0	千枚岩	両面調整 撥形	中層	PL45

第11号土坑（第37図）

位置 調査区南東部のA1g7区、標高58.3mの緩やかに傾斜する段丘面に位置している。

重複関係 第9・12号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 南側が調査区域外へ延びているため、東西径1.60m、南北径0.64mしか確認できなかった。平面形は円形または楕円形と推測できる。深さは76cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。ピット 深さ36cmで、性格は不明である。

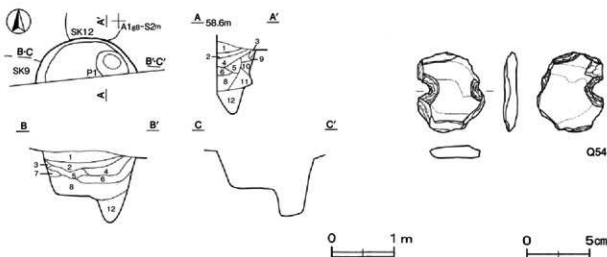
覆土 11層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第12層はP1の覆土である。

土層解説

1	黒色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7	黒色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
2	黒色	ローム粒子少量、白色粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	8	黒褐色	ロームブロック中量
3	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	9	黒褐色	ロームブロック多量
4	黒色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	10	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5	黒色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	11	褐色	ロームブロック中量
6	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	12	黒褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片79点、石器1点（石錘）が出土している。加曽利E式期の土器片が出土しているが、細片のため図化できなかった。Q 54は覆土中から出土している。

所見 円筒状土坑である。時期は、重複関係や出土土器から中期後半と考えられる。



第37図 第11号土坑・出土遺物実測図

第11号土坑出土遺物観察表（第37図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q 54	石錘	6.4	5.4	1.1	47.0	砂岩	平坦な縁の両端部を打ち欠き	覆土中	

第12号土坑（第38図）

位置 調査区南東部のA1g7区、標高58.2mの緩やかに傾斜する段丘面に位置している。

重複関係 第11号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は短径が0.97mで、南側が第11号土坑に掘り込まれているため、長径は1.19mしか確認できなかった。平面形は不整楕円形で、長径方向はN-20°-Eである。底面はほぼ平坦で、径1.26mの円形である。深さは82cmで、壁は底面から内傾し、くびれ部から緩やかに外方へ広がっている。底面からくびれ部までの高さは67cmである。

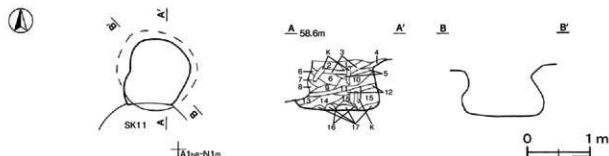
覆土 17層に分層できる。各層にロームブロックが含まれており、不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	10	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	11	黒褐色	ローム粒子中量
3	黒褐色	ローム粒子少量	12	黒褐色	ローム粒子少量
4	黒褐色	ロームブロック少量	13	黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
5	黒褐色	ロームブロック微量	14	暗褐色	ローム粒子中量
6	暗褐色	ローム粒子少量	15	黒褐色	ロームブロック少量
7	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	16	暗褐色	ロームブロック少量
8	黒褐色	ロームブロック微量	17	褐色	ローム粒子中量
9	暗褐色	ロームブロック中量			

遺物出土状況 縄文土器片3点が出土している。阿玉台式期前半の土器片が出土しているが、細片のため図化できなかった。

所見 フラスコ状土坑である。時期は、出土土器から中期前葉と考えられる。



第38図 第12号土坑実測図

第19号土坑（第39～41図）

位置 調査区南東部のA1g8区、標高58.2mの緩やかに傾斜する段丘面に位置している。

重複関係 第18号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南側が調査区域外へ延びているため、開口部は東西径1.62m、南北径0.43mしか確認できなかった。平面形は円形または楕円形と推測できる。底面はほぼ平坦で、東西径1.87m、南北径0.66mしか確認できなかった。平面形は円形または楕円形と推測できる。深さは92cmで、壁は底面から大きく内傾し、くびれ部から外傾して立ち上がっている。底面からくびれ部までの高さは27～44cmである。

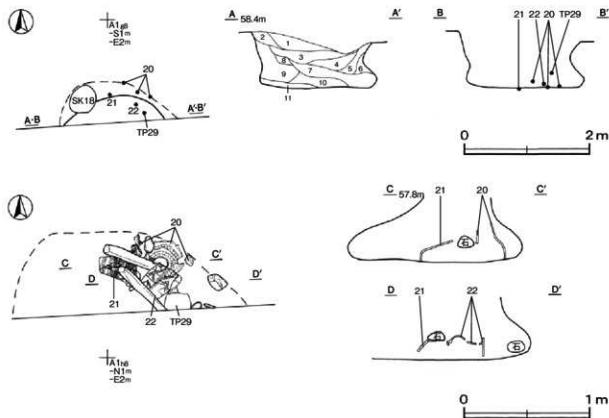
覆土 11層に分層できる。第1～5層は周囲から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。第6～11層は各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|--------|------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子・白色粒子微量 | 7 黒色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 黒色 | ローム粒子・炭化粒子・白色粒子微量 | 9 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 4 黒色 | ロームブロック・炭化粒子・白色粒子微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 5 黒色 | ロームブロック・白色粒子微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 54 点が出土しているほか、長さ 46～58cm、幅 7～10cm の棒状の緑色片岩 2 点と径 10～15cm 大の自然石 4 点が出土している。20～22 は北東壁際の底面から、20 は逆位、21・22 は横位の状態で、TP29 は東側の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 フラスコ状土坑である。時期は、出土土器から中期前葉に比定できる。

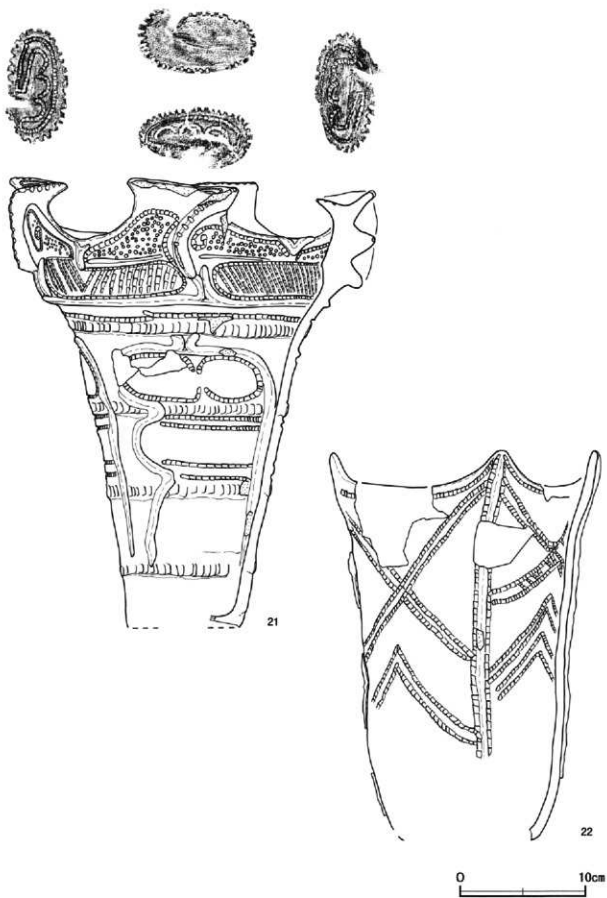


第39図 第19号土坑実測図

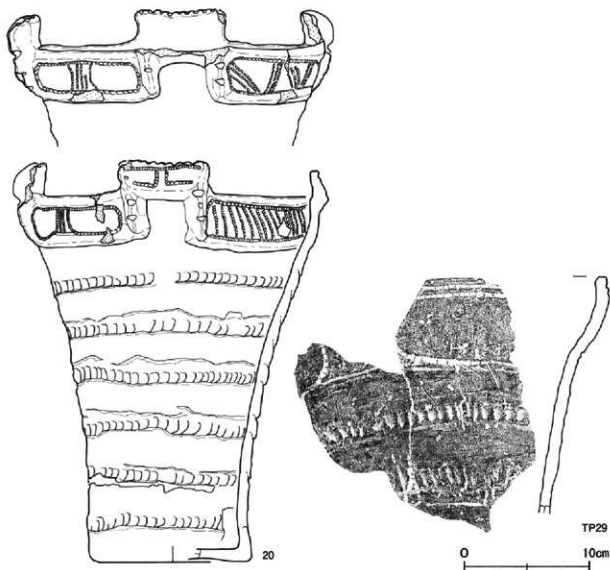
第19号土坑出土遺物観察表 (第40・41図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
20	縄文土器	深鉢	21.5	31.9	[12.6]	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	普通	4 単位の縦状把手 有筋沈線→鬘状庄痕→隆帯貼付	底面	90% PL28
21	縄文土器	深鉢	29.2	35.8	[8.9]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	隆帯による 4 単位の把手・区画文→有筋沈線 鬘状庄痕	底面	95% PL28
22	縄文土器	深鉢	[21.0]	(31.0)	-	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	にぶい赤褐	普通	4 単位の炭状口縁 隆帯貼付→有筋沈線	底面	70% PL28

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP29	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部有筋沈線による区画文 鬘部鬘状庄痕	下層	PL28



第40图 第19号土坑出土遗物实测图(1)



第41図 第19号土坑出土遺物実測図(2)

第21号土坑 (第42図)

位置 調査区南東部のA1g8区、標高58.1mの緩やかに傾斜する段丘面に位置している。

重複関係 第22号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.12m、短径1.94mの円形である。深さは46cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

ピット 2か所。P1・P2は深さ40cm・51cmで、性格は不明である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 4 黒褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 5 黒色 ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子中量 | |

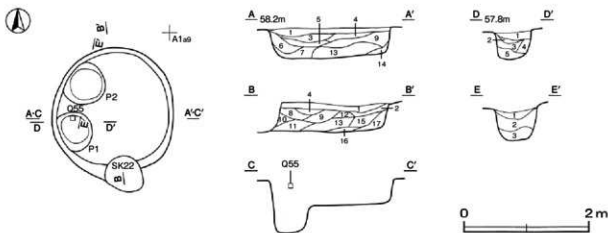
覆土 17層に分层できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれており、不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 13 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 5 黒色 | ローム粒子中量 | 14 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック中量 | 15 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 7 黒色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 16 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 8 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 17 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 9 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 65 点, 石器 1 点 (凹石) が出土している。加曾利 E 式期の土器が出土しているが, 細片のため図化できなかった。Q 55 は西部の覆土上層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期後半と考えられる。



第42図 第21号土坑実測図

第21号土坑出土遺物観察表

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q 55	凹石	11.9	11.1	6.0	1460	緑色片岩	凹痕表 1, 裏 1 か所	上層	

第 23 号土坑 (第 43 図)

位置 調査区南東端の A 2g1 区, 標高 57.8m の緩やかに傾斜する段丘面に位置している。

重複関係 第 26 号土坑に掘り込まれている。第 26 号土坑は掘り込みがローム層まで及んでいないため平面形などは確認できなかった。

規模と形状 南側が調査区域外へ延びており, 上部が第 26 号土坑に掘り込まれているため, 開口部は東西径 1.15m, 南北径 0.66m しか確認できなかった。底面はほぼ平坦で, 東西径 2.60m, 南北径 0.98m しか確認できなかった。平面形は円形または楕円形と推測できる。深さは 121cm 確認でき, 重複している土坑の深さを加えると 214cm である。壁は底面から大きく内傾している。底面からくびれ部までの高さは 121cm である。

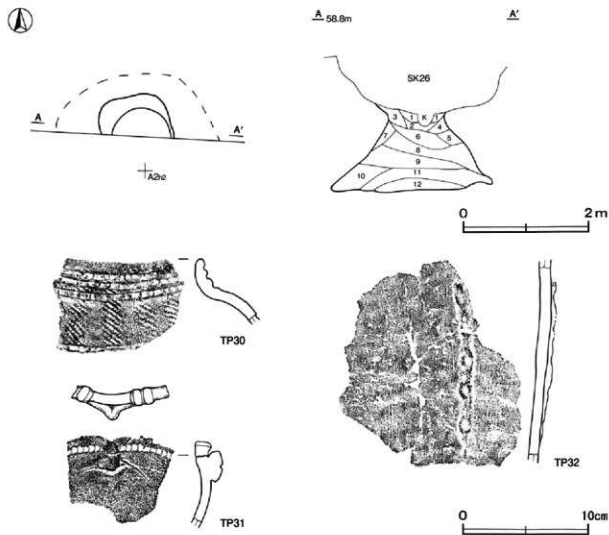
覆土 12 層に分层できる。各層にロームや焼土のブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|--------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量 | 10 黒褐色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームアブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ローム粒子多量, 焼土ブロック微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 111 点、石器 2 点（磨石）が出土している。Q 57 は北東壁際の底面、TP32 は中央部の覆土下層、TP30・TP31、Q 56 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 フラスコ状土坑である。時期は、出土土器から中期前葉に比定できる。



第43図 第23号土坑・出土遺物実測図

第23号土坑出土遺物観察表（第43図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP30	縄文土器	深鉢	石英・雲母	にぶい橙	普通	縄文LR縦位回転施文→有餘沈線	覆土中	PL28
TP31	縄文土器	深鉢	石英・雲母	にぶい橙	普通	膝状突起貼付	覆土中	
TP32	縄文土器	深鉢	石英・雲母	にぶい橙	普通	斜みをもつ隆帯貼付	下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q 56	磨石	(4.3)	(7.8)	(3.7)	(155.4)	砂岩	磨面全面 側縁部敲打痕	覆土中	
Q 57	磨石	15.2	8.9	3.5	7.36	緑色岩	表・裏磨面 側縁部敲打調整	底面	

第24号土坑 (第44・45図)

位置 調査区南東端のA2g2区、標高57.7mの緩やかに傾斜する段丘面に位置している。

重複関係 第72号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は北西・南東径が1.83mで、北側が調査区域外へ延びているため、北東・南西径は1.40mしか確認できなかったが、平面形は円形と推測できる。底面はほぼ平坦で、北西・南東径2.11mで、北東・南西径は1.42mしか確認できなかった。平面形は円形と推測できる。深さは97cmで、壁は底面から大きく内傾し、くびれ部から外傾して立ち上がっている。底面からくびれ部までの高さは71～77cmである。

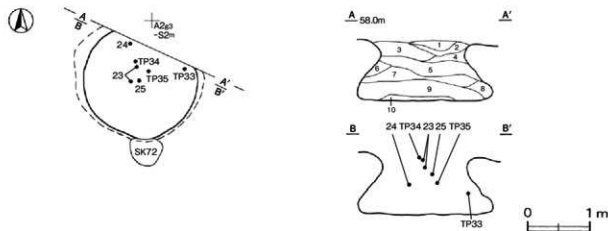
覆土 10層に分層できる。ローム粒子が多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 黒色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片271点、石器6点(棒状凹石4、凹石2)が出土している。Q60・Q61は中央部の覆土下層、24は北部、25・TP35・Q59は中央部、TP33は北東壁際、Q62・Q63は東側の覆土中層、23・TP34は中央部の覆土上層、Q58は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 フラスコ状土坑である。時期は、出土土器から中期前葉に比定できる。

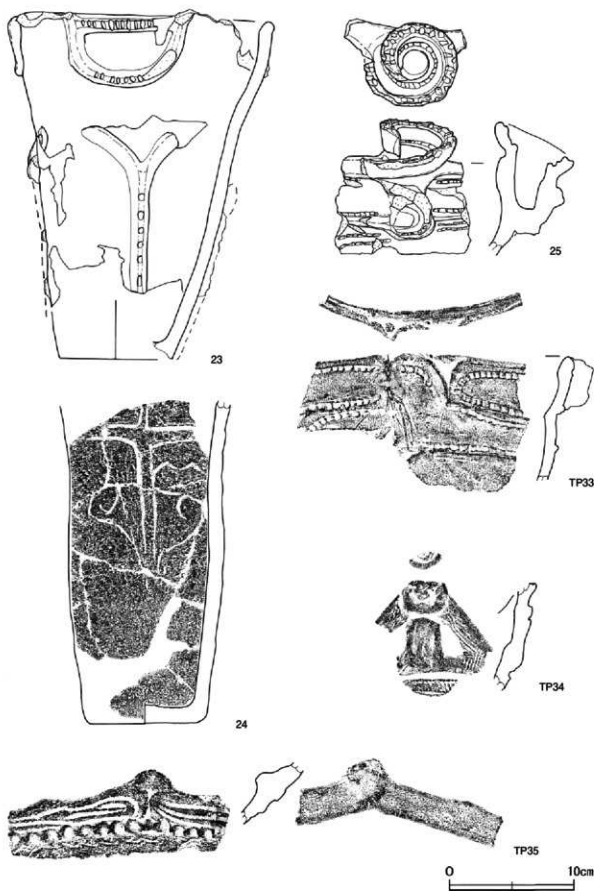


第44図 第24号土坑実測図

第24号土坑出土遺物観察表 (第45図)

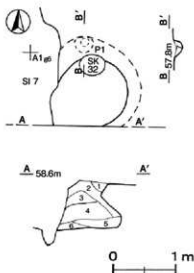
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
23	縄文土器	深鉢	21.0	(27.9)	[8.9]	長石・石英・雲母・針状鉱物	にびい濁	普通	隆帯による4単位の区画文 刻みをもつY字状隆線	上層	70% PL28
24	縄文土器	深鉢	-	(25.6)	9.0	長石・石英	明赤褐	普通	隆帯貼付→有筋沈線	中層	40%
25	縄文土器	深鉢	-	(10.8)	-	石英・雲母	橙	普通	刻みをもつ隆帯貼付→有筋沈線	中層	5% PL28

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP33	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	灰褐	普通	隆帯貼付→隆帯脇有筋沈線	中層	PL28
TP34	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	にびい濁	普通	縄文LR横位回転施文→隆帯貼付→沈線	上層	
TP35	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	にびい濁	普通	隆帯貼付→前頭押圧→口縁部無筋施文L押圧	中層	PL28



第45图 第24号土坑出土遗物实测图

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q 58	棒状凹石	13.2	7.2	1.9	278	緑色片岩	凹痕表3, 裏1か所	覆土中	
Q 59	棒状凹石	12.4	9.6	2.8	344	緑色片岩	凹痕1か所	中層	
Q 60	棒状凹石	16.1	7.2	3.9	521	緑色片岩	凹痕表2, 裏2か所	下層	PL48
Q 61	棒状凹石	16.9	8.2	3.4	676	緑色片岩	凹痕表2, 裏2か所	下層	PL48
Q 62	凹石	15.1	12.3	2.6	722	緑色片岩	凹痕表2, 裏2か所	中層	
Q 63	凹石	22.3	18.1	4.9	2630	緑色片岩	凹痕表1, 裏1か所	中層	



第46図 第31号土坑実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|-------|-----------|
| 1 黒色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 35 点が出土している。阿玉台式期の土器片が出土しているが、細片のため図化できなかった。

所見 フラスコ状土坑である。時期は、重複関係や遺構の形状から中期前葉と考えられる。

第36号土坑 (第47・48図)

位置 調査区南東部の A 1 g4 区、標高 58.3 m の緩やかに傾斜する段丘面に位置している。

重複関係 第8号住居跡、第33号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 東西径は 1.98 m で、北側と南側が調査区域外へ延びており、南北径は 1.53 m しか確認できなかった。平面形は円形または楕円形と推測できる。深さは 83 cm で、底面はほぼ平坦であり、壁は直立している。

覆土 12 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|--------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 223 点が出土している。26 は中央部北寄りの覆土上層から出土している。

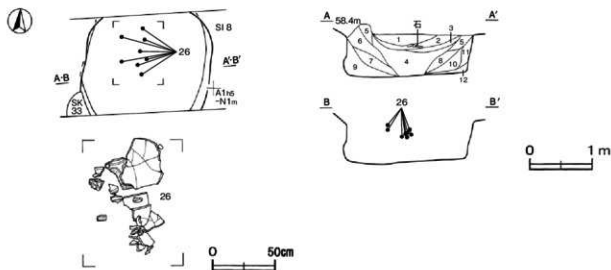
所見 円筒状土坑である。時期は、出土土器から中期後葉に比定できる。



第47図 第36号土坑出土遺物実測図

第36号土坑出土遺物観察表 (第47図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
26	縄文土器	深鉢	[48.3]	(49.2)	-	長石・石英・ 針状鉱物	褐	普通	縄文LR光頭→沈線による区画文 →磨治	土層	45% Pl.29



第48図 第36号土坑実測図

第85号土坑（第49図）

位置 調査区西部のA-219区、標高58.6mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第86・87号土坑を掘り込み、第2号溝、第84号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸0.91m、短軸0.52mの隅丸長方形で、長軸方向はN-88°-Eである。深さは46cmで、底面は皿状であり、壁は外傾して立ち上がっている。

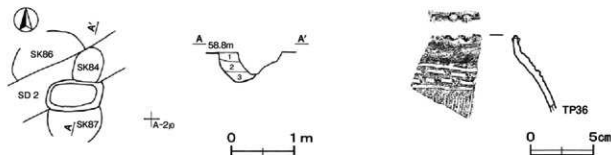
覆土 3層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子・細礫少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片124点が出土している。TP36は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から晩期後葉に比定できる。



第49図 第85号土坑・出土遺物実測図

第85号土坑出土遺物観察表（第49図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP36	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	灰褐色	普通	口縁端部指頭圧痕→胴部磨き→角頭状工具による沈積文	覆土中	

第93号土坑 (第50図)

位置 調査区中央部西寄りのA-2j0区、標高58.7mの平坦な段丘面に位置している。

規模と形状 長径1.02m、短径0.92mの楕円形で、長径方向はN-62°-Eである。深さは25cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

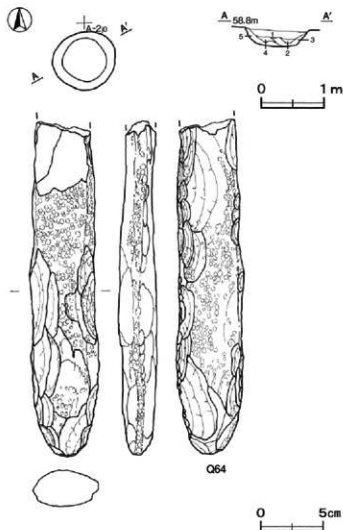
覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックや炭化物が含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化材少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 濃い黄褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 5 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量

遺物出土状況 縄文土器片95点、石製品1点(石剣未製品)が出土している。土器片は細片のため図化できなかった。Q64は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から晩期と考えられる。



第50図 第93号土坑・出土遺物実測図

第93号土坑出土遺物観察表 (第50図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q64	石剣未製品	(26.8)	5.5	3.1	(637)	千枚岩	側面縦打痕	覆土中	

第98号土坑 (第51図)

位置 調査区中央部西寄りのA-2j0区、標高58.6mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第710号土坑を掘り込み、第11号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.70m、短径1.52mの不整楕円形で、長径方向はN-17°-Eである。深さは84cmで、底面は皿状であり、壁は外傾して立ち上がっている。

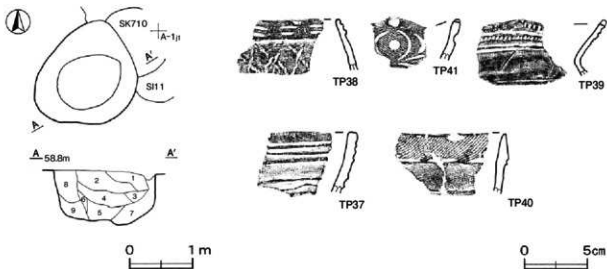
覆土 9層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|---------|----------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 褐灰色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 炭化物少量、ロームブロック微量 | 8 灰黄褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量 | 9 濃い黄褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 5 灰黄褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 600 点が出土している。TP37～TP41 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から晩期後葉に比定できる。



第51図 第98号土坑・出土遺物実測図

第98号土坑出土遺物観察表 (第51図)

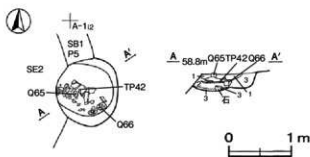
番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP37	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	浅黄橙	普通	平行沈線	覆土中	PL34
TP38	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい赤褐	普通	口縁部半截竹管による刺突文 胴部無節縄文Lを格子状に押し	覆土中	PL34
TP39	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	にぶい橙	普通	平行沈線→刺突文	覆土中	
TP40	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部・胴部縄文LR横位回転施文→頭部磨き→口縁部直下沈線	覆土中	
TP41	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	褐灰	良好	玉指き三叉文	覆土中	PL34

第124号土坑 (第52・53図)

位置 調査区中央部西寄りのA-12区、標高58.6mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第1号掘立柱建物、第2号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 北東・南西径は1.05mで、西側が第1号掘立柱建物、第2号井戸に掘り込まれているため、北西・南東径は0.98mしか確認できなかった。平面形は円形と推定できる。深さは39cmで、底面は皿状であり、壁は外傾して立ち上がっている。



第52図 第124号土坑実測図

覆土 3層に分層できる。各層にロームや焼土のブロック、炭化物が含まれていることから埋め戻されている。

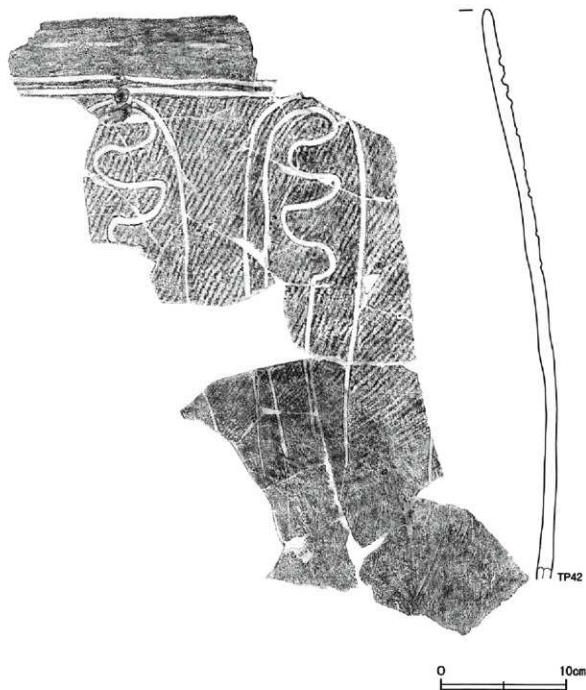
土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量
2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量

- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 241 点、石器 2 点 (磨石、凹石) が出土している。TP42・Q 66 は中央部の覆土中層、Q 65 は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から後葉前葉に比定できる。



第53図 第124号土坑出土遺物実測図

第124号土坑出土遺物観察表 (第53図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP42	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	良好	縄文RL縦位回転施文→蛇行沈線	中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q 65	磨石	10.7	8.4	6.1	852	砂岩	全面磨痕 凹痕表2, 裏2か所 被熱痕	上層	PL47
Q 66	凹石	(126)	(16.5)	(5.5)	(1360)	緑色片岩	右面転用 凹痕表6, 裏2か所 被熱痕	中層	

第125号土坑（第54図）

位置 調査区中央部西寄りのA-12区、標高58.6mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第452・482号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.20m、短径2.16mの円形である。深さは30cmで、底面は皿状であり、壁は底面から緩やかに傾斜して立ち上がっている。

ピット 6か所。P1～P6は深さ19～61cmで、性格は不明である。

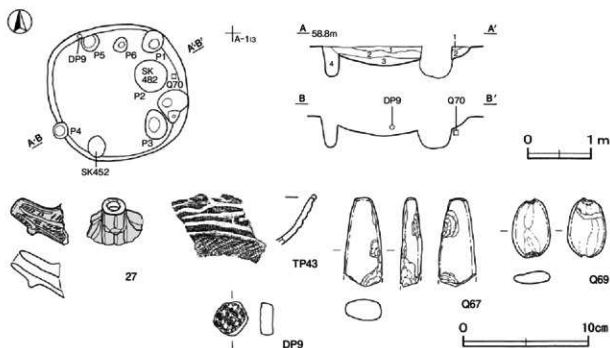
覆土 3層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。第4層はP4の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------|-----------------|---------------------------|
| 1 灰黄褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・糞沼パリス |
| 2 灰黄褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック微量 | (以下、KPと省略) 粒子微量 | |
| 3 におい黄褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片109点、土製品1点（土器片円盤）、石器3点（磨製石斧、石錘、棒状凹石）が出土している。Q70は東壁際の底面、DP9は北壁際の覆土下層、27・TP43・Q67・Q69は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から晩期後葉に比定できる。



第54図 第125号土坑・出土遺物実測図

第125号土坑出土遺物観察表（第54図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
27	縄文土器	注口土器	-	(3.7)	-	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	縄文LR充填 赤彩	覆土中	5%
TP43	縄文土器	鉢				におい橙	普通	縄文LR 充填→磨削→洗滌		覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴など	出土位置	備考
DP9	土器片断	2.7	2.6	1.1	10.2	長石・石英・針状鉱物	周縁部研磨	下層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q 67	磨製石斧	(7.0)	(3.0)	1.6	(5.4)	ホルンフェルス	刃部欠損 全面研磨 両凸刃	覆土中	PL45
Q 69	石錘	4.8	3.0	0.9	17.0	砂岩	扁平な端の両端部を打ち欠き	覆土中	PL46
Q 70	棒状凹石	16.1	6.9	2.9	589	緑色片岩	凹痕表3、裏2か所	底面	PL48

第198号土坑（第55図）

位置 調査区中央部のA-1g4区、標高58.7mの平坦な段丘面に位置している。

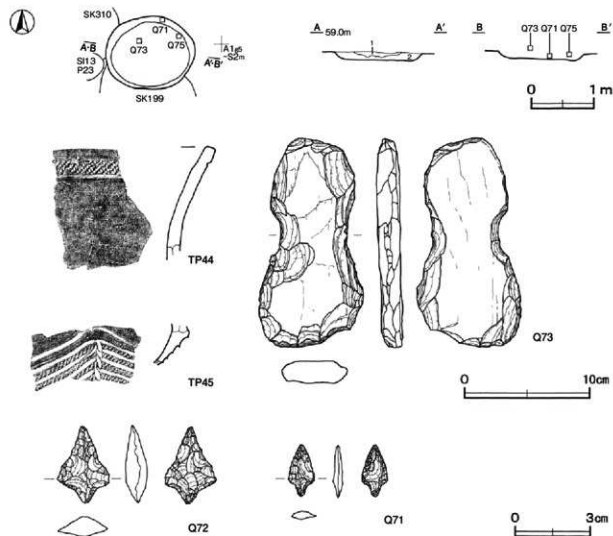
重複関係 第13A・B・14号住居跡、第199・310号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.38m、短径1.13mの楕円形で、長径方向はN-85°-Eである。深さは13cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 2 濃い黄褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量



第55図 第198号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 161点, 石器5点(石鏃2, 磨製石斧1, 打製石斧1, 棒状凹石1)が出土している。Q 71・Q 75は北東壁際の覆土下層, Q 73は中央部の覆土上層, TP44・TP45・Q 72・Q 74は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から後期中葉に比定できる。

第198号土坑出土遺物観察表(第55図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP44	縄文土器	深鉢	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部縄文LR横位回転施文→磨消→沈線	覆土中	
TP45	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい濁	普通	縄文LR光焼→磨消→沈線・刺突文	覆土中	

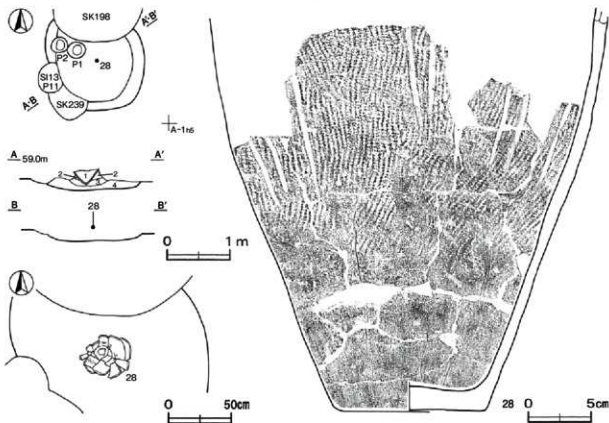
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q 71	石鏃	2.1	1.0	0.4	0.60	頁岩	両面押圧潤離 凸基有茎鏃	下層	PL44
Q 72	石鏃	3.1	2.1	0.8	3.56	チャート	両面押圧潤離 凸基有茎鏃	覆土中	PL44
Q 73	打製石斧	16.6	8.3	1.8	325	千枚岩	両面調整 分銅形	上層	PL45
Q 74	磨製石斧	(6.7)	4.5	2.9	(114)	緑色片岩	基部欠損 全面研磨 被熱痕	覆土中	
Q 75	棒状凹石	11.0	5.3	3.3	305	緑色片岩	凹痕表2, 裏3か所	下層	

第199号土坑(第56図)

位置 調査区中央部のA-1g4区, 標高58.7mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第13A・B・14号住居, 第198・239号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.83m, 短径1.44mの楕円形で, 長径方向はN-44°-Wである。深さは30cmで, 底面はほ



第56図 第199号土坑・出土遺物実測図

ほぼ平坦であり、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

ピット 2か所。P1・P2は深さ20cm・5cmで、性格は不明である。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|---------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 3 灰黄褐色 | ロームブロック中量、KP粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 4 濃い黄褐色 | ロームブロック多量、KP粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片6点が出土している。28は中央部の覆土上層から正位で出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉に比定できる。

第199号土坑出土遺物観察表 (第56図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
28	縄文土器	深鉢	-	(320)	120	長石・石英・針状鉱物	にぶい橙	普通	縄文LR縦位回転施文・沈線	上層	40%

第207号土坑 (第57図)

位置 調査区中央部のA-1h4区、標高58.5mの平坦な段丘面に位置している。

規模と形状 長径130m、短径100mの楕円形で、長径方向はN-26°-Eである。深さは133cmで、底面はほぼ平坦で、壁は直立しており、南西側が外傾している。

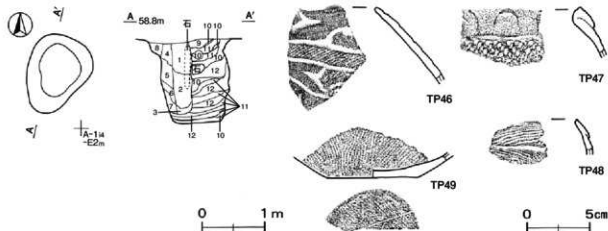
覆土 12層に分層できる。第1～3層は柱痕跡で、3層の下面で柱の当たりが確認できた。また、柱痕跡内から緑色片岩が出土している。緑色片岩は長さ約70cm、幅約20cm、厚さ約10cmの板状で、縦位の状態で据えられている。第4～12層は埋土で、第9～12層は互層に堆積している。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|--------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量 | 8 灰黄褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 炭化物・ローム粒子少量、焼土ブロック微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量 | 11 褐色 | ロームブロック多量 |
| 6 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック微量 |

遺物出土状況 縄文土器片24点が出土している。TP46～TP49は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から晩期後葉に比定できる。大形の柱穴で、平面形や堆積状況から南西側から滑り込ませて柱を立てたと推定でき、柱痕跡から出土した板状の緑色片岩は柱を安定させるために据えられたものと



第57図 第207号土坑・出土遺物実測図

考えられる。本跡周辺に同規模の柱穴が確認できなかったため、構造は明確でないが、北西約4mの地点には同時期の第1号掘立柱建物跡が位置しており、関連性がうかがえる。

第207号土坑出土遺物観察表（第57図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP46	縄文土器	深鉢	石英・雲母	にぶい橙	普通	縄文LR横位回転施文→三又文→磨消	覆土中	PL34
TP47	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	縄文RL横位回転施文 口縁部指頭押圧	覆土中	
TP48	縄文土器	深鉢	石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	普通	磨余文R横位回転施文	覆土中	PL34
TP49	縄文土器	深鉢	石英・雲母	にぶい橙	普通	縄文LR縦位回転施文 底部布目状圧痕	覆土中	PL34

第214号土坑（第58～60図）

位置 調査区中央部のA-1g6区、標高58.6mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第499・582・891号土坑を掘り込み、第12号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.14m、短径1.86mの楕円形で、長径方向はN-61°-Eである。深さは89cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は直立している。

覆土 13層に分層できる。焼土ブロックや炭化物が多く含まれていることから埋め戻されている。第4～10層は焼土層と炭層が互層に堆積しており、複数回火を使った痕跡が認められる。

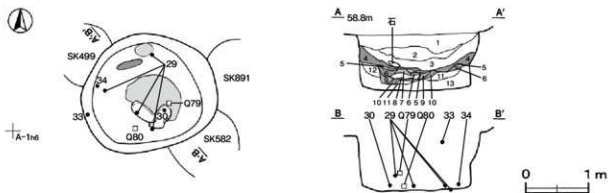
土層解説

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 炭化物少量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量 | 9 にぶい赤褐色 焼土ブロック多量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック・炭化物少量、ロームブロック微量 | 10 黒褐色 炭化粒子多量、焼土ブロック微量 |
| 4 黒褐色 炭化材中量、焼土ブロック少量、ロームブロック微量 | 11 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 |
| 5 赤褐色 焼土ブロック多量 | 12 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 6 暗灰色 炭化材多量、焼土粒子微量 | 13 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 7 にぶい赤褐色 焼土粒子多量、ロームブロック少量 | |

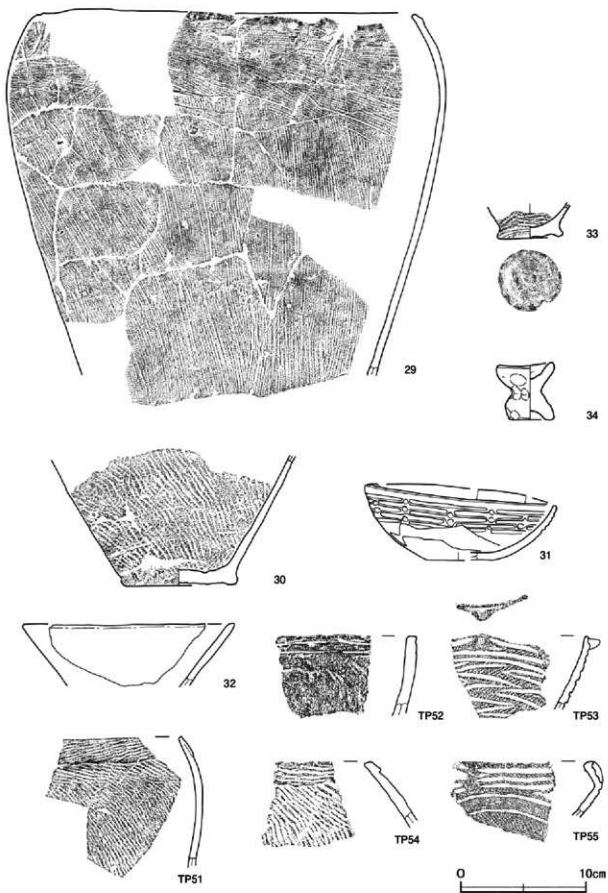
遺物出土状況 縄文土器片1,724点、石器3点（磨石2、棒状凹石1）、石製品2点（石剣未製品）が出土している。

また、第3層から火を受けて赤変した砂岩と緑色片岩の自然石、第6層から炭化した束状のタケ・ササ類が出土している。29は坑内に散在した状態で、30・Q79は中央部、Q80は南部、34は西壁際の覆土下層、33は西壁際の覆土上層、31・32・TP51～TP55・Q76・Q77は覆土中からそれぞれ出土している。

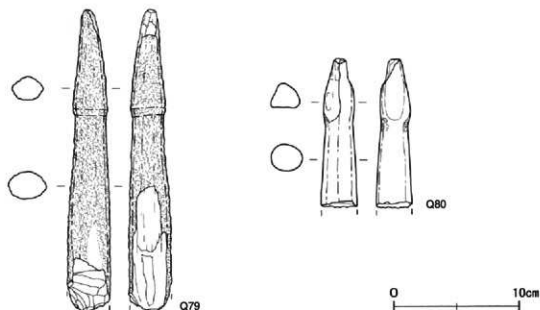
所見 時期は、出土土器から晩期後葉に比定できる。また、第6層から出土した炭化物は、放射性炭素年代測定から2,630±70BPの測定結果が得られた（付参参照）。



第58図 第214号土坑実測図



第59图 第214号土坑出土遗物实测图(1)



第60図 第214号土坑出土遺物実測図(2)

第214号土坑出土遺物観察表 (第59・60図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
29	縄文土器	深鉢	[30.2]	(28.6)	-	石英・雲母・針状鉱物	にぶい濁	普通	朱紅文	下層	40% PL35
30	縄文土器	深鉢	-	(10.3)	9.0	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい濁	普通	縄文LR横位回転施文 底部ナデ	下層	30% PL35
31	縄文土器	浅鉢	15.3	6.0	5.2	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	明赤濁	普通	変形工字文	覆土中	60% PL35
32	縄文土器	鉢	[16.6]	5.0	-	石英・雲母	にぶい濁	普通	磨き	覆土中	5%
33	縄文土器	鉢	-	(2.7)	5.1	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい濁	普通	縄文RL横位回転施文 底部ナデ	覆土中	30%
34	縄文土器	ミニチュア	4.2	4.6	3.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい濁	普通	ナデ	下層	96% PL35

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP51	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	黒濁	普通	口縁部器糸文R 胴部器糸文L	覆土中	PL35
TP52	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	にぶい濁	普通	口縁部沈線	覆土中	
TP53	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	黒濁	普通	縄文LR横位回転施文→矢羽根状沈線	覆土中	PL35
TP54	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黄橙	普通	器糸文R横位回転施文	覆土中	PL35
TP55	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい濁	普通	縄文RL横位回転施文→沈線→磨消	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q 76	磨石	11.0	8.9	5.8	814	石英斑岩	磨面2か所	覆土中	
Q 77	磨石	(39)	(7.3)	4.3	(150)	石英斑岩	磨面2か所 被熱痕	覆土中	
Q 78	棒状磨石	(8.3)	4.7	2.1	(111)	緑色片岩	凹痕2か所	覆土中	
Q 79	石製砥石	(239)	(3.4)	(2.2)	(201)	千枚岩	敲打調整	下層	PL46
Q 80	石製砥石	(118)	(2.9)	(2.1)	(103)	緑色片岩	敲打調整 研磨痕	下層	PL46

第222号土坑 (第61図)

位置 調査区中央部のA-1g6区、標高58.6mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第15号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.17m、短径0.94mの楕円形で、長径方向はN-29°-Eである。深さは30cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

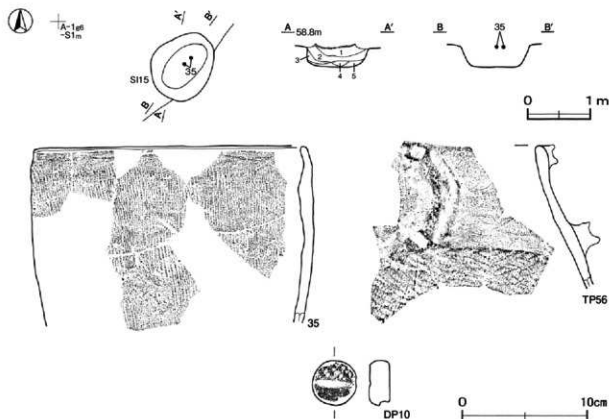
覆土 5層に分層できる。ロームブロックが多量に含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 4 濃い黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 ロームブロック多量 |
| 3 灰黄褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 縄文土器片285点、土製品1点（土器片円盤）、石器2点（棒状凹石）が出土している。35・TP56は中央部の覆土上層、DP10は覆土下層、Q81・Q82は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から後期初頭に比定できる。



第61図 第222号土坑・出土遺物実測図

第222号土坑出土遺物観察表（第61図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
35	縄文土器	深鉢	[20.8]	(13.9)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	4本1単位の櫛歯状工具による朱線	上層	5%
TP56	縄文土器	深鉢				石英・雲母	にぶい橙	普通	縄文RL横位回転施文→稜帯貼付→円形竃文	上層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴など		出土位置	備考	
DP10	土器円盤	3.6	3.5	1.6	24.4	石英・雲母・針状鉱物	周縁部研磨		下層		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など		出土位置	備考	
Q81	棒状凹石	21.5	7.9	3.1	714	緑色片岩	凹痕1か所 被熱痕		覆土中		
Q82	棒状凹石	13.0	8.1	2.9	376	緑色片岩	凹痕表2、裏2か所		覆土中		

第268号土坑（第62図）

位置 調査区中央部のA-18区、標高58.5mの平坦な段丘面に位置している。

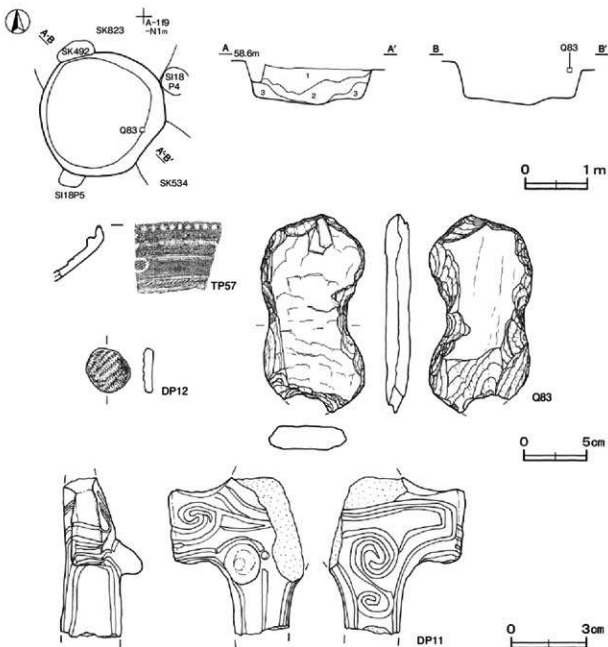
重複関係 第18号住居跡、第534・559・823号土坑を掘り込み、第492号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.08m、短径1.96mの円形である。深さは56cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。ローム粒子が多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
- 2 灰黄褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 濃い黄褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量



第62図 第268号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 262点, 土製品 2点 (土偶, 土器片円盤), 石器 1点 (打製石斧) が出土している。
Q 83 は南東壁際の覆土上層, TP57・DP11・DP12 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から後期中葉に比定できる。

第268号土坑出土遺物観察表 (第62図)

番号	種類	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP57	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	灰黄褐	良好	縄文LR横位回転施文→磨消→竹管文	覆土中	PL33

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴など	出土位置	備考
DP11	土偶	(6.3)	(5.4)	3.3	(67.3)	長石・石英・針状炭物	胴部片 沈線	覆土中	PL43
DP12	土器片円盤	3.7	3.2	0.8	11.1	石英・雲母	周縁部研磨	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q 83	打製石斧	(15.7)	8.3	2.0	(337)	緑色片岩	両面調整 分銅形	上層	PL45

第 271 号土坑 (第 63 図)

位置 調査区中央部の A-1e8 区, 標高 58.7m の平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第 18 号住居跡, 第 823 号土坑を掘り込んでいる。

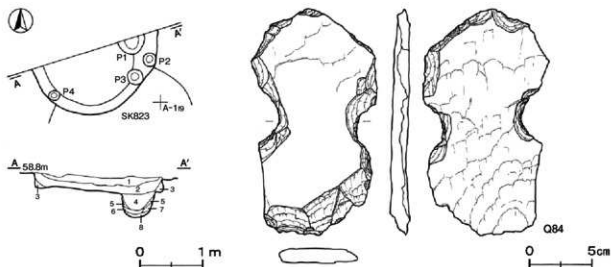
規模と形状 北側が調査区域外へ延びているため, 東西径 2.10m, 南北径 0.99m しか確認できなかった。平面形は円形または楕円形と推測できる。深さは 33cm で, 底面はほぼ平坦であり, 壁は直立している。

ピット 4 か所。P 1～P 4 は深さ 12～35cm で, 性格は不明である。

覆土 3 層に分層できる。ロームのブロックや粒子を含んでいることから埋め戻されている。第 4～8 層は P 1 の覆土である。

土層解説

- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 5 暗褐色 ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 黒褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 7 灰黄褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化物微量 | 8 濃い黄褐色 ロームブロック中量 |



第63図 第271号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 49 点, 石器 1 点 (打製石斧) が出土している。加曾利 B 式期の粗製土器の土器片が出土しているが, 細片のため図化できなかった。Q 84 は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から後期後半と考えられる。

第271号土坑出土遺物観察表 (第63図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q 84	打製石斧	17.9	10.1	1.5	308	千枚岩	両面調整 分銅形	覆土中	PL45

第 288 号土坑 (第 64 図)

位置 調査区中央部東寄りの A-1 e9 区, 標高 58.5m の平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第 20 号住居跡, 第 674 号土坑を掘り込み, 第 599・600・794・795 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.30m, 短径 1.22m の円形である。深さは 55cm で, 底面は平坦であり, 壁は直立している。

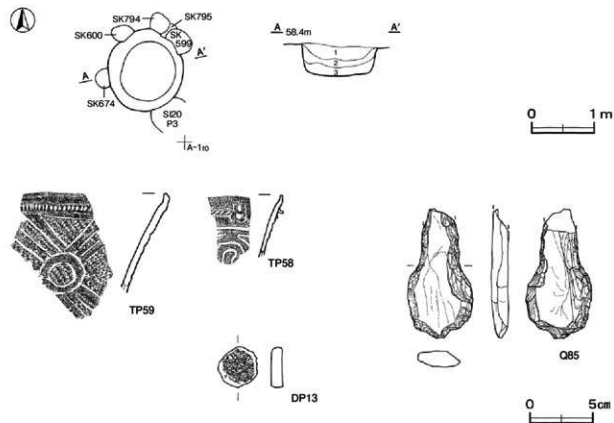
覆土 3 層に分層できる。各層にロームや焼土のブロック, 炭化物が含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 3 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
2 暗 褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量

遺物出土状況 縄文土器片 238 点, 土製品 1 点 (土器片円盤), 石器 2 点 (打製石斧, 磨石) が出土している。TP59・Q 85 は覆土下層, TP58・DP13 は覆土上層, Q 86 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 円筒状土坑である。時期は, 出土土器から後期前葉に比定できる。



第64図 第288号土坑・出土遺物実測図

第288号土坑出土遺物観察表 (第64図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP58	縄文土器	深鉢	石英・雲母	黒黒	普通	8字状コブ貼付 沈線	上層	
TP59	縄文土器	深鉢	石英・雲母	にぶい黒	普通	縄文RL横位回転施文→沈線→磨消	下層	PL33

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴など	出土位置	備考
DP13	土器片断	3.2	3.1	0.9	12.8	長石・石英・赤色粒子	周縁部研磨	上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q 85	打製石斧	(10.3)	7.9	2.0	(286)	緑色片岩	両面調整 盤形	下層	PL45
Q 86	磨石	8.6	7.9	4.8	492	安山岩	全面磨痕	覆土中	PL47

第299号土坑 (第65図)

位置 調査区中央部東寄りのA1e1区、標高58.6mの平坦な段丘面に位置している。

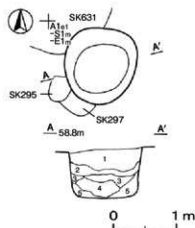
重複関係 第295・297・631号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.26m、短径1.14mの楕円形で、長径方向はN-50°-Eである。深さは77cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は直立している。

覆土 5層に分層できる。ロームのブロックや粒子、炭化材が含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化材微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化材微量
- 4 灰黄褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗灰色 ローム粒子少量



第65図 第299号土坑実測図

遺物出土状況 縄文土器片97点が出土している。土器片は細片のため図化できなかった。

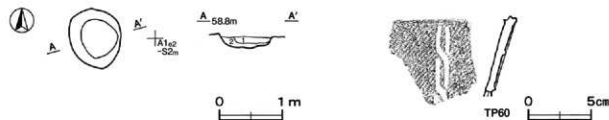
所見 円筒状土坑である。時期は、重複関係や遺構の形状から後期前葉と考えられる。

第301号土坑 (第66図)

位置 調査区中央部東寄りのA1e1区、標高58.6mの平坦な段丘面に位置している。

規模と形状 長径0.98m、短径0.83mの楕円形で、長径方向はN-20°-Wである。深さは17cmで、底面は皿状であり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。ロームのブロックや粒子が多く含まれていることから埋め戻されている。



第66図 第301号土坑・出土遺物実測図

土層解説

1 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

2 濃い黄褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 35 点が出土している。TP60 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉に比定できる。

第301号土坑出土遺物観察表（第66図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP60	縄文土器	深鉢	石英・雲母	にぶい黄	普通	縄文 LR 横位回転施文→沈線	覆土中	

第302号土坑（第67図）

位置 調査区中央部東寄りの A1e1 区、標高 58.6m の平坦な段丘面に位置している。

規模と形状 長径 0.90m、短径 0.83m の円形である。深さは 48cm である。底面は皿状であり、壁は外傾しており、南西側がわずかに内彎して立ち上がっている。

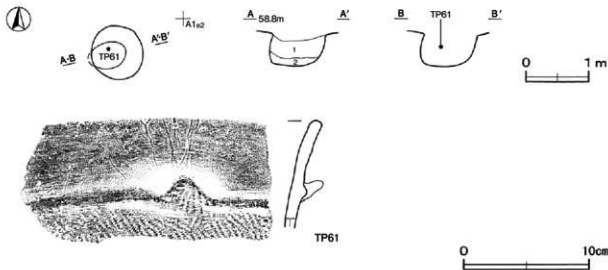
覆土 2層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 明 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・KF 粒子微量 2 明 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片 38 点が出土している。TP61 は中央部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期初頭に比定できる。



第67図 第302号土坑・出土遺物実測図

第302号土坑出土遺物観察表（第67図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP61	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい黄橙	良好	縄文 RL 横位回転施文→隆帯貼付・舌状突起	中層	

第305号土坑（第68図）

位置 調査区中央部東寄りのA1d2区、標高58.6mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第712・765・766号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.26m、短径1.20mの円形である。深さは88cmで、底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

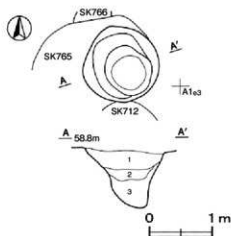
覆土 3層に分層できる。ロームのブロックや粒子、鹿沼バミスブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・KPブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 縄文土器片108点が出土している。土器片は細片のため図化できなかった。

所見 時期は、後期前葉の第766号土坑を掘り込んでいることから、後期前葉以降と考えられる。



第68図 第305号土坑実測図

第310号土坑（第69図）

位置 調査区中央部のA-1g4区、標高58.6mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第14号住居跡を掘り込み、第13A・B号住居、第198・426号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.87m、短径1.25mの楕円形で、長径方向はN-78°-Eである。深さは60cmで、底面は凹凸があり、壁は底面から直立し、中位から緩やかに傾斜して立ち上がっている。

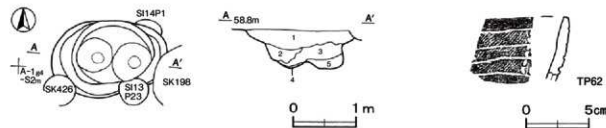
覆土 5層に分層できる。ロームブロックなどが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化材・KP粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物・KP粒子少量、焼土粒子微量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量、KPブロック・炭化物微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・炭化材少量
- 5 濃い黄褐色 ロームブロック多量、焼土ブロック・KPブロック・炭化材微量

遺物出土状況 縄文土器片58点が出土している。TP62は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期中葉に比定できる。



第69図 第310号土坑・出土遺物実測図

第310号土坑出土遺物観察表（第69図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP62	縄文土器	深鉢	石英・雲母	灰褐色	普通	縄文LR横位回転施文→沈線	覆土中	

第311号土坑（第70図）

位置 調査区中央部東寄りのA 1e3区、標高58.7mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第505・560・561・821・871号土坑を掘り込み、第312・504号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.30m、短径2.15mの円形である。深さは35cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

ピット 深さ36cmで、性格は不明である。

覆土 2層に分層できる。ロームのブロックや粒子が含まれていることから埋め戻されている。

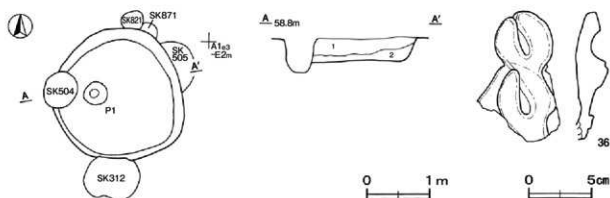
土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片177点、石器1点(棒状凹石)が出土している。36・Q 87は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期初頭に比定できる。



第70図 第311号土坑・出土遺物実測図

第311号土坑出土遺物観察表（第70図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
36	縄文土器	深鉢	-	(10.3)	-	長石・石英、雲母・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	8字状把手	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q 87	棒状凹石	30.0	4.2	3.4	380	緑色片岩	凹痕表2、裏2か所	覆土中	PL48

第315号土坑（第71図）

位置 調査区中央部のA-1g8区、標高58.5mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第700号土坑を掘り込んでいます。

規模と形状 開口部は東西径2.03mで、南側が調査区域外へ延びているため、南北径は1.68mしか確認できなかった。平面形は楕円形で、長径方向はN-65°-Eと推測できる。底面はほぼ平坦で、東西径は2.74mで、南北径は1.72mしか確認できなかった。平面形は楕円形と推測できる。深さは48cmで、壁は底面から内傾し、くびれ部から直立している。底面からくびれ部までの高さは22~41cmである。

覆土 8層に分層できる。ロームブロックが多量に含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 にぶい黄褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

5 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

6 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量

3 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量

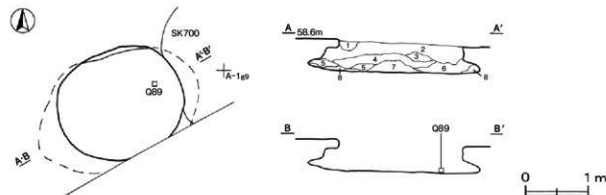
7 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

4 黒褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量

8 にぶい黄褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片98点、石器6点(磨石1、棒状凹石5)が出土している。加曾利E式期の土器片が出土しているが、細片のため図化できなかった。Q 89は東部の底面。Q 88・Q 90～Q 93は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 フラスコ状土坑である。時期は、遺構の形状や出土土器から中期後半と考えられる。



第71図 第315号土坑実測図

第315号土坑出土遺物観察表

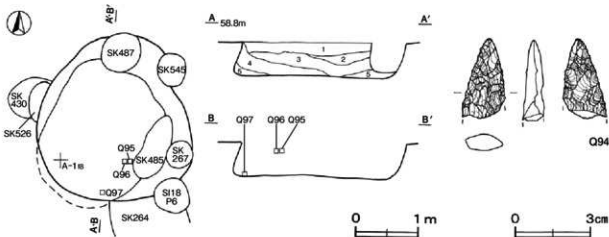
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q 88	磨石	8.5	8.0	5.5	798	緑色岩	全面磨痕	覆土中	PL47
Q 89	棒状凹石	16.0	8.3	2.8	540	千枚岩	凹痕表1、裏1か所	底面	PL48
Q 90	棒状凹石	15.5	4.2	3.0	281	緑色片岩	凹痕表2、裏2か所	覆土中	PL48
Q 91	棒状凹石	20.8	5.6	2.9	536	緑色片岩	凹痕表2、裏2か所	覆土中	
Q 92	棒状凹石	14.6	3.7	4.3	571	緑色片岩	凹痕表2、裏3か所	覆土中	
Q 93	棒状凹石	15.1	6.3	3.0	410	緑色片岩	凹痕表2、裏2か所	覆土中	PL48

第316号土坑 (第72図)

位置 調査区中央部のA-1e8区、標高58.5mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第264・430・526号土坑を掘り込み、第18号住居、267・485・487・545号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.74m、短径2.65mの楕円形で、長径方向はN-32°-Eである。深さは56cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾しており、南西側が内傾して立ち上がっている。



第72図 第316号土坑・出土遺物実測図

覆土 5層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|----------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 4 暗灰黄色 | ローム粒子・炭化粒子少量、KPブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 にがい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 灰黄色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 122点、石器3点(磨製石斧、棒状凹石、凹石)が出土しているほか、旧石器時代の石器1点(尖頭器)が混入している。土器片は細片のため図化できなかった。Q 97は南壁際の底面、Q 95・Q 96は南壁際の覆土上層、Q 94は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。

第316号土坑出土遺物観察表(第72図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q 94	尖頭器	(33)	1.7	0.8	(3.64)	珪質頁岩	基部欠損	覆土中	PL44
Q 95	磨製石斧	7.5	5.8	2.5	141	緑色片岩	全面研磨	上層	
Q 96	棒状凹石	20.4	5.4	3.2	471	緑色片岩	凹痕表4、裏2か所	上層	PL48
Q 97	凹石	23.2	14.1	7.3	2870	緑色片岩	凹痕表1、裏1か所	底面	

第325号土坑(第73図)

位置 調査区中央部のA-19区、標高58.6mの平坦な段丘面に位置している。

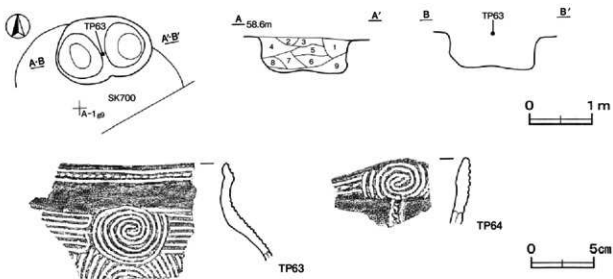
重複関係 第700号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.53m、短径1.05mの不整楕円形で、長径方向はN-80°-Eである。深さは61cmで、底面は凹凸があり、壁は直立している。

覆土 9層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量 | 6 黒褐色 | 焼土粒子少量、炭化物・ローム粒子微量 |
| 2 灰黄褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 |
| 3 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量 | 8 暗灰色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子少量 | | |



第73図 第325号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 148 点が出土している。TP63 は中央部の覆土上層，TP64 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から後期前葉に比定できる。

第325号土坑出土遺物観察表（第73図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP63	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	良好	集合沈線	上層	
TP64	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	刻みをもつ隆帯貼付→集合沈線	覆土中	

第 334 号土坑（第 74 図）

位置 調査区西部の A-2 9 区，標高 58.3m の平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第 333・335 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 2.15m，短径 1.41m の不整楕円形で，長径方向は N-57°-E である。深さは 58cm で，底面はほぼ平坦であり，南西側にテラス面を有しており，壁は外傾して立ち上っている。

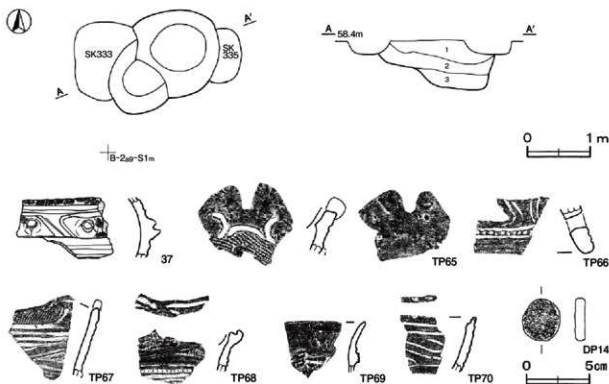
覆土 3 層に分層できる。焼土ブロックや炭化物，礫が多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化物少量，ロームブロック・中礫微量
- 2 暗灰色～灰色 焼土ブロック・炭化物・中礫少量，ロームブロック微量
- 3 暗灰黄色 中礫中量

遺物出土状況 縄文土器片 305 点，土製品 1 点（土器片円盤），石器 1 点（棒状四石）が出土している。37・TP65～TP70・DP14・Q 98 は覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器から晩期後葉に比定できる。



第74図 第334号土坑・出土遺物実測図

第334号土坑出土物観察表（第74図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
37	縄文土器	深鉢	-	(4.7)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	灰褐色	普通	縄文LR横位回転施文→刺突文をもつ隆帯貼付→沈線	覆土中	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP65	縄文土器	深鉢	石英・雲母	にぶい橙	普通	縄文LR横位回転施文→沈線	覆土中	
TP66	縄文土器	台付鉢	石英・雲母	にぶい橙	普通	脚部 縄文LR横位回転施文→沈線→刺突文	覆土中	
TP67	縄文土器	深鉢	石英・雲母	にぶい濁	普通	縄文LR横位回転施文→沈線	覆土中	PI.34
TP68	縄文土器	深鉢	石英・雲母	にぶい黄濁	普通	沈線	覆土中	
TP69	縄文土器	深鉢	石英・雲母	にぶい橙	普通	8字状のコブ貼付	覆土中	
TP70	縄文土器	深鉢	石英・雲母	にぶい橙	普通	沈線	覆土中	PI.34

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴など	出土位置	備考
DP14	土器片	3.4	3.1	0.8	9.9	石英・雲母	周縁部研磨	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q 98	棒状凹石	11.0	5.9	2.0	225	緑色片岩	凹痕1か所	覆土中	

第363号土坑（第75・76図）

位置 調査区西部のB-2a7区、標高58.4mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第361・495号土坑を掘り込み、第365号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.49m、短径1.28mの楕円形で、長径方向はN-33°-Wである。深さは113cmで、底面は凹凸があり、壁は直立している。底部の北側から径41.1～43.6cm、高さ20cmの木材が確認できた。

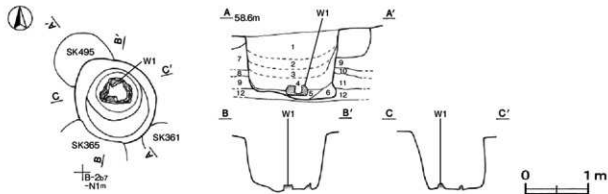
覆土 6層に分層できる。湧水のため詳細な堆積状況は不鮮明であるが、地山の掘削土で埋め戻されている。

第7～12層は地山の土石流堆積層で、第11層以下は湧水が著しい。

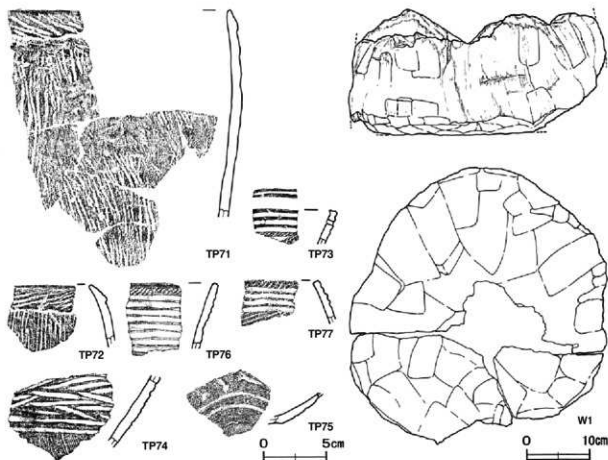
土層解説

- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 粘質土主体、炭化物・中礫少量 | 7 灰黄褐色 粘土主体、細礫少量 |
| 2 暗オリーブ褐色 粘質土主体、中礫中量、炭化粒子微量 | 8 黄褐色 粘質土主体、中礫多量 |
| 3 黒褐色 粘質土主体、焼土粒子・中礫微量 | 9 暗灰黄色 中砂主体、中礫中量 |
| 4 暗灰黄色 粘質土主体、中礫多量、炭化物少量 | 10 黄褐色 粗砂主体、粘土中量 |
| 5 黒色 粘質土主体、炭化物少量、大礫微量 | 11 暗褐色 粗砂主体、中礫多量、上部に鉄分沈着 |
| 6 暗オリーブ褐色 粘質土主体、大礫少量、炭化粒子微量 | 12 オリーブ褐色 粗砂主体、大礫多量 |

遺物出土状況 縄文土器片475点が出土している。TP71～TP77は第1～3層の覆土上層から中層にかけて、W1は覆土下層の上部からそれぞれ出土している。



第75図 第363号土坑実測図



第76図 第363号土坑出土遺物実測図

所見 大形の柱穴と考えられるが、堆積状況が不鮮明であり、柱痕跡などは確認できなかった。時期は、出土土器から晩期後葉に比定できる。本跡周辺には、西（N-105°-W）へ4.8mの地点に第379号土坑、南（N-165°-E）へ3.7mの地点に第857号土坑があり、建物跡を構成して調査区域外へ延びている可能性がある。（第118図参照）。また、出土した木材については、樹種同定によってクリであることが判明しており、放射性炭素年代測定から $2520 \pm 40BP$ の測定結果が得られた（付表参照）。

第363号土坑出土遺物観察表（第76図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP71	縄文土器	深鉢	長石・石英	浅黄橙	普通	標赤文L口縁部斜位、胴部縦位回転施文	上～中層	PL34
TP72	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	標赤文R口縁部斜位、胴部縦位回転施文	上～中層	PL34
TP73	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	縄文LR横位回転施文→平行沈線 孔1か所	上～中層	PL34
TP74	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐灰	普通	矢羽根状沈線	上～中層	PL34
TP75	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	縄文LR光墳→沈線→磨消 底部磨き	上～中層	PL34
TP76	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	褐灰	普通	縄文LR横位回転施文→平行沈線	上～中層	PL34
TP77	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	にぶい橙	普通	縄文LR横位回転施文→平行沈線	上～中層	PL34

番号	器種	長さ	径	材質	特徴など	出土位置	備考
W1	柱材	[20]	41.1～43.6	クリ	鑿状工具による加工痕	下層	

第446号土坑（第77図）

位置 調査区中央部のA-15区、標高58.7mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第244号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径1.40m、短径1.28mの円形である。底面はほぼ平坦で、長径1.53m、短径1.44mの円形である。深さは71cmで、壁は底面からわずかに内傾して立ち上がっている。

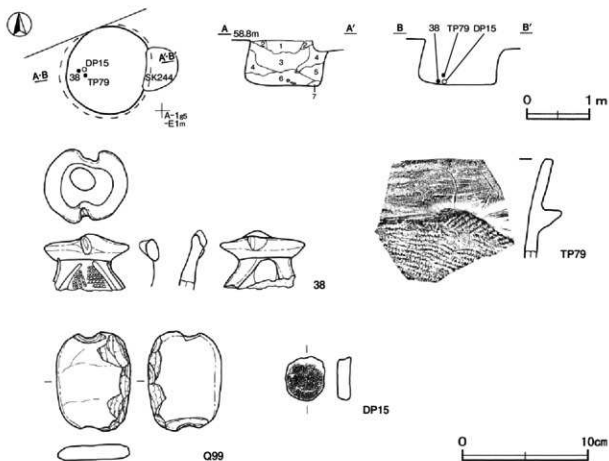
覆土 7層に分層できる。ロームブロックが多量に含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------------------|--------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 4 暗灰色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量 | 5 褐色 | ロームブロック多量、炭化物微量 |
| 3 濃い黄褐色 | ロームブロック中量、KPブロック・炭化物・焼土粒子
微量 | 6 黒褐色 | 炭化物少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| | | 7 灰黄褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片246点、土製品1点（土器片円盤）、石器1点（石錘）が出土している。38・TP79・DP15は西側の覆土下層から底面にかけて、Q99は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 円筒状土坑である。時期は、出土土器から後期初頭に比定できる。



第77図 第446号土坑・出土遺物実測図

第446号土坑出土遺物観察表（第77図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
38	縄文土器	深鉢	-	(4.6)	-	長石・石英・ 針状鉱物	濃い赤褐色	普通	把手部縄文LR→沈線	底面	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP79	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子・針状配物	橙	良好	縄文LR横位回転施文→舌状突起	下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴など	出土位置	備考
DP15	土器片断	3.6	3.2	1.1	13.8	石英・針状配物	周縁部研磨	底面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q 99	石鉢	7.9	3.8	1.3	98.3	緑色岩	扁平な縁の両端部及び側面を打ち欠き	覆土中	PL46

第488号土坑（第78図）

位置 調査区中央部東寄りのA-10区、標高58.5mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第925号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 南側が調査区域外へ延びているため、東西径1.33m、南北径0.50mしか確認できなかった。平面形は円形または楕円形と推測できる。深さは36cmで、底面は凹凸があり、壁は直立している。

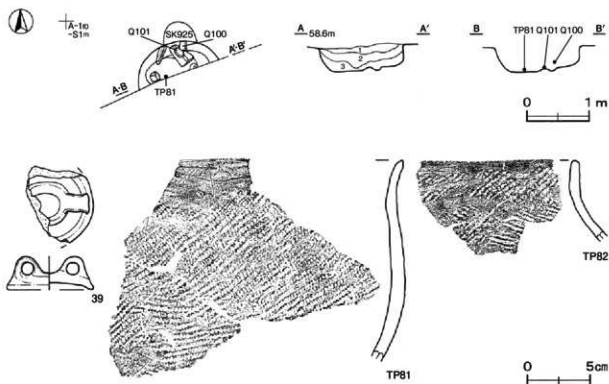
覆土 3層に分層できる。第1・2層は周囲から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。第3層は巨礫が多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 3 暗褐色 巨礫中量、ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片54点、石器2点(凹石)が出土している。TP81は南側、Q100・Q101は北壁際の底面、39・TP82は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から後期初頭に比定できる。



第78図 第488号土坑・出土遺物実測図

第488号土坑出土遺物観察表（第78図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
39	縄文土器	蓋	[6.8]	2.7	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	明赤褐	普通	楕状把手貼付	覆土中	50%
番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考			
TP81	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子・赤色粒子	にぶい褐	良好	縄文LR横位回転施文	底面				
TP82	縄文土器	深鉢	長石・石英・黒色粒子	灰黄褐	普通	縄文LR横位回転施文	覆土中				
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考		
Q100	凹石	22.5	12.8	10.5	4610	緑色片岩	凹痕2か所	底面	PL50		
Q101	凹石	40.6	22.5	11.3	14000	千枚岩	凹痕表3、裏2か所	底面			

第499号土坑（第79図）

位置 調査区中央部のA-1g6区、標高58.7mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第12号住居、第214・439号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南北径は0.92mで、東側が第214号土坑、西側が第439号土坑に掘り込まれているため、東西径は1.10mしか確認できなかった。平面形は楕円形と推測でき、長径方向はN-56°-Wである。深さは24cmで、底面は皿状で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

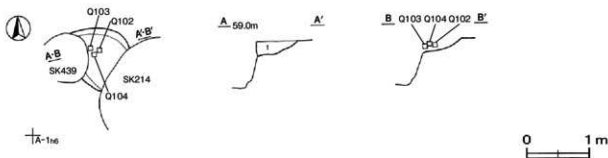
覆土 単一層である。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 堀 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片10点、石器3点（磨石、凹石、石皿）が出土している。土器片は細片のため図化できなかった。Q102～Q104は中央部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から晩期と考えられる。



第79図 第499号土坑実測図

第499号土坑出土遺物観察表

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q103	磨石	7.7	6.1	5.3	378	石英斑岩	磨面2面 鋭打痕2か所	下層	
Q104	凹石	(8.4)	(8.1)	(5.0)	(342)	砂岩	凹痕1か所	下層	
Q102	石皿	(13.4)	(9.9)	(5.4)	(736)	緑色片岩	焼熟痕	下層	

第501号土坑 (第80・81図)

位置 調査区中央部のA-1g8区、標高58.5mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第571号土坑を掘り込み、第17号住居、第500号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径2.27m、短径2.20mの円形である。底面はほぼ平坦で、長径2.63m、短径2.26mの楕円形で、長径方向はN-25°-Wである。深さは40cmで、壁は底面から内傾し、くびれ部から緩やかに傾斜して立ち上がっている。底面からくびれ部までの高さは27cmである。

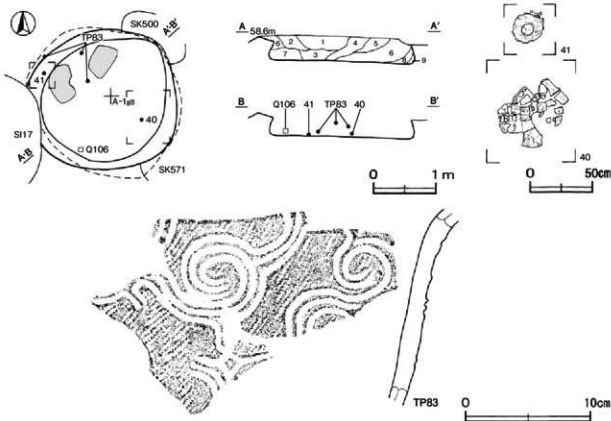
覆土 9層に分層できる。ロームのブロックや粒子が多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|---------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 灰黄褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 濃い黄褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土ブロック・KP粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・KP粒子少量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量 | 9 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 灰褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片282点、石器2点(棒状凹石)が出土している。40は南東部、41は北西壁際、Q106は南壁際の底面、TP83は北西部の覆土中層、Q105は覆土中からそれぞれ出土している。40は土圧でつぶれた状態で、41は逆位の状態でそれぞれ出土している。

所見 フラスコ状土坑である。時期は、出土土器から中期後葉に比定できる。



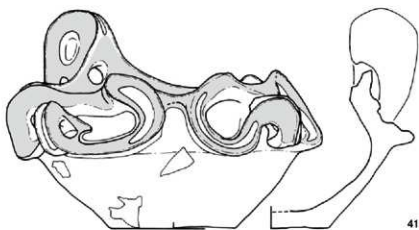
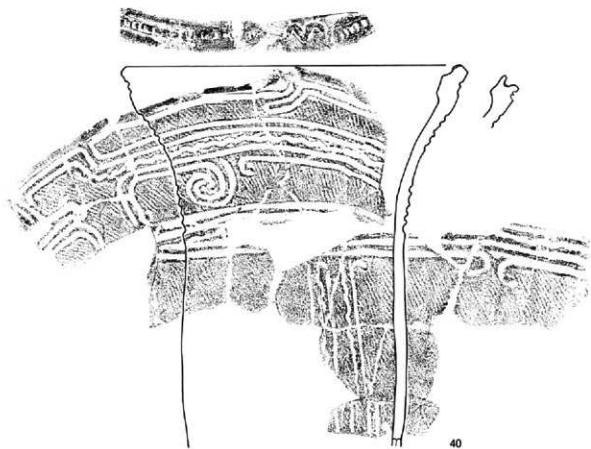
第80図 第501号土坑・出土遺物実測図

第501号土坑出土遺物観察表 (第80・81図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
40	縄文土器	深鉢	[26.2]	(30.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	縄文RL横位回転施文・沈線	底面	30% PL29
41	縄文土器	浅鉢	17.0	17.5	10.0	長石・雲母	黒褐	普通	3単位の突起 赤彩	底面	80% PL29

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP83	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい碧	普通	縄文ⅡL.縦位回転施文→沈線	中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q 105	棒状凹石	(11.7)	5.0	2.7	(259)	緑色片岩	凹痕表1,裏1か所 先端部敲打痕	覆土中	
Q 106	棒状凹石	(10.7)	8.7	4.2	(638)	砂岩	凹痕表2,裏1か所	底面	



0 10cm

第81図 第501号土坑出土遺物実測図

第505号土坑（第82図）

位置 調査区中央部東寄りのA1e3区、標高58.6mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第914号土坑を掘り込み、第311・683号土坑に掘り込まれている。また、第871号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 長径0.95m、短径0.90mの円形である。深さは55cmで、底面は皿状であり、壁は外傾して立ち上がっている。

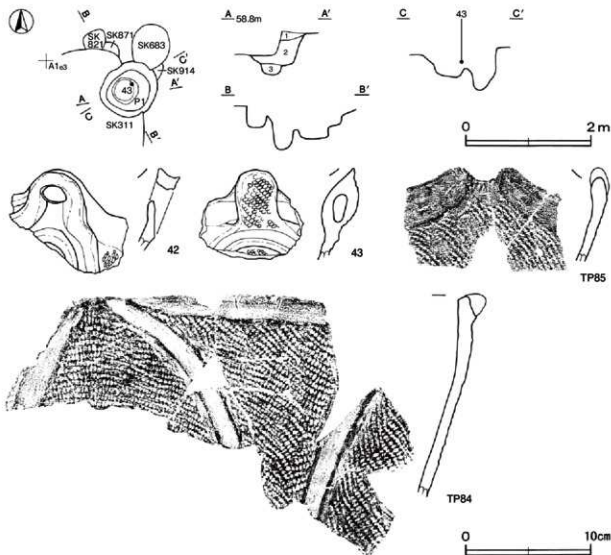
ピット 深さ15cmである。性格は不明である。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。第3層はP1の覆土である。

土層解説

- | | |
|---------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 3 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量 | |

遺物出土状況 縄文土器片117点が出土している。43は中央部の覆土下層、42・TP84・TP85は覆土中からそれぞれ出土している。



第82図 第505号土坑・出土遺物実測図

所見 円筒状土坑である。時期は、出土土器から中期末葉に比定できる。

第505号土坑出土遺物観察表（第82図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
42	縄文土器	深鉢	-	(6.3)	-	石英・雲母	にがい黄褐色	普通	縄文LR縦位回転施文→階段起線→有孔把手貼付	覆土中	5%
43	縄文土器	深鉢	-	(7.1)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	にがい褐色	普通	縄文LR→階段起線→橋状把手	下層	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP84	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	縄文LR縦位回転施文→階段起線→磨消	覆土中	
TP85	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	無筋縄文L縦位回転施文→口縁部磨消 双頭状突起	覆土中	

第513号土坑（第83図）

位置 調査区中央部東寄りのA-1e0区、標高58.5mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第832・833号土坑を掘り込み、第20号住居、第758・799・830・831号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.16m、短径2.04mの円形である。深さは55cmで、底面は凹凸があり、壁は外傾して立ち上がっている。

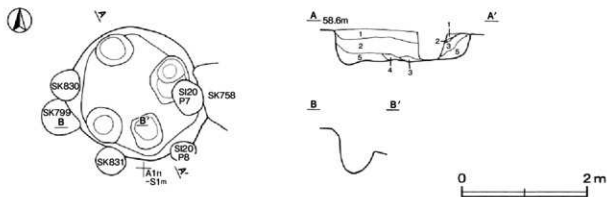
覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、KF粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 灰黄褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片65点が出土している。土器片は細片のため図化できなかった。

所見 時期は、重複関係や出土土器から中期後葉以降、後期前葉以前と考えられる。



第83図 第513号土坑実測図

第522号土坑（第84図）

位置 調査区中央部のA-1f7区、標高58.6mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第523・548号土坑を掘り込み、第521・554・555・564・651号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.30m、短径2.26mの円形である。深さは44cmで、底面は皿状であり、壁は外傾して立ち上がっている。

ビット 深さ39cmで、性格は不明である。

ビット土層解説

- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| 1 灰黄褐色 ローム粒子中量、炭化物・KP粒子微量 | 3 じい黄褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量 |
| 2 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量 | |

覆土 6層に分層できる。各層にロームや焼土のブロックが含まれていることから埋め戻されている。

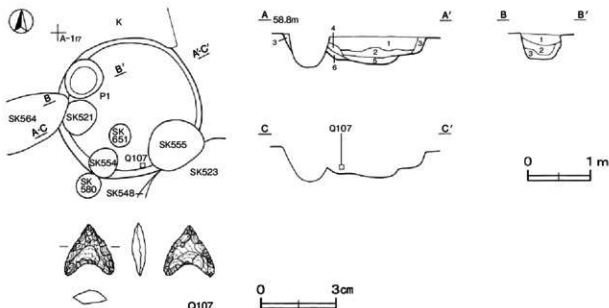
土層解説

- | | |
|-------------------------------------|-----------------------------------|
| 1 じい黄褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子・KP粒子微量 | 4 褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・KPブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック・KPブロック微量 | 5 灰黄褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子・KP粒子微量 |
| 3 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・KP粒子微量 | 6 灰黄褐色 ローム粒子少量 |

遺物出土状況 縄文土器片75点、石器1点(石鏃)が出土している。土器片は細片のため図化できなかった。

Q107は南壁際の覆土下層から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から中期末葉から後期初頭と考えられる。



第84図 第522号土坑・出土遺物実測図

第522号土坑出土遺物観察表(第84図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q107	石鏃	2.1	2.1	0.5	1.50	チャート	両面押圧両端 凹基無茎鏃	下層	PL44

第523号土坑(第85図)

位置 調査区中央部のA-117区、標高58.6mの平坦な段丘面に位置している。

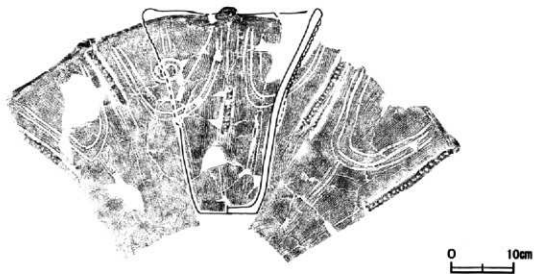
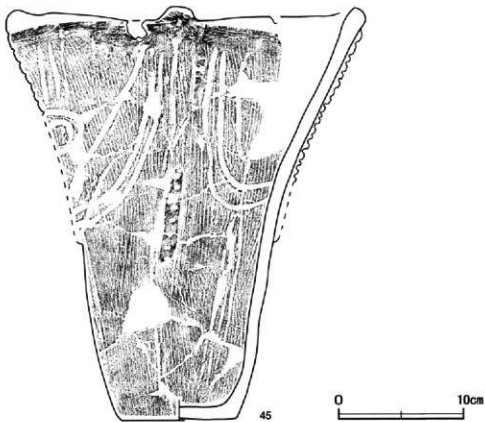
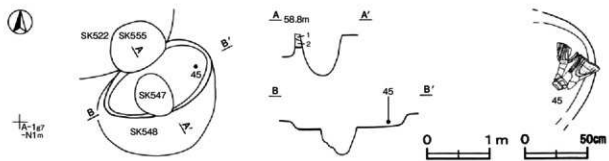
重複関係 第548号土坑を掘り込み、第522・547・555号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径は1.83mで、短径は1.02mと推測できる。平面形は楕円形で、長径方向はN-65°-Eである。深さは20cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。ロームや焼土のブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 2 じい黄褐色 焼土ブロック中量、KPブロック微量 |
|--------------------------|---------------------------|



第85图 第523号土坑·出土遗物实测图

遺物出土状況 縄文土器片 75 点が出土している。45 は東部の底面から、横位の状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉に比定できる。

第523号土坑出土遺物観察表 (第85図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
45	縄文土器	深鉢	27.0	32.7	9.3	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	良好	腰衝状工具による条綫→円形刺突をもつ隆帯貼付→沈線	底面	90% PL29

第 539 号土坑 (第 86 図)

位置 調査区中央部の A-15 区、標高 58.6 m の平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第 15 号住居跡、第 537・551・552 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 北側が調査区域外へ延びているため、開口部は東西径 2.38m、南北径 1.55m しか確認できなかった。平面形は円形または楕円形と推測できる。底面はほぼ平坦で、東西径 1.32m、南北径 1.03m しか確認できなかった。平面形は円形または楕円形と推測できる。深さは 85cm で、壁は底面から内傾し、くびれ部から緩やかに傾斜して立ち上がっている。底面からくびれ部までの高さは 39～43cm である。

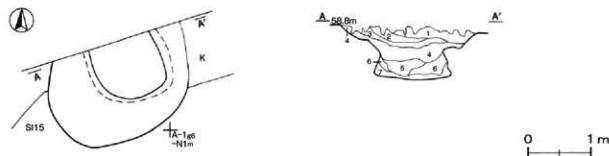
覆土 7 層に分層できる。第 1～4 層は周囲から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。第 5～7 層はロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------|----------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 灰黄褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 6 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量、KP ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 7 褐灰色 | ロームブロック少量 |
| 4 灰黄褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 33 点が出土している。土器片は細片のため図化できなかった。

所見 円筒状土坑である。時期は、中期末葉の第 15 号住居跡を掘り込んでおり、後期初頭の第 446・541 号土坑と形状が類似していることから後期初頭と考えられる。



第86図 第539号土坑実測図

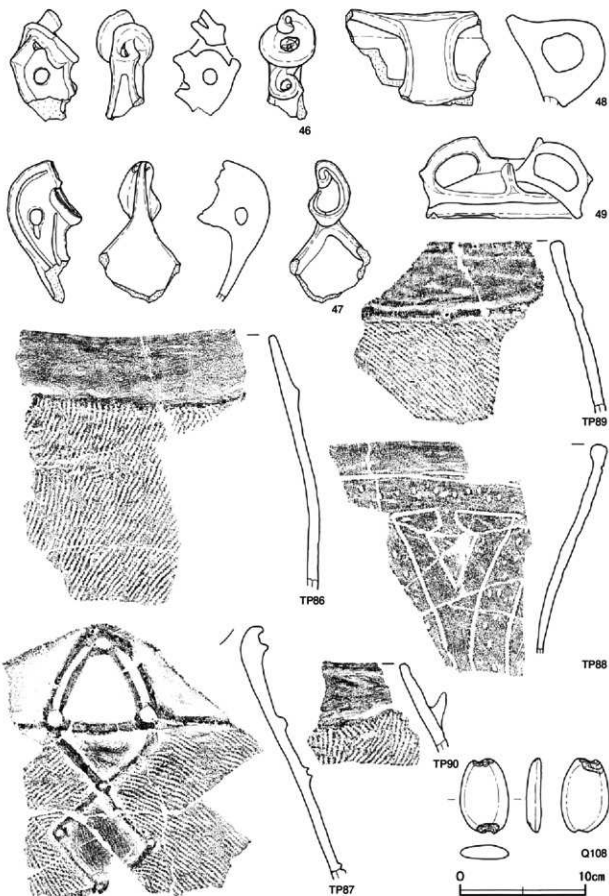
第 541 号土坑 (第 87・88 図)

位置 調査区中央部の A-16 区、標高 58.5m の平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第 15 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.19m、短径 1.08m の楕円形で、長径方向は N-13°-E である。深さは 52cm で、底面はほぼ平坦であり、壁は内傾して立ち上がっている。

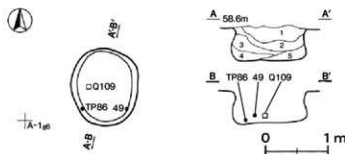
覆土 5 層に分層できる。ロームブロックや炭化物が多く含まれていることから埋め戻されている。



第87图 第541号土坑出土文物实测图

土層解説

- 1 紺 褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子・KP粒子微量
 2 黒 褐色 炭化物少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
 3 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子微量
 4 黒 色 炭化物中量、焼土ブロック少量、ロームブロック微量
 5 灰黄褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物粒子微量



第88図 第541号土坑実測図

遺物出土状況 縄文土器片 779点、石器6点(磨石3、石錘1、凹石1、石皿1)が出土している。49は南東壁際、TP86は南西壁際、Q109は西部、47・48・TP89・TP90・Q110～Q112は覆土下層、46・TP87・TP88・Q108は覆土上層、Q113は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 円筒状土坑である。時期は、出土土器から後期初頭に比定できる。

第541号土坑出土遺物観察表 (第87図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
46	縄文土器	深鉢	-	(87)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	捻転状把手 孔3か所	上層	5%
47	縄文土器	深鉢	-	(112)	-	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	把手部沈陥 刺突1か所 孔1か所	下層	5%
48	縄文土器	深鉢	-	(76)	-	長石・石英・針状鉱物	橙	良好	楕状把手	下層	5%
49	縄文土器	蓋	122	64	-	長石・石英・黒色粒子	黄橙	普通	楕状把手	下層	90% PL31

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP86	縄文土器	深鉢	石英・雲母	にぶい橙	普通	縄文RL縦位回転施文→隈隆起線貼付→磨消	下層	
TP87	縄文土器	深鉢	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	縄文LR縦位回転施文→隈帯貼付→凹形高文	上層	PL31
TP88	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	沈陥→磨消→刺突文	上層	PL31
TP89	縄文土器	深鉢	石英・雲母	浅黄橙	普通	縄文LR縦位回転施文→隈隆起線貼付→磨消	下層	
TP90	縄文土器	深鉢	石英・雲母	にぶい橙	普通	縄文RL縦位回転施文→舌状突起貼付→磨消	下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q110	磨石	(107)	(83)	4.9	(571)	砂岩	全面磨痕 敲打痕2か所 被熱痕 煤付着	下層	
Q111	磨石	9.6	8.7	4.5	528	砂岩	全面磨痕	下層	
Q112	磨石	(61)	(54)	3.6	(164.6)	石英炭岩	周縁部欠損 全面磨痕 被熱痕 煤付着	下層	
Q108	石錘	5.9	3.8	1.1	39.8	緑色片岩	扁平な礫の両端部を打ち欠き	上層	PL46
Q113	凹石	26.5	24.4	7.6	697.0	千枚岩	凹面表6.表4か所 被熱痕	覆土中	
Q109	石皿	(21.6)	(16.2)	(7.4)	(197.0)	安山岩	平坦な礫面を使用	下層	PL47

第553号土坑 (第89図)

位置 調査区中央部東寄りのA1d2区、標高58.8mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第883号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 北側が調査区域外へ延びているため、東西径3.28m、南北径1.22mしか確認できなかった。平面形は円形または楕円形と推測できる。深さは74cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

ピット 6か所。P1～P6は深さ17～27cmで、性格は不明である。

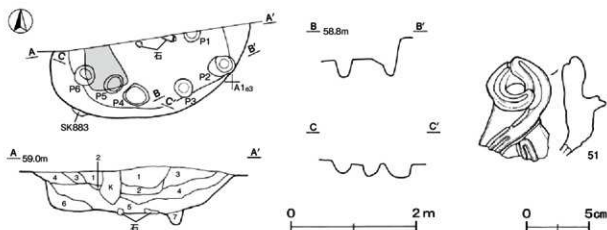
覆土 7層に分層できる。塊状の焼土ブロックや大礫が多量に含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子中量、炭化物微量 |
| 2 黒褐色 炭化物少量、ローム粒子微量 | 6 黒褐色 炭化物少量、ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 大礫多量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量 | |

遺物出土状況 縄文土器片34点、石器2点（棒状凹石）が出土している。51・Q114・Q115は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期初頭に比定できる。



第89図 第553号土坑・出土遺物実測図

第553号土坑出土遺物観察表（第89図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
51	縄文土器	深鉢	-	(8.3)	-	長石・石英・雲母	にじみ潰粒	良好	把手貼付→沈線	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q114	棒状凹石	18.6	5.1	2.4	514	緑色片岩	凹痕表2、裏1か所 側面磨痕1か所 被熱痕	覆土中	
Q115	棒状凹石	16.4	4.2	2.6	293	緑色片岩	凹痕表2、裏1か所	覆土中	

第562号土坑（第90・91図）

位置 調査区中央部東寄りのA1d5区、標高58.5mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第28号住居跡、第669・671号土坑を掘り込み、第756号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北側が調査区域外へ延びており、第756号土坑に掘り込まれているため、東西径2.08m、南北径1.40mしか確認できなかった。平面形は円形または楕円形と推測できる。深さは45cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は直立している。

覆土 9層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

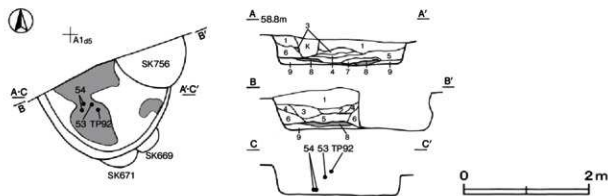
- | | |
|-------------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック微量 | 6 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 7 黒褐色 炭化物・ローム粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 3 灰黄褐色 ロームブロック中量 | 8 黒褐色 炭化材（カルク）多量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 9 暗褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック中量 | |



第90图 第562号土坑出土遗物实测图

遺物出土状況 縄文土器片 248 点, 石器 1 点 (石錘) が出土している。54 は西部の覆土下層, 53・TP92 は西部の覆土上層, 52・TP91・TP93・TP94・Q 116 は覆土中からそれぞれ出土している。また, 炭化したクルミが第 8 層から多量に出土している。

所見 時期は, 出土土器から後期初頭に比定できる。



第91図 第562号土坑実測図

第562号土坑出土遺物観察表 (第90図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
52	縄文土器	深鉢	[32.2]	(18.8)	-	長石・石英・雲母・針状炭物	にぶい濁	普通	無胎縄文し線位, 一部横位回転施文→沈線	覆土中	10% PL31
53	縄文土器	深鉢	[27.8]	(14.9)	-	長石・石英・雲母・針状炭物	橙	普通	縄文 RL 横位, 一部縦位回転施文→沈線	上層	5% PL31
54	縄文土器	深鉢	-	(13.0)	7.0	長石・石英	にぶい濁	普通	縄文 RL 縦位回転施文→沈線→磨消 底部磨き	下層	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP91	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	円形刺突文をもつ隆帯貼付→格子状沈線	覆土中	PL31
TP92	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	濁	普通	縄文 RL 光填→沈線→磨消 口縁部円形刺突文	上層	PL31
TP93	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい濁	普通	把手貼付	覆土中	PL31
TP94	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	縄文 RL 光填→沈線→磨消	覆土中	PL31

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q 116	石錘	7.5	4.1	0.8	41.2	緑色片岩	扁平な縁の両端部を打ち欠き	覆土中	PL46

第 563 号土坑 (第 92 図)

位置 調査区中央部の A-1 Ⅷ区, 標高 58.6m の平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第 15 号住居跡を掘り込み, 第 17 号住居に掘り込まれている。

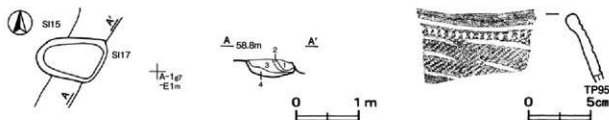
規模と形状 南北径は 0.71m で, 東側が第 17 号住居に掘り込まれているため, 東西径は 1.08m しか確認できなかった。平面形は楕円形と推測でき, 長径方向は N-83°-W である。深さは 28cm で, 底面は皿状であり, 壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 4 層に分層できる。各層にローム粒子や炭化物が含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒 褐色 | ローム粒子少量, 炭化物・大粒径炭 | 3 黒 褐色 | ローム粒子・黄土粒子少量, 炭化物・大粒径炭 |
| 2 暗 褐色 | 炭化物・ローム粒子少量, 黄土粒子・KP 粒子微量 | 4 暗 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 黄土粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片24点、石器1点(棒状凹石)が出土している。TP95・Q 117は覆土中から出土している。
所見 時期は、出土土器や重複関係から後期中葉と考えられる。



第92図 第563号土坑・出土遺物実測図

第563号土坑出土遺物観察表 (第92図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考	
TP95	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	縄文LR横位回転施文→沈線→刺突文	覆土中		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q 117	棒状凹石	18.1	5.4	2.9	374	緑色片岩	凹痕表1, 裏2か所	覆土中	

第602号土坑 (第93図)

位置 調査区中央部東寄りのA-1e0区、標高58.6mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第20号住居跡、第603号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.57m、短径1.40mの楕円形で、長径方向はN-61°-Eである。深さは25cmで、底面はほぼ平坦で、中央部北側が深さ14cmの不定形にくぼんでいる。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 7層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

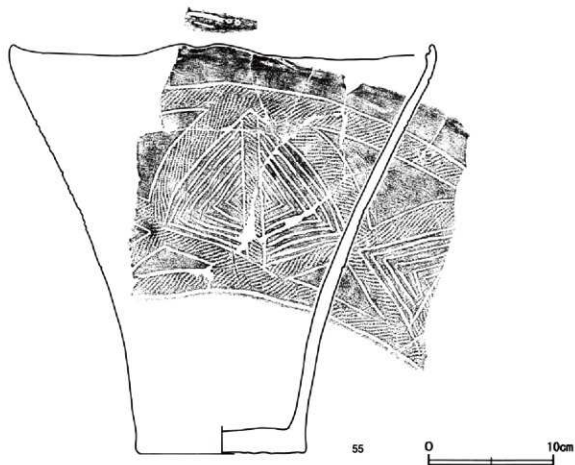
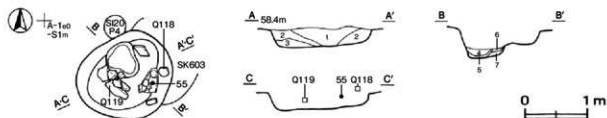
- | | |
|------------------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 区礫中量、ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量 | 5 黒灰色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 6 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子微量 | 7 黒褐色 ロームブロック多量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 縄文土器片37点、石器2点(凹石)が出土している。55・Q 118は東壁際、Q 119は中央部の覆土上層からそれぞれ出土しており、55は横位の状態です出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉に比定できる。

第602号土坑出土遺物観察表 (第93図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
55	縄文土器	深鉢	[33.4]	32.5	13.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	縄文LR光焼→沈線→磨消	上層	50% PL33
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考		
Q 118	凹石	(14.3)	(18.6)	(11.1)	(3080)	緑色片岩	凹痕5か所	上層			
Q 119	凹石	33.0	(19.9)	(13.7)	10000	緑色片岩	凹痕12か所 被熱痕	上層			



第93図 第602号土坑・出土遺物実測図

第613号土坑 (第94図)

位置 調査区中央部東寄りのA-1e0区、標高58.6mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第20号住居跡、第900号土坑を掘り込み、第837号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.01m、短径0.88mの不整楕円形で、長径方向はN-68°-Eである。深さは63cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は直立している。

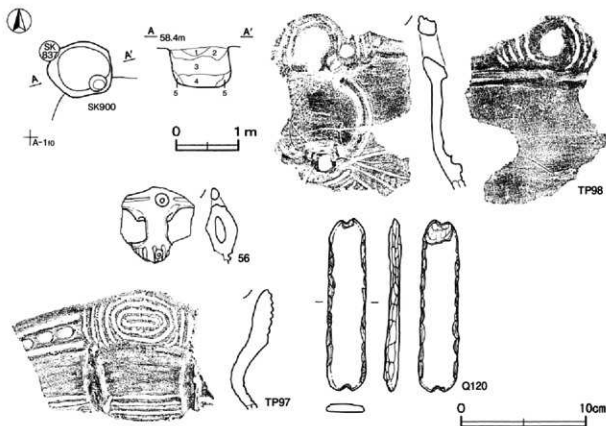
覆土 5層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|----------------|
| 1 褐色 | ロームブロック多量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片82点、石器1点(石錘)が出土している。56・TP97・TP98・Q120は覆土中から出土している。

所見 円筒状土坑である。時期は、出土土器から後期前業に比定できる。



第94図 第613号土坑・出土遺物実測図

第613号土坑出土遺物観察表 (第94図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
56	縄文土器	深鉢	-	(5.9)	-	長石・針状鉱物	橙	普通	把手貼付→沈線→円形刺突文	覆土中	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP97	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	橙	良好	隆帯貼付→集合沈線→沈線間円形刺突文	覆土中	
TP98	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	普通	縄文LR充墳→隆帯貼付→集合沈線→円形刺突文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q120	石鉢	137	32	1.3	59.7	千枚岩	扁平な縁の両端部及び側面を打ち欠き	覆土中	PL46

第614号土坑 (第95図)

位置 調査区中央部東寄りのA-1e0区、標高58.6mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第615・900号土坑を掘り込み、第20号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.78m、短径0.52mの楕円形で、長径方向はN-78°-Eである。深さは16cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

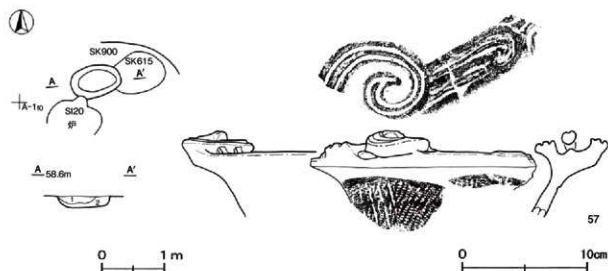
土層解説

1 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

2 暗 褐色 ロームブロック・KPブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片 67 点が出土している。57 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉に比定できる。



第95図 第614号土坑・出土遺物実測図

第 614 号土坑出土遺物観察表 (第 95 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
57	縄文土器	深鉢	[17.0]	(6.8)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	縄文1R横位回転施文→渦巻状珠帯貼付→北縁	覆土中	5%

第 631 号土坑 (第 96 図)

位置 調査区中央部東寄りの A 1 e 1 区、標高 58.6m の平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第 904・905 号土坑を掘り込み、第 299・300・629・850・906 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東西径は 1.87m で、北側が調査区域外へ延びているため、南北径は 1.49m しか確認できなかった。

平面形は円形と推測できる。深さは 17cm で、底面はわずかに凹凸があり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

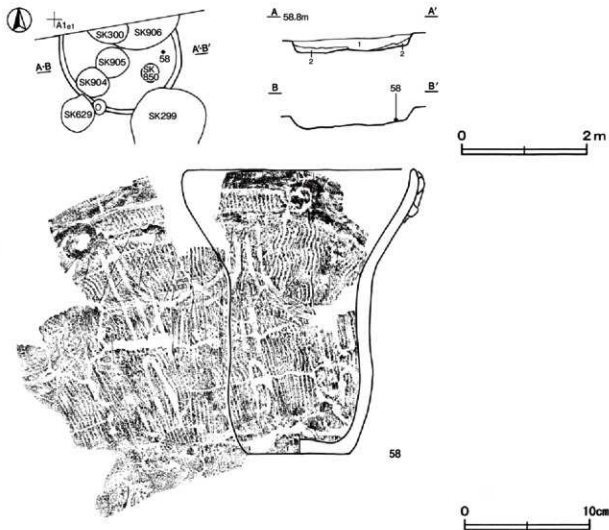
2 暗 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片 40 点が出土している。58 は東部の底面から横位の状態出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉に比定できる。

第631号土坑出土遺物観察表 (第96図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
58	縄文土器	深鉢	[17.8]	22.4	7.9	長石・石英・雲母	褐色	普通	陸帯貼付→5本1単位の櫛歯状工具による条綫	底面	65% PL29



第96図 第631号土坑・出土遺物実測図

第 648 号土坑 (第 97 図)

位置 調査区中央部東寄りのA 1e4区、標高58.6mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第26・27号住居跡、第647号土坑を掘り込んでいる。第29号住居と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 長径0.40m、短径0.30mの楕円形で、長径方向はN-55°-Eである。深さは72cmで、底面は凹凸があり、壁は直立している。

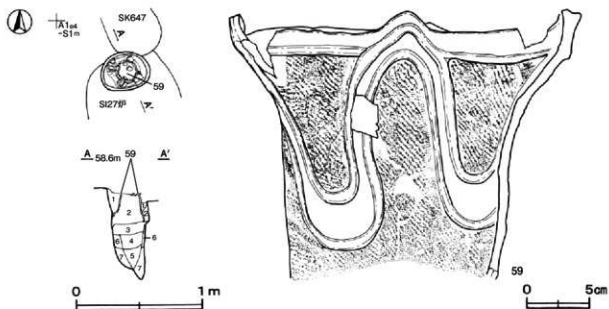
覆土 7層に分層できる。第1～5層は柱抜き取り痕の覆土、第6・7層は埋土である。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量 | 5 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 2 におい黄褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量、灰少量 | 6 灰黄褐色 ローム粒子中量 |
| 3 におい黄褐色 ロームブロック中量 | 7 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | |

遺物出土状況 縄文土器片17点が出土している。59は覆土上層から逆位の状態出土している。

所見 柱穴である。時期は、出土土器から中期末葉に比定できる。出土土器が第29号住居と同時期であることから、同住居の主柱穴の可能性はあるが、他の対応する主柱穴は、明確でない。



第97図 第648号土坑・出土遺物実測図

第648号土坑出土遺物観察表 (第97図)

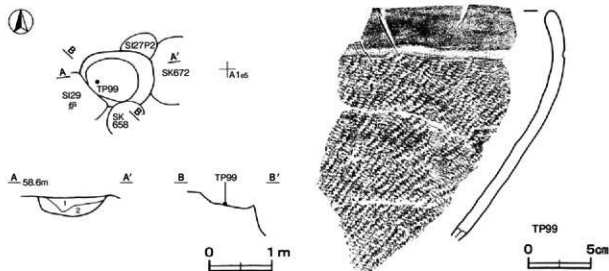
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
59	縄文土器	深鉢	26.4	(21.3)	-	長石・石英・ 針状鉱物	灰褐色	普通	縄文1期 縦位回転施文→微隆起縞 貼付→磨削	上層	50% PL.30

第657号土坑 (第98図)

位置 調査区中央部東寄りのA1e4区、標高58.6mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第26・27号住居跡、第672号土坑を掘り込み、第29号住居、第658号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 短径は0.88mで、西側が第29号住居の炉に掘り込まれているため、長径は1.18mしか確認できなかった。平面形は楕円形で、長径方向はN-36°-Wである。深さは26cmで、底面は皿状であり、壁は緩や



第98図 第657号土坑・出土遺物実測図

かに傾斜して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

2 黒褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片4点が出土している。TP99は南西壁際の底面から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期末葉に比定できる。

第657号土坑出土遺物観察表 (第98図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP99	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	にぶい橙	普通	縄文LR縦位回転施文→沈線	底面	

第683号土坑 (第99・100図)

位置 調査区中央部東寄りのA1d3区、標高58.7mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第505・914号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.72m、短径0.63mの楕円形で、長径方向はN-14°-Eである。深さは12cmで、底面は皿状であり、壁は外傾して立ち上がっている。

ピット 深さ34cmで、性格は不明である。

覆土 単一層である。堆積状況は層厚が薄いため不鮮明である。第2・3層はP1の覆土である。

土層解説

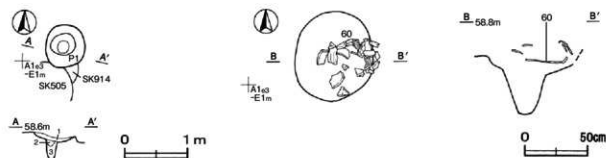
1 黒褐色 ローム粒子微量

3 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

2 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片50点、石器1点(磨石)が出土している。60は覆土上層から横位の状態、Q121は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から後期初頭に比定できる。

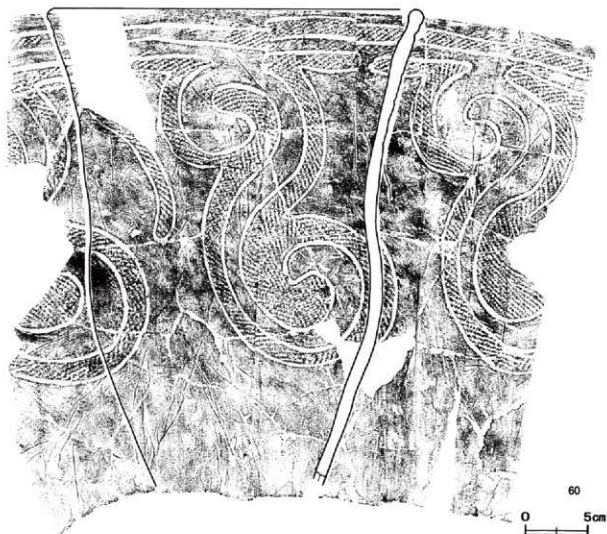


第99図 第683号土坑実測図

第683号土坑出土遺物観察表 (第100図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
60	縄文土器	深鉢	28.5	(37.9)	-	長石・針状鉱物	にぶい橙	普通	縄文LR充填→沈線→磨消	上層	60% PL31

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q121	磨石	(11.3)	7.6	4.5	(498)	砂岩	全面磨面 端部缺打痕 凹痕裏2か所	覆土中	PL47



第100図 第683号土坑出土遺物実測図

第700号土坑 (第101図)

位置 調査区中央部東寄りのA-19区、標高58.4mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第315・325号土坑に掘り込まれている。

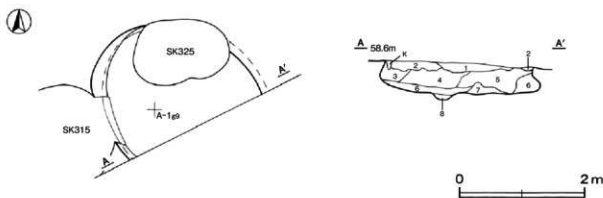
規模と形状 南側が調査区域外へ延びているため、開口部は東西径が2.30mで、南北径は1.78mしか確認できなかった。平面形は円形または楕円形と推測できる。底面はほぼ平坦で、東西径は2.48mで、南北径は1.75mしか確認できなかった。平面形は円形または楕円形と推測できる。深さは52cmで、壁は底面から内側へ立ち上がり、くびれ部に至っている。

覆土 8層に分層できる。ロームブロックが多量に含まれており、不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|----------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | 5 灰黄褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 6 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 |
| 3 濃い黄褐色 ローム粒子多量、炭化物粒子少量 | 7 灰黄褐色 ロームブロック多量、炭化物粒子微量 |
| 4 暗褐色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量 | 8 暗灰色 ロームブロック中量、炭化物微量 |

所見 プラスコ状土坑である。時期は、出土土器が無いため明確でないが、重複関係や遺構の形状から中期後葉と考えられる。



第101図 第700号土坑実測図

第710号土坑（第102～105図）

位置 調査区中央部西寄りのA-2j0区、標高58.4mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第11号住居、第98号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南北径は1.12mで、西側が第98号土坑に掘り込まれているため、東西径は0.72mしか確認できなかった。平面形は円形と推測できる。深さは38cmで、底面は皿状であり、壁は直立している。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 灰黄褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量
2 におい黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

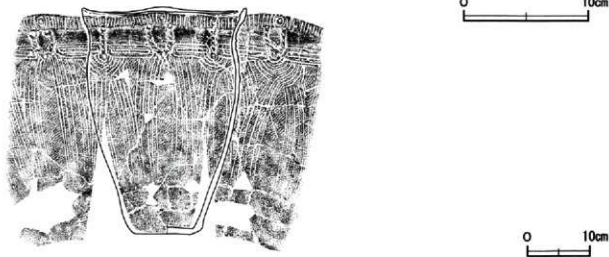
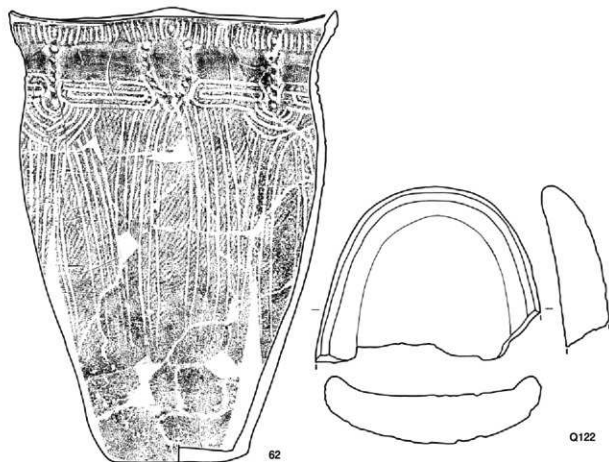
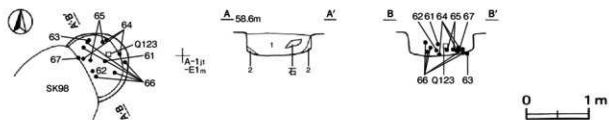
遺物出土状況 縄文土器片71点、石器2点（磨石、石皿）が出土している。61～67・Q122・Q123は覆土下層からまともに出て出土している。出土土器はいずれも破片の状態で散在しており、一括して投棄されたかと推測できる。

所見 円筒状土坑である。時期は、出土土器から後期前葉に比定できる。

第710号土坑出土遺物観察表（第102～105図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
61	縄文土器	深鉢	[34.0]	(48.5)	-	長石・石英	におい赤褐	普通	円形刺突文をもつ隆帯貼付→集合沈線	下層	40% PL32
62	縄文土器	深鉢	25.7	35.9	11.0	石英・雲母	におい褐	普通	刷みをもつ隆帯貼付→集合沈線	下層	80% PL32
63	縄文土器	深鉢	14.1	(11.7)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	縄文LR縦位回転施文→沈線	下層	60% PL32
64	縄文土器	深鉢	36.2	51.2	[11.5]	長石・石英・黒色粒子・赤色粒子	におい橙	普通	3単位の波状口縁 縄文LR横位回転施文	下層	50% PL32
65	縄文土器	深鉢	[39.5]	(35.0)	-	長石・石英・黒色粒子・赤色粒子	浅黄橙	良好	3単位の波状口縁 無節縄文L横位回転施文	下層	50% PL32
66	縄文土器	深鉢	[30.6]	(31.9)	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	4単位の波状口縁 無節縄文L横位回転施文	下層	60% PL32
67	縄文土器	深鉢	[10.4]	(12.5)	-	長石・石英・赤色粒子	におい橙	普通	楕状把手貼付→縄文横位回転施文	下層	20% PL32

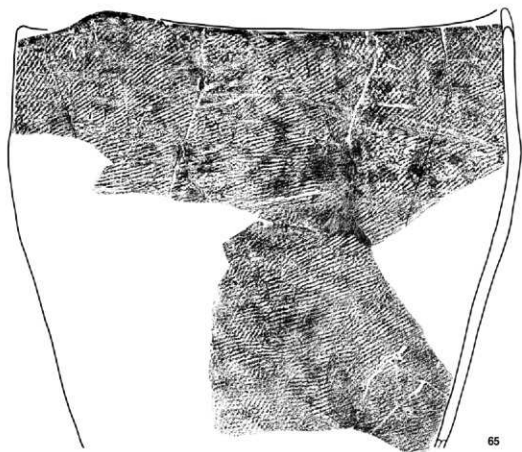
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q123	磨石	14.8	9.1	4.4	999	砂岩	全面磨痕 凹痕表2、裏2か所	下層	PL47
Q122	石皿	(14.0)	(17.9)	5.3	(1190)	安山岩	縦状の使用面	下層	PL47



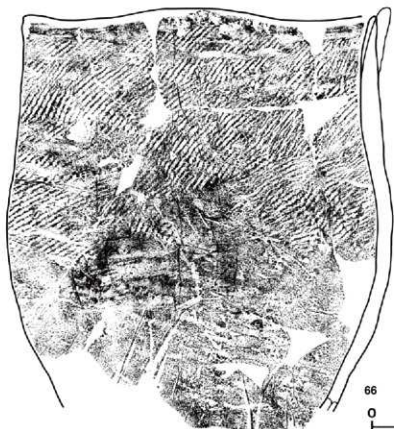
第102图 第710号土坑·出土遗物实测图



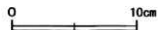
第103图 第710号土坑出土遗物实测图(1)



65



66



第104图 第710号土坑出土遗物实测图(2)



第105図 第710号土坑出土遺物実測図(3)

第712号土坑 (第106図)

位置 調査区中央部東寄りのA 1 e2区、標高58.4mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第765号土坑を掘り込み、第25号住居、第305・713号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南北径は1.05mで、西側が第713号土坑に掘り込まれているため、東西径は0.86mしか確認できなかった。平面形は円形と推測できる。深さは38cmで、底面は皿状であり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

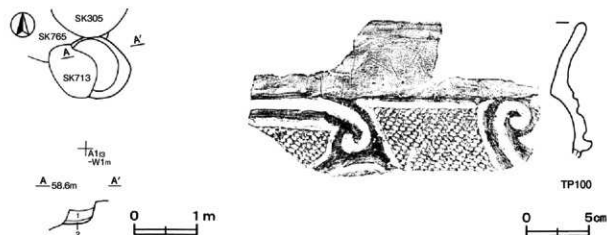
土層解説

1 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

2 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片 112 点が出土している。TP100 は覆土中から出土している。

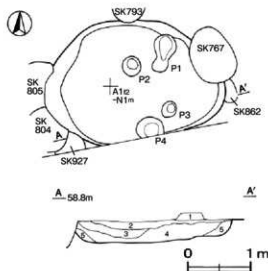
所見 時期は、出土土器から中期後葉に比定できる。



第106図 第712号土坑・出土物実測図

第712号土坑出土遺物観察表 (第106図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP100	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	縄文 R1. 縦位回転施文→陸帯貼付→陸帯輪沈線	覆土中	



第107図 第716号土坑実測図

土層解説

- | | |
|------------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 5 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 灰黄褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 縄文土器片 138 点が出土している。土器片は細片のため図化できなかった。

所見 フラスコ状土坑である。時期は、遺構の形状や重複関係から中期後葉と考えられる。

第716号土坑 (第107図)

位置 調査区中央部東寄りの A 1 e2 区、標高 58.6m の平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第738・739・862号土坑を掘り込み、第25号住居、第767・793・804・805・927号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東西径は2.65mで、南側が調査区域外へ延びているため、南北径は1.93mしか確認できなかった。平面形は楕円形で、長径方向はN-85°-Wである。深さは43cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は彎曲して立ち上がっている。

ピット 4か所。深さ16～43cmで、性格は不明である。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

第723号土坑（第108図）

位置 調査区中央部東寄りのA1d3区、標高58.6mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第26号住居跡を掘り込んでいる。また、第27・29号住居跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 長径0.82m、短径0.54mの楕円形で、長径方向はN-33°-Eである。深さは22cmで、底面は皿状であり、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

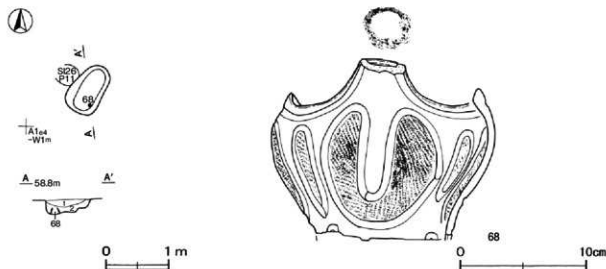
覆土 2層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 2 におい黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器1点が出土している。68は南壁際の底面から逆位の状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から中期末葉に比定できる。



第108図 第723号土坑・出土遺物実測図

第723号土坑出土遺物観察表（第108図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
68	縄文土器	深鉢	15.2	(14.4)	-	長石・石英	におい黄褐色	良好	縄文LR光沢→沈殿による区画文 →磨削 把手1か所	底面	50% PL.30

第756号土坑（第109図）

位置 調査区中央部東寄りのA1d5区、標高58.7mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第28号住居跡、第562号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 北側が調査区域外へ延びているため、東西径1.12m、南北径0.68mしか確認できなかった。平面形は円形と推測できる。深さは57cmで、底面はほぼ平坦であり、壁はわずかに内傾して立ち上がっている。

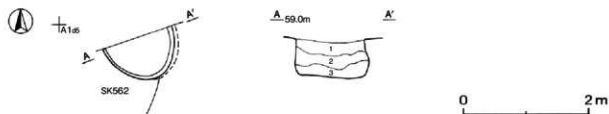
覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量 3 暗褐色色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
2 暗褐色色 ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片7点が出土している。土器片は細片のため図化できなかった。

所見 時期は、後期初頭の第562号土坑を掘り込んでいることや出土土器から後期前半と考えられる。



第109図 第756号土坑実測図

第758号土坑（第110図）

位置 調査区中央部東寄りのA1f1区、標高58.5mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第513・908・909号土坑を掘り込み、第20号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.50m、短径0.90mの楕円形で、長径方向はN-48°-Wである。深さは45cmで、底面は皿状であり、壁は直立している。

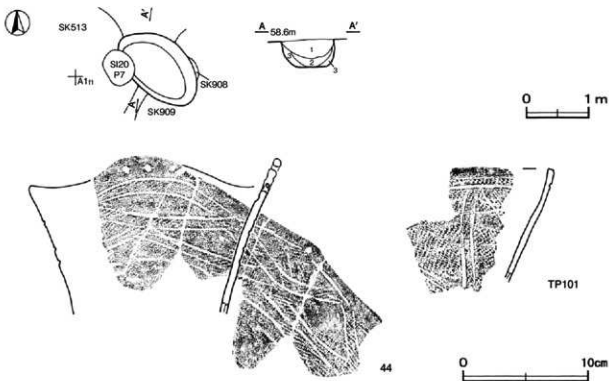
覆土 3層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、粘土粒子微量 3 灰黄褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片36点が出土している。44・TP101は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉に比定できる。



第110図 第758号土坑・出土遺物実測図

第758号土坑出土遺物観察表 (第110図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
44	縄文土器	深鉢	[19.6]	(122)	-	長石・石英・雲母・針状炭素物	にぶい褐	普通	縄文LR 光畑→沈線→磨消 口縁部穿孔	覆土中	20% PL33

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP101	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状炭素物	褐灰	普通	縄文LR 横位回転軸文→沈線	覆土中	

第769号土坑 (第111図)

位置 調査区中央部のA-1h5区、標高58.6mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第13A・B号住居、第201・429号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.13m、短径0.81mの楕円形で、長径方向はN-17°-Eである。深さは65cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

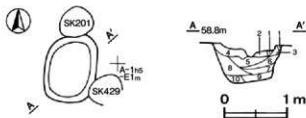
覆土 10層に分層できる。各層にロームや焼土のブロック、炭化物が含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------|--------|------------------------|
| 1 灰黄褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 6 黒褐色 | 炭化物少量、ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 7 黒褐色 | 炭化物・ローム粒子微量 |
| 3 ほぼ黄褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 |
| 5 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子少量、焼土ブロック微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 縄文土器片68点が出土している。土器片は細片のため図化できなかった。

所見 時期は、重複関係や出土土器から中期末葉と考えられる。



第111図 第769号土坑実測図

第781号土坑 (第112図)

位置 調査区中央部のA-1g5区、標高58.6mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第780号土坑を掘り込み、第12・13A・B号住居、第438号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.14m、短径0.95mの楕円形で、長径方向はN-10°-Wである。深さは47cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は直立している。

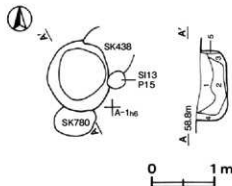
覆土 5層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|---------|----------------------|
| 1 ほぼ黄褐色 | ローム粒子中量、炭化物・KP粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量、炭化物粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 ほぼ黄褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 |

遺物出土状況 縄文土器片43点が出土している。土器片は細片のため図化できなかった。

所見 円筒状土坑である。時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。



第112図 第781号土坑実測図

第801号土坑（第113・114図）

位置 調査区中央部東寄りのA1d4区、標高58.6mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第26～29号住居跡、第737号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.04m、短径0.87mの楕円形で、長径方向はN-19°-Eである。深さは118cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は直立している。

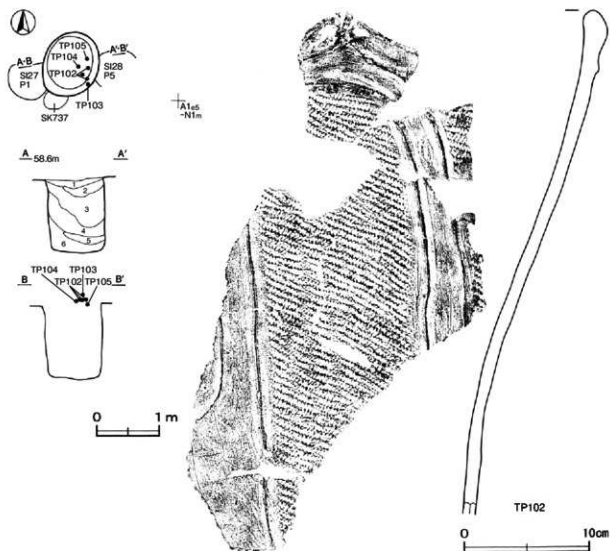
覆土 6層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

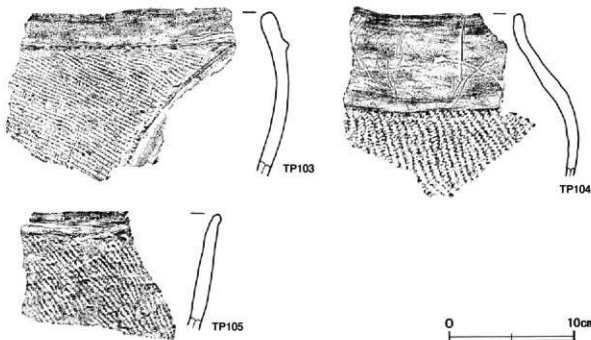
- | | |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 炭化物少量、焼土ブロック・ローム粒子微量 | 4 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 5 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量 |

遺物出土状況 縄文土器片98点が出土している。TP102～TP105は東側の覆土上層から出土している。

所見 円筒状土坑である。時期は、出土土器から中期末葉に比定できる。



第113図 第801号土坑・出土遺物実測図



第114図 第801号土坑出土遺物実測図

第801号土坑出土遺物観察表 (第113・114図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP102	縄文土器	深鉢	長石・石英・黒色粒子	にぶ黄褐色	良好	縄文LR縦位回転施文→微隆起線貼付→磨消	上層	PL30
TP103	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒褐色	普通	縄文RL横位回転施文→微隆起線貼付→磨消	上層	
TP104	縄文土器	深鉢	石英・雲母	にぶい濁	普通	縄文RL横位回転施文→微隆起線貼付→磨消	上層	
TP105	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい濁	普通	縄文LR縦位回転施文→口縁部磨消	上層	

第804号土坑 (第115図)

位置 調査区中央部東寄りのA1e1区、標高58.6mの平坦な段丘面に位置している。

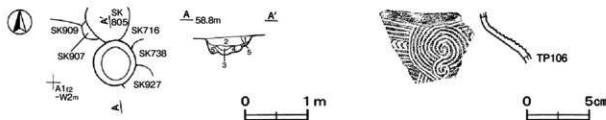
重複関係 第716・738・805・907・909・927号土坑を掘り込み、第25号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.72m、短径0.68mの円形である。深さは26cmで、底面は凹凸があり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 5層に分層できる。焼土ブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1 灰褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 4 赤褐色 焼土ブロック多量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 5 暗褐色 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | |



第115図 第804号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 16 点が出土している。TP106 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉に比定できる。

第804号土坑出土遺物観察表（第115図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP106	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	縄文LR縦位回転施文→集合沈線	覆土中	

第805号土坑（第116図）

位置 調査区中央部東寄りのA1e1区、標高58.6mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第716・907・909号土坑を掘り込み、第25号住居、第804号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.78m、短径0.70mの楕円形で、長径方向はN-40°-Wである。深さは16cmで、底面は皿状であり、壁は外傾して立ち上がっている。

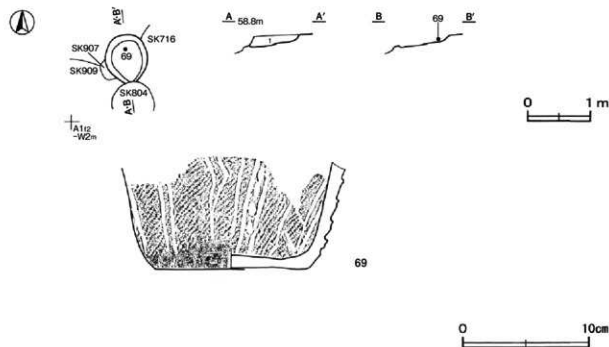
覆土 単一層である。ロームや焼土の粒子が多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 灰黄褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 2 点が出土している。69 は北壁際の底面から正位の状態出土している。

所見 時期は、出土土器から後期初頭に比定できる。



第116図 第805号土坑・出土遺物実測図

第805号土坑出土遺物観察表（第116図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
69	縄文土器	深鉢	-	(8.5)	12.1	長石・石英・黒色粒子	にん黄褐色	普通	縄文LR縦位回転施文→沈線→沈線回転施文	底面	20%

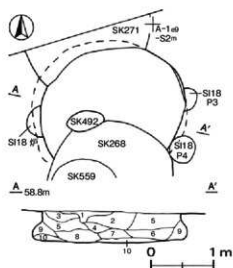
第 823 号土坑 (第 117 図)

位置 調査区中央部の A-1 e8 区、標高 58.5m の平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第 18 号住居、第 268・271・492・559 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北側が第 271 号土坑、南側が第 268 号土坑などに掘り込まれているため、開口部は東西径が 2.40m で、南北径は 1.94m しか確認できなかった。平面形は楕円形と推測でき、長径方向は $N-65^{\circ}-E$ である。底面はほぼ平坦であり、東西径は 2.50m で、南北径は 2.21m しか確認できなかった。平面形は楕円形と推測できる。深さは 50cm で、壁は底面から内彎して立ち上がり、くびれ部から直立している。底面からくびれ部までの高さは 32～34cm である。

覆土 10 層に分層できる。ローム粒子が多く含まれており、不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

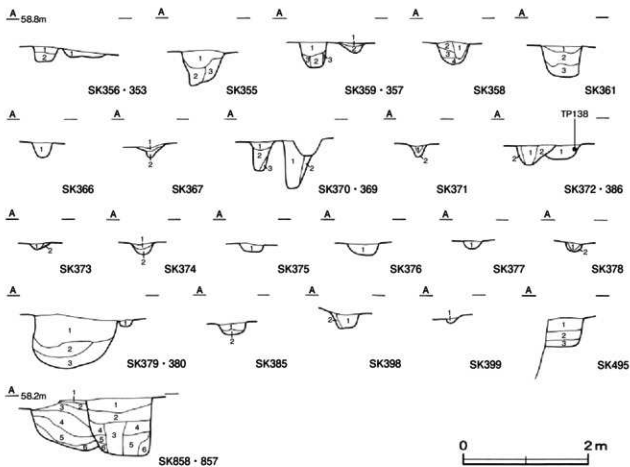
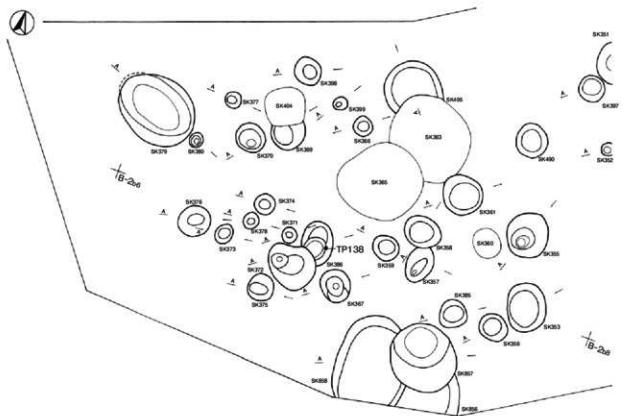


第117図 第823号土坑実測図

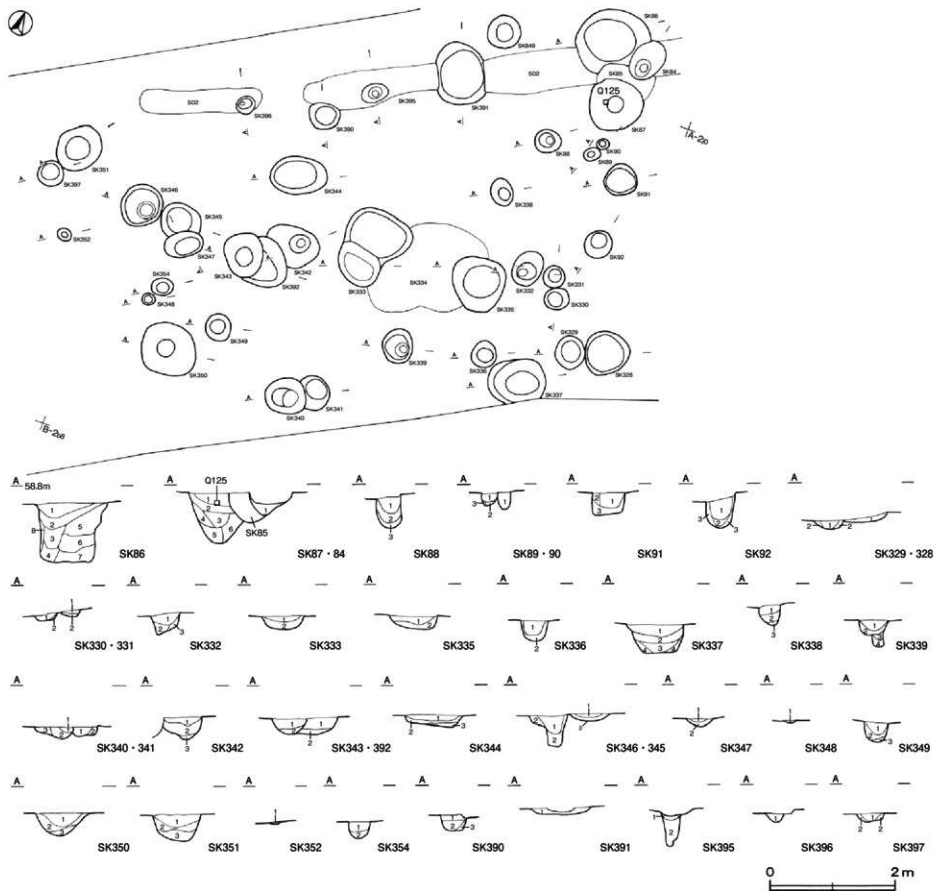
土層解説

- | | |
|-----------------------------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 6 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量 |
| 2 褐色 ローム粒子少量 | 7 濃い黄褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量 | 8 暗褐色 ロームブロック・KPブロック少量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子少量、KPブロック・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 KPブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 5 灰黄褐色 ローム粒子中量、KPブロック少量 | 10 褐色 ロームブロック多量 |

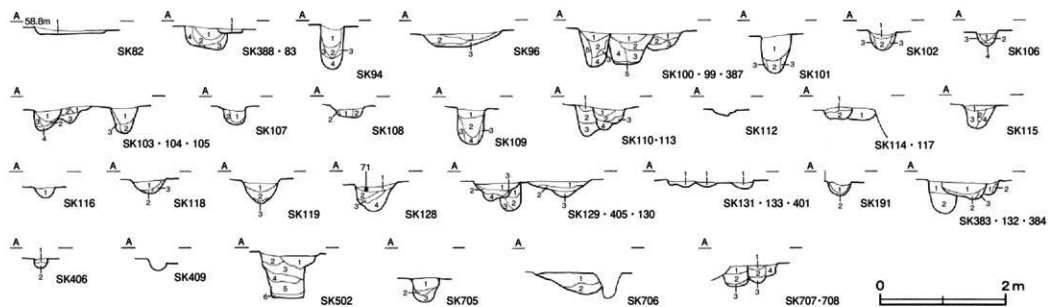
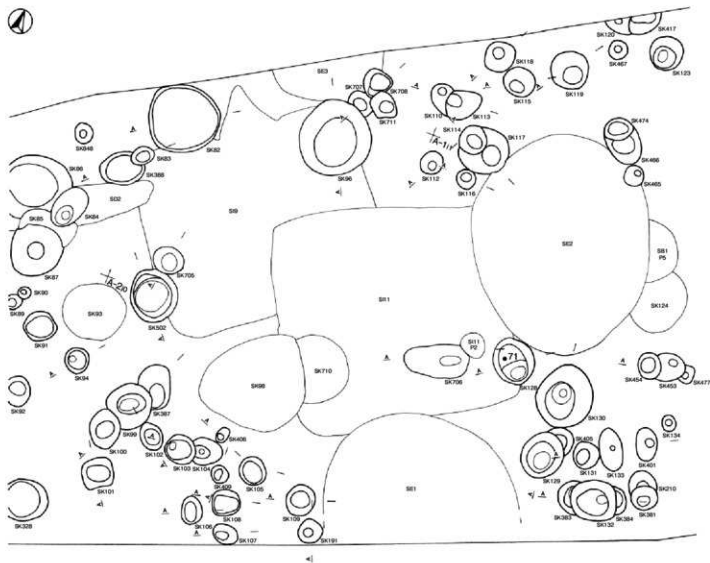
所見 フラスコ状土坑である。時期は、出土土器が無いため明確でないが、遺構の形状や重複関係から中期後葉と考えられる。



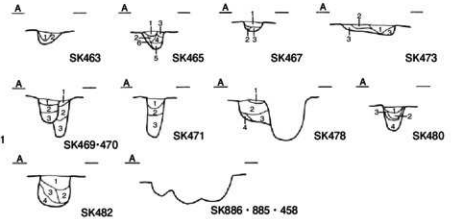
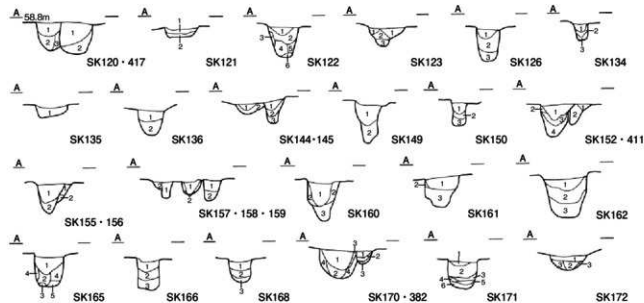
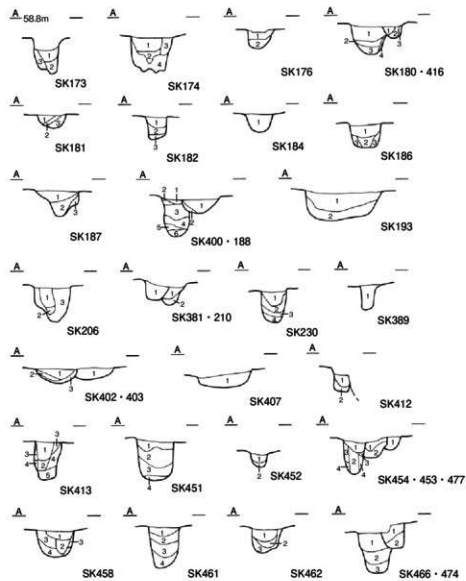
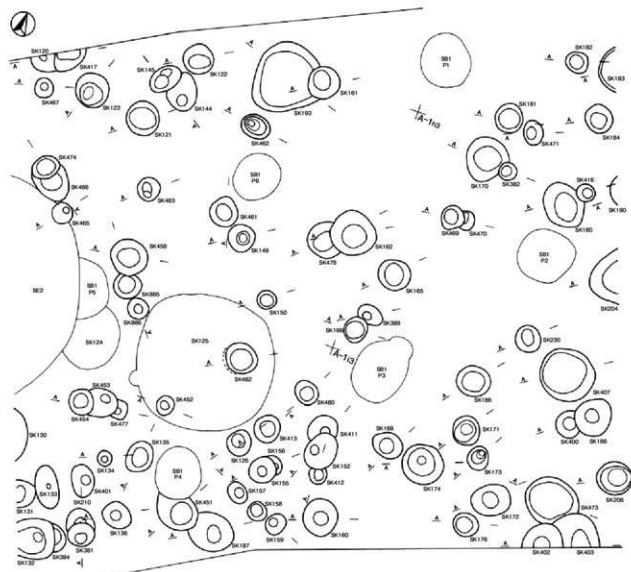
第118図 土坑実測図(1)



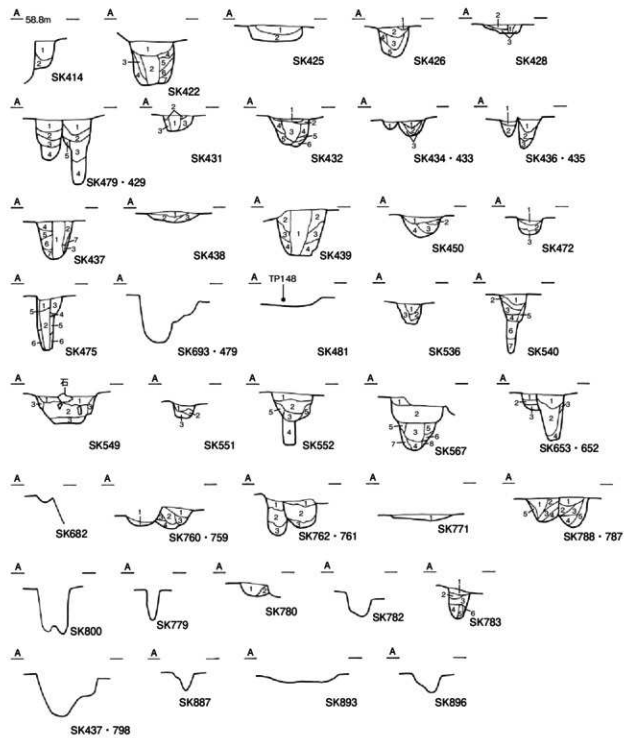
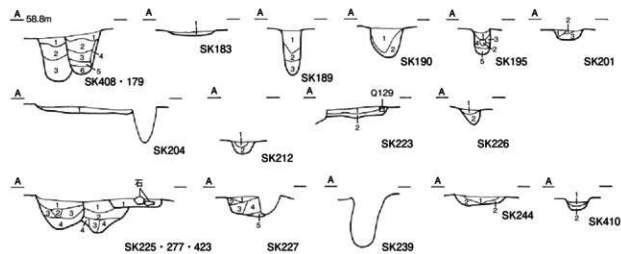
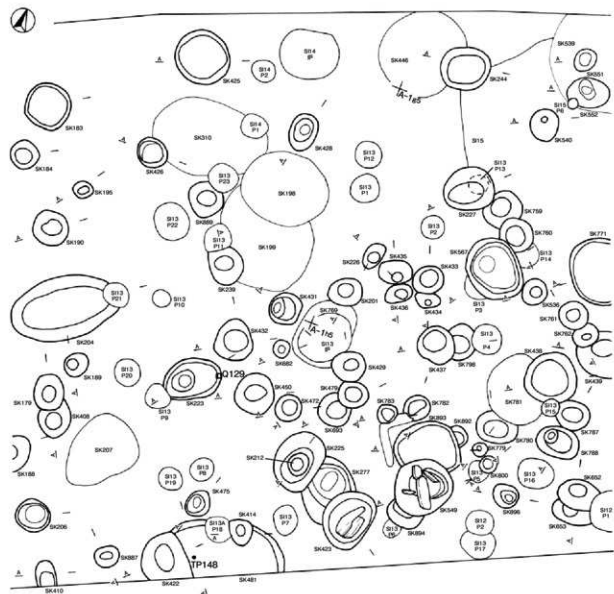
第119图 土坑夹测图(2)



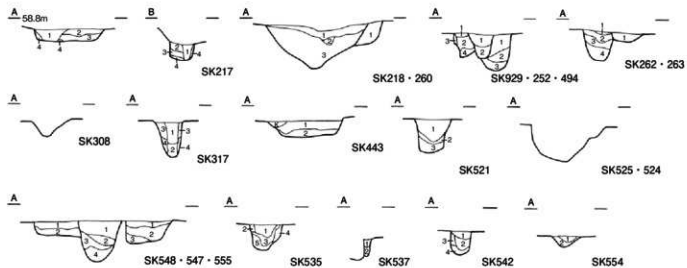
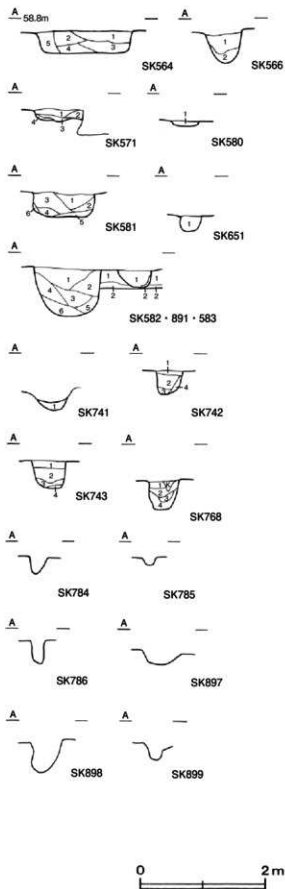
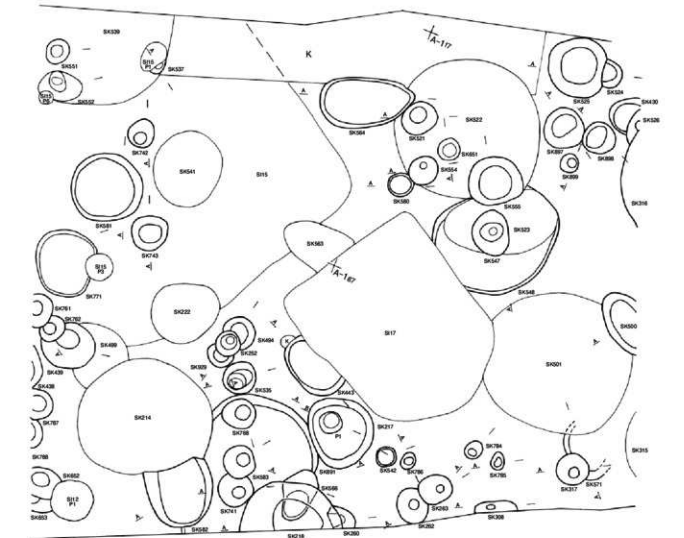
第120图 土坑夹测图(3)



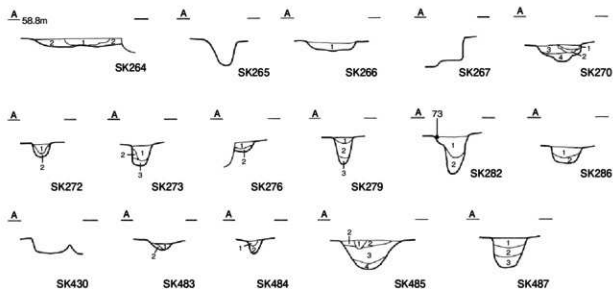
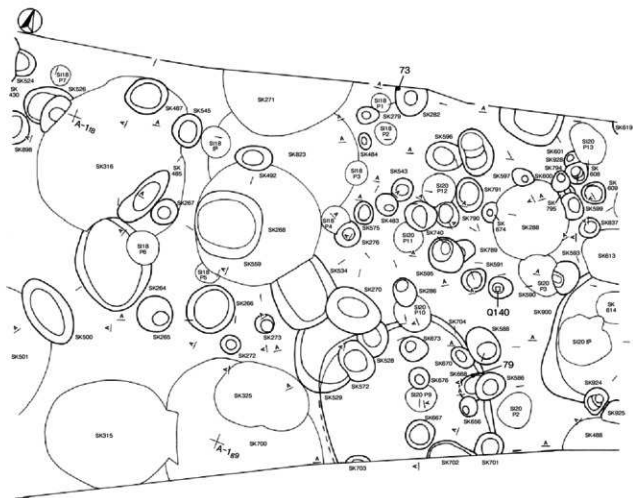
第121图 土坑实测图(4)



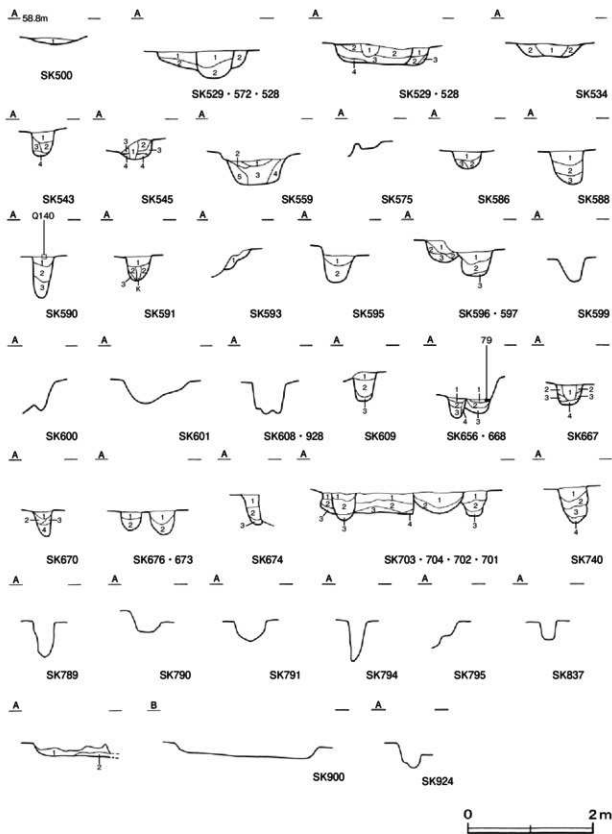
第122图 土坑实测图(5)



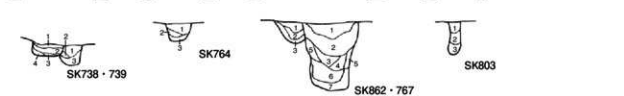
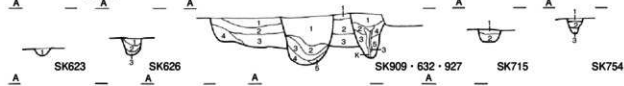
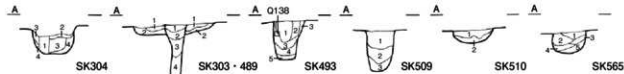
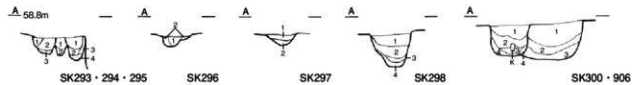
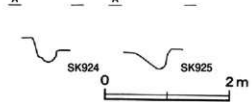
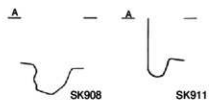
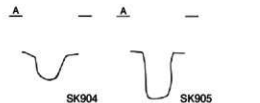
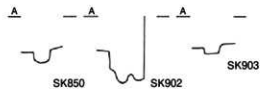
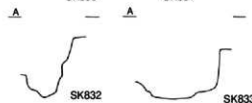
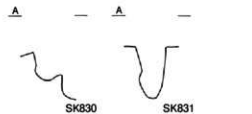
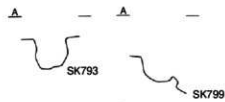
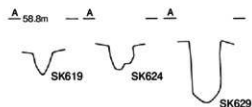
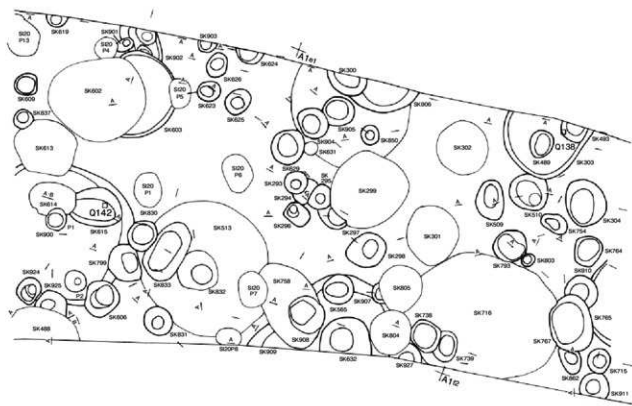
第123图 土坑夹测图(6)



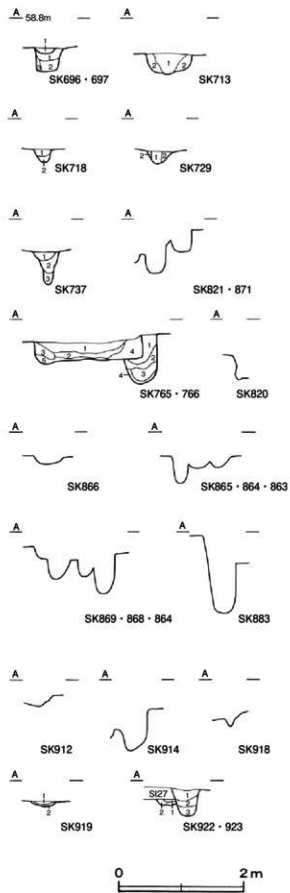
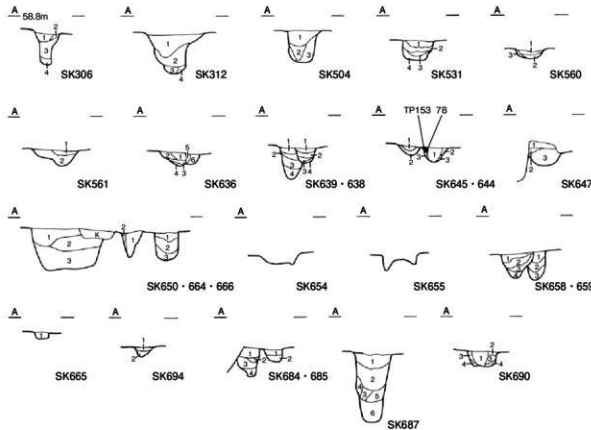
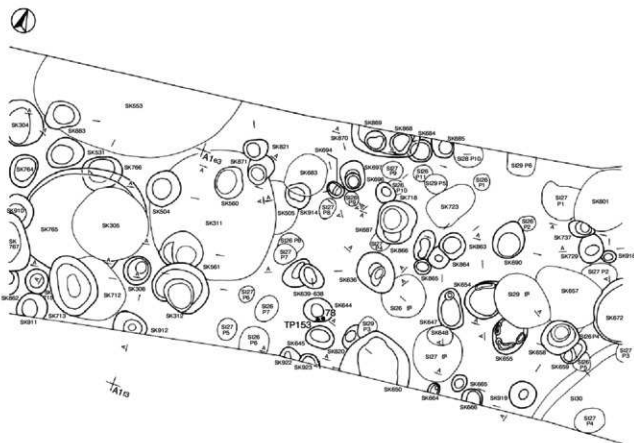
第124图 土坑实测图(7)



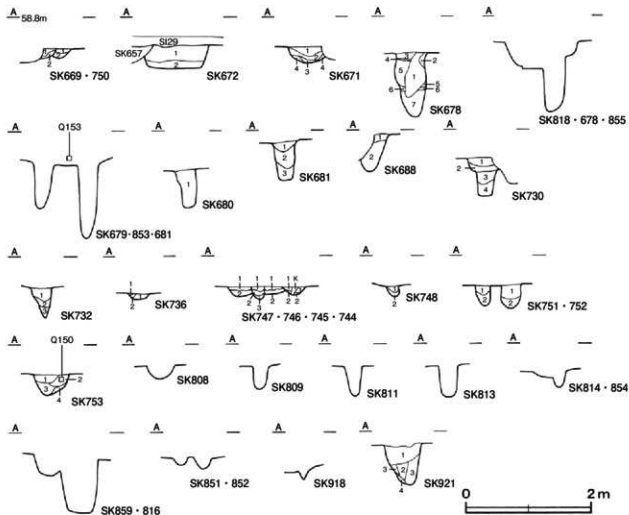
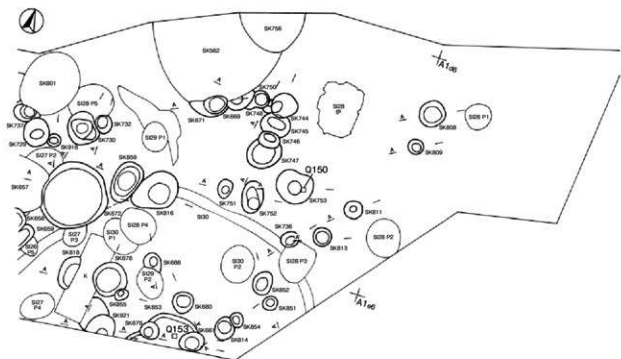
第125图 土坑实测图(8)



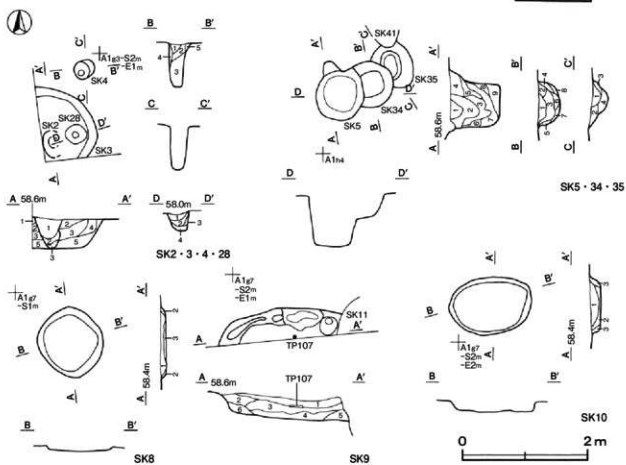
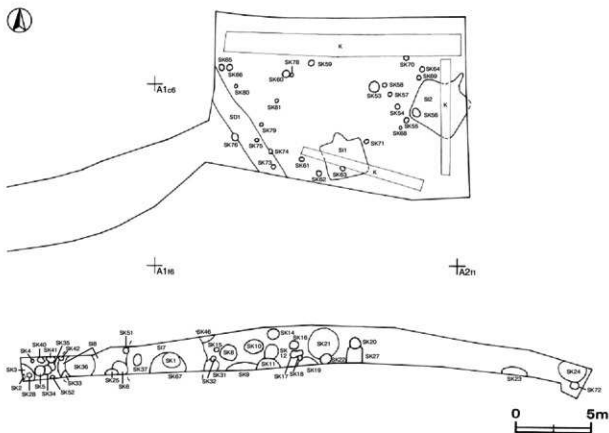
第126图 土坑实测图(9)



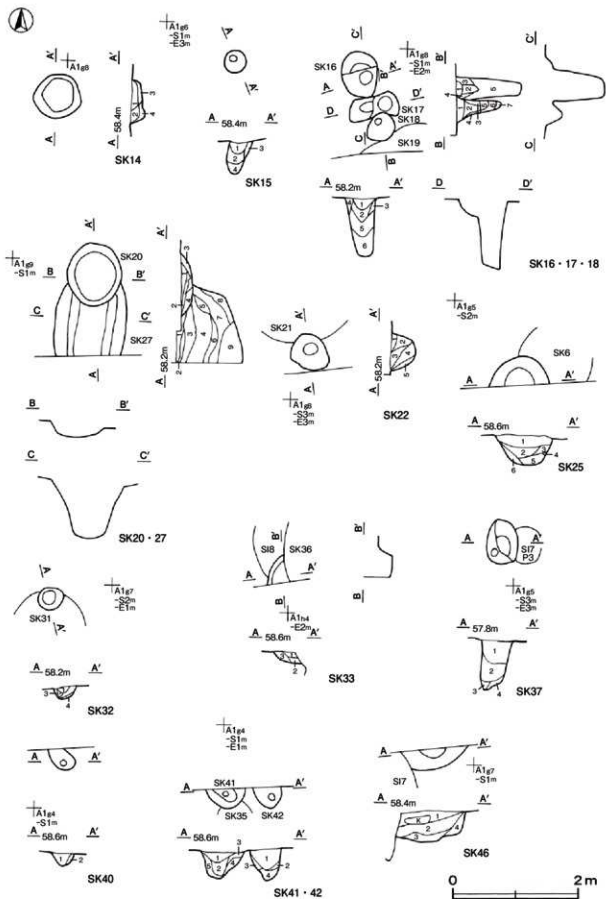
第127图 土坑实测图(3)



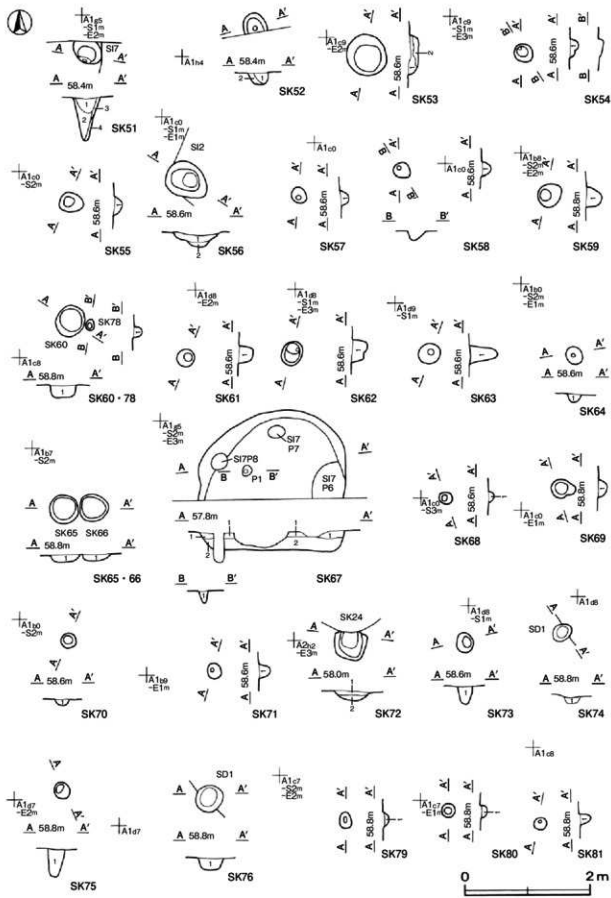
第128图 土坑实测图(1)



第129图 土坑实测图(2)



第130图 土坑实测图③



第131图 土坑实测图(4)

第2号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子微量

第3号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 暗 褐色 ローム粒子少量
- 5 黒 褐色 ロームブロック微量

第4号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子少量
- 4 暗 褐色 ロームブロック少量
- 5 暗 褐色 ローム粒子中量

第5号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック少量
- 4 じさい黄褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子中量
- 7 褐色 ローム粒子多量
- 8 じさい黄褐色 ロームブロック少量
- 9 じさい黄褐色 ロームブロック少量

第8号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量

第9号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・白色粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子・白色粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・白色粒子微量
- 4 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子・白色粒子微量
- 5 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・白色粒子微量
- 6 黒 褐色 ローム粒子・白色粒子微量

第10号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量

第14号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子少量
- 4 黒 褐色 ロームブロック少量

第15号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・白色粒子・七本椀粒石粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量、白色粒子・七本椀粒石粒子微量
- 3 黒 褐色 七本椀粒石粒子中量、ローム粒子少量
- 4 黒 褐色 ローム粒子微量

第16号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック微量
- 3 じさい黄褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
- 4 暗 褐色 ローム粒子中量
- 5 黒 褐色 ロームブロック少量
- 6 黒 褐色 ローム粒子微量

第17号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子少量
- 4 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 5 黒 褐色 ローム粒子微量

第18号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子少量
- 4 黒 褐色 ロームブロック少量
- 5 黒 褐色 ローム粒子少量
- 6 黒 褐色 ローム粒子微量
- 7 黒 褐色 ロームブロック微量

第20号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

第22号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック微量
- 4 黒 褐色 ローム粒子微量
- 5 黒 褐色 ロームブロック少量

第25号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 5 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 6 暗 褐色 ロームブロック少量

第27号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・白色粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子・白色粒子少量
- 3 黒 褐色 白色粒子少量、ローム粒子微量
- 4 黒 褐色 白色粒子少量、ロームブロック微量
- 5 黒 褐色 ローム粒子少量、白色粒子微量
- 6 黒 褐色 ローム粒子・白色粒子少量、焼土粒子微量
- 7 黒 褐色 ローム粒子中量、白色粒子少量
- 8 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・白色粒子微量
- 9 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・白色粒子微量

第28号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐色 ローム粒子中量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第32号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒 褐色 ロームブロック少量

第33号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子微量
- 3 暗 褐色 ローム粒子少量

第34号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 じさい黄褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 5 暗 褐色 ロームブロック微量
- 6 じさい黄褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子中量
- 8 褐色 ロームブロック中量

第35号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 じさい黄褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第37号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量

第40号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第41号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量
- 5 黒褐色 ローム粒子中量

第42号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 にぶい黄褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量

第46号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第51号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子微量

第52号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第53号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 黒褐色 炭化物中量、ローム粒子・焼土粒子微量

第54号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化物、ローム粒子・焼土粒子微量

第55号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化物、ローム粒子・焼土粒子微量

第56号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量

第57号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子微量

第58号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第59号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第60号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第61号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第62号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第63号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化物、ローム粒子・焼土粒子微量

第64号土坑土層解説

- 1 灰黄褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

第65号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第66号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第67号土坑土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第67号土坑P1土層解説

- 1 黒褐色 粘土粒子多量、ロームブロック微量

第68号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第69号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第70号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第71号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第72号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 焼土ブロック中量

第73号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第74号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第75号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化物、ローム粒子・焼土粒子微量

第76号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化物、ローム粒子・焼土粒子・白色粒子微量

第78号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・白色粒子微量

第79号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

第80号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量

第81号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第82号土坑土層解説

- 1 灰黄褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量

第83号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第84号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第86号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 5 黒褐色 炭化物少量、ロームブロック・焼土粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物少量
- 7 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 8 暗灰色 ロームブロック・炭化粒子微量

第87号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 炭化物少量、ロームブロック微量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 6 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化物少量

第88号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量

第89号土壌層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 濃い黄褐色 ロームブロック中量

第90号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第91号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 濃い黄褐色 ロームブロック多量
- 3 灰黄褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック微量

第92号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック中量

第94号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量

第96号土壌層解説

- 1 暗褐色 炭化物・焼土粒子少量、ローム粒子微量
- 2 黒褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 炭化物中量、ロームブロック・焼土ブロック少量

第99号土壌層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 濃い黄褐色 ロームブロック多量
- 5 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第100号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 濃い黄褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量

第101号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 濃い黄褐色 ロームブロック中量

第102号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 濃い黄褐色 ロームブロック中量

第103号土壌層解説

- 1 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 4 濃い黄褐色 ロームブロック中量

第104号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 濃い黄褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第105号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック中量

第106号土壌層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック中量
- 4 濃い黄褐色 ロームブロック多量

第107号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック中量

第108号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第109号土壌層解説

- 1 黒褐色 炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

第110号土壌層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土ブロック・鹿沼パミス（以下KPと省略）ブロック微量
- 2 濃い黄褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第113号土壌層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量
- 3 濃い黄褐色 ロームブロック中量
- 4 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第114号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・大塚中量、炭化粒子微量
- 2 濃い黄褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第115号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック多量
- 4 濃い黄褐色 ロームブロック中量

第116号土壌層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量

第117号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量

第118号土壌層解説

- 1 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 炭化物・ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第119号土壌層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第120号土壌層解説

- 1 暗褐色 炭化物中量、ロームブロック・焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第121号土壌土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック、焼土ブロック、炭化物少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化物少量

第122号土壌土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量
- 4 黒 褐色 炭化物、ローム粒子微量
- 5 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 6 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

第123号土壌土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 3 暗 灰色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第126号土壌土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子・KP粒子微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック中量、KPブロック・炭化粒子微量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

第128号土壌土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子中量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック中量
- 4 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

第129号土壌土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第130号土壌土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子少量

第131号土壌土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・炭化物少量

第132号土壌土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化物少量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック少量

第133号土壌土層解説

- 1 灰黄褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第134号土壌土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量

第135号土壌土層解説

- 1 灰黄褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

第136号土壌土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子微量

第144号土壌土層解説

- 1 灰黄褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

第145号土壌土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
- 2 黒 褐色 炭化物少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量

第149号土壌土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック微量

第150号土壌土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック中量、炭化物少量、黒色土ブロック・焼土粒子微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック・焼土粒子少量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

第152号土壌土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・KP粒子少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量、KP粒子微量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子・KP粒子微量
- 4 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

第155号土壌土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・KP粒子少量、炭化粒子微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック中量、KP粒子微量

第156号土壌土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量

第157号土壌土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第158号土壌土層解説

- 1 灰黄褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第159号土壌土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第160号土壌土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子微量

第161号土壌土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・KP粒子少量、炭化粒子微量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック・炭化物少量

第162号土壌土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・炭化物中量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック中量

第165号土壌土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
- 2 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量
- 4 黒 褐色 ロームブロック中量
- 5 黒 褐色 ロームブロック少量

第166号土壌土層解説

- 1 灰黄褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

第168号土壌土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量

第170号土壌土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 3 暗 褐色 ローム粒子中量、炭化物微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量

第171号土壌土層解説

- 1 におい黄褐色 ロームブロック多量、炭化物少量
- 2 黒褐色 ロームブロック、焼土ブロック、炭化物少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量、炭化物少量
- 4 褐色 ロームブロック多量
- 5 におい黄褐色 ロームブロック中量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

第172号土壌土層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック、炭化粒子少量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

第173号土壌土層解説

- 1 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子・KP粒子少量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック中量
- 3 におい黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第174号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

第176号土壌土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック、炭化物、ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック、炭化物少量

第179号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、炭化物少量、焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック、炭化物、焼土粒子少量
- 3 黒褐色 炭化物、ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 5 黒褐色 ロームブロック微量
- 6 におい黄褐色 ロームブロック中量

第180号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック、炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 炭化物、ローム粒子、焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック、炭化粒子微量
- 4 灰黄褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

第181号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック、炭化物、焼土粒子少量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック、炭化物少量
- 3 におい黄褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第182号土壌土層解説

- 1 暗褐色 炭化物、ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化物微量

第183号土壌土層解説

- 1 におい黄褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

第184号土壌土層解説

- 1 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化物少量

第186号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化物、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量、炭化物微量

第187号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量

第188号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、焼土ブロック、炭化物少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子、炭化粒子微量

第189号土壌土層解説

- 1 暗褐色 炭化物少量、ロームブロック微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量

第190号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 2 におい黄褐色 ロームブロック中量

第191号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック中量

第193号土壌土層解説

- 1 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化物微量

第195号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 灰黄褐色 ロームブロック中量
- 5 におい黄褐色 ロームブロック少量

第201号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック中量
- 3 におい黄褐色 ローム粒子多量

第204号土壌土層解説

- 1 灰黄褐色 ロームブロック、KP粒子少量、炭化物微量

第206号土壌土層解説

- 1 黒褐色 炭化物少量、ローム粒子、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、中粒微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物、焼土粒子微量

第210号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

第212号土壌土層解説

- 1 におい黄褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック、炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック、炭化粒子微量

第217号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック、炭化粒子・KP粒子少量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック、KP粒子少量、焼土粒子微量
- 3 におい黄褐色 ロームブロック中量、KP粒子少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子・KP粒子少量、炭化物微量

第217号土壌P1土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 におい黄褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第218号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、焼土ブロック、炭化物少量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック、炭化物少量

第223号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、炭化粒子少量、焼土ブロック、中粒微量
- 2 におい黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第225号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化物微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック、炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 4 灰黄褐色 ロームブロック中量、焼土粒子、炭化粒子微量

第226号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

第227号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 5 黒 褐色 ロームブロック少量

第230号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック多量
- 4 黒 褐色 ロームブロック微量

第244号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・KPブロック微量

第252号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・KP粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化物微量

第260号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量

第262号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 2 暗 褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック少量
- 4 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量

第263号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第264号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック少量、KPブロック・炭化粒子微量

第266号土坑土層解説

- 1 褐 色 KP粒子少量

第270号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 焼土ブロック・ローム粒子・KP粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・KPブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 KPブロック少量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 灰黄褐色 KPブロック中量、ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量

第272号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 にふい青褐色 ロームブロック中量、KPブロック微量

第273号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・KP粒子少量
- 2 暗 褐色 ローム粒子・KP粒子少量
- 3 褐色 KP粒子中量、ローム粒子少量

第276号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・KP粒子微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック中量、KPブロック微量

第277号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 4 にふい青褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

第279号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子・KP粒子少量、焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子中量、KPブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 にふい青褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第282号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック微量

第286号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・KPブロック微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子・KP粒子微量

第293号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 にふい青褐色 ロームブロック中量、炭化粒子・KP粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第294号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量

第295号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒 褐色 ローム粒子中量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック中量

第296号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量

第297号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量

第298号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量
- 4 灰黄褐色 ロームブロック中量

第300号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 4 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第303号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック多量

第304号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 灰黄褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量

第306号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 にふい青褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 4 灰黄褐色 ロームブロック中量

第312号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック微量
- 4 灰黄褐色 ローム粒子微量

第317号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック少量

第328号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量、細砂少量、炭化物微量

第329号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 2 にふい青褐色 ロームブロック中量、炭化材料微量

第330号土壌土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 におい黄褐色 ロームブロック中量

第331号土壌土層解説

- 1 暗 褐 色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 におい黄褐色 ロームブロック中量

第332号土壌土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量

第333号土壌土層解説

- 1 黒 褐 色 細粒少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 2 暗赤〜暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

第335号土壌土層解説

- 1 黒 褐 色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量、炭化物少量、焼土粒子微量

第336号土壌土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック中量

第337号土壌土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 2 黒 褐 色 焼土ブロック・炭化物少量、ロームブロック微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量

第338号土壌土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック中量

第339号土壌土層解説

- 1 暗 褐 色 炭化粒子・砂粒少量、焼土粒子微量
- 2 オリーブ褐色 粘土ブロック中量、炭化粒子微量
- 3 暗灰黄色 粘土ブロック少量、炭化粒子微量
- 4 黄 灰 色 粘土ブロック少量、炭化粒子微量

第340号土壌土層解説

- 1 暗 褐 色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 黒 褐 色 炭化物少量、ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 黒 褐 色 炭化物・ローム粒子・砂粒少量

第341号土壌土層解説

- 1 黒 褐 色 大粒少量、ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗灰黄色 砂粒微量

第342号土壌土層解説

- 1 黒 褐 色 焼土ブロック少量、炭化物微量
- 2 暗赤〜暗褐色 粘土ブロック少量、炭化物微量
- 3 黒 褐 色 粘土ブロック少量

第343号土壌土層解説

- 1 黒 褐 色 炭化物少量、焼土ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒 褐 色 炭化物微量

第344号土壌土層解説

- 1 黒 褐 色 粘土ブロック少量
- 2 暗赤〜暗褐色 粘土ブロック少量
- 3 オリーブ褐色 粘土ブロック中量

第345号土壌土層解説

- 1 黄 灰 色 砂粒少量、焼土ブロック微量
- 2 暗灰黄色 砂粒微量

第346号土壌土層解説

- 1 黒 褐 色 炭化材・ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗赤〜暗褐色 粘土ブロック少量、炭化物・焼土粒子微量

第347号土壌土層解説

- 1 黄 灰 色 焼土粒子・砂粒微量
- 2 暗灰黄色 砂粒少量

第348号土壌土層解説

- 1 黄 灰 色 砂粒少量、焼土粒子微量

第349号土壌土層解説

- 1 暗赤〜暗褐色 粘土ブロック・炭化物・焼土粒子少量
- 2 黒 褐 色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 褐 色 粘土ブロック少量

第350号土壌土層解説

- 1 黒 褐 色 焼土粒子少量、炭化粒子・砂粒微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂粒少量
- 3 黒 褐 色 砂粒少量

第351号土壌土層解説

- 1 黒 褐 色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒 褐 色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒 褐 色 砂粒少量

第352号土壌土層解説

- 1 暗赤〜暗褐色 炭化粒子・砂粒微量

第353号土壌土層解説

- 1 黒 褐 色 焼土ブロック・炭化物・細粒微量

第354号土壌土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 2 黒 褐 色 砂粒微量

第355号土壌土層解説

- 1 黒 褐 色 細粒少量、炭化材・焼土粒子微量
- 2 黒 褐 色 細粒少量
- 3 暗赤〜暗褐色 砂粒少量

第356号土壌土層解説

- 1 黒 褐 色 炭化材・細粒少量、焼土ブロック微量
- 2 黒 褐 色 焼土ブロック・砂粒微量

第357号土壌土層解説

- 1 暗赤〜暗褐色 細粒中量
- 2 暗灰黄色 細粒中量、炭化粒子微量

第358号土壌土層解説

- 1 黒 褐 色 細粒少量、焼土粒子微量
- 2 黒 褐 色 焼土ブロック・炭化物・細粒少量
- 3 暗赤〜暗褐色 細粒中量
- 4 黒 褐 色 炭化物・焼土粒子・砂粒微量

第359号土壌土層解説

- 1 黒 褐 色 焼土ブロック・細粒・炭化粒子少量
- 2 黒 褐 色 炭化物・細粒・焼土粒子微量
- 3 暗灰黄色 細粒中量

第361号土壌土層解説

- 1 黒 褐 色 細粒中量、炭化物・焼土粒子微量
- 2 黒 褐 色 炭化物・細粒少量、焼土粒子微量
- 3 黒 褐 色 細粒中量、焼土ブロック微量

第366号土壌土層解説

- 1 黄 灰 色 細粒少量、炭化粒子微量

第367号土壌土層解説

- 1 黒 褐 色 細粒少量、焼土ブロック微量
- 2 黄 灰 色 砂粒少量

第369号土壌土層解説

- 1 黒 褐 色 炭化物・細粒少量、焼土粒子微量
- 2 暗灰黄色 細粒中量

第370号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 炭化物・細礫・焼土粒子少量
- 2 黒 褐色 細礫・炭化粒子微量
- 3 暗 灰 黄色 細礫中量

第371号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 炭化物・砂粒微量
- 2 黒 褐色 砂粒少量、焼土ブロック・炭化粒子微量

第372号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 砂粒少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 2 暗 灰 褐色 細礫中量、焼土ブロック微量

第373号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 炭化物・細礫少量、焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 細礫中量

第374号土坑土層解説

- 1 暗 灰 褐色 細礫少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 灰 黄色 細礫中量、焼土粒子微量

第375号土坑土層解説

- 1 暗 灰 褐色 細礫中量、焼土粒子微量

第376号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 焼土ブロック・細礫微量

第377号土坑土層解説

- 1 暗 灰 褐色 砂粒少量、炭化物微量

第378号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 焼土ブロック少量、炭化物・細礫微量
- 2 暗 灰 黄色 炭化粒子・砂粒微量

第379号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 炭化物中量、焼土ブロック・細礫少量
- 2 暗 灰 黄色 細礫中量、炭化物少量、焼土ブロック微量
- 3 黒 褐色 細礫中量、炭化物少量、焼土粒子微量

第380号土坑土層解説

- 1 暗 灰 褐色 砂粒少量、炭化粒子微量

第381号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第382号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック中量
- 3 黒 褐色 ローム粒子微量

第383号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量
- 2 灰 黄 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第384号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 にい青褐色 ロームブロック多量

第385号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 細礫中量、焼土粒子微量
- 2 暗 灰 褐色 細礫少量

第386号土坑土層解説

- 1 暗 灰 褐色 細礫少量、焼土ブロック微量

第387号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 3 灰 黄 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量

第388号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック中量
- 4 にい青褐色 ロームブロック多量

第389号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第390号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 2 暗 灰 褐色 砂粒少量、焼土ブロック微量
- 3 暗 灰 黄褐色 砂粒少量、炭化粒子微量

第391号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

第392号土坑土層解説

- 1 暗 灰 褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黄 灰 色 焼土ブロック微量

第395号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第396号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

第397号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒 褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

第398号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 焼土ブロック・炭化物少量、細礫微量
- 2 暗 灰 褐色 粘土ブロック・細礫中量

第399号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 炭化物中量、焼土ブロック少量

第400号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量
- 4 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、細礫微量
- 5 暗 褐色 ロームブロック中量
- 6 黒 褐色 ローム粒子少量

第401号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・炭化物少量

第402号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 にい青褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量

第403号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量

第405号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック微量
- 3 灰 黄 褐色 ロームブロック中量

第406号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第407号土坑土層解説

- 1 灰 黄 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量

第408号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック・炭化物微量

第410号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第411号土壌土層解説

- 1 濃い黄褐色 ロームブロック、KP 粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量

第412号土壌土層解説

- 1 灰黄褐色 ロームブロック、炭化粒子、KP 粒子少量、焼土ブロック微量
- 2 濃い黄褐色 ロームブロック中量

第413号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック、焼土粒子、KP 粒子少量、炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック少量、炭化物、KP 粒子微量
- 4 灰黄褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 5 濃い黄褐色 ロームブロック中量

第414号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、炭化物、KP 粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子、焼土粒子微量

第416号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック中量

第417号土壌土層解説

- 1 濃い黄褐色 ロームブロック中量、炭化物、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック、炭化粒子微量

第422号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、炭化粒子、KP 粒子少量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック、炭化物微量
- 3 灰黄褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 4 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化物少量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 6 濃い黄褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 7 黒褐色 ロームブロック微量

第423号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子、炭化粒子、KP 粒子少量、焼土粒子微量

第425号土壌土層解説

- 1 灰黄褐色 ロームブロック少量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック、炭化粒子微量

第426号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子、焼土粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第428号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子、炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子、KP 粒子少量、炭化粒子微量
- 3 濃い黄褐色 ロームブロック中量、焼土粒子、炭化粒子微量

第429号土壌土層解説

- 1 黒褐色 炭化物、ローム粒子、KP 粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量
- 5 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第431号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 灰黄褐色 ローム粒子多量

第432号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子、焼土粒子、炭化粒子少量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化物、焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 5 濃い黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第433号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化物微量

第434号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物微量

第435号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック、炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第436号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 灰黄褐色 ローム粒子中量、炭化物微量

第437号土壌土層解説

- 1 黒褐色 炭化物、ローム粒子少量、焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物、焼土粒子微量
- 5 灰黄褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 6 黒褐色 炭化物少量、ロームブロック微量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物微量

第438号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子、炭化粒子微量

第439号土壌土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック、ローム粒子、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子、炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物、焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック微量

第443号土壌土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック中量、KP ブロック少量、炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子、KP 粒子微量

第450号土壌土層解説

- 1 黒褐色 炭化物、ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物、焼土粒子微量
- 4 濃い黄褐色 ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量

第451号土壌土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック、焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 4 濃い黄褐色 ロームブロック中量

第452号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

第453号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

第454号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、焼土ブロック、炭化物少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 3 濃い黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量

第 458 号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 4 灰 黄 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量

第 461 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 黒 褐色 ロームブロック微量

第 462 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック微量

第 463 号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 灰 黄 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量

第 465 号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 にふい青褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 5 灰 黄 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 6 黒 褐色 ロームブロック微量

第 466 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック少量

第 467 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 3 にふい青褐色 ロームブロック多量

第 469 号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 3 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

第 470 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック・炭化物微量

第 471 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子・KP 粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック微量

第 472 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 3 にふい青褐色 ロームブロック中量

第 473 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 灰 黄 褐色 ロームブロック中量、KP 粒子少量、炭化粒子微量
- 3 にふい青褐色 ロームブロック中量

第 474 号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量

第 475 号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化物・KP 粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック多量
- 5 黒 褐色 ロームブロック微量
- 6 黒 褐色 ロームブロック少量

第 477 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量、炭化物微量

第 478 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 2 にふい青褐色 ローム粒子多量、焼土ブロック・炭化物微量
- 3 灰 黄 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量、焼土粒子微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

第 479 号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子・KP 粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・KP 粒子微量
- 3 灰 黄 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化材微量

第 480 号土坑土層解説

- 1 灰 黄 褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 灰 黄 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 にふい青褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量

第 482 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 焼土ブロック・大塚、炭化物、ローム粒子少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒 褐色 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量

第 483 号土坑土層解説

- 1 灰 黄 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 にふい青褐色 ロームブロック中量

第 484 号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

第 485 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子中量
- 2 暗 褐色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐色 ローム粒子少量
- 4 暗 褐色 KP 粒子少量

第 487 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第 489 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック微量
- 4 黒 褐色 ローム粒子微量

第 493 号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 4 灰 黄 褐色 ロームブロック中量
- 5 にふい青褐色 ロームブロック中量

第 494 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量、KP 粒子少量、炭化物微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

第 495 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 中塚中量、炭化物少量、焼土ブロック微量
- 2 黒 褐色 炭化材・焼土ブロック・腐植少量
- 3 黒 褐色 焼土ブロック・炭化物・腐植微量

第 500 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、KP ブロック微量

第502号土壌土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 濃い黄褐色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 4 灰黄褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 5 暗 褐色 ロームブロック、炭化粒子少量
- 6 黄 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子、炭化粒子微量

第504号土壌土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子、炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量

第509号土壌土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック少量

第510号土壌土層解説

- 1 黒 褐色 焼土粒子少量、ロームブロック、炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量

第521号土壌土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化物、焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック、炭化物少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子少量

第528号土壌土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック、炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック微量

第529号土壌土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック、焼土粒子少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量、KPブロック、炭化物微量
- 4 暗 褐色 ローム粒子少量、KPブロック微量

第531号土壌土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量
- 3 濃い黄褐色 ローム粒子多量
- 4 褐色 ロームブロック多量

第534号土壌土層解説

- 1 濃い黄褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック、炭化粒子微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック、炭化粒子微量

第535号土壌土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック、焼土粒子少量
- 2 濃い黄褐色 KPブロック中量、ローム粒子少量
- 3 濃い黄褐色 ロームブロック、KPブロック少量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 4 灰黄褐色 ロームブロック、KPブロック、焼土粒子微量
- 5 灰黄褐色 ローム粒子多量、KP粒子少量

第536号土壌土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック、炭化物微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第537号土壌土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 濃い黄褐色 ロームブロック中量

第540号土壌土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック、焼土ブロック、炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック、焼土ブロック少量、炭化物微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック、炭化物微量
- 4 黒 褐色 ローム粒子、焼土粒子微量
- 5 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 6 黒 褐色 ロームブロック、焼土ブロック、炭化物微量
- 7 黒 褐色 ロームブロック微量

第542号土壌土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子、炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック微量
- 3 濃い黄褐色 ロームブロック多量
- 4 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第543号土壌土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子、焼土粒子微量
- 3 暗 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 4 黒 褐色 ロームブロック微量

第545号土壌土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子、KP粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック、焼土ブロック微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗 褐色 ロームブロック中量、KPブロック少量

第547号土壌土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック、炭化物少量、KPブロック、焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 焼土ブロック、炭化物、ローム粒子少量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量

第548号土壌土層解説

- 1 濃い黄褐色 ローム粒子多量、KP粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量、KPブロック、炭化粒子微量

第549号土壌土層解説

- 1 黒 褐色 焼土ブロック、ローム粒子、炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック微量
- 3 濃い黄褐色 ロームブロック中量、炭化物微量

第551号土壌土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 2 濃い黄褐色 ロームブロック多量
- 3 褐色 ロームブロック多量、炭化物微量

第552号土壌土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック、炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック、焼土ブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック、炭化物微量
- 4 灰黄褐色 ローム粒子多量
- 5 濃い黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第554号土壌土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック、炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック、炭化粒子少量

第555号土壌土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 3 濃い黄褐色 ローム粒子中量、焼土粒子、炭化粒子微量

第559号土壌土層解説

- 1 黒 褐色 炭化粒子少量、焼土ブロック、ローム粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック、炭化粒子少量
- 4 濃い黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 5 暗 褐色 ロームブロック多量、炭化物、焼土粒子微量

第560号土壌土層解説

- 1 黒 褐色 炭化物、ローム粒子、焼土粒子少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 3 濃い黄褐色 ロームブロック中量

第561号土壌土層解説

- 1 黒 褐色 焼土粒子、炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック、焼土粒子少量、炭化粒子少量

第564号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック中量
- 5 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化物微量

第565号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗 灰色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック微量
- 4 灰 黄 褐色 ローム粒子多量
- 5 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

第566号土坑土層解説

- 1 灰 黄 褐色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量

第567号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・KPブロック・炭化粒子微量
- 2 濃い黄褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子・KP粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック・炭化物少量、KPブロック微量
- 4 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 6 灰 黄 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 7 灰 黄 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 8 褐色 ローム粒子多量

第571号土坑土層解説

- 1 濃い黄褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・KPブロック・炭化粒子微量
- 2 濃い黄褐色 ロームブロック少量、KPブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 灰 黄 褐色 ロームブロック中量、KPブロック少量
- 4 濃い黄褐色 ロームブロック多量、KPブロック微量

第572号土坑土層解説

- 1 灰 黄 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・KPブロック・炭化粒子少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量

第580号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第581号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・KP粒子微量
- 2 灰 黄 褐色 焼土粒子少量、ロームブロック・KPブロック・炭化粒子微量
- 3 濃い黄褐色 ロームブロック中量、炭化物・KP粒子少量、焼土ブロック微量
- 4 灰 黄 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物・KP粒子微量
- 5 灰 黄 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量、KP粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子多量

第582号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 4 暗 褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
- 6 灰 黄 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第583号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量

第586号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

第588号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第590号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック微量

第591号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量、KPブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量
- 2 黒 褐色 炭化物・KP粒子少量、ロームブロック微量
- 3 暗 灰色 ロームブロック中量

第593号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・KPブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第595号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・炭化物・KP粒子少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第596号土坑土層解説

- 1 灰 黄 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 2 暗 灰色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第597号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック少量

第603号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量

第606号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量
- 3 黒 褐色 ロームブロック少量
- 4 暗 褐色 ロームブロック中量

第609号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量

第615号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・KPブロック少量

第623号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化物微量

第625号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量

第626号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック微量

第632号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 灰 黄 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量
- 4 灰 黄 褐色 ローム粒子多量
- 5 濃い黄褐色 ロームブロック多量

第636号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、KPブロック微量
- 2 暗褐色 炭化物少量、ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 4 灰黄褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量
- 5 黒褐色 ロームブロック微量
- 6 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量

第638号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第639号土壌土層解説

- 1 灰黄褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 4 灰黄褐色 ロームブロック中量

第644号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック多量

第645号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 濃い黄褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

第647号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

第650号土壌土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量

第651号土壌土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子少量、ロームブロック・KPブロック・炭化物微量

第652号土壌土層解説

- 1 黒褐色 炭化物・ローム粒子少量、KPブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 3 黒褐色 焼土ブロック・KP粒子少量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量

第653号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、KP粒子少量、焼土ブロック微量
- 2 濃い黄褐色 ロームブロック中量、KP粒子少量、焼土粒子微量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子・KP粒子微量

第656号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 黒褐色 炭化物・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 濃い黄褐色 ロームブロック中量

第658号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量、炭化物微量

第659号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 濃い黄褐色 ロームブロック中量

第664号土壌土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第665号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第666号土壌土層解説

- 1 黒褐色 炭化物・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第667号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 4 濃い黄褐色 ロームブロック多量

第668号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック多量

第669号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック中量

第670号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量

第671号土壌土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 灰黄褐色 ロームブロック中量

第672号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック少量

第673号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、KPブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 濃い黄褐色 ロームブロック多量

第674号土壌土層解説

- 1 濃い黄褐色 ロームブロック中量、KP粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・KPブロック中量、炭化粒子微量

第676号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第678号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 黒褐色 ロームブロック少量

第680号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第681号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量

第684号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 灰黄褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 炭化物・ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量

第685号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量

第687号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 灰 黄 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 4 暗 褐色 ロームブロック多量
- 5 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 黒 褐色 ロームブロック中量

第688号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第690号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 炭化物少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
- 2 におい黄褐色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

第694号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 灰 黄 褐色 ロームブロック少量

第696号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第697号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック中量
- 3 灰 黄 褐色 ロームブロック中量

第701号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量
- 3 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

第702号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物微量

第703号土坑土層解説

- 1 灰 黄 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量

第704号土坑土層解説

- 1 灰 黄 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗 褐色 ローム粒子中量

第705号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第706号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 2 灰 黄 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

第707号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・KPブロック・炭化物微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・KP粒子微量
- 3 におい黄褐色 ロームブロック少量

第708号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子・KP粒子微量
- 3 灰 黄 褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック・KPブロック微量

第713号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・KPブロック中量、炭化粒子微量

第715号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第718号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量

第729号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子中量

第730号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 3 灰 黄 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第732号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 灰 黄 褐色 ロームブロック少量

第736号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子中量

第737号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量

第738号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 灰 黄 褐色 ローム粒子微量
- 4 におい黄褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第739号土坑土層解説

- 1 灰 黄 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック少量

第740号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・KP粒子少量
- 2 灰 黄 褐色 ロームブロック中量、KPブロック少量、炭化物微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子・KP粒子微量
- 4 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第741号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量、KP粒子微量

第742号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・炭化物・KP粒子少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・KPブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 灰 黄 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック・KP粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第743号土坑土層解説

- 1 におい黄褐色 KP粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 灰 黄 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・KP粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 4 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第744号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 2 におい黄褐色 ロームブロック中量

第745号土坑土層解説

- 1 灰 黄 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 におい黄褐色 ロームブロック中量

第746号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 暗灰色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック中量

第747号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第748号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第750号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第751号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

第752号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第753号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 灰黄褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

第754号土坑土層解説

- 1 におい黄褐色 焼土ブロック中量、灰微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 におい黄褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第759号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子・KP粒子少量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック中量、KP粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・KP粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子・KP粒子微量

第760号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・KP粒子少量、炭化粒子微量

第761号土坑土層解説

- 1 黒褐色 KP粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量、KP粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量

第762号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・KPブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・KPブロック・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量、KPブロック・炭化物微量

第764号土坑土層解説

- 1 灰黄褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量
- 2 におい黄褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第765号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子・KP粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子・KP粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・KP粒子少量、炭化物微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 5 灰黄褐色 ロームブロック・KPブロック中量、炭化物少量

第766号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、KPブロック・炭化物・焼土粒子微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・KPブロック・炭化物微量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量

第767号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子微量
- 5 におい黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 7 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第768号土坑土層解説

- 1 灰黄褐色 ロームブロック中量、KP粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物・KP粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 4 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第771号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・KP粒子微量

第780号土坑土層解説

- 1 におい黄褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、炭化物微量

第783号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 5 黒褐色 ロームブロック微量
- 6 褐色 ロームブロック中量

第787号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 5 におい黄褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第788号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 5 におい黄褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量

第803号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第857号土坑土層解説

- 1 黒褐色 細粒中量、炭化物少量、焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 炭化物・細粒・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 炭化物微量
- 4 暗+〜暗色 細粒・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 細粒少量、中硬微量
- 6 黒褐色 細粒中量

第858号土坑土層解説

- 1 黒褐色 細粒・砂粒少量
- 2 黒褐色 細粒少量
- 3 黒褐色 中硬少量
- 4 暗+〜暗色 細粒微量
- 5 黒褐色 細粒少量
- 6 暗灰黄色 細粒中量

第862号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 におい黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第891号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量

第900号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 暗 灰色 ロームブロック中量

第906号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック、炭化物・焼土粒子微量
- 2 灰 黄 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 にぶい黄褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量

第909号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 3 暗 灰色 ロームブロック少量、焼土ブロック、炭化物微量
- 4 灰 黄 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック、炭化粒子微量

第919号土坑土層解説

- 1 赤 褐色 焼土ブロック多量
- 2 黒 褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子少量

第921号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・ローム粒子微量
- 2 暗 褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック、炭化粒子少量
- 4 灰 黄 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量

第922号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第923号土坑土層解説

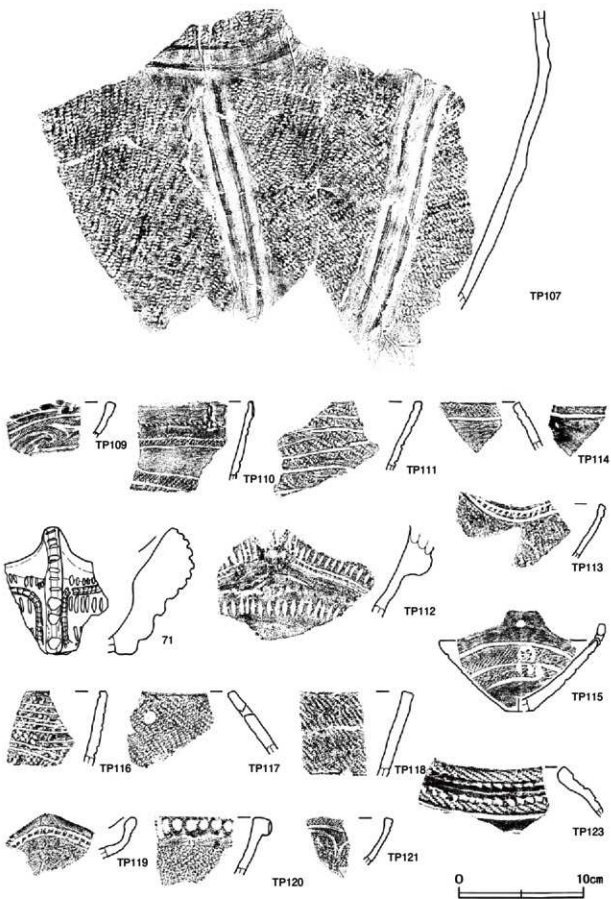
- 1 暗 灰色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック、炭化粒子少量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第927号土坑土層解説

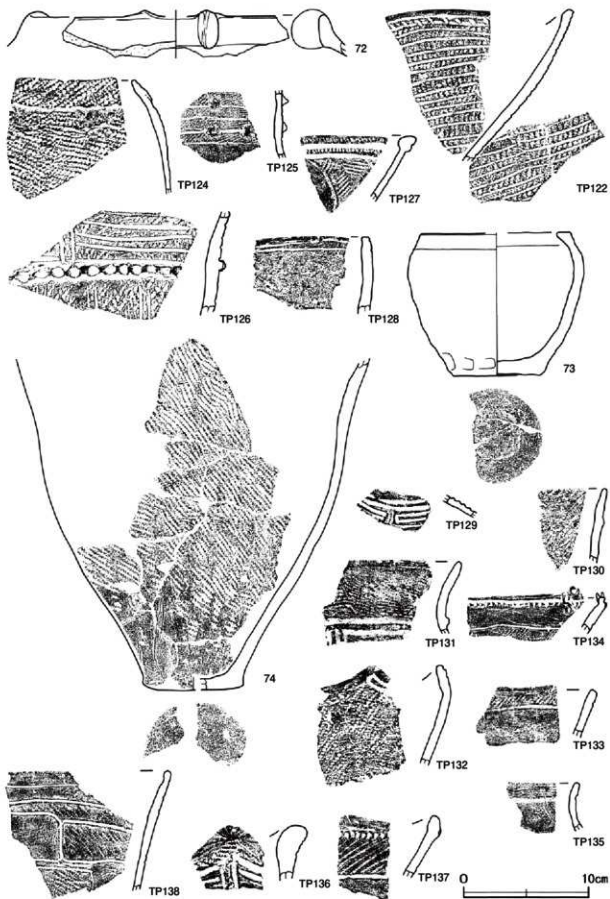
- 1 暗 褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量
- 2 暗 褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック、炭化粒子少量
- 4 灰 黄 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 灰 黄 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第929号土坑土層解説

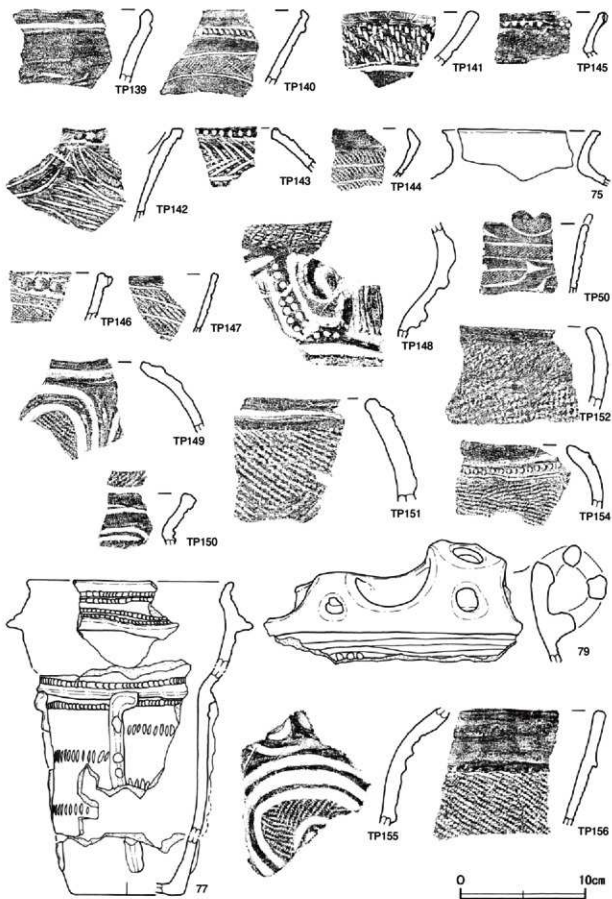
- 1 暗 褐色 ローム粒子・KP粒子少量、炭化粒子微量
- 2 灰 黄 褐色 ロームブロック・KP粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 4 暗 灰色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量



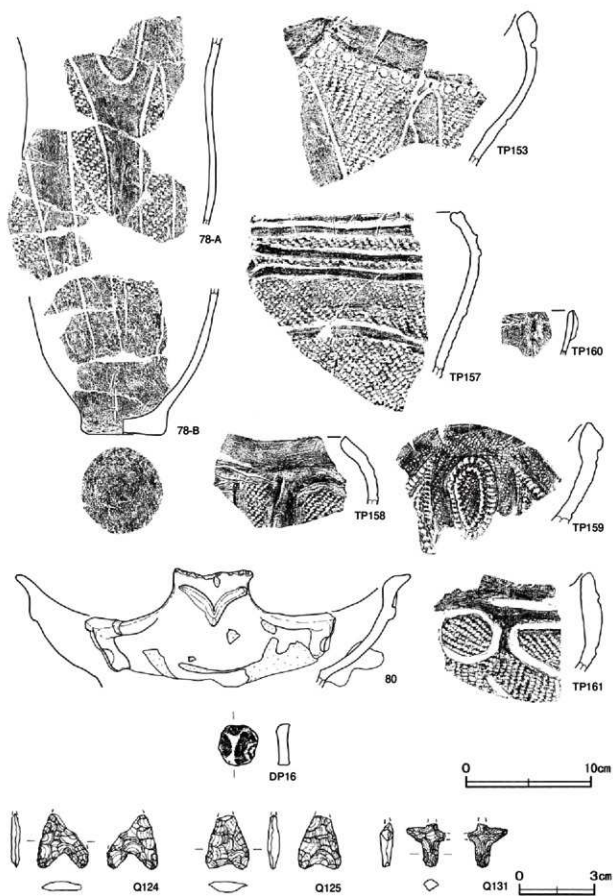
第132图 土坑出土遺物実測図(1)



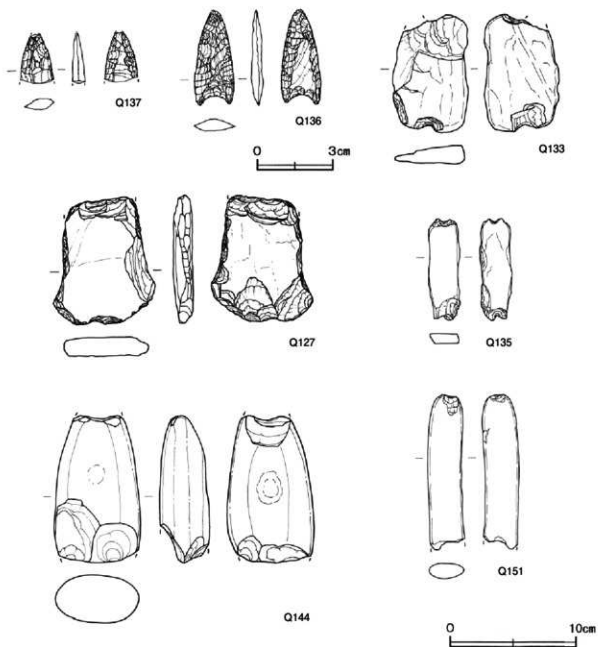
第133图 土坑出土遗物实测图(2)



第134图 土坑出土遺物実測図(3)



第135图 土坑出土遗物实测图(4)



第136图 土坑出土遺物実測図(5)

第9号土坑出土遺物観察表 (第132図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP07	縄文土器	深鉢	長石・石英・黒色粒子・針状鉱物	にぶい・赤褐色	真好	縄文 RL 縦位回転施文→微隆起線貼付	上層	

第22号土坑出土遺物観察表 (第135図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴など	出土位置	備考
DP16	土器片断	3.2	3.2	1.0	12.3	長石・石英・雲母・黒色粒子	周縁部研磨	覆土中	

第72号土坑出土遺物観察表 (第135図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q124	石鏡	(20)	2.2	0.35	(152)	チャート	先端部欠損 両面押圧割離 凹基無著識	覆土中	PL44

第87号土坑出土遺物観察表 (第135図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q125	石鏡	(21)	1.8	0.4	(166)	チャート	先端部欠損 両面押圧割離 凹基無著識	上層	PL44

第94号土坑出土遺物観察表 (第132図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP09	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	黒褐色	普通	沈線→縄文 LR 横位回転施文→無文部磨き	覆土中	PL34

第99号土坑出土遺物観察表 (第132図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP10	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい・橙	普通	沈線→縄文 LR 横位回転施文→無文部磨き	覆土中	

第120号土坑出土遺物観察表 (第132図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP11	縄文土器	深鉢	石英・雲母	にぶい・橙	普通	縄文 RL 縦位回転施文→平行沈線	覆土中	

第128号土坑出土遺物観察表 (第132図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
71	縄文土器	深鉢	-	(101)	-	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	隆帯貼付→刺み・押圧→縦位の連続沈線→手載竹管文	上層	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP12	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	隆帯貼付→連続爪形文→手載竹管文	覆土中	

第136号土坑出土遺物観察表 (第132図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP13	縄文土器	深鉢	石英・雲母・針状鉱物	橙	普通	縄文 RL 横位回転施文→沈線→刺文	覆土中	PL33
TP14	縄文土器	深鉢	石英・雲母	にぶい・濁	普通	口縁部部縄文 LR 横位・縦位回転施文→沈線→無文部磨き 内面沈線	覆土中	

第162号土坑出土遺物観察表 (第132図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP15	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい・橙	真好	沈線→縄文 LR 横位回転施文→無文部磨き 口縁部磨き	覆土中	PL33

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q126	凹石	20.8	12.8	2.8	1360	緑色岩	凹面表1ヶ所	覆土中	

第165号土坑出土遺物観察表 (第132図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP116	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒褐	普通	縄文LR横位回転施文→沈線	覆土中	

第170号土坑出土遺物観察表 (第132図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP117	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	灰褐	普通	縄文RL横位回転施文→穿孔	覆土中	
TP118	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	にぶ・黄橙	普通	縄文RL縦位回転施文	覆土中	
TP119	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶ・赤褐	普通	縄文LR横位回転施文→沈線	覆土中	
TP120	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶ・褐	普通	縄文RL縦位回転施文→隆帯貼付→押圧文	覆土中	
TP121	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒褐	普通	縄文LR横位回転施文→沈線	覆土中	

第174号土坑出土遺物観察表 (第133図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
72	縄文土器	深鉢	[220]	(3.7)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	黒褐	普通	内・外面磨き	覆土中	5% PL33

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP122	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	灰褐	普通	縄文LR横位回転施文→横位の平行沈線	覆土中	PL33

第176号土坑出土遺物観察表 (第132図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP123	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	褐灰	良好	隆帯貼付→隆帯上縄文RL光垵→刺突文	覆土中	PL33

第179号土坑出土遺物観察表 (第133図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP124	縄文土器	深鉢	石英・雲母・針状鉱物	にぶ・橙	普通	口縁部縄文LR横位回転施文 胴部縄文LR縦位回転施文	覆土中	

第180号土坑出土遺物観察表 (第133・136図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP125	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶ・黄橙	普通	縄文LR横位回転施文→沈線→突起貼付	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q 127	打製石斧	10.1	8.1	1.5	163.7	千枚岩	両面調整 分銅形	覆土中	

第186号土坑出土遺物観察表 (第133図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP126	縄文土器	深鉢	石英・雲母	明赤褐	普通	縄文LR横位回転施文→隆帯貼付→押圧文→縦位及び横位の平行沈線	覆土中	

第206号土坑出土遺物観察表 (第133図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP127	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶ・黄橙	普通	縄文LR横・縦位回転施文→沈線→無文部磨き 口縁部隆帯磨き付→磨み	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q 128	凹石	18.6	11.3	5.7	1300	砂岩	凹面4か所 被熱痕	覆土中	

第223号土坑出土遺物観察表

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q129	棒状四石	14.5	8.5	5.4	1020	砂岩	凹痕2か所 磨石転用	上層	
Q130	棒状四石	15.9	8.8	4.0	715	緑色片岩	凹痕1か所	覆土中	

第230号土坑出土遺物観察表 (第135図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q131	石鏃	(1.8)	(1.6)	0.5	(0.89)	黒曜石	両面押圧潤靡 有茎鏃	覆土中	PL44

第252号土坑出土遺物観察表 (第133図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP128	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面ナデ 横位の平行沈線	覆土中	

第282号土坑出土遺物観察表 (第133図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
73	縄文土器	鉢	[12.0]	11.3	7.0	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	普通	内・外面ナデ 外面赤彩	上層	40% PL33

第306号土坑出土遺物観察表 (第133図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
74	縄文土器	深鉢	-	(26.4)	[8.1]	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	普通	縄文LR 縦位回転施文	覆土中	30%

第335号土坑出土遺物観察表

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q132	棒状四石	12.3	7.6	4.3	642	緑色片岩	凹痕表3、裏2か所 焼熟痕	覆土中	PL48

第351号土坑出土遺物観察表 (第133図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP129	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	沈線による工字文	覆土中	

第355号土坑出土遺物観察表 (第133図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP130	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	縄文LR 横位回転施文	覆土中	

第356号土坑出土遺物観察表 (第133図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP131	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	にぶい橙	普通	縄文LR 縦位回転施文→縦い飛帯貼付	覆土中	

第361号土坑出土遺物観察表 (第133図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP132	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	にぶい褐	普通	縄文RL 横位回転施文→角押文	覆土中	
TP133	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	縄文LR 横位回転施文→沈線	覆土中	

第372号土坑出土遺物観察表 (第133図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP134	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	沈線→縄文LR 施文→無文部磨き 口縁部彫刻 英文	覆土中	

第376号土坑出土遺物観察表 (第133図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP15	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部磨赤文し施文	覆土中	

第382号土坑出土遺物観察表 (第133図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP16	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐	普通	隆帯土縄文RL充墳→隆帯磨赤線	覆土中	

第383号土坑出土遺物観察表 (第133図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP17	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	灰黄褐	普通	斜位の平行沈線→刺突文	覆土中	

第386号土坑出土遺物観察表 (第133図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP18	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐	普通	沈線→縄文RL充墳→無文部磨赤	上層	

第387号土坑出土遺物観察表 (第134図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP19	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	明赤褐	普通	口縁部内・外面磨赤 端部横位の沈線	覆土中	
TP10	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部隆帯磨赤付→沈線→縄文LR横位回転施文→無文部磨赤	覆土中	

第430号土坑出土遺物観察表 (第136図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q 133	石鉢	(9.3)	5.9	1.5	(100.2)	角閃石片岩	扁平な縁の両端部を打ち欠き 被熱痕	覆土中	PL46

第431号土坑出土遺物観察表 (第134図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP11	縄文土器	深鉢	長石・石英・黒色粒子・赤色粒子・針状鉱物	にぶい赤褐	普通	沈線→刺突充墳	覆土中	

第439号土坑出土遺物観察表 (第134図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP12	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	にぶい褐	普通	口縁部隆帯磨赤付→押圧文 対向弧縄文	覆土中	PL33
TP13	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	斜位の平行沈線 口縁部磨赤文	覆土中	

第451号土坑出土遺物観察表 (第134図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP14	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒褐	普通	縄文RL横位回転施文→横位の平行沈線	覆土中	

第453号土坑出土遺物観察表

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q 134	棒状四石	16.0	4.3	2.3	261	緑色片岩	凹面表1, 裏1か所	覆土中	

第454号土坑出土遺物観察表 (第134図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP15	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部内・外面ナデ 端部刺突文	覆土中	

第458号土坑出土遺物観察表 (第136図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q135	石鉢	80	2.5	0.9	30.4	千枚岩	扁平な縁の両端部を打ち欠き	覆土中	PL46

第462号土坑出土遺物観察表 (第134図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
75	縄文土器	深鉢	12.6	(4.3)	-	石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	にぶい橙	普通	内・外面ナデ	覆土中	5%

第463号土坑出土遺物観察表 (第134図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP146	縄文土器	深鉢	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	良好	縄文 LR 横位回転施文→横位の平行沈線 隆部隆帯貼付→押圧文	覆土中	
TP147	縄文土器	深鉢	長石・石英	浅黄橙	普通	縄文 LR 横位回転施文→横位の平行沈線	覆土中	

第478号土坑出土遺物観察表 (第136図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q136	石皿	(38)	1.7	0.5	(3.02)	チャート	先端部欠損 両面押圧割痕 凹基無茶織	覆土中	PL44

第481号土坑出土遺物観察表 (第134図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP148	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	縄文 LR 横位回転施文→隆帯貼付→隆帯上刺突文	上層	

第482号土坑出土遺物観察表 (第136図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q137	石皿	(20)	1.3	0.5	(1.26)	淡白石	先端部欠損 両面押圧割痕 平基無茶織	覆土中	PL44

第490号土坑出土遺物観察表 (第134図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP50	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐	普通	沈線→縄文 LR 横位回転施文→無文部磨き	覆土中	

第493号土坑出土遺物観察表

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q138	棒状四石	7.1	5.9	2.5	167.3	緑色片岩	凹痕1か所	上層	

第521号土坑出土遺物観察表 (第134図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP149	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	灰褐	普通	縄文 LR 横位回転施文→沈線	覆土中	
TP150	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	にぶい赤褐	普通	外面沈線文 内面磨き	覆土中	

第555号土坑出土遺物観察表

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q139	棒状四石	12.8	6.3	3.4	297	緑色片岩	凹痕1か所 上・下・側面磨痕	覆土中	

第567号土坑出土遺物観察表 (第134図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP151	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	橙	普通	縄文 LR 横位回転施文→沈線	覆土中	

第572号土坑出土遺物観察表 (第134図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP132	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	縄文LR縦位回転施文	覆土中	

第590号土坑出土遺物観察表

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q140	石皿	(10.8)	(4.6)	(4.5)	(160)	安山岩	表面が皿状に凹む	上層	

第615号土坑出土遺物観察表

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q142	凹石	27.1	15.8	6.9	3630	緑色片岩	凹痕表8、裏8か所	下層	PL50

第629号土坑出土遺物観察表 (第134図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
77	縄文土器	深鉢	[36.2]	[25.0]	9.0	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい赤褐	普通	口縁部2列の右筋沈線 胴部縦位の段帯付→連続爪形文	覆土中	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q143	磨石	12.0	12.3	3.4	691	緑色片岩	磨痕3か所 凹痕1か所	覆土中	

第632号土坑出土遺物観察表

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q144	磨石片	(11.6)	6.8	3.9	(422.0)	砂岩	側面磨痕 凹石転用 凹痕表1、裏1か所	覆土中	PL45

第644号土坑出土遺物観察表 (第135図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
78	縄文土器	深鉢	-	(24.0)	6.7	長石・石英・針状鉱物	にぶい橙	普通	縄文LR縦位回転施文→沈線→無文部磨き	上層	60%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP153	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	良好	縄文LR横位・縦位回転施文→沈線→無文部磨き 口縁部刺突文	上層	

第650号土坑出土遺物観察表 (第134図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP154	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	縄文LR縦位回転施文→沈線→刺突文	覆土中	

第668号土坑出土遺物観察表 (第134図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
79	縄文土器	深鉢	-	(9.7)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	灰褐	普通	横状突起 正面から4方向に貫通孔	上層	5% PL29

第676号土坑出土遺物観察表 (第134図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP155	縄文土器	深鉢	石英・雲母	にぶい褐	普通	縄文LR横位・縦位回転施文→段帯付	覆土中	

第679号土坑出土遺物観察表

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q145	磨石	(9.6)	8.8	4.3	(513)	花崗岩	全面磨痕	覆土中	

第680号土坑出土遺物観察表

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q146	磨石	10.4	9.5	8.2	1130	石英炭岩	全面磨痕	覆土中	

第690号土坑出土遺物観察表（第134図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP156	縄文土器	深鉢	石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	普通	縄文 LR 縦位回転施文	覆土中	

第702号土坑出土遺物観察表（第135図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP157	縄文土器	深鉢	石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	普通	縄文 RL 縦位回転施文→隆帯貼付	覆土中	

第730号土坑出土遺物観察表（第135図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP158	縄文土器	深鉢	長石・石英	灰褐	普通	周縁起線貼付→縄文 LR 光焼	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q148	凹石	19.3	11.3	5.0	1420	緑色片岩	凹痕2か所	覆土中	

第736号土坑出土遺物観察表（第135図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP159	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粘土	にぶい褐	普通	隆帯貼付→隆帯脇有筋沈線→縄文 RL 光焼	覆土中	

第753号土坑出土遺物観察表

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q150	棒状凹石	14.2	4.9	3.2	322	緑色片岩	凹痕1か所 被熱痕	上層	

第766号土坑出土遺物観察表（第136図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q151	石錘	(12.3)	2.9	1.2	(71.2)	頁岩	扁平な縁の両端部を打ち欠き	覆土中	PL46

第783号土坑出土遺物観察表（第135図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP160	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	灰褐	普通	縦位の細い隆帯貼付→沈線→縄文 RL 光焼	覆土中	

第799号土坑出土遺物観察表（第135図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
80	縄文土器	深鉢	[31.1]	(9.0)	-	石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部隆帯によるV字文	覆土中	5% PL28

第816号土坑出土遺物観察表（第135図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP161	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	灰白	良好	縄文 RL 縦位回転施文→沈線	覆土中	

第853号土坑出土遺物観察表

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q153	凹石	21.7	12.2	8.6	3270	緑色片岩	凹痕3か所	下層	

表3 縄文時代土坑一覽表

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模(m, 深さ(cm))		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (重層関係 古→新)
				長軸(径)×短軸(径)	深さ					
1	A 1 g6	N-67°-W	楕円形	1.20×1.04	28	縦斜	平坦	人為	縄文土器	SI7, SK67→本跡
2	A 1 g3	-	[円形]	0.42×(0.26)	46	外傾・縦斜	U字状	人為	縄文土器	SK3→本跡
3	A 1 g3	-	-	(1.18×0.89)	48	縦斜	平坦	人為	縄文土器	本跡→SK2・28
4	A 1 g3	N-65°-E	楕円形	0.32×0.28	68	直立・外傾	U字状	人為	縄文土器	
5	A 1 g4	N-13°-E	不定形	0.90×0.78	85	直立	平坦	人為	縄文土器	SK34→本跡
6	A 1 g5	-	[円形]	1.18×(0.97) 1.52×1.10	80	内傾・外傾	平坦	人為	縄文土器, 打製石斧	SI7-8→本跡→SK25
8	A 1 g7	-	円形	1.05×0.98	7	外傾	平坦	人為	縄文土器	
9	A 1 g7	-	-	(1.90×0.50)	34	縦斜	平坦	人為	縄文土器	本跡→SK11
10	A 1 g7	N-80°-E	楕円形	1.32×0.92	15	外傾	平坦	人為	縄文土器	
11	A 1 g7	-	[円形・楕円形]	(1.60×0.64)	76	外傾	平坦	人為	縄文土器, 石鏃	SK9・12→本跡
12	A 1 g7	N-20°-E	不整形円形	(1.19)×0.97 1.26×1.26	82	内傾・外傾	平坦	人為	縄文土器	本跡→SK11
14	A 1 g7	N-82°-W	楕円形	0.78×0.70	18	縦斜	平坦	人為	縄文土器	
15	A 1 g7	-	円形	0.35×0.35	54	直立・縦斜	U字状	人為	縄文土器	
16	A 1 g8	N-22°-W	楕円形	0.78×0.58	89	直立	U字状	人為	縄文土器	
17	A 1 g8	N-72°-W	隅丸長方形	0.81×0.36	102	直立	平坦	人為	縄文土器	本跡→SK18
18	A 1 g8	N-64°-E	楕円形	0.48×0.40	70	直立	U字状	人為	縄文土器	SK17・19→本跡
19	A 1 g8	-	[円形・楕円形]	(1.62×0.43) (1.87×0.66)	92	内傾・外傾	平坦	自然	縄文土器	本跡→SK18
20	A 1 g9	N-3°-W	[楕円形]	(0.96)×0.86	18	縦斜	皿状	人為	縄文土器	SK27→本跡
21	A 1 g8	-	円形	2.12×1.94	46	外傾	平坦	人為	縄文土器, 凹石	本跡→SK22
22	A 1 g8	N-65°-W	楕円形	0.66×0.52	42	縦斜	皿状	人為	縄文土器, 土器片瓦盤	SK21→本跡
23	A 2 g1	-	[円形]	(1.15×0.66) (2.60×0.98)	214	内傾・外傾	平坦	自然・人為	縄文土器, 磨石	本跡→SK26
24	A 2 g2	N-64°-W	[円形]	1.83×(1.40) 2.11×(1.42)	97	内傾・外傾	平坦	人為	縄文土器, 棒状凹石, 凹石	本跡→SK72
25	A 1 g5	-	[円形]	0.92×(0.48)	46	縦斜	皿状	人為	縄文土器	SBSK6→本跡
26	A 2 g1	-	-	2.70×-	80	外傾	皿状	人為	縄文土器	SK23→本跡
27	A 1 g9	N-10°-W	[隅丸長方形]	(1.30)×1.02	86	外傾	皿状	人為	縄文土器	本跡→SK20
28	A 1 g3	N-57°-E	隅丸方形	0.30×0.30	28	外傾	U字状	人為	縄文土器	SK3→本跡
31	A 1 g6	-	[円形]	(1.13×1.05) (1.47×1.40)	75	内傾・外傾	平坦	自然	縄文土器	本跡→SI7,SK32
32	A 1 g6	-	円形	0.40×0.38	18	外傾	皿状	人為	縄文土器	SK31→本跡
33	A 1 g4	N-3°-W	楕円形	(0.78×0.54)	16	縦斜	平坦	人為	縄文土器	SI8→本跡→SK36
34	A 1 g4	-	[楕円形]	0.74×(0.50)	34	外傾	皿状	人為	縄文土器	SK35→本跡→SK5
35	A 1 g4	N-24°-W	[楕円形]	0.74×(0.50)	24	縦斜	皿状	人為	縄文土器	本跡→SK34・41
36	A 1 g5	-	[円形・楕円形]	1.98×(1.53)	83	直立	平坦	人為	縄文土器	SBSK33→本跡
37	A 1 g5	N-5°-E	楕円形	0.68×0.50	74	直立・外傾	平坦	人為	縄文土器	SI7→本跡
40	A 1 g4	N-50°-W	楕円形	(0.48)×0.32	21	縦斜	U字状	人為	縄文土器	
41	A 1 g4	-	楕円形	(0.40×0.36)	42	外傾	皿状	人為	縄文土器	SK35→本跡
42	A 1 g4	-	[楕円形]	(0.34)×0.40	52	外傾	皿状	人為	縄文土器	SI8→本跡
46	A 1 g6	-	[円形]	1.04×(0.36)	50	縦斜	平坦	人為	縄文土器	本跡→SI7
51	A 1 g5	N-50°-W	楕円形	0.50×0.38	67	外傾	V字状	人為	縄文土器	SI7-8→本跡
52	A 1 g4	-	[円形]	0.38×(0.32)	18	外傾	平坦	人為	縄文土器	
53	A 1 c9	-	円形	0.66×0.62	18	外傾	皿状	人為	縄文土器	
54	A 1 c9	-	円形	0.30×0.30	14	外傾	平坦	人為	縄文土器	
55	A 1 c0	-	円形	0.38×0.36	12	縦斜	皿状	人為	縄文土器	
56	A 1 c0	N-60°-W	楕円形	0.70×0.55	25	縦斜	皿状	人為	縄文土器	SI2→本跡
57	A 1 c9	N-4°-W	楕円形	0.26×0.23	12	外傾	皿状	人為	縄文土器	
58	A 1 c9	-	円形	0.27×0.25	15	外傾	皿状	人為	縄文土器	

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模(m, 深さ12cm)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (重複関係 古→新)
				長軸径×短軸径	深さ					
59	A 1b8	N-41°-E	楕円形	0.40×0.34	26	外傾	平坦	人為	縄文土器	
60	A 1b8	N-32°-E	楕円形	0.50×0.45	20	外傾	平坦	人為	縄文土器	
61	A 1d8	-	楕円形	0.32×0.28	25	外傾	平坦	人為		
62	A 1d8	N-14°-E	楕円形	0.40×0.32	24	外傾	平坦	人為	縄文土器	
63	A 1d9	-	円形	0.32×0.32	44	外傾	U字状	人為	縄文土器	SI1
64	A 1b0	-	円形	0.28×0.28	15	緩斜	U字状	人為	縄文土器	
65	A 1b7	-	円形	0.45×0.44	13	緩斜	皿状	人為		
66	A 1b7	-	円形	0.45×0.45	10	緩斜	皿状	人為		
67	A 1g6	-	[円形]	2.32×(1.44)	24	外傾・緩斜	平坦	人為	縄文土器	本跡→SI7,SK1
68	A 1e0	-	円形	0.18×0.18	8	外傾	皿状	人為		
69	A 1b0	N-85°-W	不定形	0.38×0.30	14	外傾	皿状	人為	縄文土器	
70	A 1b0	-	円形	0.22×0.22	8	外傾	皿状	人為	縄文土器	
71	A 1e9	-	円形	0.24×0.22	18	外傾	U字状	人為	縄文土器	
72	A 2h3	-	[隅丸方形]	0.52×(0.44)	14	緩斜	皿状	人為	縄文土器, 石鏝	SK24→本跡
73	A 1d7	-	円形	0.28×0.27	28	外傾	U字状	人為	縄文土器	本跡→SD1
74	A 1d7	N-62°-E	楕円形	0.32×0.24	12	外傾	皿状	人為	縄文土器	本跡→SD1
75	A 1e7	-	円形	0.28×0.27	44	外傾	U字状	人為	縄文土器	本跡→SD1
76	A 1e7	N-30°-E	楕円形	0.42×0.38	18	外傾	平坦	人為	縄文土器	本跡→SD1
78	A 1b8	N-20°-E	楕円形	0.18×0.14	12	外傾	平坦	人為		
79	A 1e7	N-17°-W	楕円形	0.25×0.18	7	緩斜	平坦	人為	縄文土器	
80	A 1e7	-	円形	0.23×0.21	8	外傾	平坦	人為		
81	A 1e8	-	円形	0.20×0.20	18	外傾・緩斜	U字状	人為	縄文土器	
82	A-2d0	-	円形	1.19×1.14	10	外傾	平坦	人為	縄文土器	本跡→SI9
83	A-2d9	N-33°-E	楕円形	0.40×0.25	10	外傾	平坦	人為		SK388→本跡→SI9
84	A-2d9	N-9°-E	楕円形	0.69×0.48	37	緩斜	皿状	人為		SK85-86→本跡→SI2
85	A-2d9	N-88°-E	隅丸長方形	0.91×0.52	46	外傾	皿状	人為	縄文土器	SK86-87→本跡→SK84SD2
86	A-2d9	-	[円形]	1.20×(0.54)	95	外傾	平坦	人為	縄文土器	本跡→SK84-85,SD2
87	A-2j9	N-14°-E	[楕円形]	0.87×(0.65)	80	緩斜	皿状	人為	縄文土器, 石鏝	本跡→SK85,SD2
88	A-2j9	N-64°-E	楕円形	0.43×0.37	56	直立・外傾	皿状	人為	縄文土器	
89	A-2j9	N-52°-E	楕円形	0.27×0.20	22	外傾	皿状	人為	縄文土器	
90	A-2j9	N-28°-E	楕円形	0.21×0.17	31	外傾	皿状	人為		
91	A-2j9	-	円形	0.53×0.50	35	直立・外傾	平坦	人為	縄文土器	
92	A-2j9	-	円形	0.46×0.42	56	直立・外傾	皿状	人為	縄文土器	
93	A-2j0	N-62°-E	楕円形	1.02×0.92	25	緩斜	平坦	人為	縄文土器, 石剣未製品	
94	A-2j0	-	円形	0.41×0.39	64	直立	皿状	人為	縄文土器	
96	A-2d0	-	円形	1.22×1.17	25	緩斜	平坦	人為		SK707→本跡→SI9,SE3
98	A-2j0	N-17°-E	不整楕円形	1.70×1.52	84	外傾	皿状	人為	縄文土器	SK710→本跡→SI11
99	A-2j0	-	円形	0.74×0.72	49	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK387→本跡→SK100
100	A-2j0	N-27°-W	楕円形	0.63×0.50	56	外傾	皿状	人為	縄文土器	SK99→本跡
101	A-2j0	-	円形	0.48×0.47	58	外傾	皿状	人為	縄文土器	
102	A-2j0	N-53°-W	楕円形	0.48×0.34	23	外傾	皿状	人為	縄文土器	
103	A-2j0	-	円形	0.50×0.46	32	緩斜・外傾	皿状	人為	縄文土器	SK104→本跡
104	A-2j0	N-81°-E	[楕円形]	(0.50)×0.44	24	緩斜	凹凸	人為		本跡→SK103
105	A-2j0	-	円形	0.50×0.46	38	外傾	平坦	人為	縄文土器	
106	A-2j0	N-25°-W	楕円形	0.46×0.34	18	外傾	皿状	人為		
107	A-2j0	N-82°-W	楕円形	0.43×0.27	22	外傾	皿状	人為		

番号	位置	長軸(方向)	平面形	規模(m, 深さはcm)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (重複関係 古→新)
				長軸径×短軸径	深さ					
108	A-2j0	-	円形	0.46×0.43	13	緩斜・外傾	皿状	人為	縄文土器	
109	A-1j1	-	円形	0.50×0.46	54	直立	皿状	人為	縄文土器	
110	A-2h0	N-32°-W	[楕円形]	0.54×(0.23)	44	外傾	皿状	人為	縄文土器	本跡→SK113
112	A-1i1	-	円形	0.37×0.36	32	緩斜	皿状	-		
113	A-1h1	N-65°-E	楕円形	0.52×0.45	36	外傾	皿状	人為	縄文土器	SK110→本跡
114	A-1h1	-	円形	0.46×0.45	17	外傾・緩斜	平坦	人為	縄文土器	SK117→本跡
115	A-1h1	-	円形	0.53×0.51	36	外傾・緩斜	皿状	人為	縄文土器	
116	A-1i1	-	円形	0.31×0.31	23	外傾	皿状	人為	縄文土器	
117	A-1h1	-	円形	0.82×0.77	18	外傾	皿状	人為	縄文土器	本跡→SE2SK114
118	A-1h1	N-28°-E	楕円形	0.55×0.49	27	緩斜	皿状	人為	縄文土器	
119	A-1h1	-	円形	0.64×0.60	38	外傾・緩斜	皿状	人為	縄文土器	
120	A-1h1	-	[円形・楕円形]	(0.41×0.36)	45	外傾	皿状	人為	縄文土器	本跡→SK417
121	A-1h1	-	円形	0.56×0.53	19	緩斜	平坦	人為	縄文土器	
122	A-1h2	-	円形	0.50×0.49	57	外傾	皿状	人為	縄文土器	
123	A-1h1	-	円形	0.56×0.55	37	外傾・緩斜	凹凸	人為		
124	A-1i2	-	[円形]	1.05×(0.98)	39	外傾	皿状	人為	縄文土器, 磨石, 凹石	本跡→SB1SE2
125	A-1i2	-	円形	2.20×2.16	30	緩斜	皿状	人為	縄文土器, 土器片内産, 磨製石斧, 石錘, 棒状凹石	本跡→SK452-482
126	A-1i2	-	円形	0.42×0.39	55	外傾	皿状	人為	縄文土器	SB1
128	A-1i1	N-40°-W	楕円形	0.76×0.65	39	外傾	皿状	人為	縄文土器	本跡→SH11
129	A-1j1	N-4°-E	楕円形	0.77×0.65	27	緩斜	皿状	人為	縄文土器	SK405→本跡
130	A-1i1	N-11°-W	楕円形	1.02×0.92	26	緩斜	皿状	人為		
131	A-1i2	-	円形	0.43×0.43	10	外傾・緩斜	皿状	人為		
132	A-1i2	N-69°-E	楕円形	0.76×0.64	26	外傾	皿状	人為	縄文土器	SK383-384→本跡
133	A-1i2	N-23°-W	楕円形	0.68×0.38	6	緩斜	皿状	人為		
134	A-1i2	N-34°-W	楕円形	0.26×0.22	24	直立	平坦	人為		
135	A-1i2	N-5°-E	楕円形	0.52×0.40	20	外傾	平坦	人為	縄文土器	
136	A-1i2	N-80°-W	楕円形	0.48×0.41	42	外傾	皿状	人為	縄文土器	
144	A-1h2	N-33°-E	[楕円形]	(0.54)×0.52	28	緩斜	皿状	人為	縄文土器	本跡→SK145
145	A-1h2	N-23°-E	楕円形	0.55×(0.33)	43	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK144→本跡
149	A-1h2	-	円形	0.45×0.42	68	外傾・直立	皿状	人為	縄文土器	SB1
150	A-1h2	-	円形	0.30×0.29	43	直立	皿状	人為	縄文土器	SB1
152	A-1i3	N-11°-E	楕円形	0.59×0.48	53	外傾	皿状	人為	縄文土器	SK411-412→本跡
155	A-1i2	-	円形	0.45×0.43	53	外傾	皿状	人為		SK156→本跡
156	A-1i2	-	[円形・楕円形]	(0.35×0.10)	(33)	外傾	-	人為	縄文土器	本跡→SK155
157	A-1i2	N-48°-W	楕円形	0.36×0.28	30	外傾・緩斜	皿状	人為		
158	A-1i2	-	円形	0.31×0.31	25	外傾	皿状	人為	縄文土器	
159	A-1i3	N-13°-E	楕円形	0.36×0.32	33	外傾	皿状	人為	縄文土器	
160	A-1i3	N-18°-W	楕円形	0.60×0.53	70	外傾・直立	皿状	人為	縄文土器	
161	A-1h2	-	円形	0.54×0.51	48	外傾・直立	皿状	人為	縄文土器	SK193→本跡
162	A-1h2	-	円形	0.73×0.73	72	外傾	平坦	人為	縄文土器, 凹石	SK478→本跡 SB1
165	A-1h3	-	円形	0.50×0.47	54	直立	平坦	人為	縄文土器	SB1
166	A-1h3	N-2°-E	楕円形	0.44×0.39	53	直立	平坦	人為	縄文土器	SK389→本跡 SB1
168	A-1i3	N-88°-W	楕円形	0.51×0.38	40	直立	皿状	人為	縄文土器	
170	A-1h3	N-5°-E	楕円形	0.73×(0.57)	46	直立	皿状	人為	縄文土器	本跡→SK382 SB1
171	A-1i3	N-34°-W	楕円形	0.50×0.44	48	直立	平坦	人為	縄文土器	
172	A-1i3	N-58°-E	楕円形	0.63×0.48	26	緩斜	皿状	人為		

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模(m, 深さ12cm)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (重複関係 古→新)
				長軸径×短軸径	深さ					
173	A-1i3	N-13°-W	楕円形	0.39×0.34	58	直立	凹凸	人為	縄文土器	
174	A-1i3	-	円形	0.68×0.62	60	直立	凹凸	人為	縄文土器	
176	A-1i3	-	円形	0.40×0.37	30	外傾・直立	平坦	人為	縄文土器	
179	A-1h4	N-27°-W	楕円形	0.60×0.49	72	外傾	凹状	人為	縄文土器	SK408→本跡
180	A-1h3	N-47°-W	楕円形	0.77×0.60	51	外傾	凹状	人為	縄文土器, 打製石斧	本跡→SK416
181	A-1g3	-	円形	0.48×0.47	22	外傾	凹状	人為	縄文土器	
182	A-1g3	-	円形	0.36×0.36	36	直立	平坦	人為	縄文土器	
183	A-1g3	-	円形	0.78×0.75	8	緩斜	平坦	人為	縄文土器	
184	A-1g3	-	円形	0.47×0.46	30	外傾	凹状	人為		
186	A-1h3	N-90°	楕円形	0.56×0.49	41	外傾	平坦	人為	縄文土器	
187	A-1i2	N-90°	楕円形	(0.68)×0.61	44	緩斜・直立	凹状	人為		本跡→SK451
188	A-1h4	N-27°-E	楕円形	0.65×0.56	30	緩斜	凹状	人為	縄文土器	SK400→本跡
189	A-1h4	N-44°-E	楕円形	0.41×0.36	71	直立	凹状	人為	縄文土器	
190	A-1h3	-	円形	0.60×0.57	47	外傾	凹状	人為	縄文土器	
191	A-1j1	-	円形	0.38×0.38	20	外傾	凹状	人為	縄文土器	
193	A-1h2	-	不整形円形	1.20×1.10	48	外傾	平坦	人為		本跡→SK161
195	A-1g3	-	円形	0.28×0.27	38	直立・外傾	凹状	人為	縄文土器	
198	A-1g4	N-85°-E	楕円形	1.38×1.13	13	緩斜	平坦	人為	縄文土器, 石鏃, 磨石, 打製石斧, 棒状凹石	SI13A-B-14SK199-310 →本跡
199	A-1g4	N-44°-W	楕円形	1.83×1.44	30	緩斜	平坦	人為	縄文土器	本跡→ SI13A-B-14SK198-239
201	A-1g5	N-64°-E	楕円形	0.55×0.46	17	外傾	平坦	人為		SK769→本跡 SI13A-B
204	A-1h4	N-55°-E	楕円形	(1.55)×1.00	16	緩斜	平坦	人為	縄文土器	本跡→SI13A-B
206	A-1i4	-	円形	0.56×0.53	59	外傾	凹状	人為	縄文土器, 凹石	
207	A-1h4	N-26°-E	不整形円形	1.30×1.00	133	直立	平坦	人為	縄文土器	
210	A-1i2	N-20°-W	楕円形	[0.50]×0.44	40	外傾・緩斜	凹状	人為	縄文土器	本跡→SK381
212	A-1h5	-	円形	0.36×0.36	20	外傾	凹状	人為	縄文土器	本跡 →SI13A-B, SK225
214	A-1g6	N-61°-E	楕円形	2.14×1.86	89	直立	平坦	人為	縄文土器, 磨石, 棒状凹石, 石製未製品	SK499-582-891→ 本跡→SI12
217	A-1g7	N-46°-W	楕円形	1.14×1.00	18	外傾・緩斜	凹状	人為	縄文土器	SK891→本跡
218	A-1g7	N-61°-E	不定形	1.44×(0.76)	77	緩斜	凹状	人為	縄文土器	SK260-566-891 →本跡
222	A-1g6	N-29°-E	楕円形	1.17×0.94	30	外傾	平坦	人為	縄文土器, 土器片凹盤, 棒状凹石	SI15→本跡
223	A-1h4	N-52°-E	楕円形	0.94×0.69	25	外傾	凹状	人為	縄文土器, 棒状凹石	本跡→SI13A-B
225	A-1h5	N-4°-E	楕円形	0.97×0.73	52	外傾・緩斜	凹状	人為	縄文土器	SK212-277→本跡 SI13A-B
226	A-1g5	N-8°-E	楕円形	0.45×0.29	28	緩斜	凹状	人為	縄文土器	SI13A-B
227	A-1g5	N-58°-E	楕円形	0.82×0.72	35	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK759→本跡 →SI13A-B-15
230	A-1h3	-	円形	0.43×0.40	56	直立	凹状	人為	縄文土器, 石鏃	
239	A-1g4	N-20°-W	[楕円形]	(0.56)×0.52	78	外傾	凹状	-	縄文土器	SK199→本跡 →SI13A-B
244	A-1i5	N-74°-E	楕円形	0.80×0.66	20	緩斜	平坦	人為	縄文土器	SI14SK446→本跡 →SI15
252	A-1g6	-	円形	0.43×0.41	40	外傾	凹状	人為	縄文土器	SK494-929→本跡
260	A-1g7	N-65°-E	[円形・楕円形]	(0.42×0.38)	38	緩斜	平坦	人為	縄文土器	本跡→SK218
262	A-1g7	N-43°-W	楕円形	0.60×(0.45)	49	外傾	凹状	人為	縄文土器	本跡→SK263
263	A-1g7	N-58°-E	楕円形	0.53×0.47	18	緩斜	平坦	人為	縄文土器	SK262→本跡
264	A-1i8	N-33°-W	[楕円形]	[1.56×1.22]	14	緩斜	凹状	人為	縄文土器	SI18→本跡 →SK316
265	A-1i8	-	円形	0.62×0.60	44	外傾・直立	平坦	-	縄文土器	
266	A-1i8	-	円形	0.78×0.77	13	緩斜	平坦	人為	縄文土器	SI18
267	A-1i8	-	円形	0.46×0.42	-	-	-	-	縄文土器	SK316→本跡 →SI18
268	A-1i8	-	円形	2.08×1.96	56	外傾	平坦	人為	縄文土器, 土偶, 土器片凹盤, 打製石斧	SI18SK334-509-823→ 本跡→SK492

番号	位置	長軸(図)方向	平面形	規模(m,深さはcm)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考(新)
				長軸径×短軸径	深さ					
270	A-1f9	N-81°-E	楕円形	0.86×0.68	26	外傾	皿状	人瓦	縄文土器	SK328-529-534 → 本跡 SI20
271	A-1e8	-	[円形・楕円形]	(2.10×0.99)	33	直立	平坦	人瓦	縄文土器, 打製石斧	SI18SK323 → 本跡
272	A-1f8	N-84°-E	楕円形	0.33×0.30	22	外傾	皿状	人瓦	縄文土器	
273	A-1f8	-	円形	0.31×0.29	34	外傾	皿状	人瓦		
276	A-1f9	N-5°-E	[楕円形]	0.42×[0.38]	16	外傾	皿状	人瓦		本跡 → SI18
277	A-1h5	N-14°-W	[楕円形]	1.09×(0.80)	54	外傾・緩斜	皿状	人瓦	縄文土器	本跡 → SK225-423 SI13A-B
279	A-1e9	-	楕円形	0.36×0.30	43	直立	皿状	人瓦		SI18 → 本跡
282	A-1e9	-	-	0.50×(0.46)	58	外傾	皿状	人瓦	縄文土器	SI18
286	A-1f9	N-41°-W	楕円形	0.47×0.36	27	外傾	平坦	人瓦		SI20 → 本跡
288	A-1e9	-	円形	1.30×1.22	55	直立	平坦	人瓦	縄文土器, 土器片円盤, 打製石斧, 磨石	SI20, SK374 → 本跡 → SK599-600-794-795
293	A1e1	-	円形	0.39×0.38	27	外傾	平坦	人瓦		SK294 → 本跡
294	A1e1	-	[円形]	0.43×(0.27)	28	-	[平坦]	人瓦	縄文土器	本跡 → SK293, SK295
295	A1e1	-	[円形]	0.43×(0.36)	39	外傾	皿状	人瓦	縄文土器	SK294-297 → 本跡 → SK299
296	A1e1	N-70°-W	楕円形	0.40×0.34	16	外傾・緩斜	皿状	人瓦		
297	A1e1	-	[楕円形]	(0.52×0.24)	14	外傾	皿状	人瓦		本跡 → SK295-299
298	A1e1	N-53°-E	楕円形	0.66×0.54	50	外傾	皿状	人瓦	縄文土器	
299	A1e1	N-50°-E	楕円形	1.26×1.14	77	直立	平坦	人瓦	縄文土器	SK295-297-631 → 本跡
300	A1e1	-	[楕円形]	0.61×(0.32)	55	直立	平坦	人瓦	縄文土器	SK631-906 → 本跡
301	A1e1	N-20°-W	楕円形	0.98×0.83	17	外傾	皿状	人瓦	縄文土器	
302	A1e1	-	円形	0.90×0.83	48	内傾・外傾	皿状	人瓦	縄文土器	
303	A1e2	-	[楕円形]	(0.94)×1.38	15	緩斜・外傾	皿状	人瓦	縄文土器	SK330 → 本跡 → SK409, 400
304	A1e2	-	円形	0.70×0.68	39	外傾・直立	平坦	人瓦	縄文土器	
305	A1e2	-	円形	1.26×1.20	88	外傾	皿状	人瓦	縄文土器	SK712-765-766 → 本跡
306	A1e2	-	円形	0.44×0.44	49	外傾	皿状	人瓦	縄文土器	
308	A-1g7	N-63°-E	[楕円形]	0.70×(0.17)	30	外傾	皿状	-	縄文土器	
310	A-1g4	N-78°-E	楕円形	1.87×1.25	60	直立	凹凸	人瓦	縄文土器	SI14 → 本跡 → SI13A-B, SK108-426
311	A1e3	-	円形	2.30×2.15	35	外傾	平坦	人瓦	縄文土器, 棒状凹石	SK394-560-561-521-571 → 本跡 → SK312-301
312	A1e3	[N-85°-E]	[不整楕円形]	0.90×[0.76]	62	外傾・緩斜	凹凸	人瓦	縄文土器	SK331-561 → 本跡
315	A-1g8	N-65°-E	楕円形 楕円形	2.03×(1.68) 2.74×(1.72)	48	内傾・直立	平坦	人瓦	縄文土器, 磨石, 棒状凹石	SK700 → 本跡
316	A-1e8	N-32°-E	楕円形	2.74×2.65	56	内傾	平坦	人瓦	縄文土器, 磨製石斧, 棒状凹石, 凹石	SK394-400-326 → 本跡 → SI3SK260-486-487-545
317	A-1g8	-	円形	0.52×0.51	58	外傾	皿状	人瓦		SK571 → 本跡
325	A-1f9	N-80°-E	不整楕円形	1.53×1.05	61	直立	凹凸	人瓦	縄文土器	SK700 → 本跡
328	A-2j0	-	円形	0.74×0.69	16	外傾・緩斜	平坦	人瓦		
329	B-2a9	-	円形	0.51×0.49	23	緩斜	皿状	人瓦	縄文土器	
330	A-2j9	N-77°-E	楕円形	0.41×0.35	18	緩斜	平坦	人瓦		
331	A-2j9	N-17°-W	楕円形	0.39×0.34	12	緩斜	皿状	人瓦	縄文土器	
332	A-2j9	N-6°-E	楕円形	0.57×0.45	37	外傾・緩斜	皿状	人瓦	縄文土器	
333	A-2j8	N-10°-E	不整楕円形	1.28×1.00	20	外傾	平坦	人瓦	縄文土器	SK334 → 本跡
334	A-2j9	N-57°-E	不整楕円形	2.15×1.41	58	外傾	平坦	人瓦	縄文土器, 土器片円盤, 棒状凹石	本跡 → SK333-335
335	A-2j9	-	円形	0.93×0.86	20	外傾・直立	平坦	人瓦	縄文土器, 棒状凹石	SK334 → 本跡
336	B-2a9	-	円形	0.44×0.42	32	直立	皿状	人瓦	縄文土器	
337	B-2a9	N-68°-E	楕円形	0.92×(0.64)	44	外傾・直立	皿状	人瓦	縄文土器	
338	A-2j9	N-40°-W	楕円形	0.48×0.40	35	直立・緩斜	皿状	人瓦	縄文土器	
339	B-2a9	N-26°-W	楕円形	0.52×0.47	42	外傾	凹凸	人瓦	縄文土器	
340	B-2a8	N-67°-E	楕円形	0.65×0.58	19	直立・緩斜	皿状	人瓦	縄文土器	SK341 → 本跡
341	B-2a8	N-25°-W	楕円形	0.59×(0.42)	14	外傾	平坦	人瓦	縄文土器	本跡 → SK340

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模(m, 深さ12cm) 長軸径×短軸径	深さ	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (重複関係 古→新)
342	B-2j8	N-77°-E	楕円形	0.81×0.66	38	外傾	凹状	人為	縄文土器	本跡→SK392
343	B-2a8	N-9°-W	楕円形	0.74×0.66	24	外傾	凹状	人為	縄文土器	SK392→本跡
344	A-2j8	N-67°-E	楕円形	0.90×0.61	17	外傾・緩斜	平坦	人為		
345	B-2a8	N-76°-W	楕円形	0.67×0.55	9	緩斜	凹状	人為	縄文土器	本跡→SK347
346	B-2a8	-	円形	0.72×0.66	48	外傾・直立	凹凸	人為	縄文土器	
347	B-2a8	N-54°-E	楕円形	0.62×0.40	10	緩斜	平坦	人為		SK345→本跡
348	B-2a8	-	円形	0.20×0.19	2	緩斜	凹状	人為	縄文土器	
349	B-2a8	-	円形	0.42×0.40	32	外傾・直立	凹状	人為	縄文土器	
350	B-2a8	N-67°-W	楕円形	0.94×0.84	37	外傾・緩斜	凹状	人為	縄文土器	
351	A-2j7	N-35°-E	楕円形	0.81×0.70	41	外傾	平坦	自然	縄文土器	
352	B-2a7	-	円形	0.21×0.21	2	緩斜	平坦	人為		
353	B-2a7	N-29°-W	楕円形	0.76×0.63	11	緩斜	平坦	人為		
354	B-2a8	N-61°-E	楕円形	0.36×0.28	28	外傾・直立	凹状	人為	縄文土器	
355	B-2a7	N-16°-E	楕円形	0.75×0.66	54	外傾	凹状	人為	縄文土器	
356	B-2b7	N-62°-W	楕円形	0.50×0.42	27	外傾	平坦	人為	縄文土器	
357	B-2a7	N-12°-E	楕円形	0.63×0.40	19	外傾・緩斜	凹状	人為	縄文土器	SK358→本跡
358	B-2a7	N-75°-W	楕円形	0.58×0.49	37	外傾	凹状	人為	縄文土器	SK357→本跡
359	B-2a7	N-59°-W	楕円形	0.42×0.38	40	直立	平坦	人為	縄文土器	
361	B-2a7	-	円形	[0.67]×0.64	49	外傾	平坦	自然		本跡→SK363
363	B-2a7	N-33°-W	楕円形	1.49×1.28	113	直立	凹凸	人為	縄文土器、柱材	SK361-495→本跡 →SK365
366	B-2a6	-	円形	0.33×0.30	19	外傾	凹状	人為		
367	B-2b6	N-42°-W	楕円形	0.53×0.44	21	緩斜	凹凸	人為		
369	B-2a6	[N-32°-W]	[楕円形]	(0.56)×0.55	73	外傾・直立	平坦	人為		本跡→SK404
370	B-2a6	-	円形	0.49×0.46	42	外傾	平坦	人為	縄文土器	
371	B-2b6	-	円形	0.25×0.25	19	外傾	V字	人為		
372	B-2b6	N-68°-W	不整楕円形	0.81×0.72	33	直立・緩斜	凹状	人為	縄文土器	SK386→本跡
373	B-2b6	-	円形	0.29×0.28	1	外傾	凹状	人為	縄文土器	
374	B-2a6	-	円形	0.34×0.32	15	外傾	凹状	人為	縄文土器	
375	B-2b6	N-28°-E	楕円形	0.42×0.37	12	外傾	平坦	人為	縄文土器	
376	B-2b6	-	円形	0.52×0.49	17	外傾	平坦	人為	縄文土器	
377	B-2a6	N-77°-W	楕円形	0.27×0.24	14	外傾	凹状	人為	縄文土器	
378	B-2b6	-	円形	0.23×0.23	14	外傾・直立	凹状	人為	縄文土器	
379	B-2a6	N-68°-W	楕円形	1.33×1.01	83	内傾・外傾	凹状	人為	縄文土器	
380	B-2a6	N-7°-W	楕円形	0.24×0.21	11	直立	平坦	人為		
381	A-1j2	N-57°-E	楕円形	0.42×0.34	30	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK210→本跡
382	A-1h3	-	円形	0.31×0.29	24	直立	平坦	人為	縄文土器	SK170→本跡 SBI
383	A-1j2	N-44°-W	楕円形	0.61×0.52	50	外傾	凹状	人為	縄文土器	本跡→SK132
384	A-1j2	N-29°-W	[楕円形]	0.46×[0.35]	18	外傾	凹状	人為		本跡→SK132
385	B-2b7	-	円形	0.44×0.43	18	外傾・直立	凹状	人為		
386	B-2a6	[N-11°-W]	不整楕円形	0.71×(0.59)	22	外傾	凹状	人為	縄文土器	本跡→SK372
387	A-2j0	N-19°-W	楕円形	0.72×0.52	28	緩斜	凹状	人為	縄文土器	本跡→SK99
388	A-2j9	N-61°-E	楕円形	0.71×0.57	35	外傾	平坦	人為		本跡→S19,SK83, SD2
389	A-1h3	N-78°-W	楕円形	0.43×(0.27)	40	外傾	凹状	人為		本跡→SK166 SBI
390	A-2j8	-	[円形]	0.50×(0.33)	25	外傾	平坦	人為	縄文土器	本跡→SD2
391	A-2j9	N-26°-W	楕円形	1.02×0.85	12	緩斜	平坦	人為	縄文土器	本跡→SD2
392	B-2a8	[N-75°-W]	[楕円形]	(0.80×0.60)	27	外傾	凹状	人為	縄文土器	SK342→本跡 →SK343

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模(m, 深さはcm)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (重複因循古→新)
				長軸径×短軸径	深さ					
395	A-2j8	N-48°-E	楕円形	0.44×0.31	60	外傾	皿状	土為		本跡→SD2
396	A-2j8	-	円形	0.31×0.29	20	緩斜	皿状	土為	縄文土器	本跡→SD2
397	B-2a7	-	円形	0.39×0.39	12	外傾	皿状	土為	縄文土器	
398	B-2a6	N-39°-W	楕円形	0.49×0.42	22	外傾	皿状	土為	縄文土器	
399	B-2a6	N-79°-E	楕円形	0.23×0.19	13	外傾・緩斜	皿状	土為		
400	A-1h3	N-6°-W	楕円形	0.45×(0.35)	67	外傾・直立	皿状	土為	縄文土器	本跡→SK188
401	A-1i2	N-24°-W	楕円形	0.54×0.34	9	外傾・緩斜	皿状	土為		
402	A-1i4	N-16°-W	[円形・楕円形]	0.66×(0.41)	24	緩斜	皿状	土為	縄文土器	SK403-473→本跡
403	A-1i4	N-28°-W	[円形・楕円形]	(0.58×0.56)	18	緩斜	皿状	土為	縄文土器	SK473→本跡 →SK402
405	A-1i1	-	円形	0.30×0.28	46	直立	皿状	土為	縄文土器	本跡→SK129
406	A-2j0	N-14°-E	楕円形	0.26×0.18	16	外傾・直立	皿状	土為	縄文土器	
407	A-1h3	-	円形	0.88×0.86	30	外傾	平坦	土為		
408	A-1h4	N-22°-W	[楕円形]	[0.64]×0.53	83	外傾	皿状	土為	縄文土器	本跡→SK179
409	A-2j0	-	円形	0.28×0.28	-	-	-	-		
410	A-1i4	N-29°-W	[楕円形]	(0.38)×0.32	18	外傾	皿状	土為		
411	A-1i3	N-29°-E	[楕円形]	0.52×(0.26)	33	緩斜	皿状	土為		本跡→SK152
412	A-1i3	N-11°-W	楕円形	0.32×0.26	41	外傾	皿状	土為		本跡→SK152
413	A-1i2	N-7°-W	楕円形	0.45×0.40	61	外傾	皿状	土為	縄文土器	SBI
414	A-1h5	N-21°-W	不整楕円形	0.41×0.36	47	外傾	平坦	土為		SK481→本跡 SH13A-B
416	A-1h3	-	円形	0.30×0.29	23	外傾・緩斜	皿状	土為		SK180→本跡
417	A-1h1	N-61°-E	[円形・楕円形]	(0.50×0.39)	50	外傾	皿状	土為		SK120→本跡
422	A-1i4	N-46°-E	[円形・楕円形]	0.72×(0.65)	70	外傾	皿状	土為	縄文土器	SK481→本跡 SH13A-B
423	A-1h5	N-18°-E	[楕円形]	0.96×(0.58)	13	外傾	平坦	土為		SK277→本跡 SH13A-B
425	A-1g4	-	円形	0.90×0.90	23	外傾	平坦	土為	縄文土器	SH14→本跡
426	A-1g4	-	円形	0.50×0.47	47	外傾	皿状	土為	縄文土器	SH14SK310→本跡
428	A-1g4	N-2°-E	楕円形	0.59×0.42	13	外傾・緩斜	平坦	土為	縄文土器	SH14→本跡 SH13A-B
429	A-1h5	N-67°-E	楕円形	0.57×(0.47)	107	外傾	皿状	土為	縄文土器	SH13A-B, SK769→ 本跡→SK479
430	A-1i7	-	-	(0.36)×0.62	26	外傾	平坦	-	縄文土器, 石鏃	本跡→SK316-526 SH8
431	A-1g4	-	円形	0.56×0.51	26	外傾	皿状	土為	縄文土器	SH13A-B
432	A-1h4	-	円形	0.69×0.63	53	外傾	皿状	土為	縄文土器	SH13A-B
433	A-1g5	N-29°-E	[楕円形]	0.58×0.47	26	外傾	皿状	土為	縄文土器	SH13A-B, SK434
434	A-1g5	N-88°-E	不整楕円形	0.40×0.25	15	外傾	皿状	土為		SH13A-B, SK434
435	A-1g5	N-67°-E	楕円形	0.55×0.40	51	直立	皿状	土為		SH13A-B
436	A-1g5	N-48°-E	[楕円形]	(0.49×0.32)	31	外傾	皿状	土為		SH13A-B
437	A-1g5	-	円形	0.63×0.58	63	外傾	皿状	土為	縄文土器	SK708→本跡 SH13A-B
438	A-1g5	-	円形	0.84×0.84	17	緩斜	平坦	土為	縄文土器	SK781→本跡 →SH12-13A-B
439	A-1g6	-	円形	0.82×0.78	72	外傾	平坦	土為	縄文土器	SH15SK499→本跡 →SH12, SK762
443	A-1g7	N-62°-W	[楕円形]	1.08×(0.51)	27	外傾・緩斜	平坦	土為	縄文土器	本跡→SH17
446	A-1i5	-	円形	1.40×1.28	71	内傾	平坦	土為	縄文土器, 土器片, 円盤, 石鏃	本跡→SK244
450	A-1h4	-	円形	0.69×0.67	34	外傾・緩斜	皿状	土為	縄文土器	SH13A-B
451	A-1i2	N-33°-W	楕円形	0.62×(0.50)	70	直立	皿状	土為	縄文土器	SK187→本跡→SBI
452	A-1i2	N-2°-W	楕円形	0.36×0.28	27	外傾	皿状	土為	縄文土器	SK125→本跡 SBI
453	A-1i2	N-75°-E	楕円形	0.47×(0.35)	31	緩斜	平坦	土為	縄文土器, 棒状凹石	SK477→本跡 →SK454
454	A-1i2	N-22°-E	楕円形	0.42×0.36	60	外傾	皿状	土為	縄文土器	SK453→本跡
458	A-1h2	-	円形	0.61×0.57	47	外傾	皿状	土為	縄文土器, 石鏃	SK885→本跡 SBI

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模(m, 深さ12cm) 長軸径×短軸径	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (垂直関係 古→新)	
461	A-1h2	-	円形	0.48×0.44	68	直立	凹状	人為	縄文土器	SB1
462	A-1h2	N-86°-W	楕円形	0.48×0.40	40	外傾	凹状	人為	縄文土器	
463	A-1h2	-	円形	0.37×0.36	18	外傾・緩斜	平坦	人為	縄文土器	
465	A-1h1	-	円形	0.34×0.32	28	外傾	平坦	人為	縄文土器	本跡→SE2
466	A-1h1	N-46°-W	楕円形	0.52×(0.45)	83	外傾	平坦	人為	縄文土器	本跡→SK474 SE2
467	A-1h1	N-13°-W	楕円形	0.33×0.29	14	外傾	平坦	人為		
469	A-1h3	-	円形	0.37×0.36	40	外傾	凹状	人為		SK470→本跡 SB1
470	A-1h3	N-80°-E	[円形・楕円形]	0.29×(0.23)	61	外傾	凹状	人為		本跡→SK469 SB1
471	A-1g3	N-25°-W	楕円形	0.40×0.31	62	直立・外傾	凹状	人為	縄文土器	
472	A-1h5	-	円形	0.45×0.42	26	外傾	凹状	人為	縄文土器	SI13A-B
473	A-1h4	N-70°-W	[楕円形]	0.76×(0.73)	16	外傾・緩斜	平坦	人為	縄文土器	本跡→SK402-403
474	A-1h1	N-50°-E	楕円形	0.50×0.36	41	直立・外傾	凹状	人為		SK466→本跡
475	A-1h4	N-23°-E	楕円形	0.45×0.38	86	直立	平坦	人為	縄文土器	SI13A-B
477	A-1i2	N-2°-E	[方形・長方形]	0.30×(0.18)	20	外傾	凹状	人為		本跡→SK453
478	A-1h2	N-62°-E	[楕円形]	0.57×(0.47)	34	外傾	平坦	人為	縄文土器、石鏝	本跡→SK162 SB1
479	A-1h5	N-58°-E	[楕円形]	0.54×0.44	69	外傾・直立	凹状	人為	縄文土器	SK429-693→本跡 SI13A-B
480	A-1i2	N-47°-W	楕円形	0.42×0.35	40	外傾	凹状	人為	縄文土器	SB1
481	A-1h5	N-65°-E	[楕円形]	(1.50×0.85)	15	緩斜	平坦	-	縄文土器	本跡→SK414-422 SI13A-B
482	A-1i2	-	円形	0.54×0.53	52	内傾	凹状	人為	縄文土器、石鏝	SK125→本跡 SB1
483	A-1e9	-	円形	0.37×0.36	10	緩斜	凹状	人為		SK543→本跡 SI18
484	A-1e9	N-36°-W	楕円形	0.26×0.20	20	外傾	凹状	人為		SI18
485	A-1i8	N-25°-E	楕円形	1.08×0.42	46	緩斜	凹状	人為	縄文土器	SK316→本跡 SI18
487	A-1e8	N-64°-E	楕円形	0.70×0.59	-	-	-	-	縄文土器	SK316→本跡 SI18
488	A-1i0	-	[円形・楕円形]	(1.33×0.50)	36	直立	凹凸	自然	縄文土器、凹石	SK925→本跡 SI20
489	A1e2	N-2°-E	楕円形	0.45×0.38	84	外傾・直立	平坦	人為		SK303→本跡
490	B-2a7	-	円形	0.54×0.53	-	-	-	-	縄文土器	
492	A-1e8	N-57°-E	[楕円形]	0.62×(0.44)	35	外傾・直立	凹状	-	縄文土器	SK268-823→本跡 SI18
493	A1d2	-	[円形]	0.42×(0.23)	61	外傾・直立	平坦	人為	縄文土器、棒状凹石	SK303→本跡
494	A-1g6	-	[円形]	0.52×(0.36)	58	外傾	凹状	人為	縄文土器	本跡→SK252
495	B-2a6	[N-36°-W]	[楕円形]	0.90×(0.53)	-	-	-	-		本跡→SK363
499	A-1g6	N-56°-W	[楕円形]	(1.10×0.92)	24	緩斜	凹状	人為	縄文土器、磨石、凹石、石鏝	本跡→SI2SK214-439
500	A-1i8	N-51°-W	[楕円形]	1.18×(0.38)	10	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK501→本跡
501	A-1g8	N-25°-W	円形 楕円形	2.27×2.20 2.63×2.26	40	内傾・緩斜	平坦	人為	縄文土器、棒状凹石	SK571→本跡 →SI17SK500
502	A-2j0	N-36°-W	楕円形	0.84×0.74	68	外傾	平坦	人為	縄文土器	本跡→SI9SK705
504	A1e2	-	円形	0.60×0.54	52	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK311→本跡
505	A1e3	-	円形	0.95×0.90	55	外傾	凹状	人為	縄文土器	SK914→本跡 →SK311-683 SK871 SI26-27
509	A1e1	N-25°-W	楕円形	0.65×0.45	63	直立	凹状	人為	縄文土器	
510	A1e2	-	円形	0.65×0.61	18	直立	凹状	人為	縄文土器	本跡→SK303
513	A-1e0	-	円形	2.16×2.04	55	外傾	凹凸	人為	縄文土器	SK822-833→本跡→ SI20SK738-799-830-831
521	A-1i7	-	円形	0.56×0.52	54	外傾	凹状	人為	縄文土器	SK522→本跡
522	A-1i7	-	円形	2.30×2.26	44	外傾	凹状	人為	縄文土器、石鏝	SK329-548→本跡→ SK321-541-555-564-651
523	A-1i7	N-65°-E	楕円形	1.83×1.02	20	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK548→本跡→ SK522-547-555
524	A-1e7	-	-	0.40×(0.32)	20	外傾	平坦	-	縄文土器	SK525→本跡
525	A-1e7	-	円形	0.95×0.87	59	外傾	凹状	-	縄文土器	本跡→SK524
526	A-1i8	-	[楕円形]	(0.65×0.12)	-	-	-	-		SK430→本跡 →SK316 SI18

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模(m, 深さはcm) 長軸(径)×短軸(径) 深さ	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (重複関係 古→新)
528	A-1f9	-	-	0.48×(0.44)	28	直立	瓦状	-	SK704 → 本跡 → SK270-529-572 S120
529	A-1f9	-	-	(1.19)×1.12	28	直立	瓦状	人為	SK328-704 → 本跡 → SK270-524-572
531	A-1e2	N-23°-E	楕円形	0.58×0.50	33	直立	平坦	人為	縄文土器
534	A-1f9	-	-	1.00×(0.98)	21	緩斜	瓦状	人為	縄文土器 SK529 → 本跡 → SK268-270 S118
535	A-1g6	-	円形	0.55×0.52	43	外傾	瓦状	人為	縄文土器
536	A-1g5	-	円形	0.42×0.40	33	外傾	平坦	人為	縄文土器
537	A-1f6	-	-	(0.28×0.13)	28	直立	瓦状	人為	本跡 → S115, SK539
539	A-1f5	-	[円形・楕円形]	(2.38×1.55) (1.32×1.03)	85	内傾・緩斜	平坦	自然・人為	縄文土器 S115 → SK337-551-552 → 本跡
540	A-1f5	N-25°-W	楕円形	0.52×0.47	95	外傾・直立	瓦状	人為	縄文土器 S115 → 本跡
541	A-1f6	N-13°-E	楕円形	1.19×1.08	52	内傾	平坦	人為	縄文土器, 磨石, 石鏝, 凹石, 石鏝
542	A-1g7	-	円形	0.33×0.31	37	直立	瓦状	人為	S115 → 本跡
543	A-1e9	N-2°-E	[楕円形]	0.40×0.36	37	直立	瓦状	人為	本跡 → SK483
545	A-1e8	-	円形	0.52×0.48	32	緩斜・直立	瓦状	人為	S118, SK316 → 本跡
547	A-1f7	N-40°-W	楕円形	0.74×0.58	66	外傾	瓦状	人為	縄文土器 SK323-548 → 本跡
548	A-1f7	N-45°-E	楕円形	2.10×1.64	26	外傾	平坦	人為	本跡 → SK323-522-547-555 SK803-804 → 本跡 → S112, S113A-B
549	A-1h5	N-52°-E	[楕円形]	0.97×(0.83)	34	緩斜	瓦状	人為	縄文土器
551	A-1f5	N-9°-E	楕円形	0.40×0.35	24	外傾	平坦	人為	縄文土器 本跡 → SK539 S115
552	A-1f5	N-68°-E	楕円形	0.68×0.48	87	緩斜・直立	瓦状	人為	縄文土器 本跡 → SK539 S115
553	A-1d2	-	[円形・楕円形]	(3.28×1.22)	74	外傾	平坦	人為	縄文土器, 棒状凹石 SK883 → 本跡
554	A-1f7	-	円形	0.48×0.44	18	緩斜	瓦状	人為	縄文土器 SK322 → 本跡 SK380
555	A-1f7	N-55°-E	楕円形	0.90×0.76	36	外傾・直立	瓦状	人為	縄文土器, 棒状凹石 SK322-523 → 本跡
559	A-1f8	-	円形	1.10×1.05	37	外傾	平坦	人為	縄文土器 SK823 → 本跡 → SK268 S118
560	A-1e3	-	不規則形	0.51×0.48	16	緩斜・直立	瓦状	人為	縄文土器 本跡 → SK311
561	A-1e3	N-67°-E	楕円形	0.71×0.58	27	外傾・緩斜	瓦状	人為	縄文土器 本跡 → SK311-312
562	A-1d5	-	[円形・楕円形]	(2.08×1.40)	45	直立	平坦	人為	縄文土器, 石鏝 S128, SK669-671 → 本跡 → SK756
563	A-1f6	N-83°-W	[楕円形]	(1.08)×-	28	緩斜	瓦状	人為	縄文土器, 棒状凹石 S115 → 本跡 → S117
564	A-1f6	N-67°-W	楕円形	1.52×0.82	35	外傾	平坦	人為	縄文土器 SK322 → 本跡
565	A-1e1	-	円形	0.51×0.48	32	直立	瓦状	人為	SK909 → 本跡
566	A-1g7	N-5°-E	楕円形	0.72×0.34	53	直立	瓦状	人為	SK891 → 本跡 → SK218
567	A-1g5	N-48°-W	楕円形	1.02×(0.86)	82	外傾・緩斜	瓦状	人為	縄文土器 S113A-B-15, SK760 → 本跡
571	A-1g8	-	-	(0.77×0.60)	18	外傾	瓦状	人為	縄文土器 本跡 → SK317-501
572	A-1f9	N-45°-W	[楕円形]	0.68×[0.58]	43	外傾	瓦状	人為	縄文土器 SK328-529 → 本跡 → SK704 S120
575	A-1e9	N-5°-W	楕円形	0.36×0.30	12	外傾	平坦	-	縄文土器 S118
580	A-1f7	N-42°-E	楕円形	[0.44]×0.38	7	直立	平坦	人為	SK354
581	A-1g6	-	円形	1.15×1.06	40	直立	平坦	人為	縄文土器 本跡 → S115
582	A-1h6	N-14°-E	[楕円形]	(1.15×1.10)	80	外傾	瓦状	人為	縄文土器 SK891 → 本跡 → S112, SK214
583	A-1g6	N-32°-W	[円形・楕円形]	0.55×(0.46)	29	緩斜	瓦状	人為	縄文土器 SK741-891 → 本跡 S120
586	A-1f9	N-10°-W	楕円形	0.50×0.44	31	外傾・直立	瓦状	人為	SK668-704 → 本跡 S120
588	A-1f9	N-15°-W	三角形	0.62×0.53	56	外傾・直立	瓦状	人為	縄文土器 SK670-704 → 本跡 S120
590	A-1f9	N-56°-E	楕円形	0.38×0.34	64	直立	瓦状	人為	縄文土器, 石鏝 S120
591	A-1f9	N-61°-E	隅丸方形	0.39×0.36	39	直立	瓦状	人為	縄文土器 S120
593	A-1e0	N-20°-W	[楕円形]	0.54×(0.46)	28	外傾	平坦	人為	縄文土器 SK900 → 本跡 → S120
595	A-1e9	N-32°-W	楕円形	0.56×0.49	45	外傾・緩斜	瓦状	人為	縄文土器 SK780 → 本跡 S120
596	A-1e9	N-72°-E	楕円形	0.61×0.48	37	外傾	瓦状	人為	本跡 → SK397 S120
597	A-1e9	N-32°-W	隅丸長方形	0.73×0.51	41	直立・緩斜	瓦状	人為	SK596 → 本跡 S120

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模(m, 深さ12cm) 長軸径×短軸径	深さ	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (重複関係 古→新)
599	A-1e9	N-39°-W	楕円形	0.46×0.30	35	外傾	U字状	-	縄文土器	SK288-795 → 本跡 SI20
600	A-1e9	N-64°-W	[楕円形]	(0.28)×0.28	45	外傾	皿状	-	縄文土器	SK288 → 本跡 SI20
601	A-1e9	[N-87°-W]	[隅丸方形]	1.03×(0.54)	40	外傾	皿状	-	縄文土器	SI20
602	A-1e0	N-61°-E	楕円形	1.57×1.40	25	外傾	平坦	人為	縄文土器、凹石	SI20, SK603 → 本跡
603	A-1e0	[N-20°-W]	[楕円形]	1.14×-	25	-	平坦	人為	縄文土器	SI20, SK902 → 本跡 → SK602
606	A-1f0	-	不整形円形	0.57×0.55	32	直立・外傾	皿状	人為	縄文土器	SK900 → 本跡 SI20
608	A-1e9	N-55°-W	[楕円形]	(0.34)×0.34	48	直立	皿状	-	縄文土器	SK928 → 本跡 → SK794 SI20
609	A-1e0	N-61°-E	隅丸方形	0.37×0.34	49	-	皿状	人為		SI20
613	A-1e0	N-68°-E	不整形円形	1.01×0.88	63	直立	平坦	人為	縄文土器、石鏝	SI20, SK900 → 本跡 → SKR37
614	A-1e0	N-78°-E	楕円形	0.78×0.52	16	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK615-90 → 本跡 → SI20
615	A-1e0	N-75°-E	楕円形	0.85×0.63	13	外傾	平坦	人為	縄文土器、凹石	SK900 → 本跡 → SI20, SK614
619	A-1e0	-	[円形]	0.34×(0.18)	34	外傾	皿状	-		SI20
623	A-1e0	N-69°-E	楕円形	0.36×0.32	12	外傾	皿状	人為		本跡 → SI20
624	A-1e0	-	[円形]	0.43×(0.22)	39	外傾	凹凸	-		
625	A-1e0	N-16°-E	楕円形	0.42×0.36	12	外傾	皿状	人為	縄文土器	本跡 → SI20
626	A-1e0	N-3°-E	楕円形	0.41×0.32	30	直立・外傾	皿状	人為		SI20
629	A1e1	-	円形	0.55×0.53	-	-	-	-	縄文土器、磨石	SK631 → 本跡
631	A1e1	-	[円形]	1.87×(1.49)	17	外傾	凹凸	人為	縄文土器	SK901-905 → 本跡 → SK299-300-629-830-906
632	A1f1	-	[楕円形]	0.83×(0.56)	-	-	-	-	縄文土器、磨製石斧	SK909 → 本跡
636	A1e3	N-60°-W	楕円形	0.66×0.56	22	緩斜	凹凸	人為	縄文土器	SI26 → 本跡 → SI29 SI27
638	A1e3	N-65°-W	楕円形	0.44×0.32	27	直立・外傾	皿状	人為	縄文土器	SK639 → 本跡 SI26-27
639	A1e3	N-20°-E	楕円形	0.52×0.37	50	直立	皿状	人為		SI26 → 本跡 → SK638 SI27
644	A1e3	N-57°-E	楕円形	0.44×0.38	23	直立・外傾	皿状	人為	縄文土器	SI26-27
645	A1e3	N-81°-E	楕円形	0.46×0.36	16	緩斜	皿状	人為		SI26-27
647	A1e4	N-30°-W	楕円形	0.66×0.41	38	緩斜	平坦	人為	縄文土器	SI27 → 本跡 → SK648 SI26-29
648	A1e4	N-55°-E	楕円形	0.40×0.30	72	直立	凹凸	人為	縄文土器	SI26-27, SK647 → 本跡 SI29
650	A1e3	-	-	1.10×(0.80)	38	外傾	平坦	人為	縄文土器	SI29, SK820 → 本跡 SI26-27
651	A-1f7	-	円形	0.34×0.33	24	直立	皿状	人為	縄文土器	本跡 → SK322
652	A-1b6	N-61°-E	楕円形	0.70×0.52	76	外傾・直立	平坦	人為	縄文土器	SK653 → 本跡 → SI12
653	A-1b6	N-88°-W	[楕円形]	0.67×(0.24)	28	外傾	平坦	人為	縄文土器	本跡 → SI12, SK652
654	A1e4	N-30°-W	[楕円形]	0.60×(0.48)	27	外傾	凹凸	-	縄文土器	本跡 → SI29 SI26-27
655	A1e4	N-7°-E	楕円形	(0.70)×0.56	22	直立	凹凸	-	縄文土器	本跡 → SI29 SI26-27
656	A-1f9	N-21°-W	楕円形	0.31×0.25	30	外傾・直立	皿状	人為	縄文土器	SK668-704 → 本跡 SI20
657	A1e4	N-36°-W	楕円形	(1.18)×0.88	26	緩斜	皿状	人為	縄文土器	SI26-27, SK672 → 本跡 → SI29, SK658
658	A1e4	N-25°-E	[楕円形]	(0.58)×0.50	40	外傾	皿状	人為	縄文土器	SI26, SK657-659 → 本跡 SI27-29
659	A1e4	N-24°-E	[楕円形]	0.45×[0.26]	46	直立	皿状	人為		SI26 → 本跡 → SK658 SI27-29
664	A1e4	N-30°-W	[楕円形]	(0.29)×0.25	29	直立	皿状	人為	縄文土器	SI26-27-29
665	A1e4	N-15°-W	楕円形	0.27×0.23	12	直立	平坦	人為		SI26-27-29
666	A1e4	-	-	0.34×(0.18)	16	外傾	平坦	人為		SI26-27-29
667	A-1f9	-	隅丸方形	0.46×0.46	32	直立・内傾	平坦	人為	縄文土器	SK704 → 本跡 SI20
668	A-1f9	N-48°-E	[楕円形]	(0.40)×0.40	21	直立	皿状	人為	縄文土器	SK704 → 本跡 → SK586-656 SI20
669	A1d5	N-47°-E	[楕円形]	0.45×(0.24)	16	緩斜	皿状	人為		SK671-750 → 本跡 → SK562 SI28
670	A-1f9	N-85°-W	楕円形	0.39×0.26	39	直立・外傾	皿状	人為	縄文土器	SK704 → 本跡 → SK588 SI20
671	A1d5	-	-	0.58×(0.24)	28	外傾	皿状	人為	縄文土器	SK562 → 本跡 → SK669 SI28

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模(m, 深さはcm)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (重複関係 古→新)
				長軸径×短軸径	深さ					
672	A 1 d4	-	[円形]	1.10×(1.04)	30	外傾	平坦	人為	縄文土器	SI27-29 → 本跡 → SK657 SI28
673	A - 1 19	N - 40° - E	隅丸方形	0.43×0.41	38	直立	皿状	人為	縄文土器	SK704 → 本跡 SI20
674	A - 1 e9	N - 3° - W	楕円形	0.30×0.23	50	外傾	皿状	人為	縄文土器	SI20 → 本跡 → SK288
676	A - 1 19	N - 33° - W	楕円形	[0.34]×0.31	29	直立	皿状	人為	縄文土器	SI20SK704 → 本跡
678	A 1 e5	-	[円形]	0.55×0.53	118	外傾	皿状	人為	縄文土器	本跡 → SK855 SI29-30
679	A 1 e5	-	円形	0.35×0.33	61	直立・外傾	皿状	-	縄文土器	SK853 → 本跡 SI30
680	A 1 e5	-	円形	0.35×0.33	61	直立・外傾	皿状	人為	縄文土器, 磨石	SI30
681	A 1 e5	N - 72° - E	楕円形	0.42×0.30	122	直立・外傾	皿状	人為	縄文土器	SK853 → 本跡 SI30
682	A - 1 b4	N - 21° - E	楕円形	0.33×0.29	12	縦斜	皿状	-	縄文土器	SI13A-B
683	A 1 d3	N - 14° - E	楕円形	0.72×0.63	12	外傾	皿状	人為	縄文土器, 磨石	SK505-914 → 本跡 SI26
684	A 1 d3	-	円形	0.40×0.40	46	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK868 → 本跡 → SK870 SI26-27
685	A 1 d3	-	-	0.36×(0.28)	20	外傾	平坦	人為	縄文土器	SI27 → 本跡 SI26-29
687	A 1 d3	N - 10° - W	不整形	0.72×0.60	110	直立	平坦	人為	縄文土器	SI29 → 本跡 SI26-27
688	A 1 e5	N - 35° - E	[楕円形]	0.34×0.28	59	縦斜	皿状	人為		SI29 → 本跡 SI28-30
690	A 1 d4	N - 5° - W	楕円形	0.62×0.49	26	外傾	平坦	人為	縄文土器	SI26 → 本跡 SI27-29
693	A - 1 h5	-	[円形]	0.55×0.53	71	外傾	皿状	-	縄文土器	本跡 → SK479 SI13A-B
694	A 1 d3	N - 65° - W	楕円形	0.32×0.24	14	縦斜	皿状	人為	縄文土器	SI26-27
696	A 1 d3	-	-	-	10	外傾	皿状	人為	縄文土器	SK697 → 本跡 SI26-27
697	A 1 d3	N - 38° - W	楕円形	0.47×0.39	38	外傾	皿状	人為	縄文土器	本跡 → SK696 SI26-27
700	A - 1 19	-	[円形・楕円形]	(2.30×1.78) (2.48×1.75)	52	内傾	平坦	人為		本跡 → SK315-325
701	A - 1 10	-	-	0.42×(0.35)	41	外傾	皿状	人為		SK704 → 本跡 → SK702 SI20
702	A - 1 19	-	-	(0.80×0.24)	45	外傾	-	人為	縄文土器	SK701-704 → 本跡 SI20
703	A - 1 19	-	-	(0.70×0.12)	42	直立	皿状	人為		SK704 → 本跡
704	A - 1 19	-	[隅丸方形]	2.70×(2.90)	33	-	平坦	人為		SK656 他5基 → 本跡 → SI20SK328 他7基
705	A - 2 10	N - 80° - W	楕円形	0.50×0.43	39	外傾	皿状	人為	縄文土器	SK502 → 本跡 → SI9
706	A - 1 11	N - 69° - E	[楕円形]	[1.16]×0.56	32	縦斜	傾斜	人為	縄文土器	本跡 → SI11
707	A - 2 h0	-	[円形]	(0.32×0.28)	38	直立・外傾	平坦	人為		本跡 → SK96 SK708-711SE3
708	A - 2 h0	N - 15° - E	[円形・楕円形]	0.41×(0.33)	31	直立・外傾	平坦	人為	縄文土器	SK707 → 本跡 → SK711SE3
710	A - 2 10	-	[円形]	1.12×(0.72)	38	直立	皿状	人為	縄文土器, 磨石, 石皿	本跡 → SI1SK98
711	A - 2 10	N - 48° - W	不整形楕円形	0.47×0.37	-	-	-	-	縄文土器	SK707-708 → 本跡
712	A 1 e2	-	[円形]	1.05×(0.86)	38	外傾	皿状	人為	縄文土器	SK765 → 本跡 → SI25SK305-713
713	A 1 e2	N - 44° - W	[楕円形]	[0.98]×0.73	33	直立	平坦	人為		SK712-765 → 本跡 → SI25
715	A 1 e2	-	円形	0.40×0.37	21	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK911 → 本跡 → SI25
716	A 1 e2	N - 85° - W	[楕円形]	2.65×(1.93)	43	彎曲	平坦	人為	縄文土器	SK738-739-862 → 本跡 → SI25SK767 他4基
718	A 1 d3	N - 39° - W	[楕円形]	0.36×(0.30)	32	外傾	皿状	人為	縄文土器	SI26-27 → 本跡 SI27-29
723	A 1 d3	N - 33° - E	楕円形	0.82×0.54	22	縦斜	皿状	人為	縄文土器	SI26 → 本跡 SI27-29
729	A 1 d4	N - 35° - W	楕円形	0.43×0.39	20	縦斜・外傾	皿状	人為	縄文土器	SI29SK737-918 → 本跡 → SI26-27
730	A 1 d4	-	円形	0.53×0.50	42	外傾	皿状	人為	縄文土器, 凹石	SK739 → 本跡 → SI28-29
732	A 1 d4	-	[円形]	0.40×(0.35)	46	外傾	平坦	人為	縄文土器	SI28-29 → 本跡 → SK730
736	A 1 d5	N - 47° - E	楕円形	0.30×0.24	9	縦斜	平坦	人為	縄文土器	SI28 → 本跡 SI30
737	A 1 d4	N - 76° - E	[楕円形]	0.42×(0.30)	50	外傾	皿状	人為	縄文土器	本跡 → SK729-801 SI26-27-29
738	A 1 e1	N - 36° - W	楕円形	0.56×0.49	20	外傾・直立	平坦	人為	縄文土器	SK739 → 本跡 → SI25SK716-804
739	A 1 e1	N - 8° - W	楕円形	0.50×0.36	31	外傾	皿状	人為		本跡 → SK728 → SI25SK716

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模(m, 深さ12cm) 長軸(径)×短軸(径) 深さ	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (重複関係 古→新)	
740	A-1e9	-	隅丸方形	0.47×0.46	60	内傾・外傾	皿状	人為	縄文土器	SI20,SK790→本跡 SI28
741	A-1g6	N-31°-W	[楕円形]	0.59×0.54	36	緩斜	皿状	人為	縄文土器	本跡→SK583-891
742	A-1f6	-	円形	0.45×0.42	40	外傾	皿状	人為	縄文土器	SI15→本跡
743	A-1g6	-	円形	0.59×0.55	43	外傾	平坦	人為	縄文土器	SI15→本跡
744	A-1d5	N-17°-E	不整楕円形	0.44×0.38	12	緩斜	皿状	人為		SK745-748→本跡 SI28
745	A-1d5	N-89°-E	[楕円形]	0.48×0.41	13	-	平坦	人為		本跡→SK744-746 748 SI28
746	A-1d5	N-86°-W	[楕円形]	0.36×(0.20)	20	外傾	皿状	人為		SK562-745-747→ 本跡 SI28
747	A-1d5	N-67°-E	[楕円形]	0.55×0.48	15	緩斜	皿状	人為		本跡→SK746 SI28
748	A-1d5	N-7°-E	[楕円形]	0.22×(0.15)	18	緩斜・内傾	皿状	人為		SK745→本跡→ SK744-750
750	A-1d5	N-23°-E	不整楕円形	0.39×0.26	26	緩斜	皿状	人為	縄文土器	SK748→本跡→ SK669 SI28
751	A-1d5	N-7°-W	楕円形	0.29×0.23	32	外傾	皿状	人為		SI28
752	A-1d5	N-21°-W	楕円形	0.51×0.35	39	直立	皿状	人為		SI28
753	A-1d5	N-87°-E	不整楕円形	0.61×0.50	32	緩斜	皿状	人為	縄文土器, 棒状四石	SI28
754	A-1e2	N-83°-W	楕円形	0.45×0.29	22	緩斜・外傾	凹凸	人為	縄文土器	本跡→SI25
756	A-1d5	-	[円形]	(1.12×0.68)	57	内傾	平坦	人為	縄文土器	SI28,SK562→本跡
758	A-1f1	N-48°-W	楕円形	1.50×0.90	45	直立	皿状	人為	縄文土器	SK513-908-909→ 本跡→SI20
759	A-1g5	N-49°-E	楕円形	0.63×(0.55)	31	緩斜	皿状	人為	縄文土器	本跡→SK227-760 SI13A-B-15
760	A-1g5	-	円形	0.57×0.56	28	緩斜	皿状	人為		SI13A-B,SK759→ 本跡→SK367 SI15
761	A-1g5	N-26°-W	楕円形	0.55×0.49	53	直立	皿状	人為	縄文土器	SI15,SK762→本跡
762	A-1g6	-	円形	0.43×(0.32)	65	外傾	皿状	人為	縄文土器	SI15,SK439→本跡→ SK761
764	A-1e2	N-7°-E	楕円形	0.51×0.44	29	外傾	皿状	人為		本跡→SI25
765	A-1e2	N-63°-E	楕円形	2.04×1.66	38	直立	平坦	人為	縄文土器	SK76→本跡 →SI25,SK762-765,769
766	A-1e2	N-56°-E	楕円形	0.67×0.53	80	直立	皿状	人為	縄文土器, 石鏝	本跡→SK305-765
767	A-1e2	N-23°-W	楕円形	0.92×0.69	108	直立	皿状	人為	縄文土器, 棒状四石	SK716-763-862-910 →本跡→SI25
768	A-1g6	N-61°-E	楕円形	0.53×0.47	47	外傾	皿状	人為	縄文土器	本跡→SK891
769	A-1h5	N-17°-E	楕円形	1.13×0.81	65	外傾	平坦	人為	縄文土器	本跡 →SI13A-B,SK201-429
771	A-1g6	-	円形	1.10×(0.85)	10	緩斜	皿状	人為	縄文土器	本跡→SI15
779	A-1h5	N-48°-E	楕円形	0.26×0.23	48	外傾	U字状	-	縄文土器	本跡→SI12 SI13A-B
780	A-1h5	N-75°-E	[楕円形]	0.80×0.40	16	外傾	皿状	人為	縄文土器	本跡→SI12,SK781 SI13A-B
781	A-1g5	N-10°-W	[楕円形]	1.14×(0.95)	47	直立	平坦	人為	縄文土器	SK780→本跡 →SI12-13A-B,SK438
782	A-1h5	N-61°-E	楕円形	0.44×0.40	31	外傾	皿状	人為	縄文土器	本跡→SI12 SI13A-B
783	A-1h5	-	円形	0.33×0.33	50	直立	皿状	人為	縄文土器	本跡→SI12 SI13A-B
784	A-1g7	N-10°-E	楕円形	0.30×0.27	29	外傾・直立	皿状	-	縄文土器	
785	A-1g7	N-18°-W	楕円形	0.28×0.23	13	外傾・直立	皿状	-		
786	A-1g7	N-2°-E	楕円形	0.27×0.23	37	直立	皿状	-		
787	A-1g6	N-70°-E	[楕円形]	0.55×0.48	48	外傾	皿状	人為	縄文土器	本跡→SI12-13A-B, SK788
788	A-1h6	N-87°-W	楕円形	0.71×0.50	38	外傾	皿状	人為	縄文土器	SK787→本跡 →SI12 SI13A-B
789	A-1e9	-	不正円形	0.35×0.34	52	外傾	皿状	-	縄文土器	本跡→SK595 SI20
790	A-1e9	N-40°-W	隅丸長方形	0.39×0.35	25	外傾	皿状	-	縄文土器	本跡→SI20,SK740
791	A-1e9	N-28°-W	楕円形	0.54×0.45	30	外傾	皿状	-	縄文土器	SI20
793	A-1e2	-	円形	0.54×0.50	50	直立	平坦	人為	縄文土器	SK716→本跡 →SI25,SK803
794	A-1e9	N-40°-W	[隅丸長方形]	0.33×(0.29)	68	直立	V字状	-	縄文土器	SK288-608-795→ 本跡 SI20
795	A-1e9	-	[円形]	0.29×(0.08)	22	外傾	皿状	-		SK288→本跡 →SK599-79 SI20

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模(m, 深さはcm)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (重複関係古→新)
				長軸(径×)短軸(径)	深さ					
798	A-1g5	N-12'-W	[楕円形]	0.60×0.43	30	外傾	皿状	-		本跡 → SI13A・BSK437
799	A-1f0	-	[円形]	0.49×(0.49)	38	外傾	皿状	-	縄文土器	SK513-900 → 本跡 → SK830 SI20
800	A-1h5	-	円形	0.28×0.27	68	直立・外傾	皿状	-	縄文土器	SI13A-B → 本跡 → SI12
801	A1d4	N-19'-E	楕円形	1.04×0.87	118	直立	平坦	人為	縄文土器	SI26-29SK737 → 本跡
803	A1e2	N-15'-E	楕円形	0.23×0.20	52	外傾	皿状	人為		SK793 → 本跡 → SI25
804	A1e1	-	円形	0.72×0.68	26	外傾	凹凸	人為	縄文土器	SK716-738-805-907- 909-927 → 本跡 → SI25
805	A1e1	N-40'-W	楕円形	0.78×0.70	16	外傾	皿状	人為	縄文土器	SK716-907-909 → 本跡 → SI25SK804
808	A1d6	-	円形	0.41×0.40	21	緩斜	皿状	-		
809	A1d6	-	円形	0.26×0.25	36	外傾	皿状	-	縄文土器	
811	A1d5	-	円形	0.31×0.29	46	外傾	皿状	-		
813	A1d5	-	円形	0.31×0.31	50	直立	平坦	-	縄文土器	
814	A1e5	N-10'-E	[楕円形]	0.39×0.31	12	緩斜	皿状	-		本跡 → SK854 SI30
816	A1d5	N-53'-E	楕円形	0.79×0.59	90	直立	平坦	-	縄文土器	SD10 → 本跡 → SI29 SK859
818	A1e4	N-5'-E	[楕円形]	0.54×(0.26)	37	緩斜	皿状	-	縄文土器	SI27-28
820	A1e3	N-3'-W	[楕円形]	0.44×(0.24)	37	直立	凹凸	-		本跡 → SI28SI650 SI26-27
821	A1d3	N-64'-E	楕円形	0.38×0.32	32	直立	平坦	-	縄文土器	SK871 → 本跡 → SK311
823	A-1e8	N-65'-E	[楕円形]	2.40×(1.94) 2.50×(2.21)	50	内嚢・直立	平坦	人為		本跡 → SI28SK289 271-492-559
830	A-1e0	N-17'-E	楕円形	0.51×0.44	45	外傾	皿状	-	縄文土器	SK513-799-833-900 → 本跡 SI20
831	A-1f0	-	円形	0.48×0.44	80	外傾	U字状	-	縄文土器	SK513 → 本跡 SI20
832	A-1e0	-	隅九方形	0.64×0.63	88	外傾	皿状	-	縄文土器	本跡 → SI20SK513-833
833	A-1e0	N-13'-E	楕円形	0.98×0.56	80	外傾	平坦	-	縄文土器	SK832 → 本跡 → SK513-830 SI20
837	A-1e0	-	円形	0.31×0.30	31	外傾	U字状	-	縄文土器	SK613 → 本跡 SI20
848	A-2f9	-	円形	0.31×0.30	-	-	-	-	縄文土器	
849	A-2f9	-	円形	0.52×0.52	-	-	-	-		
850	A1e1	-	円形	0.31×0.30	-	-	-	-		SK631 → 本跡
851	A1e5	-	円形	0.24×0.22	12	外傾	平坦	-		SI28-30
852	A1e5	N-20'-E	楕円形	0.36×0.32	18	外傾	平坦	-		SI28-30
853	A1e5	N-63'-E	[不整楕円形]	1.18×(0.68)	8	-	平坦	人為	縄文土器、凹石	SD10 → 本跡 → SK679-681
854	A1e5	N-20'-W	楕円形	0.24×0.20	30	外傾	平坦	人為		SK814 → 本跡 SI30
855	A1e5	N-62'-E	楕円形	0.20×0.17	21	外傾	平坦	-		SK678 → 本跡 SI29-30
856	B-2b7	-	-	(0.94×0.3)	-	-	-	-	縄文土器	本跡 → SK857-858
857	B-2b7	[N-39'-W]	[楕円形]	[1.14]×1.04	92	直立・外傾	平坦	人為	縄文土器	SK856-858 → 本跡
858	B-2b7	[N-2'-W]	[楕円形]	(1.40)×1.13	80	-	皿状	人為	縄文土器	SK856 → 本跡 → SK857
859	A1d4	N-3'-E	楕円形	0.65×0.44	36	外傾	皿状	-		SD10 → 本跡 → SI29 SI28SK816
862	A1e2	N-40'-W	楕円形	0.44×0.34	33	緩斜	皿状	人為		本跡 → SI25SK716-767
863	A1e4	N-30'-E	[楕円形]	(0.39)×0.39	16	緩斜	皿状	-		本跡 → SK864 SI26-27-29
864	A1e4	N-30'-E	[楕円形]	(0.30)×0.30	20	緩斜	皿状	-		SI27-29SK863-866 → 本跡 → SK865 SI26
865	A1e3	N-64'-E	楕円形	0.26×0.23	44	外傾	皿状	-		SK864-866 → 本跡 SI26-27-29
866	A1e3	N-6'-W	[楕円形]	(0.49)×0.30	14	緩斜	皿状	-		SI27-29 → 本跡 → SK864-865 SI26
868	A1d3	-	円形	0.36×0.36	26	外傾・緩斜	皿状	-		SK870 → 本跡 → SK684 SI27
869	A1d3	-	円形	0.37×0.35	32	外傾	皿状	-		SK870 → 本跡
870	A1d3	-	-	1.10×(0.42)	21	外傾	平坦	-		本跡 → SK684-868-869 SI26-27
871	A1e3	N-21'-E	楕円形	0.49×0.38	68	-	皿状	-		SK505 → 本跡 → SK311-821

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模(m, 深さ12cm) 長軸(径)×短軸(径) 深さ	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (重復関係 古→新)
883	A-1e2	N-64°-E	楕円形	0.56×0.43	131	直立・外傾	皿状	-	本跡→SK553
885	A-1i2	-	円形	0.44×0.43	-	-	-	-	本跡→SK458 SB1
886	A-1i2	-	円形	0.37×0.35	-	-	-	-	SB1
887	A-1i4	N-56°-E	楕円形	0.39×0.33	27	外傾・緩斜	V字状	-	
889	A-1g4	N-59°-W	楕円形	0.54×0.48	-	-	-	-	SI14→本跡 →SI13A-B
891	A-1g6	-	-	(2.20)×1.28	28	外傾	皿状	人為	縄文土器
892	A-1h5	-	-	0.35×(0.18)	-	-	-	-	SK741-768→本跡 →SK214他5基 本跡→SI12,SK893 SI13A-B
893	A-1h5	N-44°-E	[隅丸方形]	[1.02]×0.88	9	外傾・緩斜	平坦	-	縄文土器
894	A-1h5	N-55°-W	[楕円形]	0.58×0.22	-	-	-	-	SK85→本跡→SI28SK56 SI13A-B
896	A-1h5	N-68°-E	楕円形	0.43×0.38	27	緩斜	皿状	-	縄文土器
897	A-1f7	-	円形	0.65×0.64	25	外傾	U字状	-	SI13A-B→本跡 →SI12,SK549
898	A-1f7	-	円形	0.52×0.52	54	直立・外傾	皿状	-	本跡→SI12 SI13A-B
899	A-1f7	-	円形	0.30×0.29	27	直立	皿状	-	縄文土器
900	A-1f0	N-80°-E	[隅丸方形]	2.25×[2.21]	26	外傾	平坦	人為	縄文土器
901	A-1e0	N-50°-E	楕円形	0.29×0.19	-	-	-	-	本跡→SI20-SK593- 606-613-615-799- 830-924-925
902	A-1e0	N-40°-W	[楕円形]	(0.70)×0.51	50	直立	凹凸	-	SK902→本跡 →SI20
903	A-1e0	-	[円形]	0.37×(0.17)	12	直立・外傾	U字状	-	本跡→SK603-901 SI20
904	A-1e1	N-53°-W	楕円形	0.50×0.42	38	外傾	皿状	人為	縄文土器
905	A-1e1	N-74°-E	楕円形	0.52×0.46	72	直立	平坦	人為	SK905→本跡 →SK631
906	A-1e1	-	[楕円形]	1.18×0.50	-	-	-	-	本跡→SK631-904
907	A-1e1	N-24°-W	楕円形	0.35×0.30	-	-	-	-	SK631→本跡 →SK300
908	A-1e1	-	円形	0.61×0.56	-	-	-	-	SK909→本跡 →SK906
909	A-1e1	-	-	(1.37×1.15)	-	-	-	-	本跡→SK758-909
910	A-1e2	N-62°-W	[円形]	0.52×(0.34)	-	-	-	-	本跡→SK566-632-758- 804-806-907-908-927
911	A-1e2	-	[楕円形]	0.48×(0.38)	-	-	-	-	SK765→本跡 →SI25,SK767
912	A-1e2	-	[楕円形]	0.58×(0.28)	-	-	-	-	本跡→SI25,SK715
914	A-1e3	-	円形	[0.44×0.43]	31	外傾	平坦	-	縄文土器
918	A-1d4	-	[円形]	(0.21)×0.20	21	緩斜	皿状	-	本跡→SK505-683 SI26
919	A-1e4	-	楕円形	0.57×0.40	10	外傾	皿状	人為	本跡→SK729 SI27-28-29
921	A-1e5	N-18°-E	[楕円形]	0.42×0.30	10	外傾	皿状	人為	SI26-27-29
922	A-1e3	N-50°-E	[楕円形]	(0.28×0.20)	20	直立・外傾	平坦	人為	SI20,SK775→本跡 SI30
923	A-1e3	N-58°-E	[楕円形]	(0.23×0.17)	21	外傾	平坦	人為	本跡→SK923 SI26-27
924	A-1f0	N-17°-E	隅丸長方形	0.42×0.36	40	外傾	皿状	-	SI27,SK922→本跡 SI26
925	A-1f0	N-13°-W	[隅丸方形]	[0.52]×0.50	33	外傾	皿状	-	SK900→本跡 SI20
927	A-1e1	-	-	0.52×(0.28)	-	-	-	-	SK900→本跡 →SK488 SI20
928	A-1e9	N-42°-E	[楕円形]	(0.22)×0.19	49	外傾	皿状	-	SK716-909→本跡 →SK804 SI25
929	A-1g6	N-73°-W	[楕円形]	0.46×(0.33)	38	外傾	皿状	人為	SK608→本跡 →SI20
									本跡→SK252

(4) 遺物包含層

第1号遺物包含層 (第137～187図)

位置 調査区東部のA1a6～A2d1区、標高59.0mほどの段丘斜面部に位置している。

確認状況 トレンチ調査の結果、ローム層上面の標高は北西部が58.0m、北東部が56.6m、南西部57.8m、南東部が57.2mであり、旧地形は南西部から北東部に緩やかに下る斜面地であったと考えられる。その上部は土石流堆積層によっては平坦になっており、さらにその上部に縄文時代早期から後期にかけての土器片を多量に含む遺物包含層が確認できた。遺物包含層の範囲は、調査区域外へ延びているため南北12m、東西17mしか確認できなかった。

調査の方法 遺物の出土状況を確認しながら小調査区(4m×4m)に分け、各区とも10cm毎に掘り下げていった。遺物は土器の完形品に近いものや大形の破片、特徴的な土製品、石器・石製品については座標と標高を計測し、それ以外については深さ10cm毎に任意の層位で取り上げた。

重複関係 第1・2号住居、第1号溝に掘り込まれている。また、遺物包含層を除去した土石流堆積層の上面で、27基の土坑やピットが確認できたが、新旧関係は不明である。

堆積土 遺物包含層が存在する地点では、確認面からローム面まで14層に分層できる。このうち縄文時代の遺物が出土するのは、第1～3層である。特に第1層の黒褐色土が、広い範囲で縄文時代中期から後期にかけての遺物を多量に包んでいる。層厚は20～50cmで、南東側に向かって厚く堆積している。また、第4～8層にかけては、無遺物層となっており、上層から礫、砂粒、粘土が多量に含まれている土石流堆積層である。第9～12層は土石流堆積以前の旧表土で無遺物層である。

土層解説

- | | |
|--------------------------------|------------------------------|
| 1 黒 褐色 細礫少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 濃い黄褐色 砂粒多量、ローム粒子少量 |
| 2 灰黄褐色 細礫・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒 褐色 ロームブロック少量 |
| 3 濃い黄褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・細礫・焼土粒子微量 | 9 灰黄褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 4 濃い黄褐色 中礫・ローム粒子中量、焼土粒子微量 | 10 黒 褐色 ローム粒子少量、七本松粒石粒子微量 |
| 5 灰黄褐色 砂粒多量、細礫中量 | 11 黒 色 ローム粒子・七本松粒石粒子微量 |
| 6 暗 褐色 ローム粒子多量、細礫少量 | 12 黒 褐色 ローム粒子中量、七本松粒石粒子少量 |

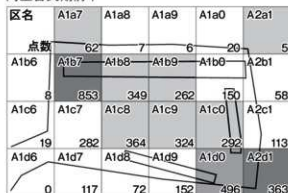
遺物出土状況 縄文土器片52,578点、土製品66点(土器片円盤55、土偶6、耳栓2、不明土製品3)、石器121点(ナイフ形石器1、スクレーパー3、石鏃28、石錐3、磨製石斧2、打製石斧11、磨石8、敲石4、石錘8、浮子1、棒状凹石33、凹石19)、石製品5点(小形石棒2、石剣未製品1、垂飾り2)、石核1点(水晶)、剥片90点(チャート35、黒曜石21、瑪瑙18、石英5、頁岩5、安山岩3、水晶1、不明2)、原石1点(瑪瑙)、石英塊2点、焼成粘土塊13点のほか、弥生土器片3点、土師器片67点、須恵器片3点、土師質土器片2点、陶器片1点、銭貨3点、鉄滓1点が混入している。遺物は、いずれも第1～3層から出土したもので、調査区毎に時期別の出土土器の点数を示すと表4のとおりである。取り上げた土器片を大別するとTP162～TP183は早・前期、81～123、TP184～TP242は中期前半、124～182、TP243～TP285は中期後半、183～205、TP286～TP321は後期の土器である。平面分布を見ると、中期前半の土器は北東部から南東部にかけて、中期後半の土器は南西部を除く全面に広がって、後期前半の土器は北西部と南西部にまとまって出土している。また、垂直分布を見ると、下層から上層にかけて中期前半、中期後半、後期前半の土器が出土している傾向がうかがえる。なお、石器の一部(磨石、敲石、棒状凹石、凹石)については、遺物観察表のみを掲載する。

所見 旧地形は、南西から北東へ緩やかに傾斜する斜面地である。そこへ土石流に伴う土砂がほぼ水平堆積しており、その上部に遺物包含層が形成されている。土器片は比較的大形のものが多く見られ、摩擦の度合いも少ないこと、また、小規模なピットや平安時代の住居跡や溝跡以外、遺物包含層中に遺構の存在が確認できないことから、土器などの廃棄場的な空間であったと考えられる。土器片の点数を時期別にみると、早期・前期

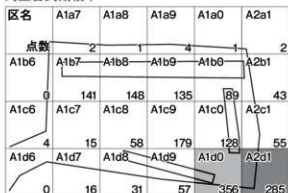
が0.1%、中期前半が25.0%、中期後半が52.8%、後期前半が21.9%、後期後半以降が0.2%であり、廃棄行為は、中期前半に本格的に始まり、中期後半にピークを迎え、後期前半まで継続していたといえる。また、廃棄地点は、中期前半には包含層調査区北西部を中心とし、中期後半は調査区全体に広がり、後期前半には北東部へと移動している。

表4 第1号遺物包含層 グリッド・時期別出土遺物数

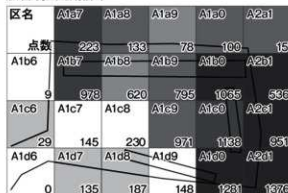
阿玉台式期前半



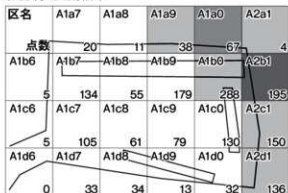
阿玉台式期後半



加曾利E式期前半



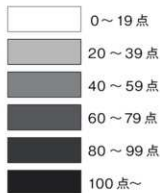
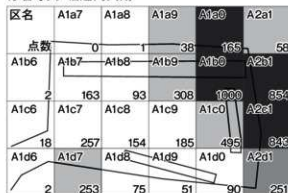
加曾利E式期後半

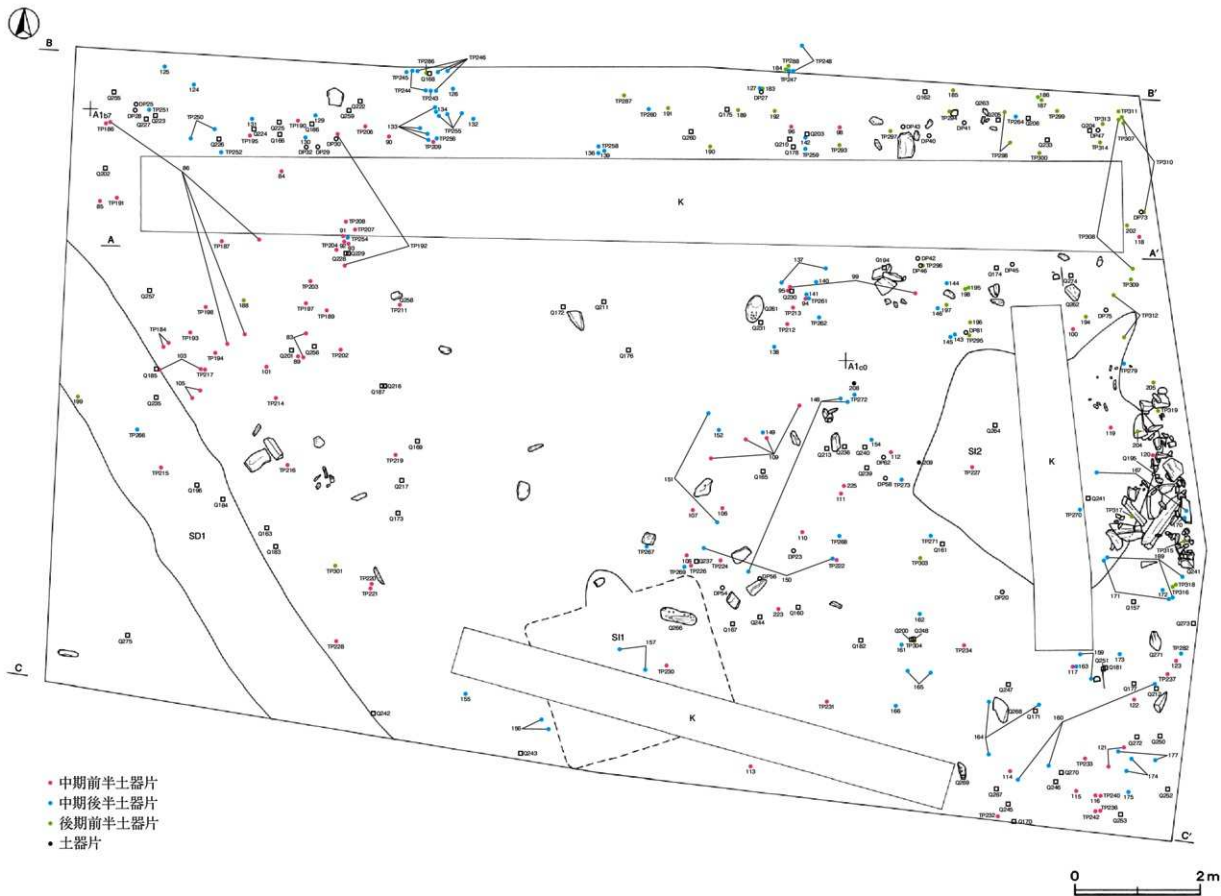


*点数は、出土土器片数を示している。

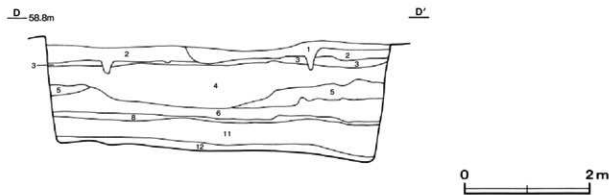
*アミかけは、1㎡あたりの出土土器片数を表している。

称名寺式・堀之内式期

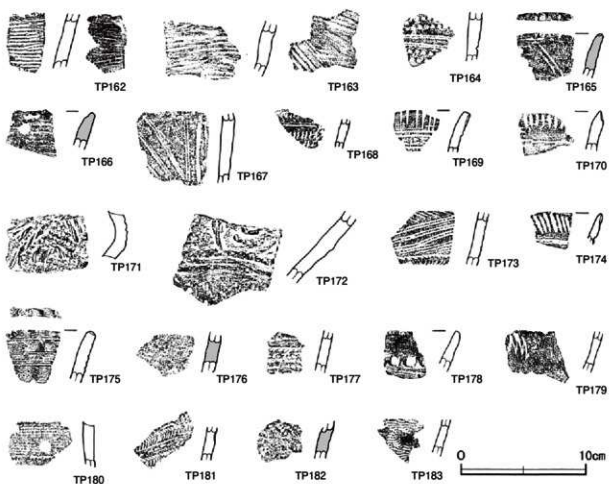




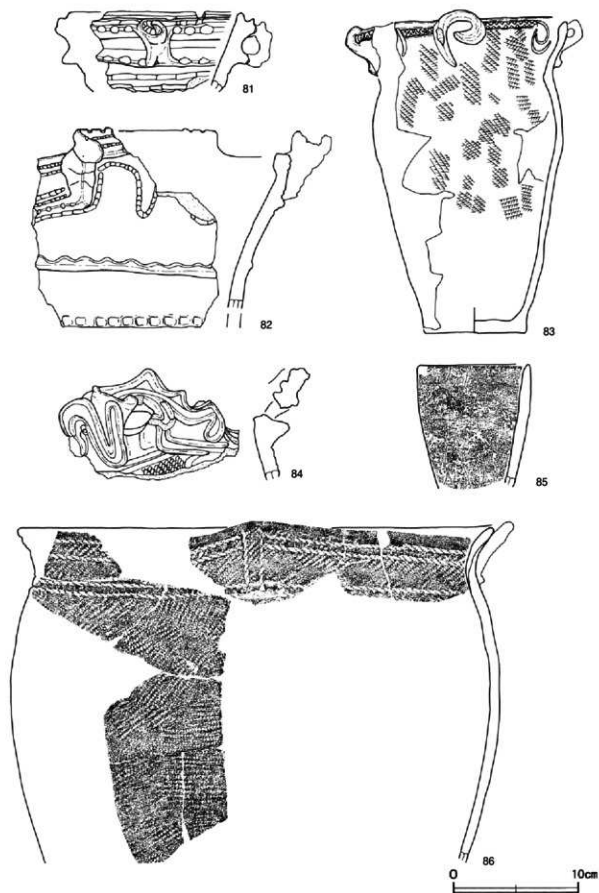
第 137 图 第 1 号遺物包含層実測図(1)



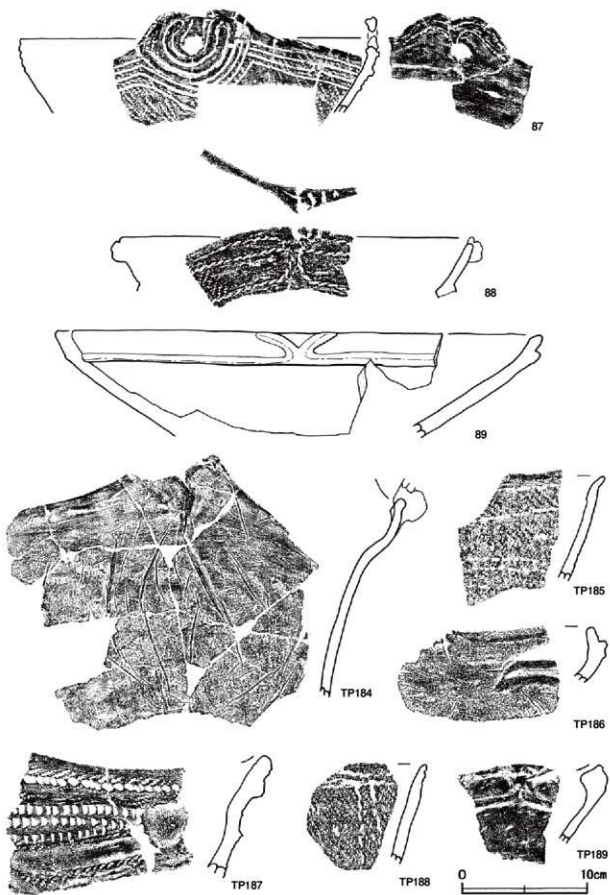
第 139 图 第 1 号遗物包含层实测图(3)



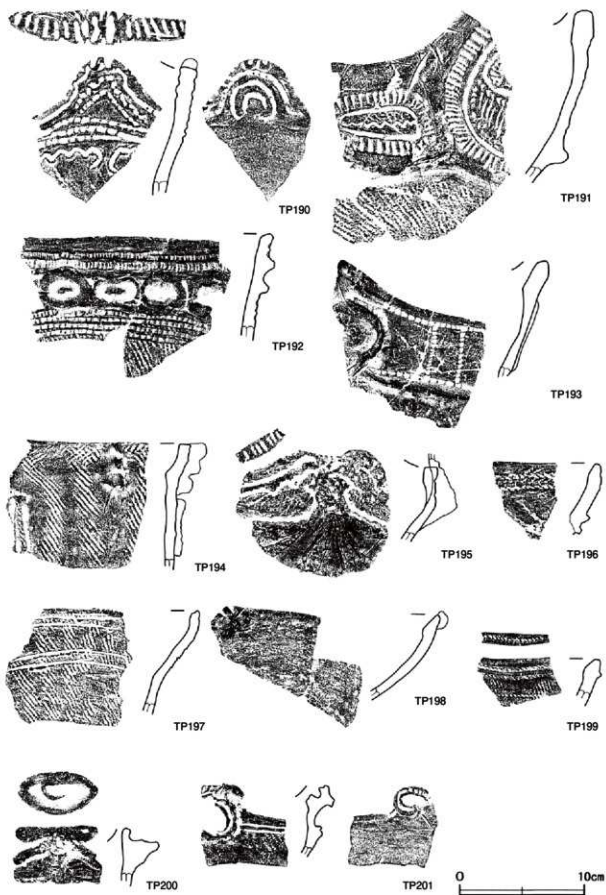
第 140 图 第 1 号遗物包含层出土遗物实测图(1)



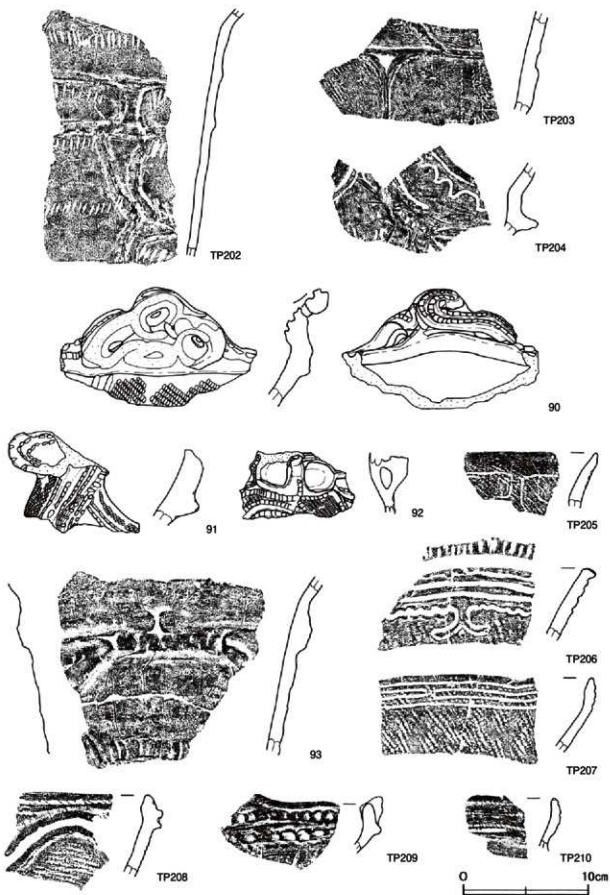
第 141 图 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図(2)



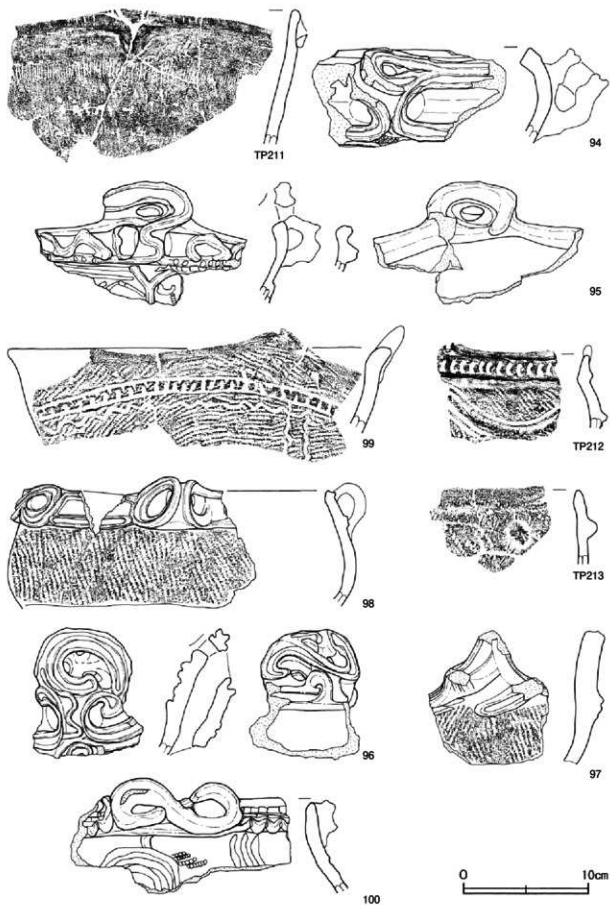
第 142 图 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図(3)



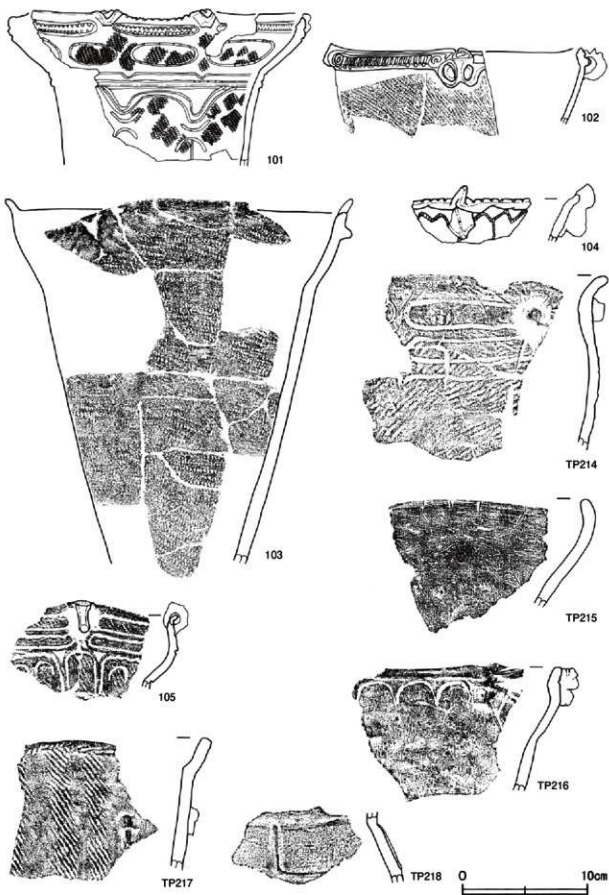
第 143 圖 第 1 号遺物包含層出土遺物実測圖(4)



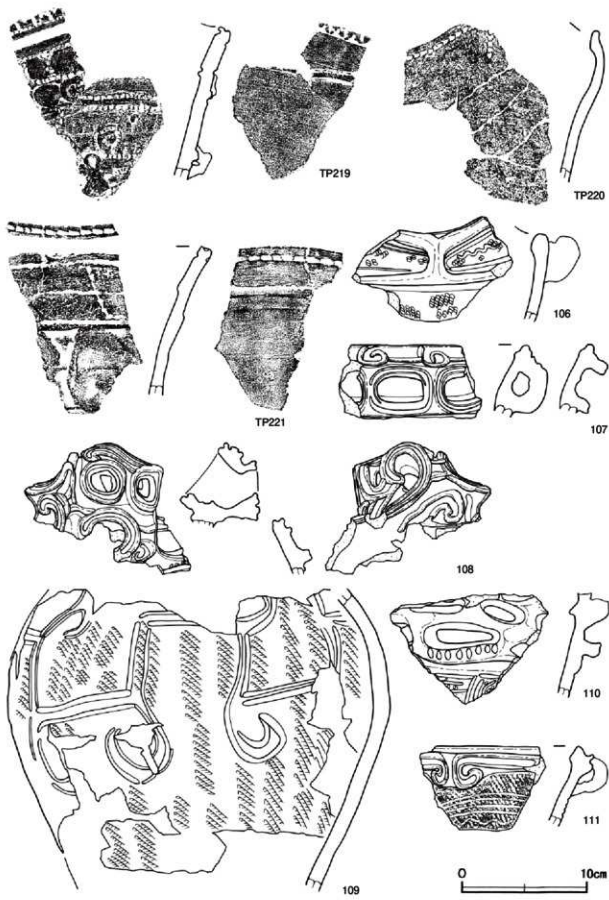
第 144 图 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図(5)



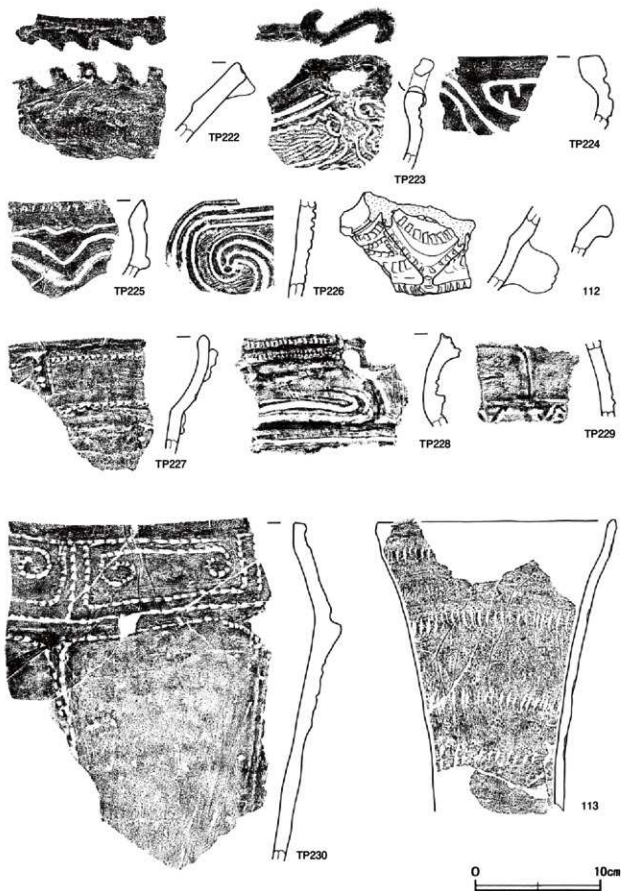
第 145 图 第 1 号遗物包含层出土遗物实测图(6)



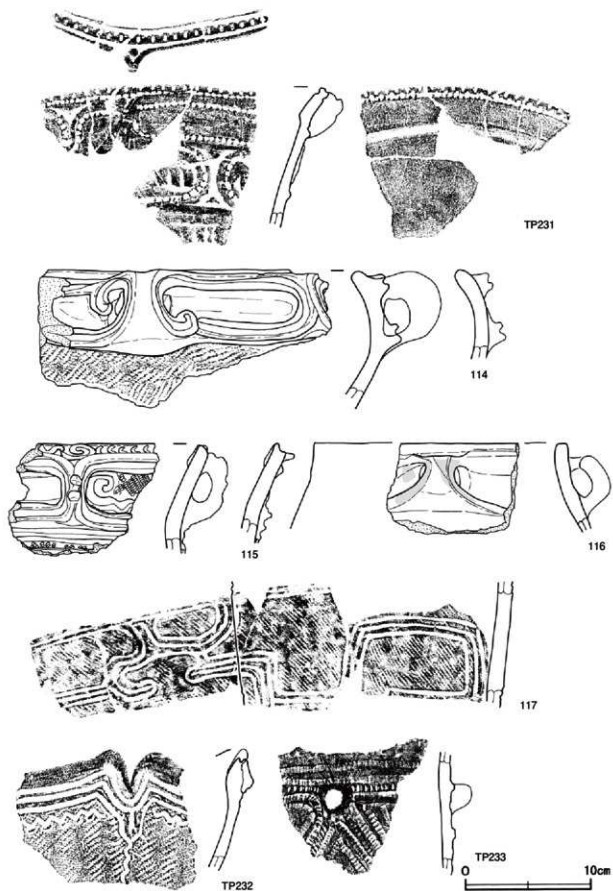
第 146 图 第 1 号遗物包含层出土遗物实测图(7)



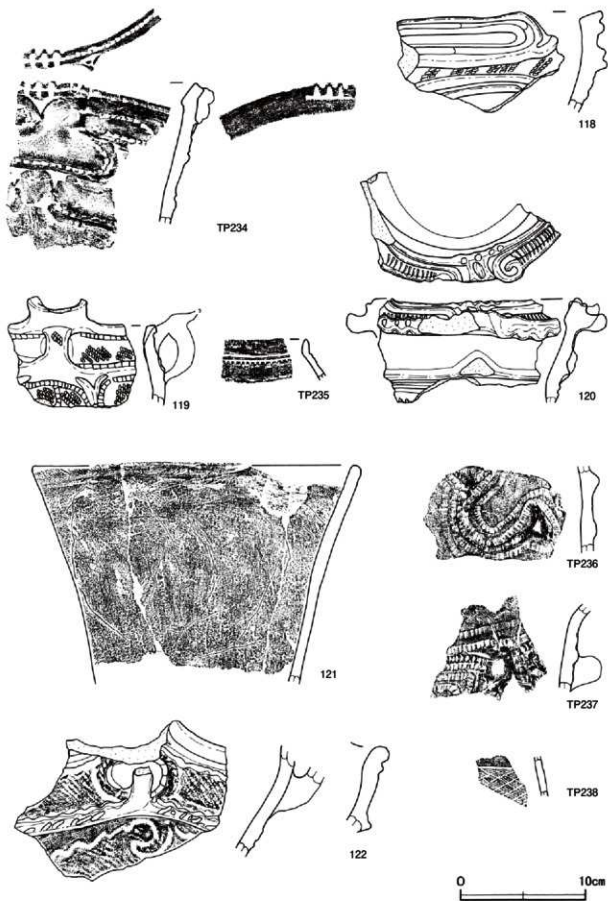
第 147 图 第 1 号遗物包含层出土遗物实测图(8)



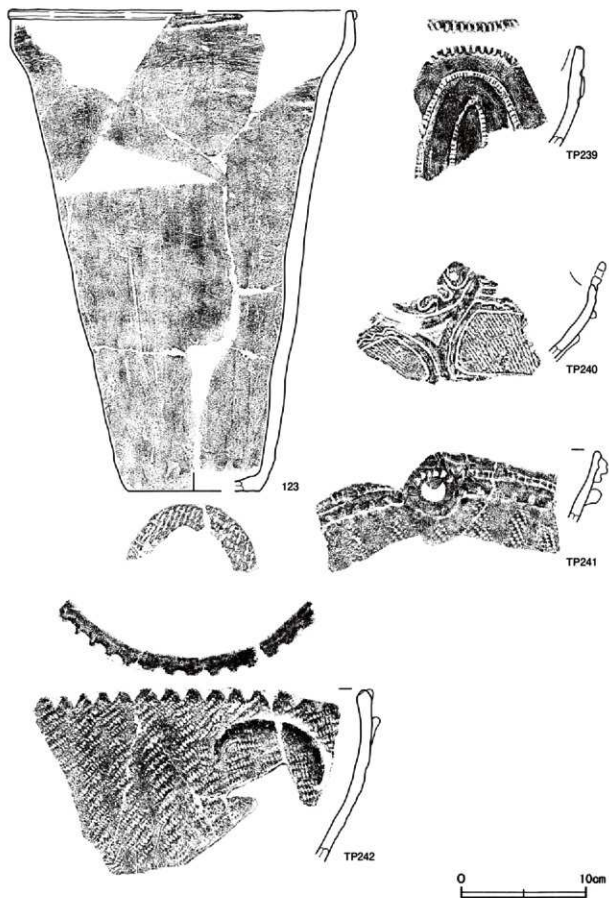
第 148 图 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図(9)



第 149 图 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図(0)



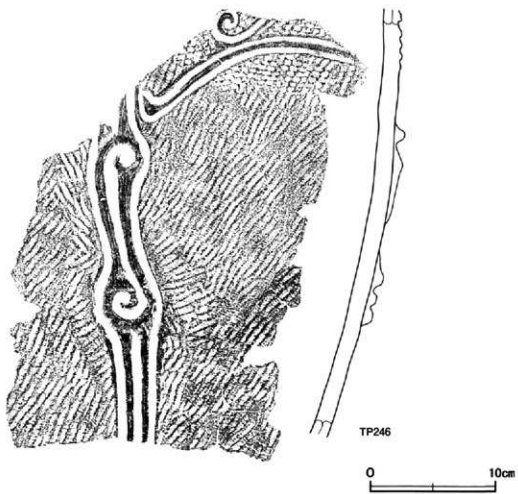
第150图 第1号遺物包含層出土遺物実測図(1)



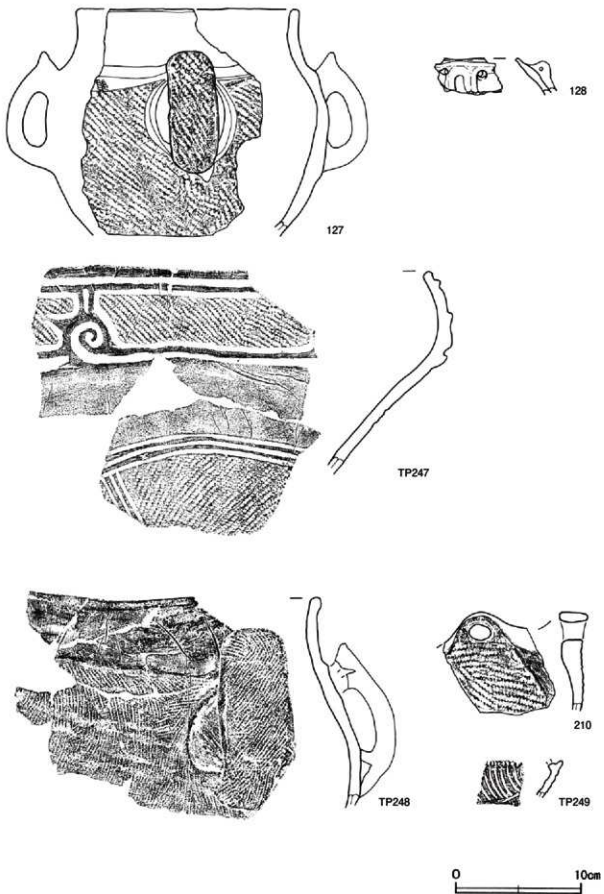
第 151 图 第 1 号遗物包含层出土遗物实测图②



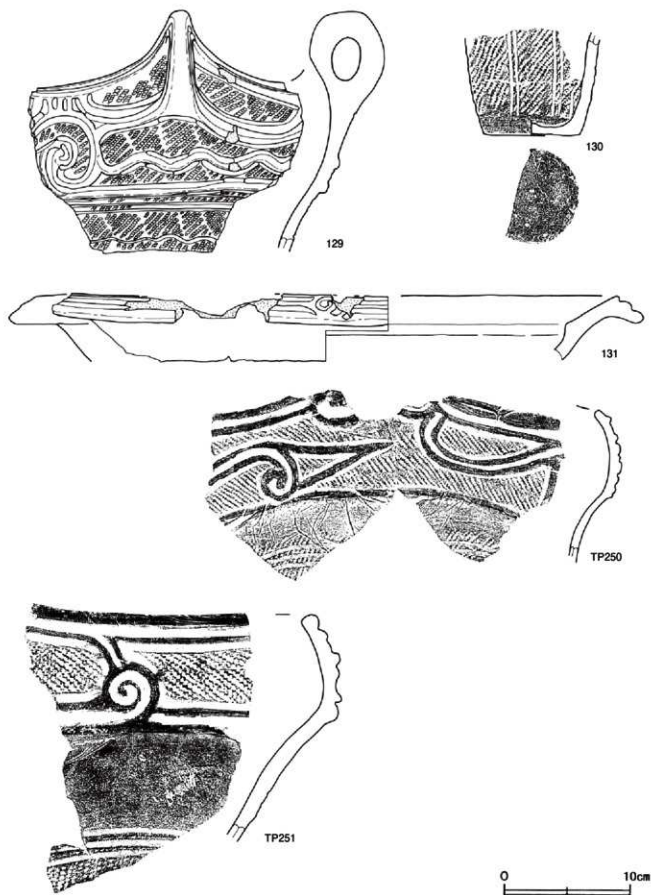
第 152 图 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図(3)



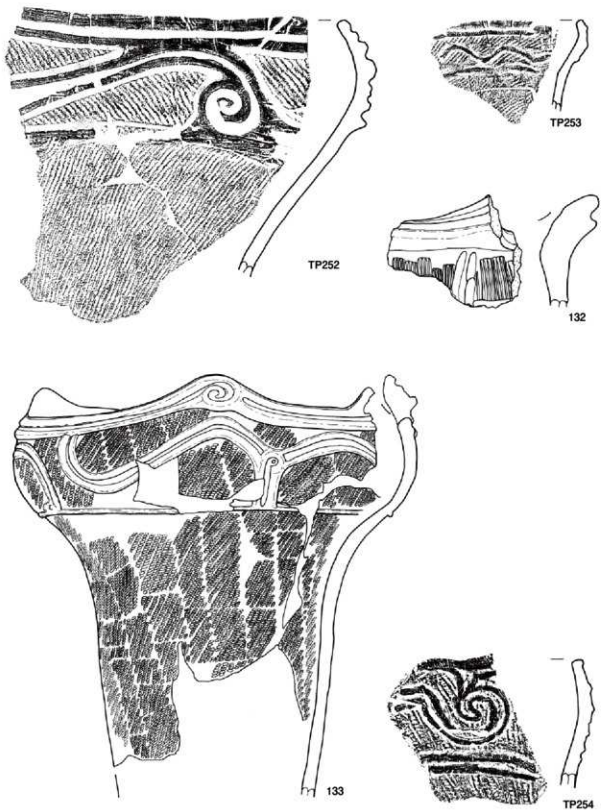
第 153 图 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図04



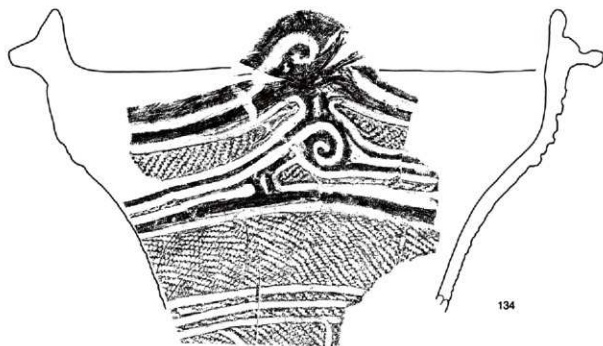
第 154 图 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図(5)



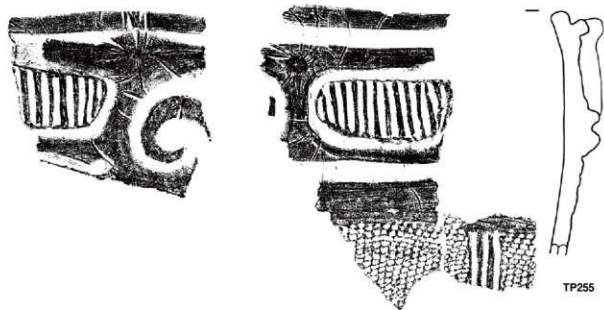
第 155 图 第 1 号遗物包含层出土遗物实测图(6)



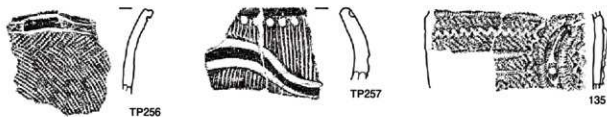
第 156 图 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図(7)



134



TP255



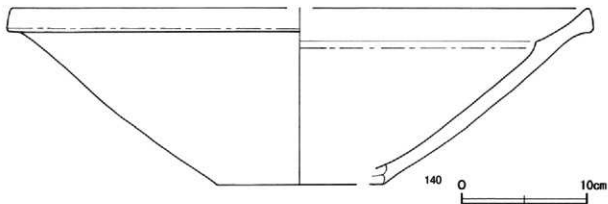
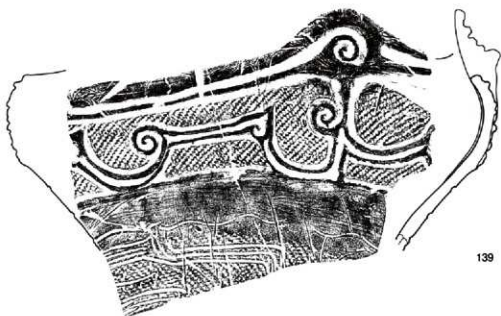
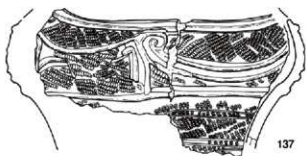
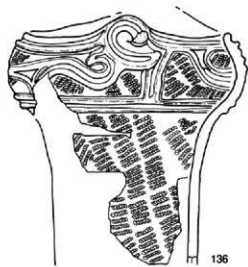
TP256

TP257

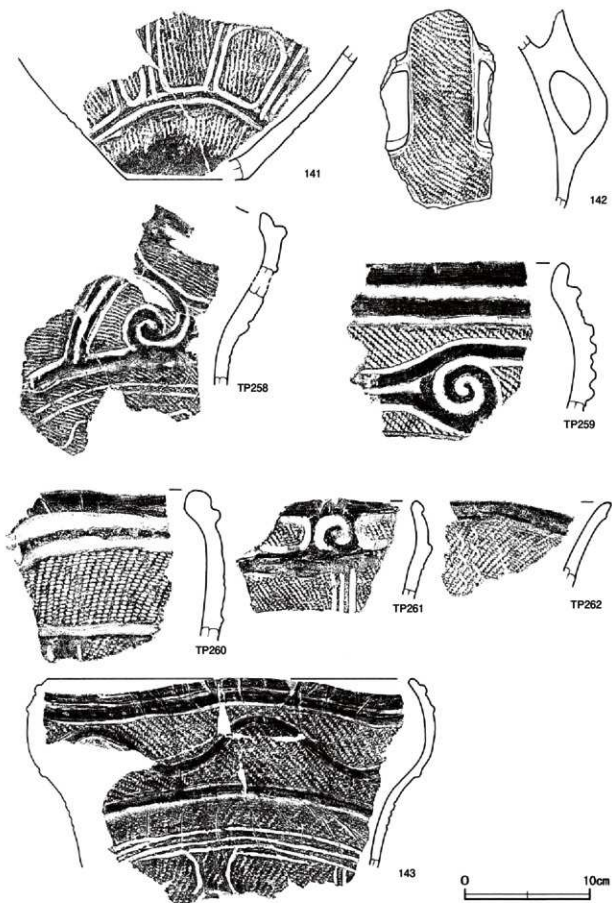
135



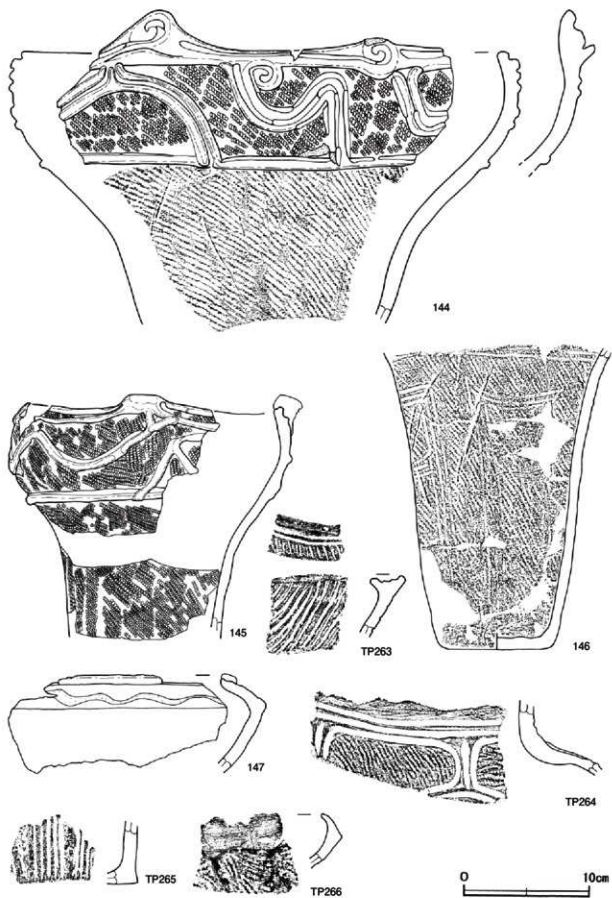
第 157 图 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図(8)



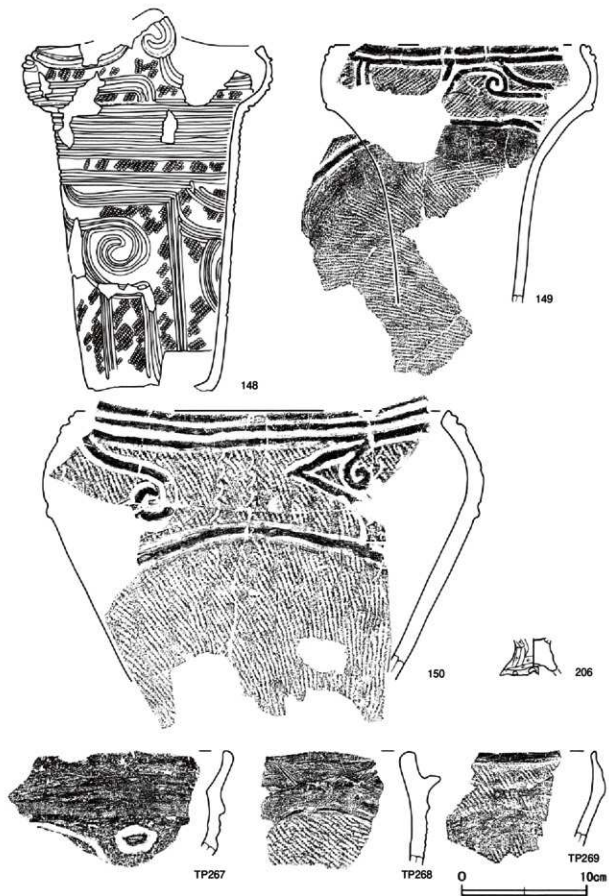
第 158 图 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図(9)



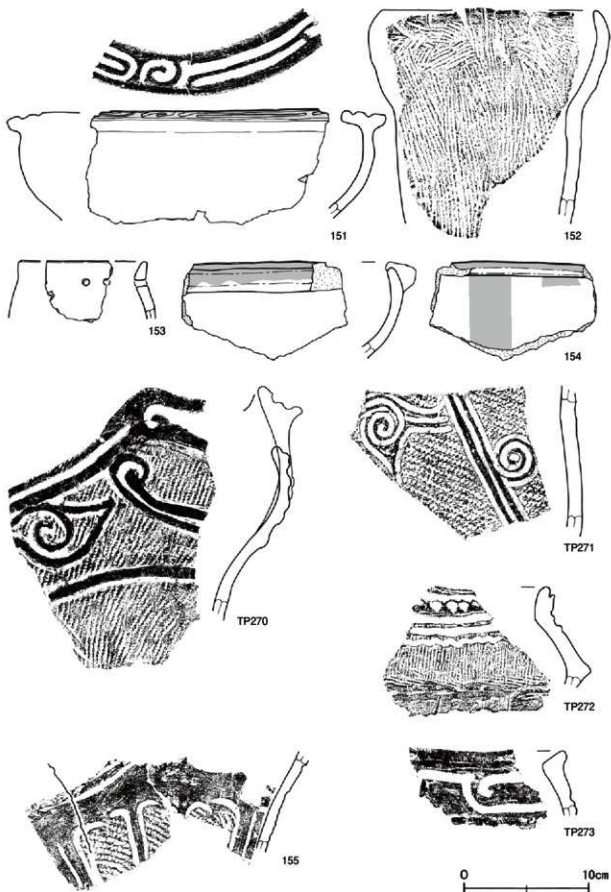
第 159 图 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図(四)



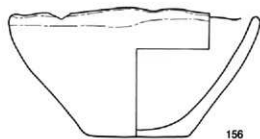
第 160 图 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図(2)



第 161 图 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図



第 162 图 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図(23)



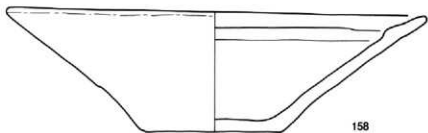
156



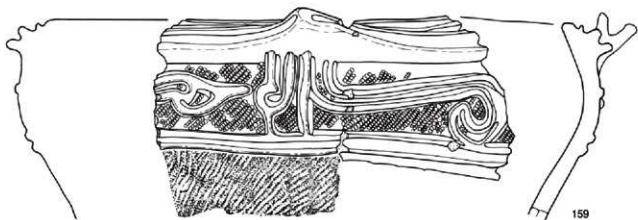
157



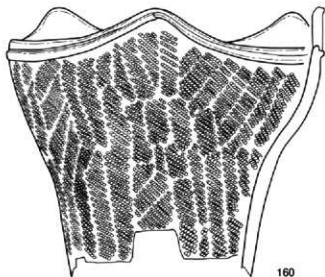
TP274



158



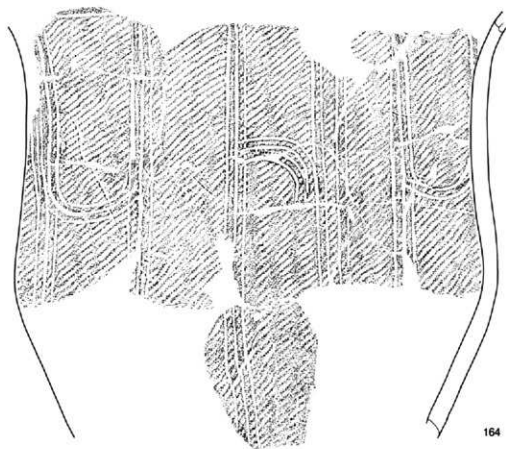
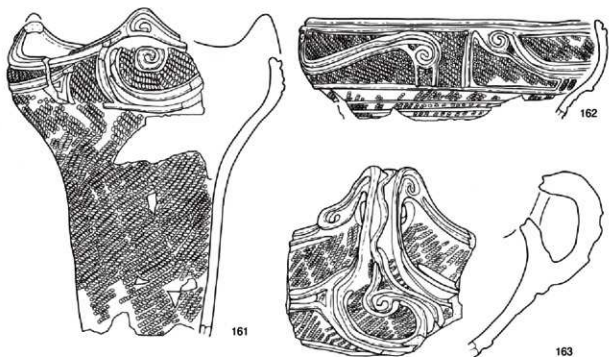
159



160

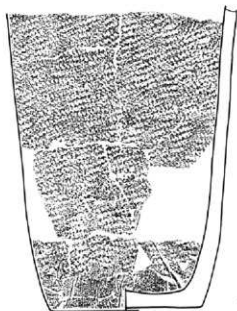


第 163 图 第 1 号遗物包含层出土遗物实测图②

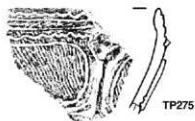


0 10cm

第 164 图 第 1 号遗物包含层出土遗物实测图(25)



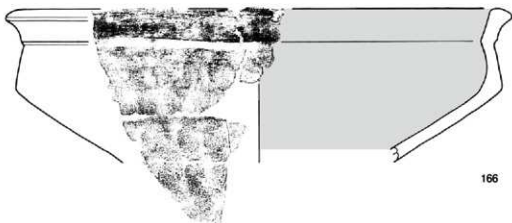
165



TP275



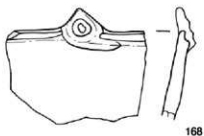
TP276



166



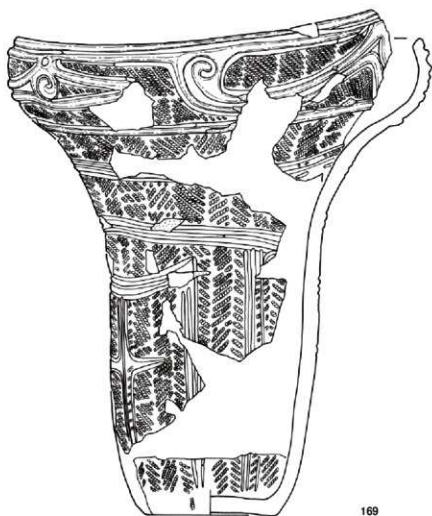
167



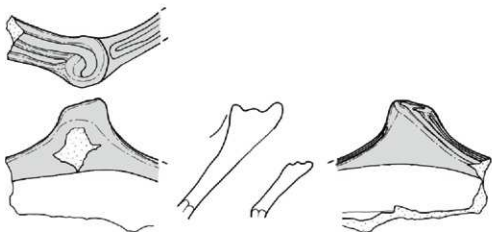
168



第 165 图 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図



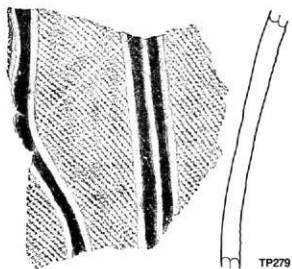
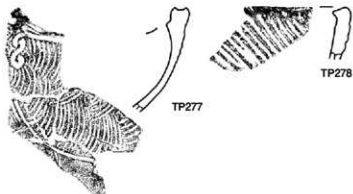
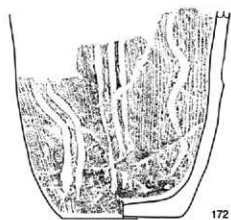
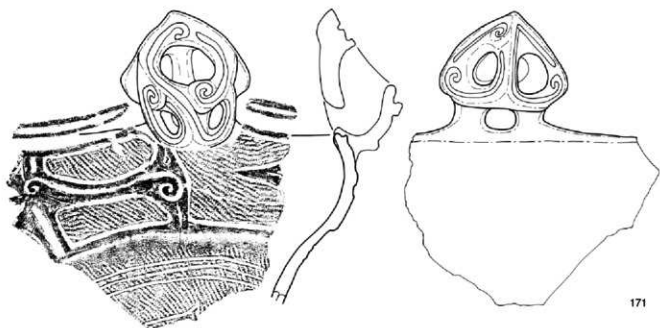
169



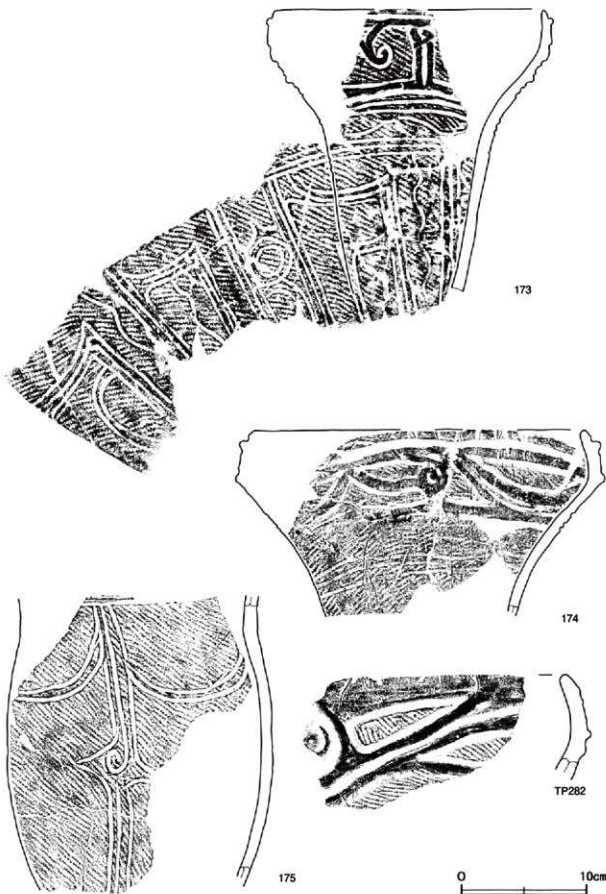
170



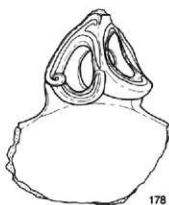
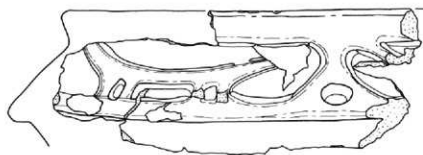
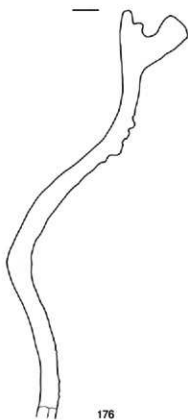
第 166 图 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図(27)



第 167 图 第 1 号遗物包含层出土遗物实测图(四)



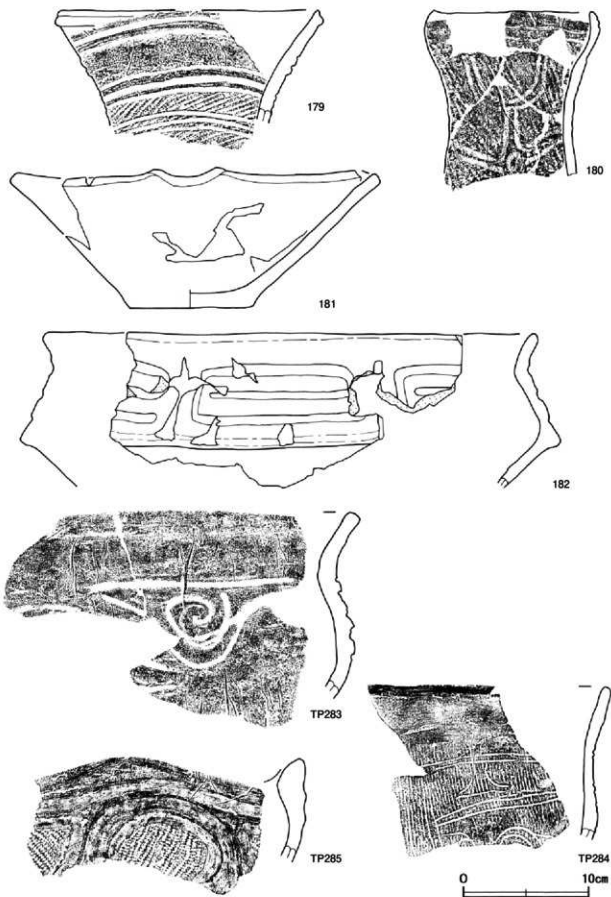
第 168 图 第 1 号遗物包含层出土遗物实测图



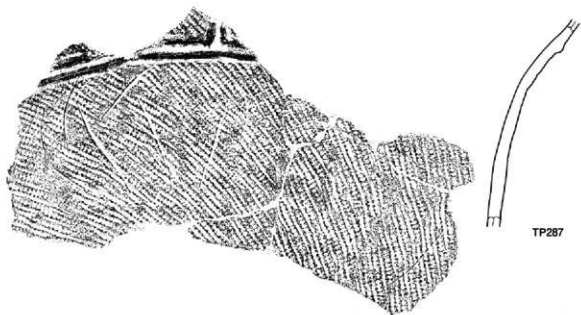
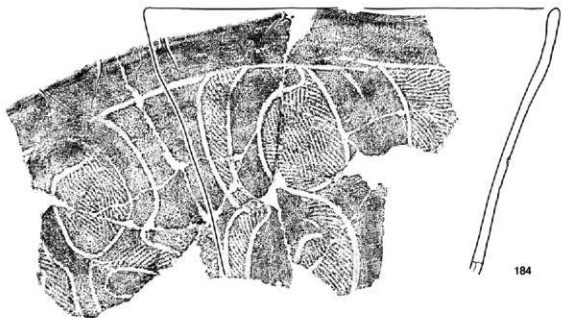
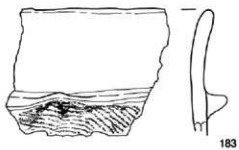
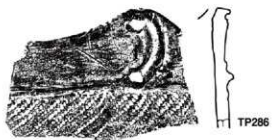
178

0 10cm

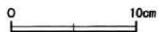
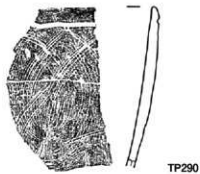
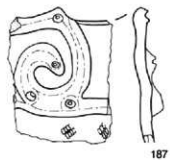
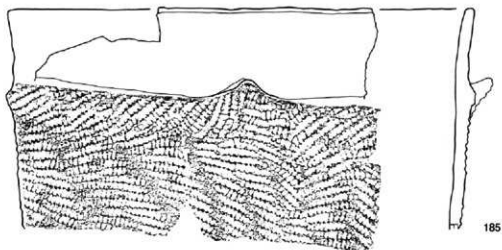
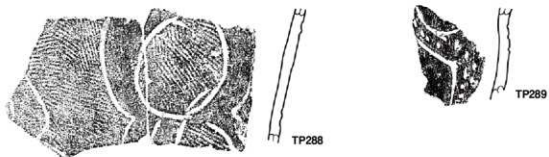
第 169 图 第 1 号遗物包含层出土遗物实测图(3)



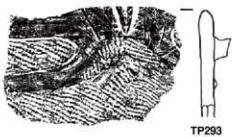
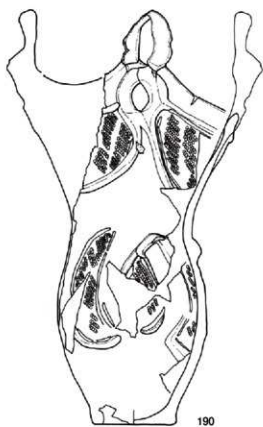
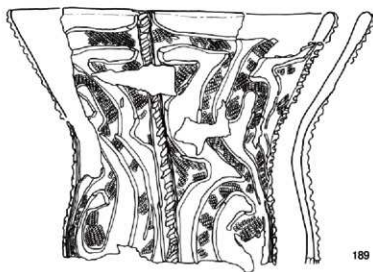
第170图 第1号遺物包含層出土遺物実測図(3)



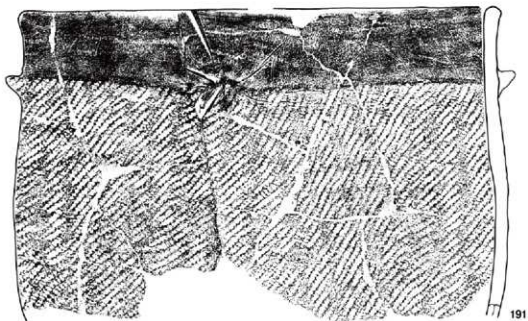
第 171 图 第 1 号遗物包含层出土遗物实测图



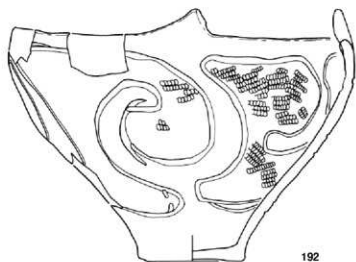
第 172 图 第 1 号遗物包含层出土遗物实测图(33)



第 173 图 第 1 号遗物包含层出土遗物实测图④



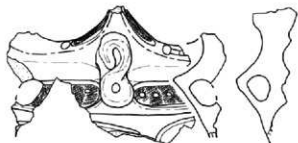
191



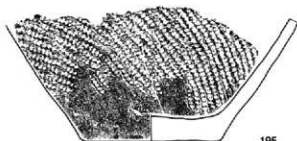
192



193



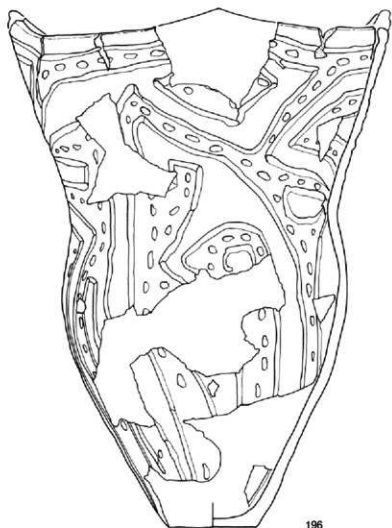
194



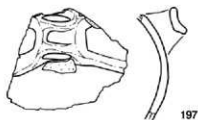
195



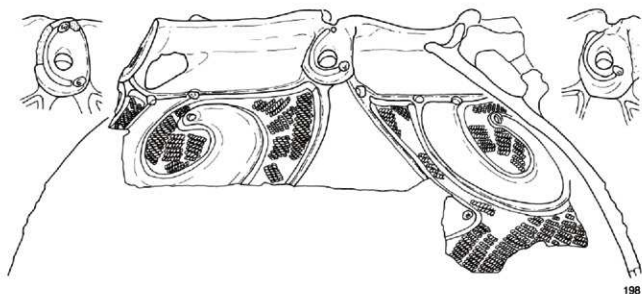
第 174 图 第 1 号遗物包含层出土遗物实测图(3)



196



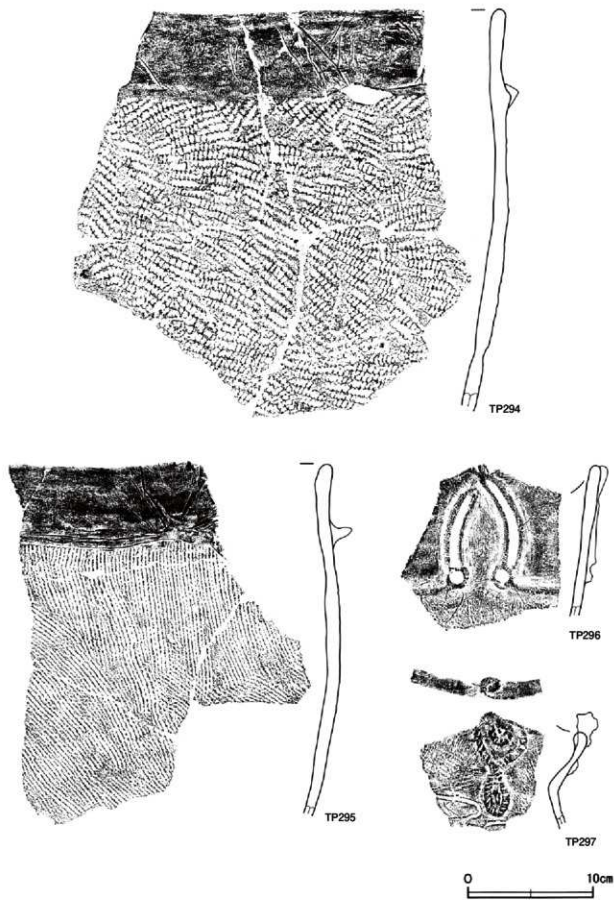
197



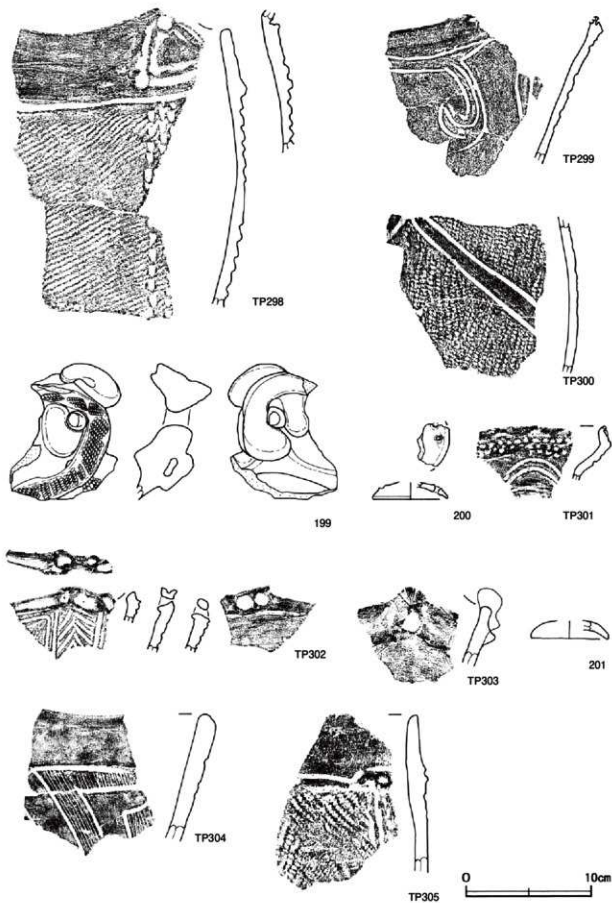
198



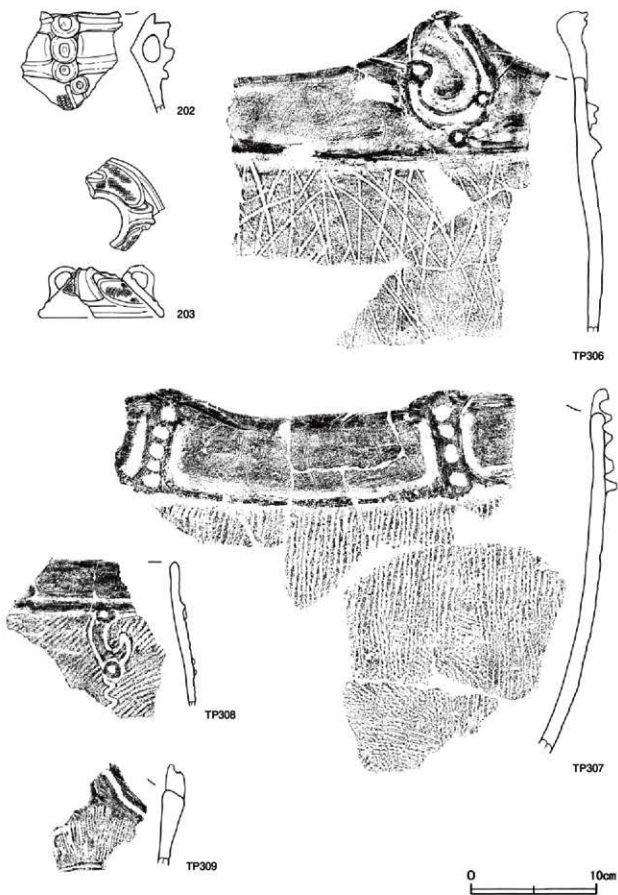
第 175 图 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図②



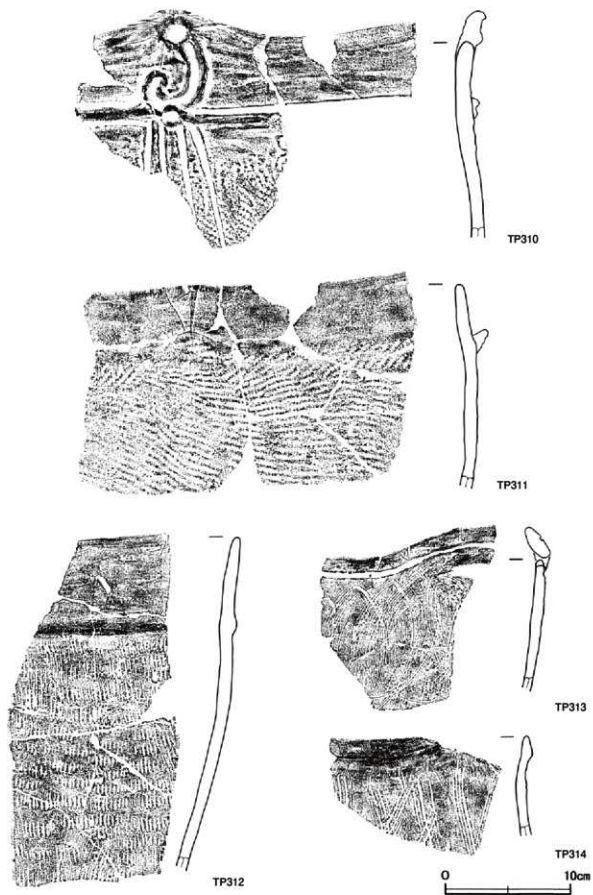
第 176 图 第 1 号遗物包含层出土遗物实测图(37)



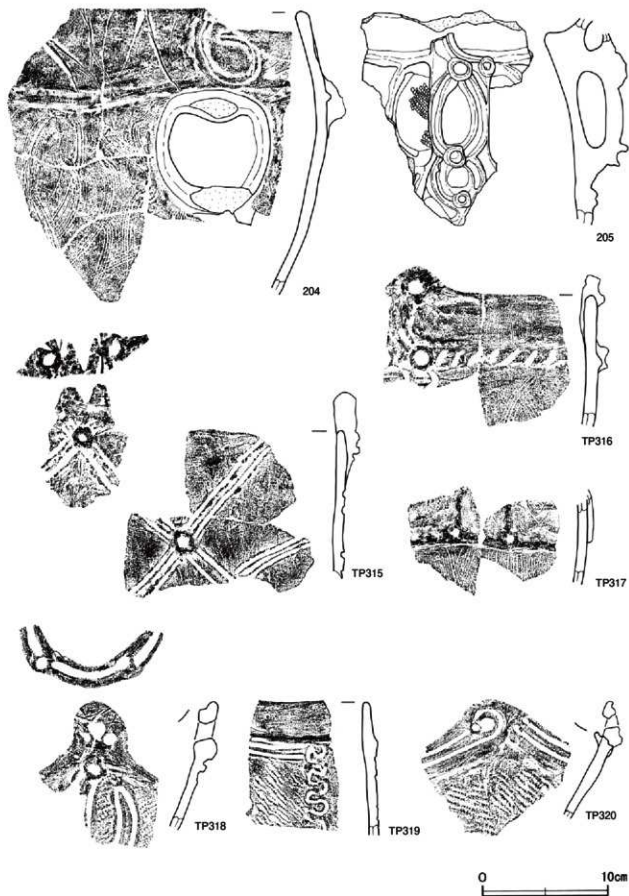
第 177 图 第 1 号遗物包含层出土遗物实测图(88)



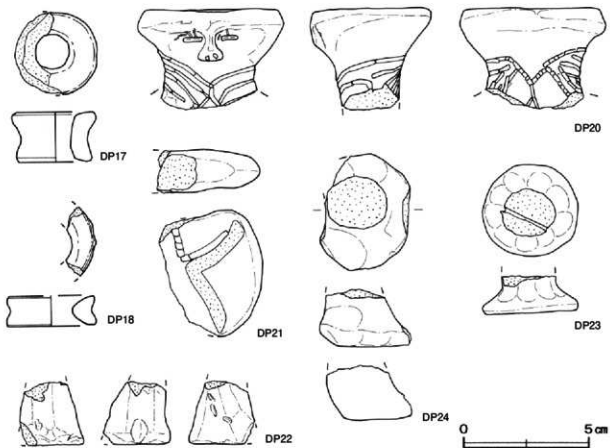
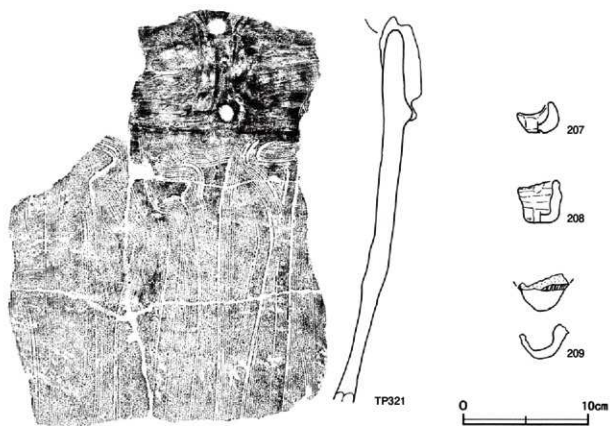
第 178 图 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図(3)



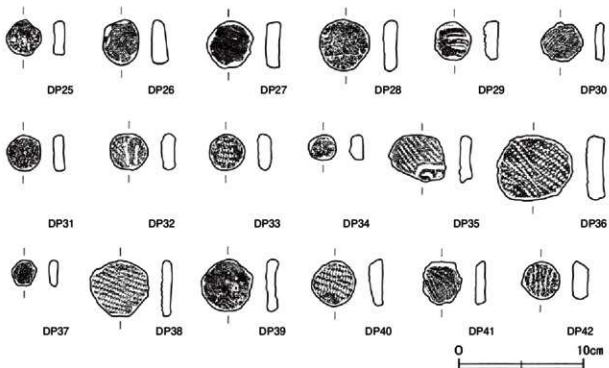
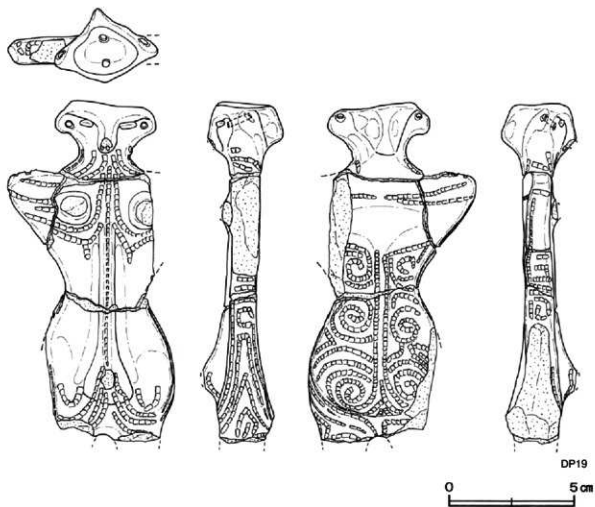
第 179 图 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図(40)



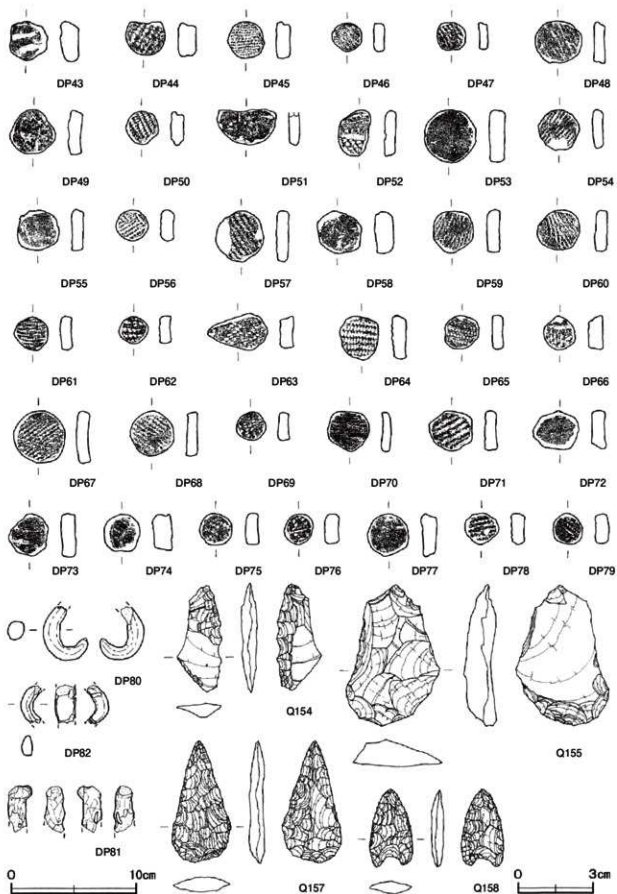
第 180 图 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図(4)



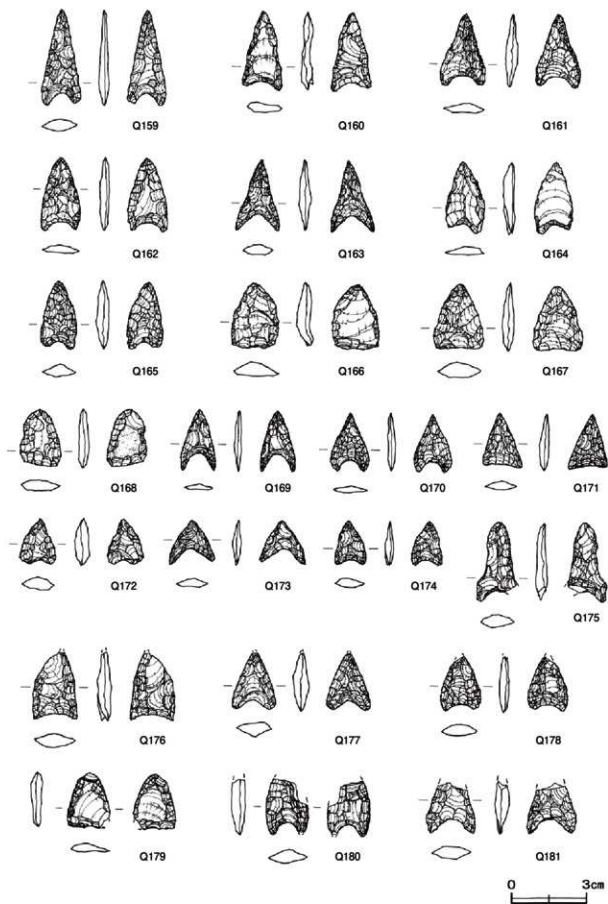
第 181 图 第 1 号遗物包含层出土遗物实测图(42)



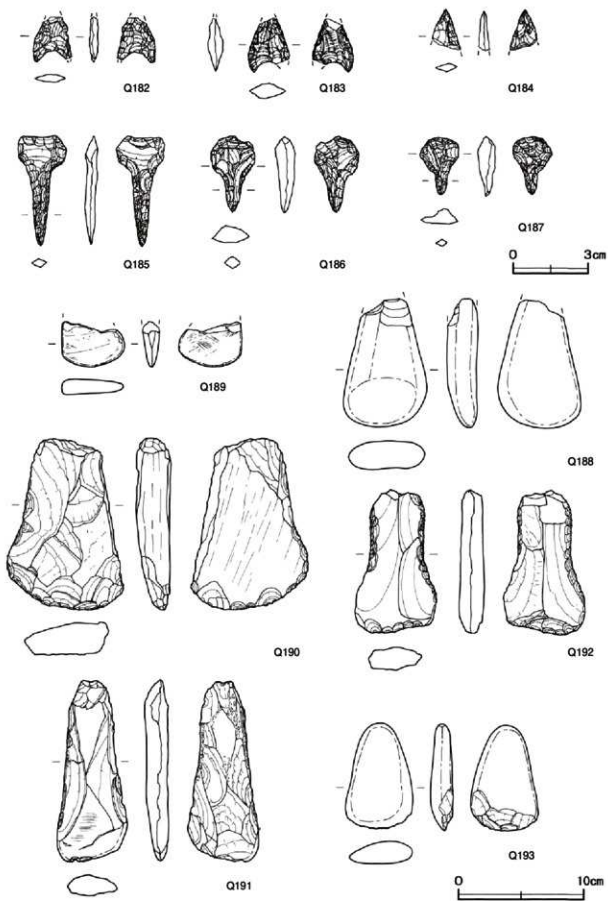
第 182 图 第 1 号遗物包含層出土遺物実測図(43)



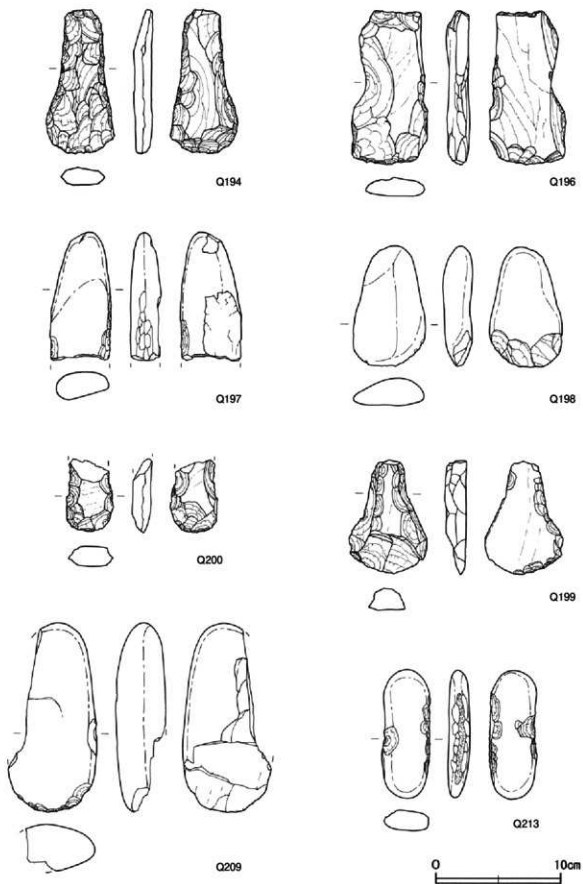
第 183 图 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図(4)



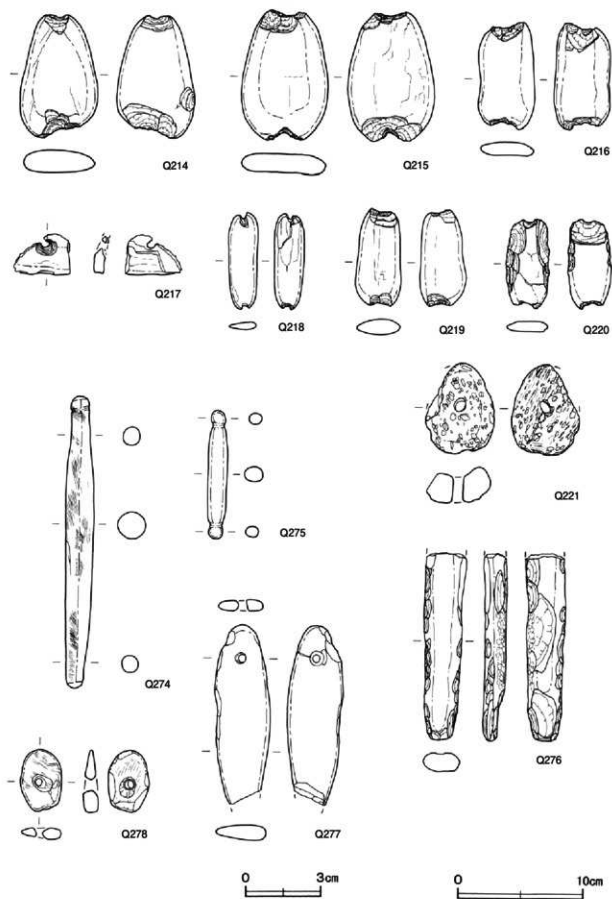
第 184 图 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図(45)



第 185 图 第 1 号遗物包含层出土遗物实测图(6)



第 186 图 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図(47)



第 187 图 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図(48)

第1号遺物包含層出土遺物観察表 (第140～187回)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
81	縄文土器	深鉢	[13.4]	(6.4)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	口縁部及び胴部結節沈線	A 1a7	5%
82	縄文土器	深鉢	-	(14.3)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい赤黒	普通	胴部に指頭押文	A 1b7	5%
83	縄文土器	深鉢	[16.5]	25.6	8.1	長石・石英・雲母・針状鉱物	黒陶	普通	無節縄文L施文→隆帯貼付・有節文様による風輪文	A 1b7	70% PL37
84	縄文土器	深鉢	-	(9.0)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい褐	普通	胴部に縄文RL施文	A 1b7	5% PL37
85	縄文土器	深鉢	[8.6]	(9.8)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい褐	普通	内・外面ナデ	A 1b7	10%
86	縄文土器	深鉢	[37.6]	(26.8)	-	石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	にぶい褐	普通	縄文LR施文→原体圧痕	A 1b7	10%
87	縄文土器	深鉢	[28.0]	(7.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	縄文RL施文→有節沈線	A 1b7	5% PL36
88	縄文土器	深鉢	[28.0]	(4.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	縄文RL施文→原体圧痕	A 1b7	5%
89	縄文土器	浅鉢	[38.4]	(8.3)	-	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	にぶい褐	普通	外面開り 内面磨き	A 1b7	20% PL36
90	縄文土器	深鉢	-	(9.5)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	普通	胴部縄文LR施文→沈線 口縁部突起一部深線	A 1b8	5%
91	縄文土器	深鉢	-	(8.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	隆帯上縄文RL施文 隆帯部に2列の角押文	A 1b8	5%
92	縄文土器	深鉢	-	(5.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	縄文L施文→細い隆帯貼付→有節沈線	A 1b8	5% PL36
93	縄文土器	深鉢	-	(14.2)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	普通	胴部隆帯による連続口の字文	A 1b8	5%
94	縄文土器	深鉢	-	(7.9)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	明赤黒	普通	縄文LR施文	A 1b9	5%
95	縄文土器	深鉢	-	(9.8)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	橙	普通	胴部縄文RL施文	A 1b9	5% PL36
96	縄文土器	深鉢	-	(10.4)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	灰陶	普通	正面低状突起 正面から裏面4方向に貫ける貫通孔	A 1b9	5% PL37
97	縄文土器	深鉢	-	(10.5)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	胴部無節縄文L施文	A 1b9	5%
98	縄文土器	深鉢	[23.0]	(10.3)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	明赤黒	普通	縄文LR施文→隆帯貼付	A 1b9	5% PL37
99	縄文土器	深鉢	[30.0]	(8.4)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	縄文LR施文→沈線	A 1b9	5%
100	縄文土器	深鉢	-	(7.4)	-	石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	にぶい褐	普通	縄文LR施文→沈線	A 1b9	5% PL37
101	縄文土器	深鉢	[23.3]	(12.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	縄文LR施文→有節沈線 突起間口唇部削み	A 1c7	40% PL36
102	縄文土器	深鉢	[19.9]	(6.3)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	灰陶	普通	縄文LR縦位回転施文	A 1b9	5%
103	縄文土器	深鉢	[27.4]	(28.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	にぶい橙	普通	縄文LR縦位回転施文	A 1c7	20%
104	縄文土器	深鉢	-	(4.7)	-	長石・石英	明赤黒	普通	単列角押文による衝面文と縦位懸垂文 口唇部に削み	A 1c7	10% PL36
105	縄文土器	深鉢	-	(7.0)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい褐	普通	隆帯→有節沈線→縄文LR施文	A 1c7	5% PL36
106	縄文土器	深鉢	-	(7.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	縄文LR施文→半截竹管による隆帯懸垂線	A 1c9	5%
107	縄文土器	深鉢	-	(5.7)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	普通	口縁部内面凹線状のナデ	A 1c9	5%
108	縄文土器	深鉢	-	(10.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	にぶい褐	普通	口縁部に縄文RL施文	A 1c9	5% PL37
109	縄文土器	深鉢	-	(24.1)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい赤黒	普通	無節縄文L施文→沈線	A 1c9	40% PL37
110	縄文土器	深鉢	-	(8.4)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	明黄陶	普通	縄文RL施文→沈線	A 1c9	5%
111	縄文土器	深鉢	-	(6.6)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	縄文LR施文→沈線	A 1c9	5%
112	縄文土器	深鉢	-	(8.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	隆帯輪爪形文 区内押し引き文	A 1c9	5%
113	縄文土器	深鉢	[18.8]	(23.0)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	普通	4段の連続爪形文	A 1d9	35%
114	縄文土器	深鉢	-	(11.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	にぶい橙	普通	胴部縄文RL縦位回転施文	A 1d9	5% PL37
115	縄文土器	深鉢	-	(9.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	灰黄陶	普通	縄文RL施文→沈線	A 1d9	5%
116	縄文土器	鉢	[20.0]	(7.2)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	内・外面磨き 外面赤彩	A 1d9	5%
117	縄文土器	深鉢	-	(10.0)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい褐	普通	無節縄文L施文→沈線	A 1d9	30%
118	縄文土器	深鉢	-	(8.0)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	縄文LR施文→隆帯貼付	A 2b1	5%
119	縄文土器	深鉢	-	(8.8)	-	長石・石英・雲母	灰陶	普通	縄文LR施文→有節沈線	A 2c1	5%
120	縄文土器	深鉢	[16.0]	(8.2)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	褐灰	普通	突起部欠損	A 2c1	25%
121	縄文土器	深鉢	[25.5]	(17.4)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面磨き・研磨 内面小口状工具によるナデ	A 2d1	40%
122	縄文土器	深鉢	-	(12.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	隆帯貼付→無節縄文L施文→沈線	A 2d1	5%
123	縄文土器	深鉢	[27.2]	38.4	[10.6]	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	にぶい赤黒	普通	外面小口状工具によるナデ底面磨代痕	A 2d1	70% PL37

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
124	縄文土器	深鉢	[18.9]	(7.9)	-	石英・雲母・赤色 粒子・針状鉱物	にぶい橙	普通	縄文 RL 施文→細い隆帯貼付 縁部に僅存者	A 1 a7	10%
125	縄文土器	深鉢	[17.5]	(10.0)	-	長石・石英・ 針状鉱物	にぶい橙	普通	縄文 LR 施文→沈線	A 1 a7	10%
126	縄文土器	深鉢	-	(12.8)	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子・針状鉱物	橙	普通	縦帯沈線→口縁部隆帯貼付→隆 帯輪沈線	A 1 a8	5%
127	縄文土器	両耳壺	[17.2]	(18.1)	-	長石・石英・雲母・ 針状鉱物	橙	普通	胴部縄文 LR 縦位回転施文	A 1 a9	10% PL42
128	縄文土器	甕形器	-	(2.9)	-	長石・石英・ 雲母	灰黄褐	普通	横位の貫通孔	A 1 a9	5%
129	縄文土器	深鉢	-	(19.3)	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子・針状鉱物	にぶい橙	普通	縄文 RL 施文→隆帯貼付→沈線	A 1 b7	15% PL39
130	縄文土器	深鉢	-	(8.2)	7.6	長石・石英・ 針状鉱物	にぶい橙	普通	縄文 RL 施文→懸垂文	A 1 b7	20%
131	縄文土器	浅鉢	[46.4]	(5.4)	-	長石・石英・雲母・ 針状鉱物	にぶい褐	普通	内・外面磨き	A 1 b7	10%
132	縄文土器	深鉢	-	(9.1)	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子・針状鉱物	にぶい褐	普通	4本1単位の縄状条線→懸垂文→ 懸垂文間磨き	A 1 b8	5%
133	縄文土器	深鉢	[30.2]	(33.6)	-	長石・針状鉱物	にぶい橙	普通	縄文 RL 施文→隆帯貼付→沈線	A 1 b8	60% PL38
134	縄文土器	深鉢	[40.2]	(24.0)	-	長石・石英	暗赤褐	普通	縄文 LR 施文→隆帯貼付→沈線	A 1 b8	20%
135	縄文土器	深鉢	-	(6.1)	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい赤褐	普通	縄文 RL 施文→連続爪形文	A 1 b8	10%
136	縄文土器	深鉢	[16.0]	(20.2)	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	縄文 RL 施文→隆帯貼付→沈線	A 1 b9	30%
137	縄文土器	深鉢	[21.5]	(11.3)	-	長石・石英・雲母・ 針状鉱物	灰褐	普通	縄文 RL 施文→隆帯貼付→隆帯輪 沈線	A 1 b9	10%
138	縄文土器	深鉢	[10.0]	(8.5)	-	長石・石英	明赤褐	普通	縄文 RL 施文→沈線	A 1 b9	20%
139	縄文土器	深鉢	[36.0]	(19.0)	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	縄文 LR 施文→隆帯貼付→隆帯輪 沈線	A 1 b9	10% PL39
140	縄文土器	浅鉢	[46.0]	14.0	[13.4]	長石・石英・ 針状鉱物	にぶい黄橙	普通	内・外面磨き	A 1 b9	40% PL40
141	縄文土器	鉢	-	(10.6)	[9.6]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	懸垂文 L 施文→沈線→沈線間磨き	A 1 b9	5%
142	縄文土器	両耳壺	-	(15.8)	-	長石・石英・雲母・ 針状鉱物	にぶい赤褐	普通	縄文 LR 縦位回転施文	A 1 b9	5%
143	縄文土器	深鉢	[29.0]	(14.8)	-	石英・雲母	にぶい褐	普通	縄文 RL 施文→隆帯貼付→沈線	A 1 b9	20%
144	縄文土器	深鉢	[38.0]	(25.0)	-	長石・石英・雲母・ 針状鉱物	にぶい橙	普通	縄文 LR 施文→隆帯貼付→隆帯輪 沈線一部のみ	A 1 b9	30% PL39
145	縄文土器	深鉢	[19.6]	(19.3)	-	長石・石英・雲母・ 針状鉱物	にぶい橙	普通	縄文 LR 施文→隆帯貼付→一部隆 帯輪沈線	A 1 b9	30% PL38
146	縄文土器	深鉢	-	(23.9)	[8.6]	長石・石英・ 雲母	にぶい橙	普通	縄文 LR 施文→沈線	A 1 b9	40%
147	縄文土器	浅鉢	-	(7.9)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部の隆帯潤滑	A 1 b9	5%
148	縄文土器	深鉢	[17.9]	(29.7)	-	長石・石英・雲母・ 針状鉱物	にぶい橙	普通	縄文 RL 施文→隆帯貼付→沈線	A 1 c9	75% PL38
149	縄文土器	深鉢	[20.0]	(20.5)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	縄文 LR 施文→隆帯貼付→隆帯輪 沈線	A 1 c9	20%
150	縄文土器	深鉢	[29.6]	(21.4)	-	長石・石英・雲母・ 針状鉱物	にぶい橙	普通	縄文 LR 施文→隆帯貼付→沈線 縦位の結節縄文あり	A 1 c9	30% PL39
151	縄文土器	浅鉢	[25.8]	(8.6)	-	長石・石英・雲母・ 針状鉱物	橙	普通	口唇部に文様 内・外面磨き	A 1 c9	5% PL40
152	縄文土器	深鉢	[17.0]	(17.0)	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	明赤褐	普通	7本1単位の縄状工具による 施文	A 1 c9	10% PL42
153	縄文土器	石孔深鉢	[10.0]	(4.6)	-	長石	褐灰	普通	内・外面磨き	A 1 c9	10%
154	縄文土器	浅鉢	-	(7.7)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	赤彩による文様施文々	A 1 c9	5% PL40
155	縄文土器	深鉢	-	(7.9)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい橙	普通	縄文 RL 充填→沈線	A 1 c8	40%
156	縄文土器	浅鉢	19.4	10.3	8.3	長石・石英・雲母・ 赤色粒子・針状鉱物	橙	普通	内・外面磨き	A 1 c8	95% PL40
157	縄文土器	深鉢	[22.0]	(7.2)	-	長石・石英・雲母・ 針状鉱物	橙	普通	縄文 RL 縦位回転間施文	A 1 c9	5%
158	縄文土器	浅鉢	33.3	9.9	10.9	長石・石英・雲母・ 針状鉱物	にぶい橙	普通	内・外面磨き	A 1 c9	30% PL40
159	縄文土器	深鉢	[45.0]	(16.8)	-	長石・石英・雲母・ 針状鉱物	にぶい橙	普通	縄文 RL 施文→隆帯貼付→沈線	A 1 c9	15% PL39
160	縄文土器	深鉢	[24.2]	(21.5)	-	長石・石英・雲母・ 針状鉱物	浅黄橙	普通	縄文 LR 施文→口縁部隆帯貼付 内面小口工具による字文	A 1 c9	60% PL38
161	縄文土器	深鉢	[20.4]	(26.0)	-	長石・石英・雲母・ 針状鉱物	明赤褐	普通	縄文 RL 施文→隆帯貼付→隆帯輪 沈線	A 1 c9	70% PL38
162	縄文土器	深鉢	[23.0]	(7.9)	-	長石・石英・雲母・ 針状鉱物	にぶい橙	普通	縄文 RL 施文→隆帯貼付→沈線	A 1 c9	40%
163	縄文土器	深鉢	-	(14.8)	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子・針状鉱物	にぶい褐	普通	縄文 RL 施文→隆帯貼付→沈線	A 1 c9	5%
164	縄文土器	深鉢	-	(33.8)	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	縄文 RL 施文→沈線	A 1 c9	30%
165	縄文土器	深鉢	-	(24.0)	12.1	長石・石英・ 雲母	にぶい橙	普通	縄文 RL 縦位回転施文	A 1 c9	45%
166	縄文土器	浅鉢	[38.2]	(12.2)	-	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	内・外面丁寧な磨き 内面赤彩	A 1 c9	10% PL40
167	縄文土器	深鉢	15.5	(15.7)	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	褐灰	普通	縄文 RL 縦位回転施文→半截竹管 による沈線文	A 2 c1	50%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
168	縄文土器	深鉢	-	(90)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	内・外面磨き	A 2c1	10%
169	縄文土器	深鉢	[32]	40.4	10.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部縄文L 縦位回転施文 胴部縄文LR・肩・履位曲状施文→隆帯貼付→沈線	A 2c1	60% PL38
170	縄文土器	浅鉢	-	(106)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	にぶい橙	普通	内・外面磨き 赤彩	A 2c1	5% PL40
171	縄文土器	深鉢	-	(233)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい赤褐	普通	縄文LR 施文→隆帯貼付→沈線	A 2c1	30% PL39
172	縄文土器	深鉢	-	(165)	100	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	5本1単位の櫛歯条線→沈線	A 2c1	40%
173	縄文土器	深鉢	[21.3]	(226)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	縄文LR 施文→隆帯貼付→沈線	A 2d1	60%
174	縄文土器	深鉢	[26.0]	(148)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	明赤褐	普通	縄文LR 施文→隆帯貼付→沈線	A 2d1	25%
175	縄文土器	深鉢	-	(231)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	明黄褐	普通	縄文LR 施文→沈線	A 2d1	20%
176	縄文土器	深鉢	-	(325)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい褐	普通	縄文LR 施文→隆帯貼付→沈線	A 2d1	20%
177	縄文土器	浅鉢	[42.8]	(108)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内・外面磨き	包含層中	10%
178	縄文土器	深鉢	-	(155)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい褐	普通	縄文LR 施文→隆帯貼付	包含層中	5% PL39
179	縄文土器	深鉢	[20.4]	(90)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい褐	普通	縄文LR 施文→沈線	包含層中	20%
180	縄文土器	深鉢	12.5	(130)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	縄文RL 施文→沈線	包含層中	50%
181	縄文土器	浅鉢	[28.4]	11.2	9.8	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	3単位の波状口縁 外面ナデ 内面磨き	包含層中	50% PL40
182	縄文土器	浅鉢	[38.7]	(122)	-	石英・雲母	浅黄橙	普通	内・外面磨き	包含層中	20% PL40
183	縄文土器	深鉢	-	(100)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	普通	胴部無節縄文L 履位回転施文	A 1a9	5%
184	縄文土器	深鉢	[32.6]	(212)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい赤褐	普通	無節縄文L 施文→沈線→無文部磨き	A 1a9	20%
185	縄文土器	深鉢	[36.1]	(175)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい褐	普通	胴部縄文LR 履位回転施文	A 1a0	5%
186	縄文土器	深鉢	-	(118)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	にぶい褐	普通	区画内無節縄文L 充填	A 1a0	5% PL42
187	縄文土器	深鉢	-	(107)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	にぶい赤褐	普通	胴部縄文LR 施文	A 1a0	5%
188	縄文土器	深鉢	-	(96)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	普通	口縁部正面・石舞面・表面にC字文	A 1b7	5%
189	縄文土器	深鉢	[25.2]	(210)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	にぶい橙	普通	縄文LR 施文→沈線→無文部磨き	A 1b9	60% PL41
190	縄文土器	深鉢	[16.7]	33.0	6.7	石英・雲母・針状鉱物	にぶい赤褐	普通	区画内縄文LR 充填→隆帯貼付沈線	A 1b9	40% PL41
191	縄文土器	深鉢	[37.0]	(248)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	明赤褐	普通	縄文RL 履位回転施文	A 1b9	30%
192	縄文土器	鉢	26.3	20.0	7.6	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい赤褐	普通	沈線→縄文LR 充填→粗い磨き	A 1b9	45% PL41
193	縄文土器	深鉢	-	(48)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部に杵状文 楕状把手欠損	A 1b0	5%
194	縄文土器	深鉢	13.4	(109)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	沈線→無節縄文L 施文→刺突文	A 1b0	30% PL42
195	縄文土器	深鉢	-	(98)	11.2	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	縄文LR 履位回転施文	A 1b0	20%
196	縄文土器	深鉢	[30.0]	[40.5]	[6.8]	長石・石英・雲母・針状鉱物	明赤褐	普通	4単位の波状口縁	A 1b0	60% PL41
197	縄文土器	甕形土器	-	(94)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	内・外面磨き	A 1b0	5%
198	縄文土器	甕形土器	28.5	(215)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい赤褐	普通	区画内縄文LR 充填→隆帯貼付沈線	A 1b0	45% PL41
199	縄文土器	深鉢	-	(108)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	灰褐	普通	口縁部隆帯上にLR 縄文	A 1c6	5%
200	縄文土器	蓋	[6.0]	(14)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	内・外面ナデ	A 1c7	25%
201	縄文土器	蓋	[6.0]	(14)	-	長石	灰褐	普通	内・外面ナデ	A 1c0	20%
202	縄文土器	深鉢	-	(79)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい赤褐	普通	縄文LR 施文→沈線→円形貼付文	A 2b1	5%
203	縄文土器	蓋	[4.5]	41	[9.6]	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	沈線→縄文LR 充填	A 2b1	25%
204	縄文土器	陶耳壺	-	(225)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	隆帯貼付→4本1単位の櫛歯条線	A 2c1	20%
205	縄文土器	甕形土器	-	(166)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	普通	縄文LR 施文	A 2c1	5%
206	縄文土器	台形土器	-	(30)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	約1cm 間隔で透かし孔 履位の削り	A 1c9	40%
207	縄文土器	にちゅう7	2.6	2.4	1.5	長石・石英	にぶい褐	普通	内・外面指頭ナデ	A 1c9	100% PL43
208	縄文土器	にちゅう7	3.1	3.4	2.0	長石・石英・雲母・針状鉱物	褐	普通	胴部下端へ削り	A 1c0	100% PL43
209	縄文土器	にちゅう7	-	(29)	-	長石	にぶい橙	普通	胴部下手に爪形文	A 1c0	50%
210	縄文土器	深鉢	-	(79)	-	長石・雲母・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	縄文LR 光填	A 1a0	5% PL42

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP162	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	灰褐	普通	内・外面貝殻条痕文	A 1 e9	
TP163	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	橙	普通	内・外面貝殻条痕文	A 1 d9	
TP164	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	普通	竹管文による斜行文と連続刺突文	A 1 d0	
TP165	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維・針状鉱物	にぶい赤褐	普通	口唇部削み 半載竹管カ	A 2 d1	
TP166	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	普通	内・外面貝殻条痕	包含層中	
TP167	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	半載竹管による斜行文	A 1 e7	
TP168	縄文土器	深鉢	長石	にぶい褐	普通	半載竹管による沈線と連続刺突文	A 1 e7	
TP169	縄文土器	深鉢	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	貝殻線緑文→半載竹管文	A 1 e7	
TP170	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	にぶい赤褐	普通	口唇部削み 横位の爪形文	A 1 d7	
TP171	縄文土器	深鉢	長石・黒色粒子	にぶい橙	普通	縄文 LR 施文→削みを有する細い隆帯貼付	A 1 e7	
TP172	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	縄文 RL 施文→削みを有する隆帯貼付	A 1 e8	
TP173	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	半載竹管による斜行文	A 1 e8	
TP174	縄文土器	深鉢	石英	橙	普通	口唇部に縦位の沈線文	A 1 e9	
TP175	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部押圧 半載竹管による斜行文	A 1 e0	
TP176	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明褐	普通	内・外面ナデ	A 1 e0	
TP177	縄文土器	深鉢	長石	明赤褐	普通	連続刺突文	A 1 d9	
TP178	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	爪形文	A 2 d1	
TP179	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	にぶい赤褐	普通	貝殻線緑線波状文	A 2 d1	
TP180	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい褐	普通	貝殻線緑線し引き文	A 2 d1	
TP181	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒褐	普通	半載竹管による押し引き文	A 2 d1	
TP182	縄文土器	深鉢	長石・繊維	明赤褐	普通	縄文 RL 横位回転施文	A 2 d1	
TP183	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	明赤褐	普通	貝殻線緑線し引き文	A 2 d1	
TP184	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	黒褐	普通	外面粗い磨き	A 1 b7	PL36
TP185	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	にぶい橙	普通	無節縄文 R 施文→有節沈線	A 1 b7	
TP186	縄文土器	浅鉢	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	黒褐	普通	内・外面磨き	A 1 b7	
TP187	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	隆帯上に縄文 LR 施文→爪形文	A 1 b7	
TP188	縄文土器	深鉢	長石・石英	灰褐	普通	無節縄文 R 施文→縦位の結節文 口唇部に原体圧痕	A 1 b7	
TP189	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口唇部に単列角押文	A 1 b7	
TP190	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇部に削み 内・外面角押文	A 1 b7	PL36
TP191	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	隆帯脇に爪形文 割部縄文 LR 施文	A 1 b7	
TP192	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	にぶい赤褐	普通	割部縄文 LR 施文→有節沈線	A 1 b7	PL36
TP193	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	口唇部に単列角押文	A 1 b7	
TP194	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	無節縄文 L 施文→隆帯貼付 隆帯上にも無節縄文 L 施文	A 1 b7	PL36
TP195	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	口唇部に単列角押文	A 1 b7	
TP196	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	無節縄文 R 施文 口唇部に原体圧痕	A 1 b7	
TP197	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい赤褐	普通	縄文 RL 縦位回転施文→沈線	A 1 b7	
TP198	縄文土器	浅鉢	長石・石英	浅黄橙	普通	外面ナデ 内面磨き	A 1 b7	
TP199	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	灰黄褐	普通	無節縄文 L 施文 隆帯脇に原体圧痕	A 1 b7	
TP200	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	内・外面ナデ	A 1 b7	
TP201	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	縄文 LR 施文→有節沈線	A 1 b7	
TP202	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	断面三角形の隆帯による懸垂文 多段の爪形文	A 1 b7	
TP203	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	無節縄文 L 施文→隆帯貼付→原体圧痕文	A 1 b7	
TP204	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部に単列角押文	A 1 b7	
TP205	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい褐	普通	無節縄文 L 施文→有節沈線	A 1 b8	
TP206	縄文土器	深鉢	長石・石英	暗赤褐	普通	無節縄文 L 施文→有節沈線 口唇部に削み	A 1 b8	
TP207	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐	普通	縄文 LR 施文→有節沈線	A 1 b8	

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP208	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤黒	普通	縄文LR施文→隆帯貼付→隆帯上押し引き文 口縁部に原体側面圧痕	A 1 b8	
TP209	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	にぶい褐	普通	胴部縄文LR施文	A 1 b8	
TP210	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部に原体側面圧痕	A 1 b8	
TP211	縄文土器	深鉢	石英・雲母・針状鉱物	にぶい褐	普通	多段の連続爪形文	A 1 b8	
TP212	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤黒	普通	縄文LR施文→隆帯貼付→隆帯脇有節沈線	A 1 b9	
TP213	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤黒	普通	縄文RL施文→有節沈線 口縁部に原体圧痕	A 1 b9	
TP214	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	にぶい褐	普通	無節縄文L施文→沈線	A 1 c7	
TP215	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	普通	内・外面磨き	A 1 c7	
TP216	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐	普通	単列角押文による弧線文	A 1 c7	PL36
TP217	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤黒	普通	無節縄文L縦位回転施文	A 1 c7	
TP218	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	細い隆帯貼付	A 1 c7	TP229と混合
TP219	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明褐	普通	隆帯脇・口唇部・内面に有節沈線	A 1 c8	
TP220	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	口縁部に有節沈線	A 1 c8	
TP221	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい橙	普通	有節沈線による文様施文 口唇部・内面にも有節沈線	A 1 c8	
TP222	縄文土器	浅鉢	長石・石英・針状鉱物	にぶい橙	普通	内・外面磨き	A 1 c9	
TP223	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	縄文LR施文→沈線	A 1 c9	PL37
TP224	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	内・外面赤彩	A 1 c9	PL37
TP225	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	隆帯脇沈線	A 1 c9	
TP226	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	赤灰	普通	摺糸文L施文→半截竹管による沈線文	A 1 c9	PL37
TP227	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部・隆帯脇に有節沈線	A 1 d0	
TP228	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい黄褐	普通	縄文RL施文→沈線	A 1 d7	
TP229	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	微隆起帯による文様	A 1 d7	TP218と混合 PL36
TP230	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	明赤褐	普通	隆帯脇単列角押文	A 1 d9	PL36
TP231	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	普通	単列角押文 口唇部・内面に交互刺突文	A 1 d9	PL36
TP232	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	普通	縄文RL施文→沈線	A 1 d0	
TP233	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい赤黒	普通	隆帯上・隆帯脇に爪形文	A 1 d0	
TP234	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	にぶい褐	普通	断面三角形の隆帯脇に単列角押文	A 1 d0	
TP235	縄文土器	深鉢	長石・石英	褐灰	普通	沈線→円形竹管文	A 2 c1	
TP236	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	隆帯貼付→爪形文	A 2 d1	
TP237	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	隆帯貼付→爪形文	A 2 d1	
TP238	縄文土器	深鉢	石英・雲母	灰黄褐	普通	格子目文→磨き	A 2 d1	
TP239	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	半截竹管による爪形文	A 2 d1	
TP240	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	灰褐	普通	無節縄文L施文→隆帯貼付→沈線	A 2 d1	
TP241	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	明赤褐	普通	隆帯貼付→縄文RL施文→沈線	A 2 d1	
TP242	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	にぶい赤黒	普通	口唇部刻み 縄文RL縦位回転施文	A 2 d1	PL36
TP243	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	普通	縦位沈線→口縁部隆帯貼付→隆帯脇沈線→O段多条の縄文RL施文	A 1 a8	
TP244	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	良好	胴部上半縄文RL・下半O段多条の縄文RL施文→隆帯貼付→隆帯脇沈線	A 1 a8	
TP245	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	良好	胴部縄文RL施文→隆帯貼付→隆帯脇沈線	A 1 a8	
TP246	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	良好	胴部縄文RL施文→隆帯貼付→隆帯脇沈線	A 1 a8	
TP247	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	縄文RL施文→隆帯貼付→隆帯脇沈線施文	A 1 a9	PL39
TP248	縄文土器	両耳壺	長石・石英・雲母・針状鉱物	橙	普通	胴部縄文RL縦位回転施文	A 1 a9	
TP249	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい黄褐	普通	斜行集合沈線→磨消	A 1 a0	
TP250	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	縄文RL施文→隆帯貼付→沈線	A 1 b7	
TP251	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	普通	縄文RLR施文→隆帯貼付→沈線	A 1 b7	
TP252	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	O段多条の縄文RL施文→隆帯貼付→沈線	A 1 b7	PL39
TP253	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	にぶい赤黒	普通	縄文RL施文→隆帯貼付→沈線	A 1 b7	

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP24	縄文土器	深鉢	長石・石英	明褐色	普通	縦い波状口縁 縄文LR 施文→隆帯貼付	A 1b8	
TP25	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	橙	普通	縄文LR 施文 口縁部区画内沈線→隆帯貼付→隆帯脇沈線	A 1b8	
TP26	縄文土器	深鉢	長石・石英	灰褐色	普通	縄文LR 施文→隆帯貼付→隆帯脇沈線	A 1b8	
TP27	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	にぶい黄褐色	普通	流線式扉 縦位沈線→波状磨消	A 1b8	
TP28	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	にぶい黄褐色	普通	無節縄文L 施文→隆帯貼付→隆帯脇沈線	A 1b9	
TP29	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	にぶい橙	普通	縄文LR 施文→隆帯貼付→隆帯脇沈線	A 1b9	
TP30	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	縄文LR 施文→沈線	A 1b9	
TP31	縄文土器	深鉢	長石・石英・黒色粒子	にぶい赤褐色	普通	縄文LR 施文→沈線	A 1b9	
TP32	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐色	普通	縄文LR 施文 縦位の結節縄文	A 1b9	
TP33	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	にぶい褐色	普通	半載竹管による集合沈線文 口縁部にも半載竹管文	A 1b0	
TP34	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	橙	普通	縄文LR 施文→沈線	A 1b0	
TP35	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	半載竹管による縦位の密接沈線文	A 1c7	
TP36	縄文土器	鉢	長石・石英・針状鉱物	にぶい赤褐色	普通	区画内縄文LR 充填	A 1c7	
TP37	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	にぶい赤褐色	普通	楕円形区画内無節縄文L 施文	A 1c9	
TP38	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	灰褐色	普通	縄文LR 縦位回転施文	A 1c9	
TP39	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	にぶい赤褐色	普通	無節縄文R 縦位回転施文	A 1c9	
TP20	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい褐色	普通	縄文LR 施文→隆帯貼付→隆帯脇沈線	A 1c0	
TP21	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	にぶい橙	普通	縄文LR 施文→沈線	A 1c0	
TP22	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	器糸文L 施文→隆帯貼付→沈線	A 1c0	
TP23	縄文土器	鉢	長石・石英	浅黄褐色	普通	棒状工具による文様施文	A 1c0	
TP24	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	右孔開けカ 赤彩あり	A 1c8	
TP25	縄文土器	深鉢	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	無節縄文L 施文→隆帯貼付→沈線	A 1c0	
TP26	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	隆帯上に爪形文	A 1c0	
TP27	縄文土器	鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	集合沈線文	A 2c1	
TP28	縄文土器	深鉢	長石・雲母・針状鉱物	にぶい橙	普通	集合沈線文	A 2c1	
TP29	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	にぶい褐色	普通	縄文LR 施文→沈線→沈線磨消	A 2c1	
TP20	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	にぶい赤褐色	普通	沈線→縄文LR 施文	A 2c1	
TP21	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	浅黄褐色	普通	隆帯貼付→縦位の沈線	A 2c1	
TP22	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	灰黄褐色	普通	縄文LR 施文→隆帯貼付→沈線	A 2d1	
TP23	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	にぶい褐色	普通	内・外面磨き→沈線	包含層中	
TP24	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	普通	樹皮状条線→沈線	包含層中	
TP25	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	にぶい黄褐色	普通	縄文LR 施文→隆帯脇ナデ	包含層中	
TP26	縄文土器	深鉢	長石・石英・黒色粒子	明赤褐色	普通	副部縄文LR 横位回転施文	A 1a8	
TP27	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	縄文LR 施文→隆帯貼付	A 1a9	
TP28	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい赤褐色	普通	沈線→無節縄文L 施文→無文部磨き	A 1a9	
TP29	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	無文部磨き	A 1a9	
TP20	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	にぶい褐色	普通	半載竹管による棒線文	A 1a0	
TP21	縄文土器	深鉢	長石・雲母・針状鉱物	橙	普通	口縁部やや肥厚	A 1a0	
TP22	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	明赤褐色	普通	4本1単位の樹皮状工具による条線	A 1b9	
TP23	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	橙	普通	縄文LR 施文→沈線→無文部磨き	A 1b9	PL42
TP24	縄文土器	深鉢	長石・石英・黒色粒子・針状鉱物	にぶい橙	普通	副部縄文LR 施文	A 1b0	PL42
TP25	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子・針状鉱物	にぶい橙	普通	副部器糸文R 施文	A 1b0	PL42
TP26	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	浅黄褐色	普通	副部器糸文R 施文	A 1b0	
TP27	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒褐色	普通	隆帯貼付→無節縄文L 施文→沈線	A 1b0	
TP28	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	普通	縄文LR 施文→沈線・縦位の刺突列	A 1b0	
TP29	縄文土器	深鉢	石英・雲母・針状鉱物	にぶい赤褐色	普通	内・外面磨き	A 1b0	

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP300	縄文土器	深鉢	石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	普通	縄文RL施文→沈線→無文部磨き	A 1b0	
TP301	縄文土器	深鉢	長石・石英	灰褐	普通	口縁部に刺突列	A 1c7	
TP302	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	無部縄文L施文→集合沈線文	A 1c7	
TP303	縄文土器	深鉢	長石・石英・黒色粒子	明赤褐	普通	内・外面粗い磨き	A 1c0	
TP304	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	文様区画内に歯歯条線充填	A 1d0	
TP305	縄文土器	深鉢	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	縄文RL施文→整重文	A 1d0	
TP306	縄文土器	深鉢	石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	普通	胴部棒状工具による格子目文	A 2b1	PL42
TP307	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子・針状鉱物	にぶい橙	普通	標赤文L施文	A 2b1	PL42
TP308	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	縄文RL施文→沈線→円形貼付文	A 2b1	
TP309	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子・針状鉱物	にぶい橙	普通	6本1単位の歯歯条線→沈線	A 2b1	
TP310	縄文土器	深鉢	石英・雲母	橙	普通	縄文LR施文→沈線	A 2b1	
TP311	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	胴部0段多条の縄文LR縦回転施文	A 2b1	
TP312	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	6本1単位の歯歯状工具による短い条線	A 2b1	
TP313	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい赤褐	普通	5本1単位の歯歯状工具による格子目状文	A 2b1	
TP314	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	黒褐	普通	胴部4本1単位の歯歯条線による格子目文	A 2b1	
TP315	縄文土器	深鉢	長石・雲母	橙	普通	粗い磨き→沈線→円形貼付文	A 2c1	
TP316	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	4本1単位の歯歯条線→沈線	A 2c1	
TP317	縄文土器	深鉢	長石・雲母・針状鉱物	灰褐	普通	6本1単位の歯歯条線	A 2c1	
TP318	縄文土器	深鉢	長石・石英	褐灰	普通	縄文LR施文→沈線→無文部磨き	A 2c1	
TP319	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	沈線→無部縄文L施文	A 2c1	
TP320	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	普通	胴部縄文LR縦回転施文	A 2d1	
TP321	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	10本1単位の歯歯条線	包含層中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴など	出土位置	備考
DP17	耳栓	3.3	3.4	2.0	(14.1)	長石・石英・雲母・赤色粒子	一部欠損 上面・下面ナテ 側面磨き	A 1c9	PL43
DP18	耳栓	(2.7)	(1.2)	1.2	(3.5)	長石・石英	ナテ成形	A 1b9	
DP19	土偶	(13.6)	(6.7)	(3.0)	(38.4)	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	両脚部・片腕部欠損 沈線による人面表現 刺突文ナテ成形	A 1c8	PL43
DP20	土偶	(4.0)	(5.8)	4.8	(72.2)	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	頭部 沈線による人面表現 刺突文 ナテ成形 頸部部孔4か所	A 1c0	PL43
DP21	土偶	(5.0)	(4.1)	1.7	(34.5)	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	頭部 刺突文 ナテ成形 剥離痕有り	A 1d9	
DP22	土偶	(2.5)	(2.6)	(2.7)	(16.4)	長石・石英・針状鉱物	脚部 刺突文 孔2か所	A 1c7	
DP23	土偶	(1.5)	3.7	3.8	(16.9)	長石・石英・雲母	脚部 ナテ成形	A 1c9	
DP24	土偶	(2.3)	4.6	(3.6)	(32.4)	長石・石英・針状鉱物	脚部 ナテ成形 歯頸痕	包含層中	
DP25	土器片割	2.9	2.8	0.9	8.7	長石・石英・針状鉱物	周縁部研磨	A 1a7	
DP26	土器片割	3.5	2.9	1.3	16.0	石英・雲母	周縁部研磨	A 1a8	
DP27	土器片割	3.6	3.7	1.1	18.3	長石・石英・赤色粒子	周縁部研磨	A 1a9	
DP28	土器片割	4.2	4.0	1.2	19.6	長石・石英・針状鉱物	周縁部研磨	A 1b7	
DP29	土器片割	3.1	2.9	1.3	14.0	長石・石英・雲母	周縁部研磨	A 1b7	
DP30	土器片割	3.3	3.2	0.7	9.3	長石・石英・雲母	周縁部研磨	A 1b7	
DP31	土器片割	2.9	2.8	0.8	7.7	長石・石英	周縁部研磨	A 1b7	
DP32	土器片割	2.9	3.1	1.2	12.1	長石・石英・黒色粒子・針状鉱物	周縁部研磨	A 1b7	
DP33	土器片割	2.8	2.9	1.1	10.3	長石・石英・赤色粒子	周縁部研磨	A 1b7	
DP34	土器片割	2.0	2.2	1.2	6.8	石英・雲母	周縁部研磨	A 1b7	
DP35	土器片割	3.8	4.5	1.0	21.4	長石・石英・針状鉱物	周縁部研磨	A 1b8	
DP36	土器片割	5.2	6.1	1.5	59.3	石英・雲母・針状鉱物	周縁部研磨	A 1b9	
DP37	土器片割	2.0	1.9	0.7	3.7	長石・石英・針状鉱物	周縁部研磨	A 1b9	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴など	出土位置	備考
DP38	土器片内壺	4.4	4.7	0.8	22.6	石英・雲母	周縁部研磨	A 1b0	
DP39	土器片内壺	4.1	4.2	1.0	17.2	長石・石英	周縁部研磨	A 1b0	
DP40	土器片内壺	3.6	3.6	1.1	18.3	長石・石英	周縁部研磨	A 1b0	
DP41	土器片内壺	3.4	3.2	0.9	11.6	長石・石英・赤色 粒子・黒色粒子	周縁部研磨	A 1b0	
DP42	土器片内壺	3.0	3.1	1.2	13.6	長石・石英・ 黒色粒子	周縁部研磨	A 1b0	
DP43	土器片内壺	(3.2)	(2.9)	1.5	(14.5)	長石・石英	一部欠損 周縁部研磨	A 1b0	
DP44	土器片内壺	(2.7)	3.1	1.4	(16.3)	長石・石英	周縁部研磨	A 1b0	
DP45	土器片内壺	2.9	2.9	1.0	12.1	長石・石英・ 針状鉱物	周縁部研磨	A 1b0	
DP46	土器片内壺	2.3	2.4	0.8	5.4	長石・石英	周縁部研磨	A 1b0	
DP47	土器片内壺	2.2	2.3	0.8	5.8	長石・石英・黒色 粒子・針状鉱物	周縁部研磨	A 1b0	
DP48	土器片内壺	3.4	3.6	0.9	14.7	石英・雲母	周縁部研磨	A 1c7	
DP49	土器片内壺	3.5	3.7	1.0	15.1	長石・石英・ 雲母	周縁部研磨	A 1c7	
DP50	土器片内壺	2.6	2.6	1.1	8.0	石英・雲母	周縁部研磨	A 1c7	
DP51	土器片内壺	(2.7)	4.8	0.9	(14.6)	長石・石英・ 黒色粒子	半部欠損 周縁部研磨	A 1c7	
DP52	土器片内壺	(3.8)	(2.7)	0.9	(12.0)	長石・石英	一部欠損 周縁部研磨	A 1c7	
DP53	土器片内壺	4.2	4.1	1.2	26.4	長石・石英・雲 母・針状鉱物	周縁部研磨	A 1c8	
DP54	土器片内壺	3.2	3.3	0.8	11.3	長石・石英・ 雲母	一部欠損 周縁部研磨	A 1c9	
DP55	土器片内壺	3.2	3.3	1.0	14.2	長石・石英・ 雲母	周縁部研磨	A 1c9	
DP56	土器片内壺	2.4	2.5	1.1	8.8	石英・雲母	周縁部研磨	A 1c9	
DP57	土器片内壺	4.1	3.8	1.0	17.5	長石・石英・雲 母・針状鉱物	周縁部研磨	A 1c0	
DP58	土器片内壺	3.5	3.3	1.4	19.3	長石・石英・雲 母・針状鉱物	周縁部研磨	A 1c0	
DP59	土器片内壺	3.3	3.2	1.1	13.8	長石・石英・ 雲母	周縁部研磨	A 1c0	
DP60	土器片内壺	3.1	3.4	0.9	14.8	長石・石英・雲 母・赤色粒子	周縁部研磨	A 1c0	
DP61	土器片内壺	2.8	2.7	0.9	8.6	長石・石英	周縁部研磨	A 1c0	
DP62	土器片内壺	2.3	2.2	0.9	4.8	長石・石英	周縁部研磨	A 1c0	
DP63	土器片内壺	2.9	4.8	2.9	15.4	長石・石英・ 雲母	周縁部研磨	A 1c0	
DP64	土器片内壺	3.4	3.2	1.1	16.2	石英・雲母	周縁部研磨	A 1d7	
DP65	土器片内壺	2.8	2.6	0.9	8.5	長石・石英・雲 母・針状鉱物	周縁部研磨	A 1d8	
DP66	土器片内壺	2.6	2.5	1.2	8.7	石英・雲母	周縁部研磨	A 1d8	
DP67	土器片内壺	4.1	4.1	1.1	20.8	長石・石英・雲 母・針状鉱物	周縁部研磨	A 1d9	
DP68	土器片内壺	3.6	3.4	0.9	16.0	石英・雲母	周縁部研磨	A 1d0	
DP69	土器片内壺	2.3	2.3	0.9	5.4	長石・石英	周縁部研磨	A 1d0	
DP70	土器片内壺	3.2	3.3	0.7	8.6	石英・雲母	周縁部研磨	A 2b1	
DP71	土器片内壺	3.1	3.6	1.1	13.0	石英・雲母・ 針状鉱物	周縁部研磨	A 2b1	
DP72	土器片内壺	3.1	3.6	1.1	15.5	石英・雲母	周縁部研磨	A 2b1	
DP73	土器片内壺	3.4	3.1	1.1	14.2	長石・石英・雲 母・針状鉱物	周縁部研磨	A 2b1	
DP74	土器片内壺	3.0	2.9	1.5	15.9	石英・雲母	周縁部研磨	A 2b1	
DP75	土器片内壺	2.6	2.5	1.0	7.8	長石・石英	周縁部研磨	A 2b1	
DP76	土器片内壺	2.4	2.2	1.1	7.1	長石・石英・雲 母・針状鉱物	周縁部研磨	A 2b1	
DP77	土器片内壺	3.4	3.2	1.3	16.6	石英・雲母	周縁部研磨	A 2c1	
DP78	土器片内壺	2.5	2.7	1.1	8.2	石英・雲母	周縁部研磨	A 2d1	
DP79	土器片内壺	2.4	2.3	1.0	8.0	石英・雲母	周縁部研磨	A 2d1	
DP80	不明土製品	(4.3)	(3.6)	1.4	(14.0)	長石・石英・雲 母・赤色粒子	ナデ成形 指痕痕	A 1a9	
DP81	不明土製品	(3.7)	(2.0)	1.6	(7.6)	長石・石英	ナデ成形 一方からの穿孔	A 1b0	
DP82	不明土製品	3.0	(1.7)	1.6	(6.2)	長石・石英・雲 母・黒色粒子	ナデ成形	A 1c9	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴 など	出土位置	備 考
Q154	ナイフ形石	4.3	1.8	0.6	3.5	瑪瑙	両面端部押圧剥離	A 1c7	
Q155	スレーパー	5.6	3.7	1.1	23.8	頁岩	両面端部押圧剥離	包含層中	
Q156	スレーパー	3.7	3.5	0.6	7.9	頁岩	両面端部押圧剥離	A 1d8	
Q157	石鏃	5.0	2.4	0.6	6.1	チャート	両面押圧剥離 凹基無茎鏃	A 2c1	PL44
Q158	石鏃	3.1	1.7	0.5	2.5	チャート	両面押圧剥離 凹基無茎鏃	包含層中	PL44
Q159	石鏃	3.8	1.6	0.5	1.9	チャート	両面押圧剥離 凹基無茎鏃	A 1b7	PL44
Q160	石鏃	3.1	1.6	0.5	2.0	チャート	両面押圧剥離 凹基無茎鏃	A 1c9	PL44
Q161	石鏃	2.9	1.9	0.5	1.6	チャート	両面押圧剥離 凹基無茎鏃	A 1c0	PL44
Q162	石鏃	3.0	1.6	0.4	1.6	チャート	両面押圧剥離 凹基無茎鏃	A 1a0	PL44
Q163	石鏃	2.8	1.8	0.5	0.5	頁岩	両面押圧剥離 凹基無茎鏃	A 1c7	PL44
Q164	石鏃	2.8	1.5	0.5	1.8	チャート	両面押圧剥離 凹基無茎鏃	A 1c8	PL44
Q165	石鏃	2.7	1.5	0.5	1.6	黒曜石	両面押圧剥離 凹基無茎鏃	A 1c9	PL44
Q166	石鏃	2.6	1.9	0.7	2.8	瑪瑙	両面押圧剥離 平基無茎鏃	A 1b7	PL44
Q167	石鏃	2.7	2.0	0.6	2.8	チャート	両面押圧剥離 平基無茎鏃	A 1d9	PL44
Q168	石鏃	1.6	2.3	0.4	1.5	瑪瑙	両面押圧剥離 平基無茎鏃	A 1a8	PL44
Q169	石鏃	2.4	1.4	0.3	0.7	チャート	両面押圧剥離 凹基無茎鏃	A 1c8	PL44
Q170	石鏃	2.3	1.6	0.2	0.8	瑪瑙	両面押圧剥離 凹基無茎鏃	A 1d0	
Q171	石鏃	2.2	1.7	0.4	1.0	石英	両面押圧剥離 平基無茎鏃	A 1d0	
Q172	石鏃	1.8	1.5	0.6	1.4	瑪瑙	両面押圧剥離 凹基無茎鏃	A 1b8	PL44
Q173	石鏃	1.8	1.8	0.4	0.6	チャート	両面押圧剥離 凹基無茎鏃	A 1c8	PL44
Q174	石鏃	1.7	1.2	0.4	0.7	黒曜石	両面押圧剥離 凹基無茎鏃	A 1b0	PL44
Q175	石鏃	3.1	(1.6)	0.5	(1.7)	チャート	端部欠損 両面押圧剥離 凹基無茎鏃	A 1b9	PL44
Q176	石鏃	(2.7)	1.8	0.6	(2.6)	チャート	先端部欠損 両面押圧剥離 凹基無茎鏃	A 1b9	PL44
Q177	石鏃	2.3	1.8	0.7	(1.7)	チャート	両面押圧剥離 凹基無茎鏃	A 2d1	PL44
Q178	石鏃	(2.3)	1.7	0.4	(1.4)	チャート	先端部欠損 両面押圧剥離 凹基無茎鏃	A 1b9	PL44
Q179	石鏃	2.2	1.7	0.5	(1.7)	チャート	端部欠損 両面押圧剥離 平基無茎鏃	A 1c8	PL44
Q180	石鏃	(2.2)	1.7	0.6	(1.9)	黒曜石	先端部欠損 両面押圧剥離 凹基無茎鏃	A 2b1	PL44
Q181	石鏃	(2.0)	2.0	0.5	(1.6)	チャート	先端部欠損 両面押圧剥離 凹基無茎鏃	A 2d1	PL44
Q182	石鏃	(1.8)	1.6	0.4	(0.9)	チャート	先端部欠損 両面押圧剥離 凹基無茎鏃	A 1d0	PL44
Q183	石鏃	(2.1)	1.6	0.6	(1.5)	チャート	先端部欠損 両面押圧剥離 凹基無茎鏃	A 1c7	PL44
Q184	石鏃	(1.6)	(1.0)	0.4	(1.1)	瑪瑙	基部欠損 両面押圧剥離	A 1c7	
Q185	石鏃	4.4	1.9	0.5	2.8	頁岩	両面押圧剥離	A 1c7	PL44
Q186	石鏃	3.0	1.7	0.7	3.2	チャート	両面押圧剥離	A 1b7	PL44
Q187	石鏃	2.3	1.5	0.7	1.5	淡白石	両面押圧剥離	A 1c8	PL44
Q188	磨製石斧	(10.2)	6.7	2.5	(20.0)	緑色片岩	定角式 両面凸片 全面研磨	包含層中	PL45
Q189	磨製石斧	(3.6)	5.0	1.4	(30.1)	角閃片岩	定角式 刃部のみ残存 両凸片 全面研磨	A 1b7	
Q190	打製石斧	13.7	9.3	2.6	358.0	緑色片岩	下端に敲打痕 裏面に原礫面を残す 撥形	A 1c7	
Q191	打製石斧	14.4	5.6	1.9	173.5	千枚岩	両面調整 下端・側面に敲打痕 短鋸形	A 1b0	PL45
Q192	打製石斧	11.4	6.5	2.1	182.1	緑色片岩	片面調整 表面及び裏面に原礫面を残す 撥形	A 1b7	PL45
Q193	打製石斧	8.4	5.5	1.8	111.9	砂岩	片面下端調整 表面及び裏面に原礫面を残す 撥形 執熱痕	A 1b8	PL45
Q194	打製石斧	11.4	5.5	1.5	94.6	千枚岩	両面調整 撥形	A 1b0	PL45
Q196	打製石斧	12.2	6.1	1.9	178.8	緑色片岩	両面調整 短鋸形	A 1c7	PL45
Q197	打製石斧	(10.1)	2.5	4.9	(57.4)	緑色片岩	側面調整 表面及び裏面に原礫面を残す 短鋸形	A 1b7	
Q198	打製石斧	9.5	5.8	2.2	185.6	頁岩	表面調整 表面及び裏面に原礫面を残す 撥形	A 2b1	PL45
Q199	打製石斧	9.0	6.2	1.7	86.1	緑色片岩	両面調整 表面及び裏面に原礫面を残す 撥形	包含層中	PL45
Q200	打製石斧	(5.7)	3.7	1.6	(42.9)	チャート	両面調整 短鋸形	A 1d0	
Q201	磨石	12.0	6.5	2.9	332	緑色片岩	磨痕 2か所	A 1b7	
Q202	磨石	7.9	7.0	5.1	370	石英	磨痕 2か所	A 1b7	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q203	磨石	5.5	5.0	4.9	172	石英斑岩	磨痕2か所 被熱痕	A 1 b9	
Q204	磨石	15.0	9.3	5.2	1120	緑色片岩	磨痕4か所 敲打痕2か所	A 1 b0	
Q205	磨石	6.9	5.9	4.8	261	石英斑岩	磨痕1か所	A 1 b0	
Q206	磨石	8.7	7.4	5.8	563	砂岩	全面磨痕 敲打痕1か所 被熱痕	A 1 b0	PL47
Q207	磨石 (8.4)	7.8	4.8	(528)	石英斑岩	磨痕3か所 裏面に凹痕1か所	A 1 e0		
Q208	磨石	7.5	6.9	4.3	318	石英	磨痕2か所 側面に敲打痕	包含層中	
Q209	敲石	15.0 (7.1)	4.0	(442)	緑色片岩	敲打痕1か所 被熱痕	包含層中		
Q210	敲石	(9.1) (10.1)	4.0	(547)	緑色片岩	敲打痕1か所	A 1 b9		
Q211	敲石	8.9	7.1	3.4	357	泥岩	敲打痕1か所	A 1 b9	
Q212	敲石	(11.0)	7.5	3.3	(463)	緑色片岩	敲打痕1か所	A 2 d1	
Q213	石錘	10.2	3.8	1.7	1109	緑色岩	扁平な縁の側面を打ち欠き	A 1 e9	PL46
Q214	石錘	9.8	6.1	1.8	1696	緑色岩	扁平な縁の両端部を打ち欠き	A 1 b0	PL46
Q215	石錘	10.3	6.9	1.8	1949	緑色片岩	扁平な縁の両端部を打ち欠き	A 1 b0	PL46
Q216	石錘	8.5	4.5	1.1	698	角閃片岩	扁平な縁の両端部を打ち欠き	A 1 e8	PL46
Q217	石錘	3.2 (4.5)	(1.0)	(15.6)	千枚岩	二方向からの穿孔 被熱痕	A 1 e8	PL46	
Q218	石錘	7.6	2.3	0.8	176	千枚岩	扁平な縁の両端部を打ち欠き	包含層中	PL46
Q219	石錘	7.7	3.6	1.3	53.3	角閃片岩	扁平な縁の両端部を打ち欠き	包含層中	PL46
Q220	石錘	7.1	3.5	0.9	30.3	千枚岩	扁平な縁の両端部及び側面を打ち欠き	包含層中	PL46
Q221	浮子	7.2	5.4	2.9	(12.1)	軽石	一部欠損 平面楕円形 中央部に穿孔	A 1 b8	PL46
Q222	棒状凹石	15.1	4.7	2.1	202	緑色片岩	凹痕2か所	A 1 a8	
Q223	棒状凹石	19.0	5.1	3.4	434	緑色片岩	凹痕表1, 裏1か所	A 1 b7	
Q224	棒状凹石	14.6	8.9	2.3	425	緑色片岩	裏面に浅い凹み1か所	A 1 b7	
Q225	棒状凹石	12.1	9.3	3.8	661	角閃片岩	凹痕表1, 裏1か所	A 1 b7	PL48
Q226	棒状凹石	11.3	8.1	4.1	527	緑色岩	凹痕表2, 裏1か所	A 1 b7	
Q227	棒状凹石	13.1	5.4	2.7	300	緑色片岩	凹痕表1, 裏1か所	A 1 b7	
Q228	棒状凹石 (15.3)	(7.4)	(4.9)	(536)	緑色片岩	凹痕3か所	A 1 b8		
Q229	棒状凹石	18.7	5.5	2.4	372	緑色片岩	凹痕2か所	A 1 b8	PL48
Q230	棒状凹石 (14.5)	(4.8)	(2.1)	(230)	緑色片岩	凹痕表2か所	A 1 b9		
Q231	棒状凹石	11.4	4.9	3.4	317	砂岩	凹痕表1か所	A 1 b9	
Q232	棒状凹石 (5.9)	(5.0)	(2.1)	67	緑色片岩	凹痕裏1か所 被熱痕	A 1 b9		
Q233	棒状凹石	15.0	11.3	4.4	968	緑色片岩	凹痕表3, 裏2か所 被熱痕	A 1 b0	
Q234	棒状凹石	11.6	9.5	5.7	823	砂岩	凹痕表2, 裏2か所	A 1 c7	PL48
Q235	棒状凹石	9.7	9.3	4.1	427	緑色片岩	凹痕1か所	A 1 c7	
Q236	棒状凹石	14.8	5.2	2.6	330	緑色片岩	凹痕表2, 裏1か所	A 1 e9	PL48
Q237	棒状凹石	10.7	7.9	5.0	685	緑色片岩	凹痕1か所 磨痕2か所	A 1 e9	
Q238	棒状凹石	16.8	4.9	3.5	418	緑色片岩	凹痕表1, 裏1か所 磨痕1か所	A 1 e0	
Q239	棒状凹石	16.6	9.6	3.6	757	緑色片岩	凹痕表2, 裏2か所	A 1 e0	
Q240	棒状凹石	21.9	5.0	2.5	434	緑色片岩	凹痕表3, 裏1か所	A 1 e0	
Q241	棒状凹石	15.6	4.8	2.7	278	角閃片岩	凹痕表4, 裏4か所	A 1 e0	PL48
Q242	棒状凹石	15.0	4.3	3.0	317	緑色片岩	凹痕表1, 裏1か所 磨痕1か所	A 1 e8	
Q243	棒状凹石	17.1	8.3	3.1	479	千枚岩	凹痕表2, 裏2か所	A 1 e8	
Q244	棒状凹石	12.5	6.5	3.0	626	緑色片岩	凹痕表2, 裏2か所 敲打痕2か所	A 1 e9	
Q245	棒状凹石	12.4	8.0	3.6	512	砂岩	凹痕表3, 裏3か所	A 1 e0	PL48
Q246	棒状凹石	13.3	5.9	3.8	340	緑色片岩	凹痕表1か所 磨痕5か所	A 1 e0	
Q247	棒状凹石	15.6	5.2	3.3	349	緑色片岩	凹痕表1か所	A 1 e0	
Q248	棒状凹石	9.3	8.7	4.8	538	石英斑岩	凹痕裏1か所 全面磨痕	A 1 e0	
Q249	棒状凹石	20.1	4.9	3.0	400	緑色片岩	凹痕表1, 裏2か所	A 2 c1	PL48
Q250	棒状凹石	16.5	7.8	5.9	854	緑色片岩	凹痕3か所	A 2 d1	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴 など	出土位置	備 考
Q251	棒状凹石	10.8	8.3	4.0	517	砂岩	凹痕表1か所	A 2d1	
Q252	棒状凹石	24.7	5.0	(3.2)	(556)	千枚岩	凹痕表1, 裏1か所	A 2d1	
Q253	棒状凹石	15.1	4.1	2.3	181	緑色片岩	凹痕表2か所	A 2d1	
Q254	棒状凹石	(9.5)	6.1	3.7	(278)	緑色片岩	凹痕表1, 裏1か所	A 2d1	
Q255	凹石	20.0	17.8	7.3	3500	砂岩	凹痕表15, 裏15か所	A 1a7	PL50
Q256	凹石	20.5	20.1	11.3	4000	緑色片岩	凹痕9か所 被熱痕	A 1b7	
Q257	凹石	19.4	11.2	9.9	3880	緑色片岩	凹痕表1, 裏1か所	A 1b7	
Q258	凹石	23.7	16.4	6.1	2480	緑色片岩	凹痕4か所 被熱痕	A 1b8	
Q259	凹石	39.6	32.0	9.6	16200	凝灰岩	凹痕表35, 裏37か所	A 1b8	PL50
Q260	凹石	21.8	8.2	6.1	1510	緑色片岩	敲打痕1か所	A 1b9	
Q261	凹石	47.1	34.5	21.7	44900	砂岩	凹痕12か所	A 1b9	PL50
Q262	凹石	34.6	22.3	12.0	13300	緑色片岩	凹痕裏5か所	A 1b0	
Q263	凹石	(15.2)	(11.6)	(5.7)	648	緑色片岩	凹痕表8か所 被熱痕	A 1b0	
Q264	凹石	(18.5)	(10.6)	(6.8)	(1790)	緑色片岩	凹痕表9, 裏4か所 側面敲打痕	A 1c0	
Q265	凹石	(22.3)	(10.4)	(4.2)	(1360)	緑色片岩	凹痕3か所 被熱痕	A 1d9	
Q266	凹石	58.0	25.3	15.5	27900	砂岩	凹痕表31, 裏18か所	A 1d9	PL50
Q267	凹石	(25.2)	(18.5)	(16.3)	(9840)	緑色片岩	凹痕表15か所 被熱痕	A 1d0	
Q268	凹石	30.7	18.4	8.1	5810	緑色片岩	凹痕表11か所 裏面・側面に磨痕	A 1d0	
Q269	凹石	28.1	12.6	5.7	2280	緑色片岩	凹痕表2, 裏2か所	A 1d0	
Q270	凹石	18.4	10.4	10.0	2060	緑色片岩	凹痕表2か所 両側面に磨痕	A 1d0	
Q271	凹石	36.5	19.5	9.4	7970	緑色片岩	凹痕表1か所 石皿転用	A 2d1	
Q272	凹石	(23.3)	(14.5)	(8.0)	(3300)	緑色片岩	凹痕表3, 裏2か所 石皿転用	A 2d1	
Q273	凹石	(27.2)	(14.4)	(13.6)	(2820)	砂岩	凹痕表2, 裏1か所 被熱痕	A 2d1	
Q274	小形石棒	11.6	1.1	1.1	19.5	緑色片岩	両頭 表面研磨 断面円形	A 1b0	PL46
Q275	小形石棒	5.1	0.8	0.6	3.7	泥岩	両頭 表面研磨 断面楕円形	A 1d7	PL46
Q276	石筒未製品	(14.9)	3.3	1.9	(134.0)	千枚岩	全面調整	包含層中	
Q277	垂飾り	(7.1)	2.2	0.6	(14.9)	泥岩	端部欠損 二方向から穿孔 表面研磨	包含層中	PL46
Q278	垂飾り	2.4	1.6	0.6	3.0	滑石	二方向からの穿孔 表面研磨	A 1d7	PL46

2 弥生時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、土坑墓1基、土坑2基が確認できた。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 土坑墓

第365号土坑 (第188図)

位置 調査区西部のB-2a7区、標高58.2mの緩やかに傾斜した谷部に位置している。

重複関係 第363号土坑を掘り込んでいる。

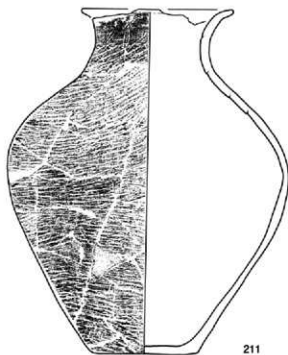
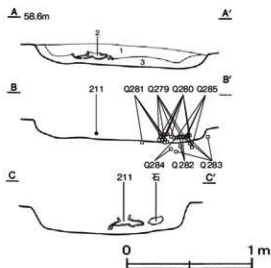
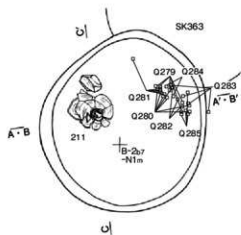
規模と形状 長径1.45m、短径1.32mの楕円形で、長径方向はN-11°-Eである。深さは18cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾している。

覆土 3層に分層できる。第1層はロームや焼土のブロックが含まれていることから埋め戻されている。第2層は土器内への流入土、第3層は掘方への埋土あるいは墓坑掘削時の残土と考えられる。

土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック・細礫混入 ③ 灰黄 褐色 細礫中量
2 暗 褐色 粘質土主体、炭化物微量

遺物出土状況 弥生土器1点(蓋)、弥生土器片1点(鉢)、石製品8点(管玉)のほか、混入した縄文土器片



0 10cm



第 188 图 第 365 号土坑·出土物实测图

147 点が出土している。211 は北西部の覆土下層上面から出土している。土圧により押しつぶされた状態であり、正位で据え置かれていたと推測できる。Q 279～Q286 は北東部の覆土下層上面を中心に出土している。いずれも破碎された状態であり、北西・南東軸 35cm、北東・南西軸 15cm の狭い範囲に集中していることから埋め戻す以前に砕かれた可能性が高い。また、管玉の周辺からは微量の赤色顔料（ベンガラ）も出土している。TP323 は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期前葉に比定できる。土坑を再掘削するなどの再葬の痕跡が認められないことから土坑墓と判断した。南半部の東西 1.3 m、南北 0.7 m の範囲に遺骸を埋葬したと考えられ、埋葬方法は屈葬と推測できる。

第 365 号土坑出土遺物観察表（第 188 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
211	弥生土器	壺	[119]	27.4	8.5	長石・石英・赤色 粒子・針状産物	灰白	普通	反照し縄文	下層上面	90% PL35

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP323	弥生土器	鉢	石英・雲母	にぶい橙	普通	条痕文	下層	

番号	器種	径	長さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q279	管玉	1.8～1.9	2.8	(16.1)	緑色凝灰岩	二方向から穿孔 7点以上に破砕	下層上面	PL52
Q280	管玉	1.1	3.6	(6.0)	緑色凝灰岩	二方向から穿孔 9点以上に破砕	下層上面	PL52
Q281	管玉	1.2～1.3	2.8	(6.9)	緑色凝灰岩	二方向から穿孔 9点以上に破砕	下層上面	PL52
Q282	管玉	1.3	2.5	(2.5)	緑色凝灰岩	二方向から穿孔 10点以上に破砕	下層上面	PL52
Q283	管玉	1.3	(2.4)	(5.3)	緑色凝灰岩	二方向から穿孔 6点以上に破砕	下層上面	PL52
Q284	管玉	0.8	2.2	(2.4)	緑色凝灰岩	二方向から穿孔 2点以上に破砕	下層上面	PL52
Q285	管玉	0.9	2.1	(2.2)	緑色凝灰岩	二方向から穿孔 4点以上に破砕	下層上面	PL52
Q286	管玉	1.1	2.1	(2.0)	緑色凝灰岩	二方向から穿孔 半分欠損	下層上面	PL52

(2) 土坑

第 360 号土坑（第 189・190 図）

位置 調査区西部の B-2a7 区、標高 58.3 m の緩やかに傾斜した谷部に位置している。

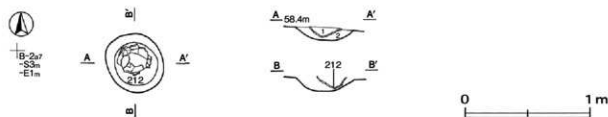
規模と形状 長径 0.50 m、短径 0.43 m の楕円形で、長径方向は N-43°-W である。深さは 12cm で、底面は皿状であり、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。ローム粒子や地山の粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量

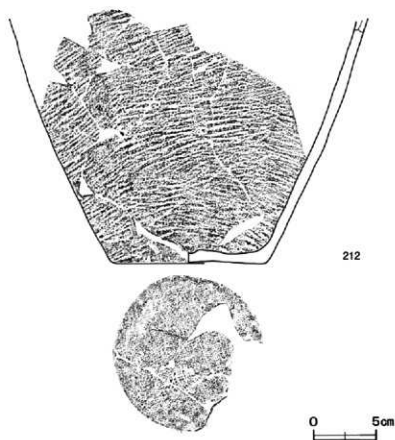
2 黒 褐色 粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量



第 189 図 第 360 号土坑実測図

遺物出土状況 弥生土器1点(壺)のほか、混入した縄文土器片12点が出土している。212は中央部の覆土下層から斜位の状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から中期前葉に比定できる。



第190図 第360号土坑出土遺物実測図

第360号土坑出土遺物観察表(第190図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
212	弥生土器	壺	-	(19.5)	120	長石・石英・赤色 粒子・針状鉱物	にぶい橙	普通	燃赤文R傾位回転施文	下層	35%

第404号土坑(第191図)

位置 西部のB-2a6区、標高58.4mの緩やかに傾斜した谷部に位置している。

重複関係 第369号土坑を掘り込んでいる。

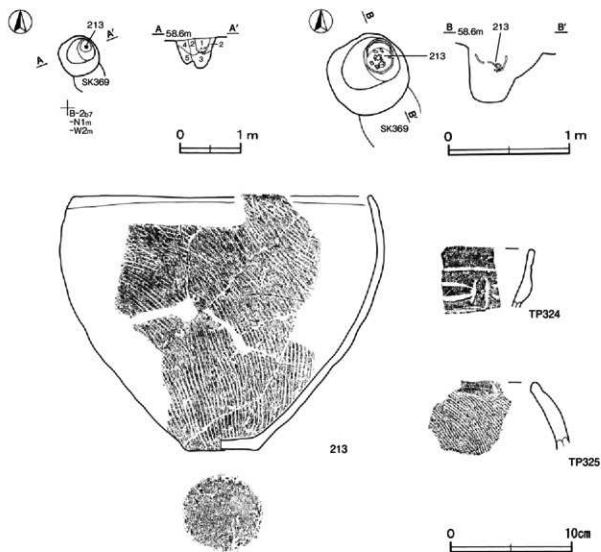
規模と形状 長径0.65m、短径0.64mの不整形である。深さは50cmで、底面は皿状であり、壁は直立し、外傾して立ち上がっている。

覆土 5層に分層できる。第1～3層は柱抜き取り痕の覆土、第4・5層は埋土である。

土層解説

- | | |
|-------------------|------------------------------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック・細礫混入 | 4 暗イロ・褐色 粘土ブロック少量、粘土粒子混入 |
| 2 黒褐色 細礫少量、炭化粒子混入 | 5 暗灰黄色 粘土ブロック中量、細礫少量、粘土ブロック・炭化粒子混入 |
| 3 黒褐色 細礫混入 | |

遺物出土状況 弥生土器1点(鉢)のほか、混入した縄文土器片54点が出土している。213は柱抜き取り痕の覆土上層から正位の状態で出土している。TP324・TP325は混入した縄文土器片で、覆土中から出土している。
所見 時期は、出土土器から中期前葉に比定できる。



第191図 第404号土坑・出土遺物実測図

第404号土坑出土遺物観察表(第191図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
213	弥生土器	鉢	[24.5]	21.0	6.0	長石・石英・雲母・赤鉄鉱・角閃石	橙	普通	具数条痕文	柱抜き取り痕	70% PL35
番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など		出土位置	備考		
TP324	縄文土器	深鉢	石英・雲母	にぶい橙	普通	縄文LR横位回転施文→粘土紐貼付→沈線→磨消		覆土中			
TP325	縄文土器	深鉢	石英・雲母	明赤褐	普通	縄文RL横位回転施文		覆土中			

3 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡6軒、溝跡1条が確認できた。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第1号住居跡 (第192図)

位置 調査区東部のA1d9区、標高59.1mの段丘斜面部に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 旧宅地の造成や試掘トレンチによる攪乱を受けており、住居跡の覆土と第1号遺物包含層との識別が不鮮明であったため、竈やその前面の床面の一部しか確認できなかった。遺物の分布状況や竈煙道部の方向から、規模は一辺2.4～2.8mの方形で、主軸方向はN-17°-Wと推定できる。

竈 北壁の中央部に付設されていたと推測される。規模は焚口部から煙道部まで120cm、燃焼部幅38cmである。袖部は砂質粘土ブロックを含む黒色土で構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。

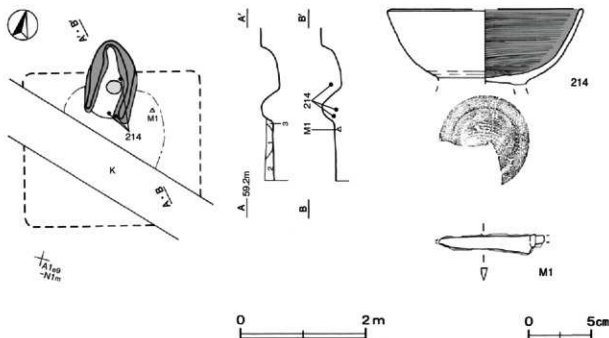
覆土 3層に分層できる。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒色 炭化物中量、ロームブロック・焼土ブロック少量 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
2 黒褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片21点(坏12、高台付碗1、甕8)、鉄製品1点(刀子)のほか、流れ込んだ縄文土器片248点、石器1点(石鏃)が出土している。M1は北東部の床面、214は竈の右袖部際の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀前葉に比定できる。



第192図 第1号住居跡・出土遺物実測図

第1号住居跡出土遺物観察表 (第192図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
214	土師器	高台付碗	[13.3]	(5.9)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	橙	普通	底部回転糸切り後、高台貼り付け 内面へタ巻き	下層	50% PL51

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
M1	刀子	(84)	15	0.5	(11.3)	鉄	切先部・基部欠損 断面三角形	床面	

第2号住居跡 (第193・194図)

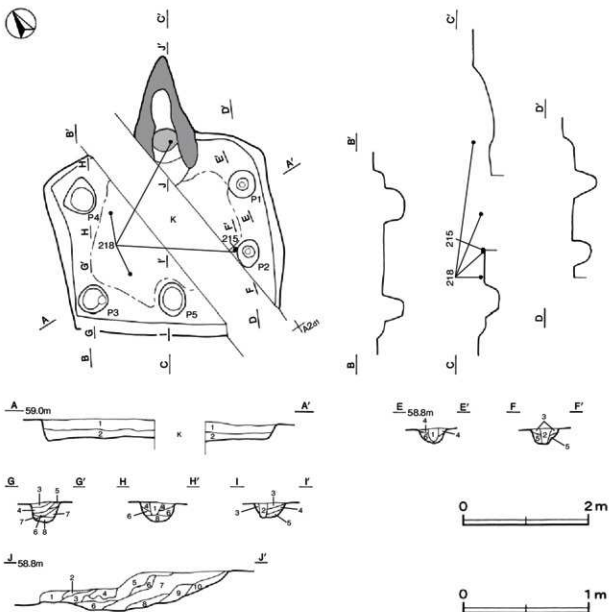
位置 調査区東部のA1c0区、標高58.8mの段丘斜面部に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸36m、短軸32mの長方形で、主軸方向はN-33°-Eである。壁高は13~32cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北東壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで139cm、燃焼部幅43cmである。袖部は砂質粘土ブロックを多量に含む暗褐色土で構築されている。火床部は床面から6cmくぼんでおり、火床面は火を



第193図 第2号住居跡実測図

受けて赤変硬化している。

覆土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------|--------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 | 6 明赤褐色 | 焼土ブロック主体 |
| 2 灰褐色 | 炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 7 黒褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 赤褐色 | 焼土ブロック多量、ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック微量 | 9 明赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子微量 |
| 5 灰褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量 | 10 黒褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ24～30cmで、主柱穴である。P 5は深さ24cmで、南西壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|-------|-------------------------|--------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量、ロームブロック少量 | 7 明赤褐色 | 焼土ブロック主体 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 8 褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック微量 | | |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | | |

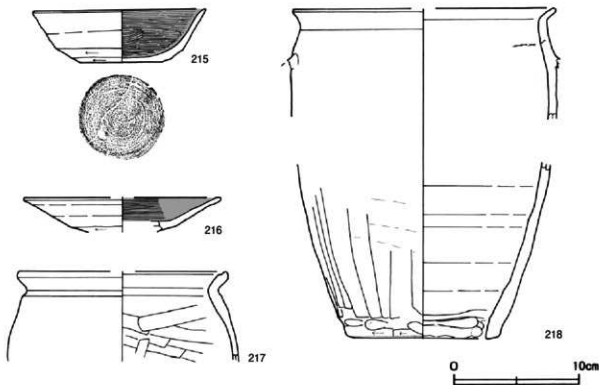
覆土 2層に分層できる。均質な黒褐色土が水平に堆積していることから自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物・中量・砂質粘土粒子微量 | 2 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量、細砂・砂質粘土粒子微量 |
|-------|------------------------|-------|--------------------------|

遺物出土状況 土師器片57点(坏18, 高台付皿1, 甕36, 瓶2)のほか、流れ込んだ縄文土器片1,153点、土製品2点(土器片円盤)、石器2点(石鏃)が出土している。215は南東部壁際の床面、216は東部、217は北部の覆土下層、218は竈や北部の覆土上層から散在した状態でそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第194図 第2号住居跡出土遺物実測図

第2号住居跡出土遺物観察表(第194図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
215	土師器	坏	137	4.3	6.6	長石・雲母・針状鉱物	にぶい褐	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面	95% PL.51
216	土師器	高台付皿	[15.6]	(2.7)	-	石英・雲母	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	下層	5%
217	土師器	甕	[16.4]	(7.1)	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ヘラナデ	下層	5%
218	土師器	瓶	[20.6]	[26.3]	[12.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り後ナデ 下層手持ヘラ削り	上層	30%

第9号住居跡(第195図)

位置 調査区中央部西寄りのA-210区、標高58.7mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第82・83・96・388・502・705号土坑を掘り込み、第11号住居、第2号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.7m、短軸3.1mの長方形で、主軸方向はN-37°-Wである。壁高は2~4cmで、立ち上がりは不鮮明である。

床 ほは平坦で、中央部が踏み固められている。竈前面の長径29cm、短径20cmの楕円形の範囲が赤変硬化している。北西壁を除く壁下には壁溝が確認できた。

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで93cm、燃焼部幅74cmである。袖部は地山のローム層を削り出して基部としており、構築材は確認できなかった。火床部は床面と同じ高さで、火床面の赤変硬化は弱い。煙道部は壁外に66cm掘り込まれ、奥壁から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 灰褐色 | 砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 | 5 灰褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物少量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック中量、炭化物少量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量 |

ピット 5か所。P1~P4は深さ16~25cmで、主柱穴である。P5は深さ28cmで、南東壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説(各ピット共通)

- | | | | |
|----------|-----------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 3 灰黄褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |

覆土 2層に分層できる。層厚が薄いため堆積状況は不明である。第3・4層は貼床の構築土である。

土層解説

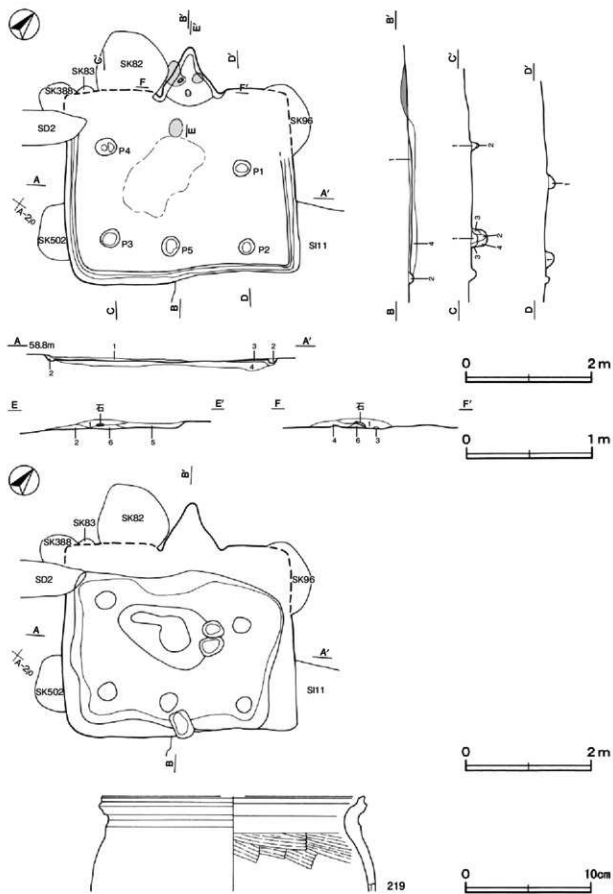
- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片22点(坏6、甕15、瓶1)のほか、流れ込んだ縄文土器片215点、須恵器片1点(甕)が出土している。219は東部の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から10世紀前半と考えられる。

第9号住居跡出土遺物観察表(第195図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
219	土師器	甕	[20.7]	(7.5)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ 体部縦位のヘラ削り後ナデ 内面ヘラナデ	床面	5%



第 195 图 第 9 号住居跡・出土遺物実測図

第11号住居跡 (第196・197図)

位置 調査区中央部西寄りのA-1j区、標高58.8mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第9号住居跡、第98・128・706・710号土坑を掘り込み、第1・2号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 一辺3.5mの方形である。北西・南東軸方向はN-29°-Wである。壁高は3~5cmで、立ち上がりは不鮮明である。

床 ほは平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には散溝が巡っている。

ピット 6か所。P1~P4は深さ14~26cmで、主柱穴である。P5は深さ12cmで、南東壁際の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ9cmで性格は不明である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土ブロック微量 | 4 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |

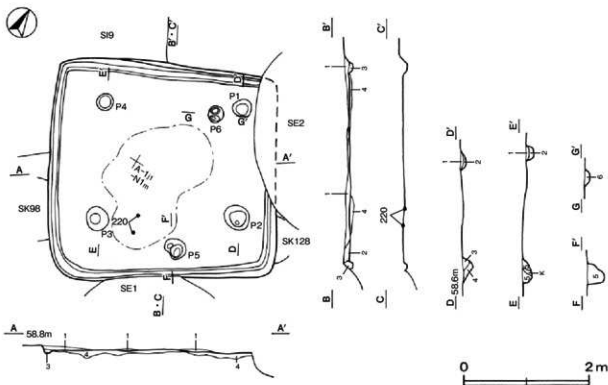
覆土 3層に分層できる。層厚が薄いため堆積状況は不明である。第4層は貼床の構築土である。

土層解説

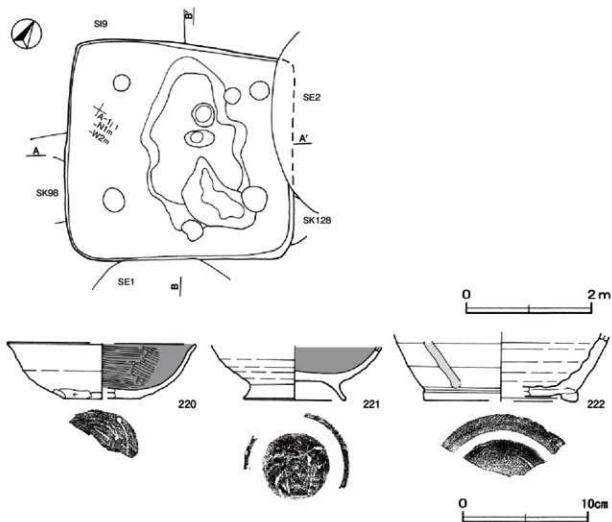
- | | |
|------------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 灰黄褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量 |
| 2 灰褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片11点(坏4、高台付椀2、甕5)、灰軸陶器片1点(瓶)のほか、流れ込んだ縄文土器片218点、須恵器片1点(甕)が出土している。220は中央部の床面から散在した状態で、221は東部、222は南部の貼床の構築土からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から10世紀中葉に比定できる。



第196図 第11号住居跡実測図



第 197 図 第 11 号住居跡・出土遺物実測図

第 11 号住居跡出土遺物観察表 (第 197 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
220	土師器	坏	[15.0]	4.5	[6.1]	長石・石英・雲母	に灰味著	普通	体部下端手持ちへう削り 内面へう磨き	床面	40%
221	土師器	高台付筒	-	(4.3)	8.2	長石・石英・雲母・針状鉱物	に灰味著	普通	内面へう磨き 磨滅のため不明瞭 底部花弁状のへう整形後、高台貼り付け	貼床礎基土	40% PL51
222	灰輪陶器	瓶	-	(5.5)	[12.2]	長石・黒色粒子	灰黄色	良好	体部下半・底部回転へう削り後、高台貼り付け オリーブ灰軸	貼床礎基土	10% PL51

第 12 号住居跡 (第 198 図)

位置 調査区中央部の A-1 h6 区、標高 58.6 m の平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第 13 A・B 号住居跡、第 214 号土坑など 17 基の土坑・柱穴を掘り込んでいる。

規模と形状 南側が調査区域外へ延びており、掘り込みがローム層まで及んでいないため、竈の火床面と西コーナー部の壁溝、2 か所の主柱穴しか確認できなかった。調査区壁の土層観察や遺存状況から、規模は一辺約 4.2m の方形で、主軸方向は N-30°-W と推定される。土層観察から壁高は 30cm で、ほぼ直立している。

竈 北西壁の中央部に付設されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。

ピット 2 か所。P 1 は深さ 87cm、P 2 は深さ 102cm で、主柱穴と考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|--------|--|--------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子・灰渣パイス (以下、KPと省略) 粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・KP粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 3 灰黄褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 6 灰黄褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子・KP粒子微量 |
| | | 7 黒褐色 | ローム粒子微量 |

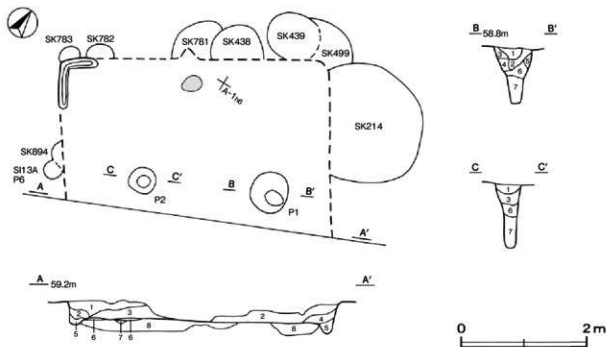
覆土 5層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。第6～8層は貼土の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|--------|--------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 5 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土粒子主体 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック中量、KPブロック少量 |
| 4 暗灰色 | KPブロック・炭化物・ローム粒子微量 | 8 暗褐色 | KPブロック・ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片1点(坏)のほか、混入した縄文土器片185点が出土している。土器片は細片で図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から10世紀前半と考えられる。



第198図 第12号住居跡実測図

第25号住居跡 (第199図)

位置 調査区中央部東寄りのA1e2区、標高58.7mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第712号土坑など17基の土坑や柱穴を掘り込んでいる。

規模と形状 南側が調査区域外へ延びており、掘り込みがローム層まで及んでいないため、竈とその前面の硬化面しか確認できなかった。調査区壁の土層観察や遺存状況から、規模は一辺約3.2mの方形で、主軸方向はN-39°-Eと推定される。土層観察から壁高は19～28cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈 北東壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで81cm、燃焼部幅35cmである。袖部は黒褐色粘質土を基部としており、構築材は確認できなかった。火床部は床面から4cmくぼんでおり、火床面の赤変硬化は弱い。

土層解説

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| 1 濃い褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量 | 3 灰 褐色 粘土ブロック・炭化物少量 |
| 2 灰 褐色 焼土ブロック中量、炭化物少量 | |

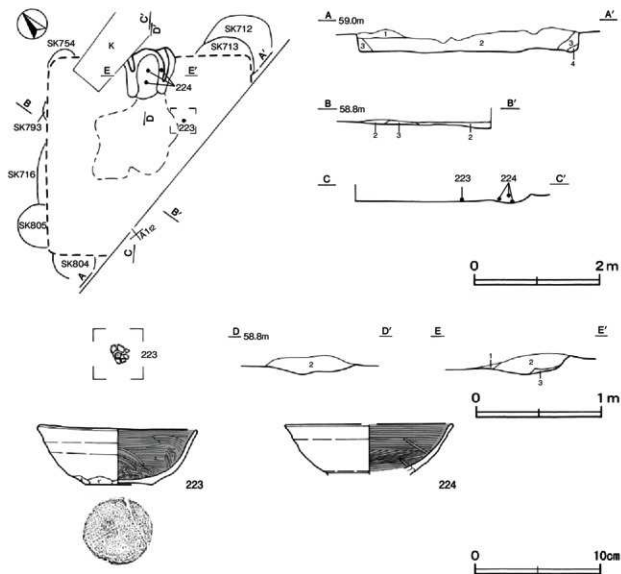
覆土 4層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|--|
| 1 黒 褐色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量 | 4 灰 褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物粒子微量 |
| 2 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物粒子微量 | |
| 3 灰 黄褐色 ロームブロック中量、炭化物粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片 16点(坏8, 高台付碗1, 甕7)のほか、流れ込んだ縄文土器片 202点が出土している。223は中央部の床面から逆位で押しつぶされた状態、224は竈の覆土中層から土師器甕の破片とともに散在した状態でそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀前葉に比定できる。



第199図 第25号住居跡・出土遺物実測図

第 25 号住居跡出土遺物観察表 (第 199 図)

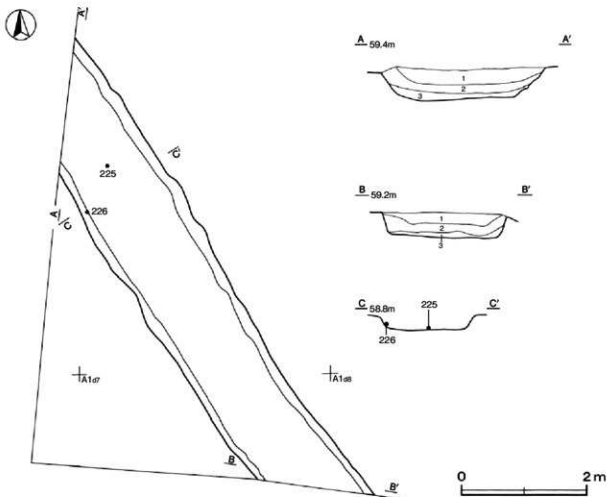
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
223	土師器	坏	125	46	53	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶ・黄粉	普通	体部下端手持ちへう削り 底部不定方向の手持ちへう削り 内面へう磨き	床面	60% PL51
224	土師器	高台付椀	[132]	(40)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶ・黄	普通	内面へう磨き	竈中層	30%

表 5 平安時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向 (長軸)	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設			覆土	主な出土遺物	時期	備考 (考 重観関係(古→新))	
								主柱穴 直径 ドット	基入口 ドット	扉・竈 近蔵穴 ドット					
1	A 1 d9	[N-17°-W]	[方形]	[2.8×2.8]	-	-	-	-	-	竈 1	-	土師器片, 刀子	10世紀前半	第 1 号遺物包含層→本跡	
2	A 1 e0	N-33°-E	長方形	3.6×3.2	13~32	平垣	-	4	1	-	竈 1	-	自然土師器片	9世紀後半	第 1 号遺物包含層→本跡
9	A-20	N-37°-W	長方形	3.7×3.1	2~4	平垣	1212 全周	4	1	-	竈 1	-	土師器片	10世紀前半	SK269・SK300・SK760・ SK761→SK12
11	A-1j1	N-29°-W	方形	3.5×3.5	3~5	平垣	全周	4	1	1	-	-	土師器片, 灰 土師器片	10世紀中葉	SK306・SK796・710→ SK711
12	A-116	N-30°-W	[方形]	[4.2×4.2]	30	-	-	2	-	-	竈 1	-	人為土師器片	10世紀前半	SH13A・BSK214 他 17 基→本跡
25	A 1 e2	N-39°-E	[方形]	[3.2×3.2]	19~28	平垣	-	-	-	-	竈 1	-	自然土師器片	10世紀前半	SK712 他 17 基 →本跡

(2) 溝跡

第 1 号溝跡 (第 200・201 図)



第 200 図 第 1 号溝跡実測図

位置 調査区東部のA1 b6区からA1 d8区にかけて、標高58.9～59.2mの段丘斜面部に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 北西側と南側が調査区域外へ延びているため、長さ8.6mしか確認できなかった。北西から南東方向(N-33°-W)へ直線的に延びている。上幅1.32～1.64m、下幅1.06～1.30m、深さ39～43cmである。断面形は逆台形で、壁は緩やかに立ち上がっている。

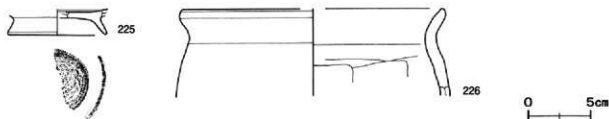
土層解説

- 1 黒色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・中微炭 3 黒褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

覆土 3層に分層できる。含有物の少ない均質な黒褐色土であることから自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片24点(坏11,高台付椀4,甕9)のほか、流れ込んだ縄文土器片1306点、石器1点(棒状凹石)が出土している。225・226は覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀前半と考えられる。



第201図 第1号溝跡出土遺物実測図

第1号溝跡出土遺物観察表(第201図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
225	土師器	高台付椀	-	(2.0)	[7.8]	石英・雲母・赤色粒子	にぶみ色	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け面へラ磨き	内	中層 10%
226	土師器	甕	[20.6]	(6.9)	-	石英・雲母・針状炭物	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部内面ヘラナデ	中層	5%

4 中世の遺構と遺物

当時代の遺構は、井戸跡3基が確認できた。以下、遺構及び遺物について記述する。

井戸跡

第1号井戸跡(第202図)

位置 調査区中央部西寄りのA-1 j1区、標高58.6mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第11号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南半部が調査区域外へ延びているため、長径3.1m、短径1.6mしか確認できなかったが、平面形は円形と推測できる。壁は深さ108cmまで緩やかに傾斜している。以下は湧水のため確認できなかった。

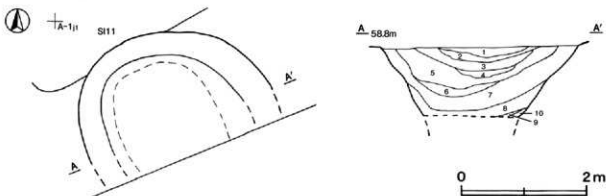
覆土 10層に分層できる。第1～8層はロームブロックや大礫が多く含まれていることから埋め戻されている。第9層以下は締まりの悪い砂粒や粘土を主体とする自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、細微炭 6 灰黄褐色 ローム粒子・大礫中層、焼土ブロック・炭化物少量
2 黄褐色 ロームブロック多量、細微炭、焼土粒子微量 7 黒褐色 大礫少量、ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
3 にぶい青褐色 ロームブロック多量、細砂少量、炭化物・焼土粒子微量 8 灰黄褐色 ローム粒子中層、炭化物・中微炭
4 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 9 にぶい黄色 中粒主体
5 黒褐色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・中微炭 10 灰黄色 粘土主体

遺物出土状況 土師質土器片1点(小皿)のほか、流れ込んだ縄文土器片150点、土師器片43点(坏9、高台付椀4、埴1、甕29)、須恵器片3点(甕)、土製品1点(土偶)、石製品3点(石棒未製品カ)が出土している。

所見 時期は、第2・3号井戸跡と堆積状況が類似していることから中世後半と考えられる。



第202図 第1号井戸跡実測図

第2号井戸跡(第203図)

位置 調査区中央部西寄りのA-1ii区、標高58.6mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第11号住居跡、第1号掘立柱建物跡、第117・124・465・466号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径3.5m、短径2.8mの楕円形で、長径方向はN-24°-Wである。壁は深さ94cmまで緩やかに傾斜している。以下は湧水のため確認できなかった。

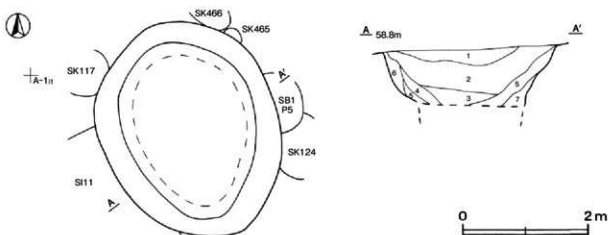
覆土 7層に分層できる。ロームブロックや大礫が多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・中礫微量 | 5 黒褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 大礫少量、焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量 | 6 濃い黄褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 暗褐色 巨礫少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量 |
| 4 黒褐色 大礫中量、ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物微量 | |

遺物出土状況 土師質土器片2点(小皿)、陶器片1点(甕)が出土しているほか、流れ込んだ縄文土器片265点、土師器片33点(坏21、高台付椀9、高坏1、甕1、甌1)、須恵器片6点(甕)が出土している。

所見 時期は、第1・3号井戸跡と堆積状況が類似していることから中世後半と推定できる。



第203図 第2号井戸跡実測図

第3号井戸跡（第204図）

位置 調査区中央部西寄りのA-2g0区、標高58.6mの平坦な段丘面に位置している。

重複関係 第96・707・708号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 北側の大半が調査区域外へ延びているため、長径1.8m、短径0.7mしか確認できなかったが、平面形は楕円形と推測できる。壁は深さ52cmまで緩やかに傾斜している。以下は湧水のため確認できなかった。

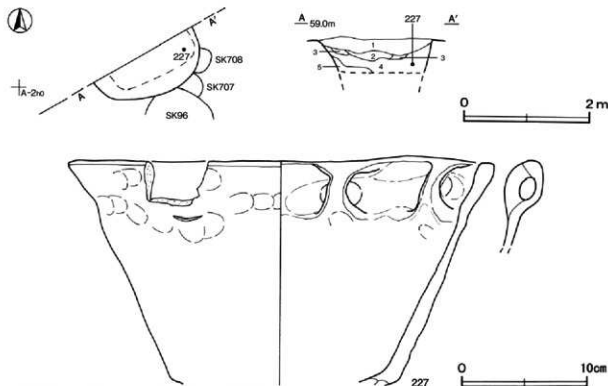
覆土 5層に分層できる。ロームブロックや大礫が含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | 大礫中層、焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 | 5 暗灰黄色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 灰黄褐色 | ロームブロック中層 | | |

遺物出土状況 土師質土器片1点（内耳鍋）、陶器片1点（甕）のほか、流れ込んだ縄文土器片17点、土師器片3点（甕）が出土している。227は東壁際の覆土中層（第4層）から横位で出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀前半に比定できる。



第204図 第3号井戸跡・出土遺物実測図

第3号井戸跡出土遺物観察表（第204図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
227	土師質土器	内耳鍋	324	(18.2)	-	長石・石英・雲母	にひ・黄肌	普通	口縁部横ナゲ 体部上半内・外面指頭圧痕 体部外面塚行着	中層	80% PL51

表6 中世井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係（古→新）
				長径×短径(m)	深さ(m)					
1	A-1j1	-	[円形]	(3.1×1.6)	108	緩斜	-	人為	土師質土器	SI11→本跡
2	A-1出	N-24°-W	楕円形	3.5×2.8	94	緩斜	-	人為	土師質土器、陶器	SI18/SI20/SI21/SI22/SI23/SI24/SI25/SI26/SI27/SI28/SI29/SI30/SI31/SI32/SI33/SI34/SI35/SI36/SI37/SI38/SI39/SI40/SI41/SI42/SI43/SI44/SI45/SI46/SI47/SI48/SI49/SI50/SI51/SI52/SI53/SI54/SI55/SI56/SI57/SI58/SI59/SI60/SI61/SI62/SI63/SI64/SI65/SI66/SI67/SI68/SI69/SI70/SI71/SI72/SI73/SI74/SI75/SI76/SI77/SI78/SI79/SI80/SI81/SI82/SI83/SI84/SI85/SI86/SI87/SI88/SI89/SI90/SI91/SI92/SI93/SI94/SI95/SI96/SI97/SI98/SI99/SI100
3	A-2g0	-	[楕円形]	(1.8×0.7)	52	緩斜	-	人為	土師質土器、陶器	SK96-707-708→本跡

5 その他の時代の遺構と遺物

今回の調査で、時期や性格が明確でない溝跡1条が確認できた。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 溝跡

第2号溝跡（第205図）

位置 調査区西部のA-2i0～A-2j7区、標高58.3～58.7mの段丘斜面部に位置している。

重複関係 第9号住居跡、第84～87・388・390・391・395・396土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 A-2i0区から南西方向（N-116°-W）に直線的に延び、A-2j8区で一端途切れるが、再び直線的に延び、長さ9.52mが調査できた。規模は上幅40～57cm、下幅24～40cm、深さ5～19cmである。断面形状はU字状で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックや炭化物が含まれていることから埋め戻されている。

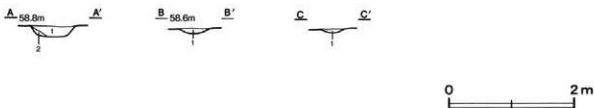
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

2 黒褐色 炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片40点、拳大の花崗岩1点が出土している。縄文土器片はいずれも混入したものと考えられる。

所見 時期は、10世紀前半代に比定できる第9号住居跡を掘り込んでいることから10世紀後半以降と考えられるが、混入した縄文土器片以外の遺物が出土していないため、時期判断が困難である。



第205図 第2号溝跡実測図

(2) 遺構外出土遺物（第206～208図）

今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物のうち、懸け鏡については解説し、それ以外の特徴的なものについては実測図と観察表で記載する。

懸け鏡（第208図）

位置 調査区南東部のA1g4区、原点（日本平面直角座標第Ⅸ系座標）からX = +62,132.8m、Y = +70,375.5m、標高58.7mの位置から出土した。

出土状況 現況の造成土を除去した旧表土層中から逆位の状態で出土した。周辺を精査したが遺構は確認できなかった。

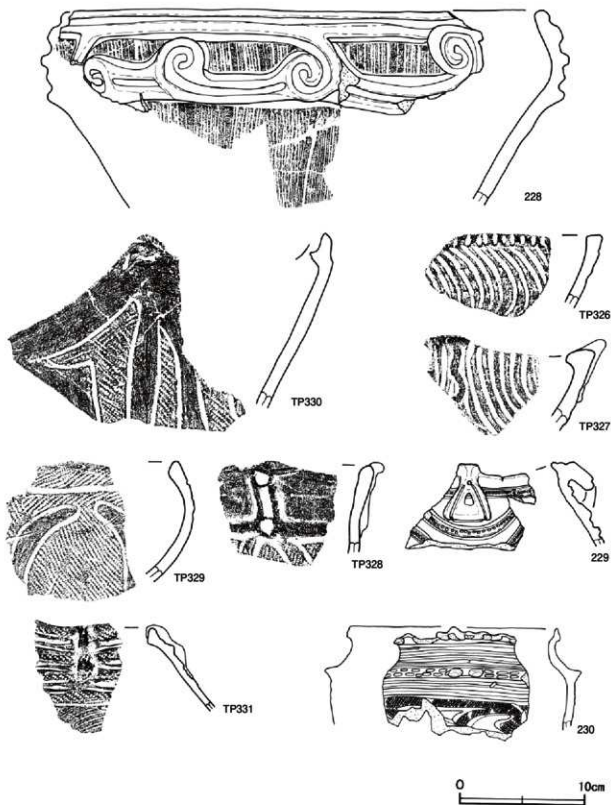
出土層位 旧表土層はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む黒褐色土であり、粘性は普通で、締まりは強い。なお本層の下面からは縄文時代の遺構を確認している。

法量及び形状 鏡面径11.6cm、縁高0.95～1.0cm、内区径8.1cm、重さ477.0gである。縁は直角式縁である。界圏は単円で、尖線である。縁上部に孔径0.6cmの孔2か所があげられている。

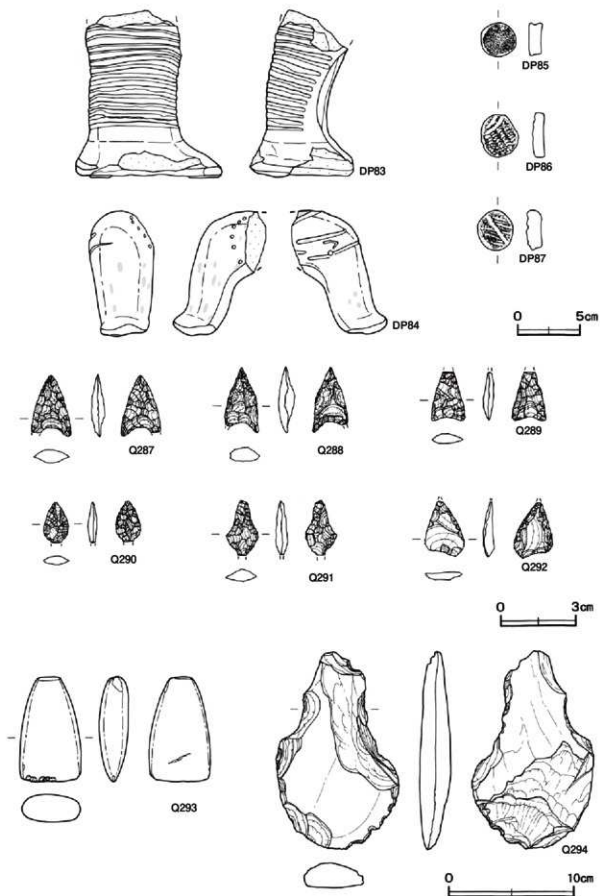
文様の特徴 中央部の鈕は亀形である。下半部に海と2艘の帆掛け船、鳥居が描かれ、上半部に2羽の鶴が向

かい合わせて配置されている。その周辺には松や雲、上空に鳥が描かれている。

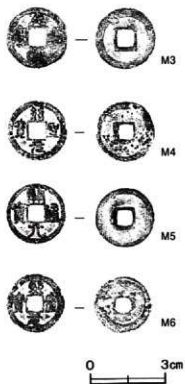
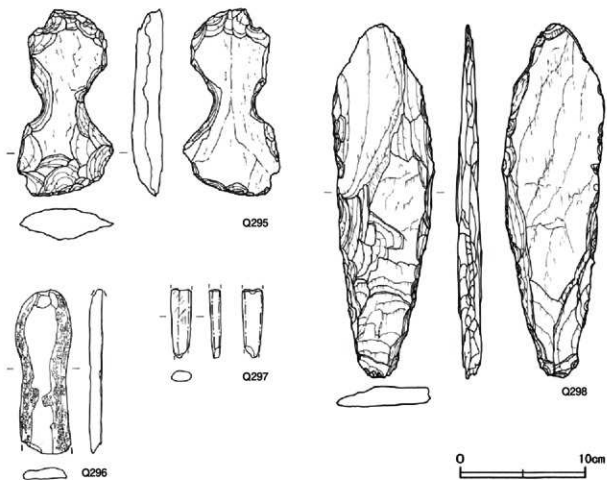
所見 本鏡は、文様の特徴や形状から海洋文鏡である。縁上部に2か所の孔があげられていることから懸け鏡とみられ、社殿や仏堂に懸けられていたものと想定できる。時期は室町時代初頭に比定できる。



第 206 図 遺構外出土遺物実測図(1)



第 207 图 遺構外出土遺物実測図(2)



第 208 圖 遺構外出土遺物実測図(3)

遺構外出土遺物観察表 (第 206 ~ 208 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
228	縄文土器	深鉢	[380]	(155)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい褐	普通	縦位の平行沈線→隆帯貼付	中央部表土	10%
229	縄文土器	深鉢	-	(68)	-	長石・石英・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	隆帯貼付→隆帯上に円形刺突文	A-1g8	10%
230	縄文土器	鉢	[164]	(89)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい褐	普通	口縁部連続状の隆帯貼付→縦位の平行沈線 胴部縦位の平行沈線→縦文LR光斑→黄文部磨き	中央部表土	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP236	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	赤褐	普通	弧状平行沈線→口唇部刻み	中央部表土	
TP227	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	普通	弧状平行沈線→波状の細い隆帯貼付け→口唇部刻み	中央部表土	
TP228	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	普通	縄文 RL 縦位回転軸文→隆帯貼付け→沈線	南東部表土	
TP229	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	橙	普通	縄文 RL 縦位回転軸文→沈線→無文部磨き	南東部表土	
TP230	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	にぶい赤褐	普通	縄文 LR 横位回転軸文→沈線→無文部磨き	中央部表土	
TP231	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤褐	普通	隆帯貼付け→隆帯幅沈線→縄文 RL 充填	中央部表土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴など	出土位置	備考
DP83	土偶	(6.7)	5.8	-	(96.7)	長石・石英・細粒・針状鉱物	ハート形土偶胴部 沈線→ナデ	南東部表土	PL43
DP84	土偶	(5.0)	(3.7)	-	(28.8)	長石・石英	胴部 沈線・刺突→ナデ	SE1 覆土中	PL43
DP85	土器片断	2.6	2.8	1.1	10.0	石英・雲母・針状鉱物	周縁部研磨	南東部表土	
DP86	土器片断	3.4	3.0	0.9	10.9	長石・石英・針状鉱物	周縁部研磨	SE2 覆土中	
DP87	土器片断	3.2	2.8	1.2	13.7	石英・雲母・針状鉱物	周縁部研磨	SE2 覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q287	石鏝	(2.5)	1.7	0.5	(1.4)	チャート	端部欠損 両面押圧調整 凹基無基痕	SE2 覆土中	PL44
Q288	石鏝	(2.6)	1.4	0.6	(1.9)	チャート	端部欠損 両面押圧調整 凹基無基痕	南東部表土	PL44
Q289	石鏝	(1.9)	1.4	0.4	(0.9)	チャート	先端部欠損 両面押圧調整 凹基無基痕	中央部表土	PL44
Q290	石鏝	(1.6)	1.0	0.3	(0.6)	瑪瑙	先端部欠損 両面押圧調整 凸基有基痕	A-1g5	
Q291	石鏝	(2.2)	1.3	0.5	(1.1)	瑪瑙	先端部欠損 両面押圧調整 凸基有基痕	中央部表土	
Q292	石鏝	(2.2)	1.5	0.5	(1.4)	チャート	先端部欠損 両面押圧調整 凹基無基痕	SE1 覆土中	PL44
Q293	磨製石斧	4.9	2.3	8.3	136.3	緑色片岩	定角式 両凸刃 全面研磨	A 1g5	PL45
Q294	打製石斧	15.7	9.8	2.6	379.0	千枚岩	撥形 両面調整	SE2 覆土中	PL45
Q295	打製石斧	14.9	7.7	2.5	277.0	緑色片岩	分銅形 側面調整	A 1g5	PL45
Q298	打製石斧	28.0	8.0	2.0	438.0	千枚岩	側面調整	A-1g8	PL45
Q296	石鏝製品	(13.1)	(4.4)	(1.1)	(90.5)	千枚岩	表面調整	SE1 覆土中	PL46
Q297	石鏝製品	(5.5)	1.7	0.8	(12.0)	千枚岩	全面研磨	SE1 覆土中	PL46

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
M2	懸け鏡	11.6	0.65	1.0	477.0	銅	海洋文鏡 上部孔2か所	A 1g4	PL52
M3	銭貨	2.5	0.8	0.1	2.6	銅	元徳通寶 初鑄1078年	A 1a7	PL51
M4	銭貨	2.4	0.7	0.1	3.0	銅	紹聖元寶 初鑄1094年	A 1a7	PL51
M5	銭貨	2.4	0.6	0.1	2.0	銅	開元通寶 初鑄621年	A 1a7	PL51
M6	銭貨	2.3	0.6	0.1	2.7	銅	熙寧元寶 初鑄1068年	東部表土	PL51

第4節 ま と め

1 はじめに

十王堂遺跡は、日立市の中央部に位置し、多賀山地東麓の桜川と大川に挟まれた標高59～60mの海岸段丘の上位段丘面に立地している。今回の調査区は、丘陵裾から南東方向へ舌状にのびる段丘面の中央部付近にあたる。西側の丘陵裾との境界付近には小規模な谷が入り込み、東側はローム層が2m以上低くなる段丘斜面部となっている。

当遺跡の調査は、平成20年4月から9月まで実施し、調査面積は1,269㎡で、長さ約110m、幅4～9mの狭小な調査区であったが、縄文時代の竪穴住居跡14軒、掘立柱建物跡1棟、土坑62基（フラスコ状土坑11基、円筒状土坑12基含む）、遺物包含層1か所、弥生時代の土坑墓1基、土坑2基、平安時代の竪穴住居跡6軒、溝跡1条、中世の井戸跡3基などが確認でき、長期間にわたる土地利用の状況が明らかになった。ここでは、縄文時代の遺構と遺物について概観し、遺跡の各時代の様相について若干の考察を加え、まとめとしたい。

2 縄文時代の遺構

(1) 竪穴住居跡

調査区中央部から南東部にかけて竪穴住居跡14軒が確認できた。調査区域が狭く、遺構の重複が激しかったため、規模や形状は壁溝やピットの配置等から推定したものがほとんどである。ここでは、時期が特定できた10軒の住居跡の規模や構造、炉の形態や時期について述べる。

加曾利EⅠ時期

第30号住居跡が当期に比定できる。壁下に壁溝が巡る径5.8mの円形と推測できる。主柱穴は2か所で、炉跡は調査区域外のため確認できなかった。

加曾利EⅡ時期

第8・14号住居跡が当期に比定できる。第8号住居跡は、径5.4mの円形と推測でき、炉跡は中央部に地床炉が位置している。主柱穴は2か所しか確認できなかった。第14号住居跡は、土層観察から径約5.8mの円形と推測できる。炉跡は中央部に位置し、板状の石材を長方形に配置した石囲い炉である。主柱穴は1か所しか確認できなかった。

加曾利EⅢ時期

第7・26号住居跡が当期に比定できる。第7号住居跡は、壁下に壁溝が巡る径5.2mの円形と推測できる。炉跡は板状の石材を長方形に配置した石囲い炉で、主柱穴は3か所確認できた。第26号住居跡は、壁際に壁柱穴が巡る径約5.8mの円形と推測できる。中央部に土器埋設炉が位置している。

加曾利EⅣ時期

第15・27・29号住居跡が当期に比定できる。第15号住居跡は、壁下に壁溝が巡る一辺5.7mの隅丸方形である。炉跡は中央部より南東側に位置し、楕円形を呈する地床炉である。主柱穴は4か所、平面形に相似して配置されている。第27号住居跡は長径約7m、短径約6mの楕円形、第29号住居跡は径6.1mの円形と推測できる。ともに壁際に壁柱穴が等間隔に配置されている。炉跡はいずれも板状の石材を長方

形に組み合わせた石囲い炉である。

堀之内1式期

第20号住居跡が当期に比定できる。壁際に壁柱穴が巡る径7.6mの円形と推測できる。主柱穴は3か所確認でき、住居の中心と壁との中間に配置されている。炉跡は中央部より西側に位置しており、板状の石材を多角形状に組み合わせた石囲い炉である。

堀之内2式期

第17号住居跡が当期に比定できる。長軸3.1m、短軸2.6mの長方形で、南東側に張り出し部を有している。炉跡は無く、主柱穴は4か所で、コーナー部に配置されている。

以上、住居跡や炉跡の形態について時期別に概観してきた。住居跡は径5～7mの円形のもの为主体で、第15号住居跡は隅丸方形、第17号住居跡は長方形を呈している。構造は主柱穴を有し、壁下に壁溝が巡るものが加曾利EⅠ～Ⅳ時期、壁溝や壁柱穴が確認できず、主柱穴の配置が不鮮明なものが加曾利EⅡ式、壁際に壁柱穴が等間隔に巡るものが加曾利EⅢ・Ⅳ時期と堀之内1式期にそれぞれ確認でき、漸移的な変遷が認められる。炉跡の形態は、加曾利EⅠ～Ⅳ時期は石囲い炉と地床炉のものが確認されており、石囲い炉は板状の自然礫を長方形に組み合わせたものが多い。堀之内1式期にも石囲い炉が確認されており、前時期に比べると石材が多角形状に配置されている傾向がみられる。

(2) 土坑

調査区全域にわたって、620基の土坑が確認できた。これらの土坑には、貯蔵穴と考えられるフラスコ状土坑や円筒状土坑、柱穴の可能性がある土坑などが含まれている。

フラスコ状土坑は、11基が確認できた。第12・19・23・24・31号土坑は阿玉台式期前半、第6・315・501・700・716・823号土坑は加曾利E式期前半にそれぞれ比定できる。阿玉台式期前半のフラスコ状土坑は、いずれも調査区南東部に位置しており、掘り込みが深く、壁が底面から大きく内壁・内傾する形状である。加曾利E式期前半のフラスコ状土坑は、調査区南東部と中央部に位置している。前時期に比べて掘り込みが浅く、壁が底面から鋭角に立ち上がる形状である。

円筒状土坑は、12基が確認できた。第11・36・505・801号土坑が加曾利E式期後半、第446・539・541号土坑が称名寺式期、第288・299・613・710・781号土坑が堀之内式期に比定でき、加曾利E式期後半の円筒状土坑は、調査区南東部から中央部東寄りにかけて位置している。壁の立ち上がりがか外傾するもの、わずかに内傾するもの、直立するものがあり、形状には規格性が認められない。称名寺式期の円筒状土坑は中央部に位置しており、壁がわずかに内壁・内傾して立ち上がっている。堀之内式期のものは調査区中央部に位置し、前時期に比べて掘り込みが浅くなる傾向がみられ、壁はほぼ直立する形状である。

今回確認できた土坑のうちおよそ4割は、形状や堆積状況から柱穴の可能性が高い。そのうち、第6・86・207・363・422・439・502・857号土坑の8基は、径72～149cm、深さ68～133cmの掘方で、土層観察で柱痕跡や埋土、柱材などが確認できた大形の柱穴である。遺物はいずれも称名寺式期以降の土器片が出土していることから後期以降の所産と考えられ、特に、第86・207・363・422・857号土坑については出土土器から晩期後葉に比定できる。第207号土坑は柱痕跡内から長さ70cmの板状の緑色片岩が出土しており、柱を安定させるために据えられたものと考えられる。また、第363号土坑は、湧水のため堆積状況を明確にできなかったが、底面付近から柱材が出土している。柱材の径は41.1～43.6cm、高さ20cmで、材質は樹種同定からクリであることが判明した。周辺には、西(N-105°-W)へ4.8mの地点に第379

号土坑、南(N-165°-E)へ3.7mの地点に第857号土坑があり、掘立柱建物跡を構成して調査区域外へ延びている可能性がある。また、他の大形柱穴の周辺には同規模の柱穴が確認できなかったため、構造は明確でないが、掘立柱建物か単独で立てられた構造物の存在が想定される。

(3) 遺物包含層

第1号遺物包含層は、調査区東部の段丘斜面部に位置している。当包含層が形成される以前の地形は、西から東へ緩やかに下る傾斜地で、そこへ土石流に伴う礫や粘質土層が堆積して平坦になっている。当包含層からは、縄文土器片52,578点をはじめ、土製品66点、石器・石製品126点などが出土している。土器片は接合関係がある大形破片が多く、摩滅の度合いも少ないことから当地で投棄されたものと判断され、廃棄場としての性格が考えられる。

土器片の点数を時期別にみると、早期・前期が37点、阿玉台式期前半が4,370点、阿玉台式期後半が1,750点、加曾利E式期前半が11,143点、加曾利E式期後半が1,774点、称名寺式期が4,726点、堀之内式期が630点、加曾利B式期以降が40点で、小破片のため時期不明なものが28,108点である。以上のことから廃棄行為は、中期前半の阿玉台式期前半から本格的に開始され、加曾利E式期前半にピークを迎え、後期初頭の称名寺式期まで行われ、堀之内式期以降はほぼ停止したと捉えられる。また、土器片の出土範囲は、阿玉台式期には北西部から南東部が中心であったが、加曾利E式期前半には全体に広がり、加曾利E式期後半から称名寺式期には北東部へ移り、堀之内式期には東部と南西部の限られた範囲に変化していることが判明した。

3 縄文時代の遺物

(1) 縄文土器

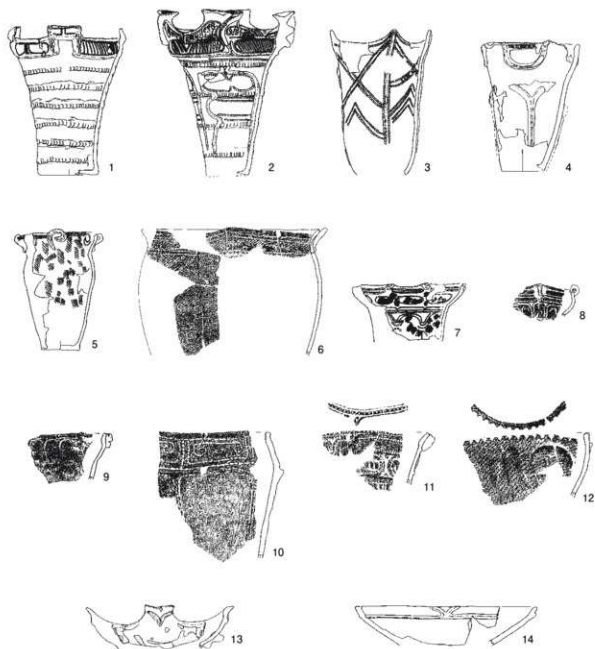
今回の調査では、中期前葉から晩期後葉の各時期の縄文土器が多量に出土している。当遺跡の特徴は、北関東地方と南東北地方の土器様相が混在していることがあげられる。ここでは中期前半、中期後半、後期前半、後期後半、晩期の5時期に大別し、各時期の出土土器の概略を述べる³⁾。

中期前半 (第209図1～20)

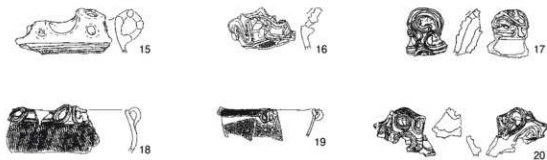
阿玉台式I a～IV式・大木7b・8a式期の土器が出土している。第19・24号土坑から阿玉台I b式の良好な資料が出土している。第1号遺物包含層の出土土器は25.0%が当期に属し、阿玉台I b式・大木7b式の土器がその7割を占めている。阿玉台I b式土器の特徴は地文がなく、単列の有筋沈線で文様を表現しており、大木7b式土器は縦位の単筋縄文を地文とし、交互刺突文や細い有筋沈線で文様を表現している。次いで、橋状や横S字状の突起、装飾的な中空の把手を有する大木8a式の土器群が散見され、阿玉台II～IV式期の土器量は少ない。

中期後半 (第210図1～16)

加曾利E I～IV式・大木8b～10式期の土器が出土している。第30号住居跡・第501号土坑から加曾利E I式・大木8b式期、第36号土坑から加曾利E III式期、第15・29号住居跡、第648・723号土坑から加曾利E IV式・大木10式期の資料が出土している。第1号遺物包含層の出土土器は、52.8%が当期のものであり、そのうち8割強を加曾利E I式と大木8b式の土器が占めている。加曾利E I式・大木8b式の土器の特徴は、剣先文付き渦巻文を主文様とするキャリパー形の深鉢が主体で、大木8b式土器には口縁の彎曲が小さく、胴部が張る器形もみられる。また、浅鉢も一定量認められ、酸化鉄(ベンガラ)で



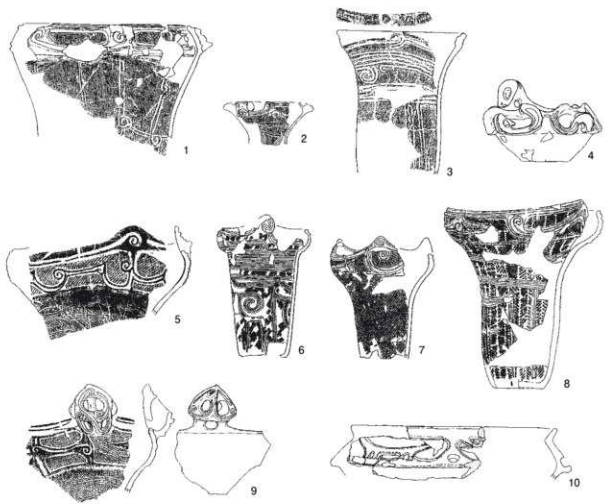
阿玉台 I b · II 式, 大木 7b 式



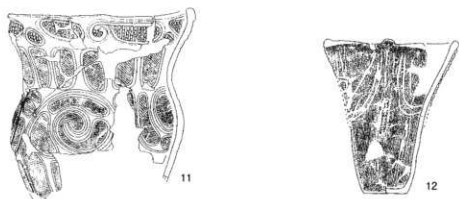
第 209 图 出土土器实测图 (中期前半)

大木 8a 式

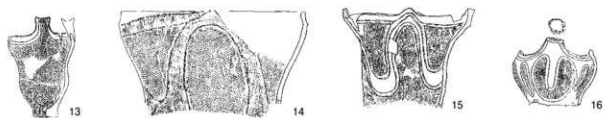
1~20: S = 1/8



加曾利EⅠ式，大木8b式



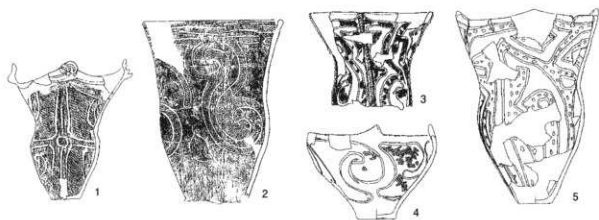
加曾利EⅡ式，大木9式



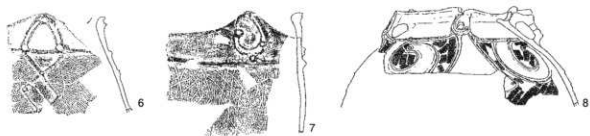
加曾利EM式，大木10式

1~10・12~16：S=1/8 11：S=1/10

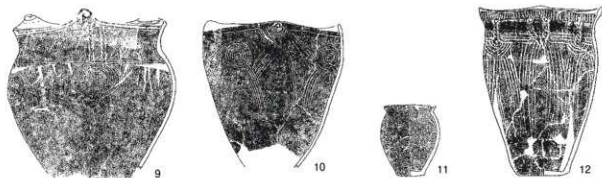
第210图 出土土器实测图（中期後半）



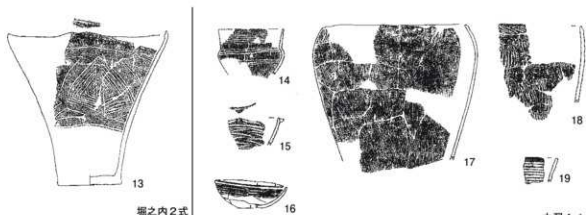
称名寺 I・II 式



網取 I 式



堀之内 1 式



堀之内 2 式

大洞 A 1 式

第 211 图 出土土器实测图 (後期前半・晚期)

1~8・11~19: S = 1/8 9・10: S = 1/10

赤彩された精製品と煤が付着した粗製品とがある。加曾利EⅡ式土器は隆帯、加曾利EⅢ式・大木9式土器は沈線や微隆起線で楕円形区画文や渦巻文を表現している。加曾利EⅣ式・大木10式土器は、口縁部無文帯を微隆起線や沈線で区画し、胴部に玉抱状や逆U字状のモチーフが巡り、無文のものもみられる。

後期前半（第211図1～13）

称名寺I・Ⅱ式・堀之内1・2式・綱取式I・Ⅱ式期の土器が出土している。第562・683号土坑から称名寺I式期、第1・541号土坑から称名寺Ⅱ式・綱取I式期、第20号住居跡、第710号土坑から堀之内I式期、第602号土坑から堀之内2式期の良好な資料が出土している。第1号遺物包含層の出土土器については、21.9%が当期に属しており、そのうち9割近くが称名寺I・Ⅱ式・綱取I式期のものである。堀之内式・綱取Ⅱ式期以降は出土量が激減しており、第1号遺物包含層への廃棄行為が停止したことを示している。称名寺式土器の特徴は、沈線によってJ字状・S字状の区画文を施し、I式期では区画内・外に単節縄文、Ⅱ式期では区画内に列点文を充填している。堀之内式土器は、I式期では渦巻文や4～6本を1単位とする集合沈線によって懸垂文・斜行文を施し、2式期では沈線でX字状などの直線的なモチーフを描き、区画内に充填縄文と複数の沈線を施している。また、3または4単位の波状口縁で地文に粗い単節縄文を施した粗製土器が伴っている。綱取式土器は、口縁部無文帯にノ字状やC字状の隆帯を貼り付け、地文に粗い縄文や懸垂文、格子目文、櫛歯状工具による集合沈線文を施し、I式期では鉤状文、Ⅱ式期では蛇行沈線文など、堀之内式の影響を受けたモチーフが表現されている。

後期後半

当期の土器群は、いずれも柱穴の可能性のある小土坑から細片の状態出土している。単節縄文を地文とし、口縁部に指頭圧痕、胴部に沈線による平行線文・格子目文を施した粗製土器が主体であることから、加曾利B式期と考えられるが、詳細な土器様相は明確でない。

晩期（第211図14～19）

大洞式段階の土器群であり、第1号掘立柱建物跡、第214・363号土坑などから出土している。沈線による変形工字文・矢羽根状文・平行線文で文様を表現した精製土器と懸垂文・条痕文を地文とし、折り返し口縁を特徴とする粗製土器がみられることから、晩期後葉の大洞A1式期に比定できる。ただし、にぶい褐色系の胎土を用いている点で在地的な様相が見て取れ、東北地方の大洞式を模倣したものと考えられる。

(2) 土偶

土偶は10点出土しており、第13A号住居跡から1点（DP3）、第268号土坑から1点（DP11）、第1号遺物包含層から6点（DP19～DP24）、遺構外から2点（DP83・DP84）出土している。DP19・DP20・DP21は有節沈線で文様を表現した阿玉台Ib式・大木7b式期の土偶である。DP19は左腕部と脚部が欠損しているが、全身像がうかがえる好資料である。DP20は頭部片、DP21は左腕部片である。DP11・DP83は後期前葉のハート形土偶で、DP11は胸部片、DP83は右脚部の破片である。DP3・DP84は後期中葉の山形土偶で、ともに右腕部の破片である。DP22～DP24はいずれも脚部片と考えられる。

(3) 石器・石製品（表7）

石器・石製品は縄文時代の遺構から269点が出土している。内訳は、石器が石鏃43点、石錐4点、磨製石斧6点、打製石斧20点、石錘18点、浮子2点、敲石6点、磨石28点、棒状凹石70点、凹石56点、石皿7点、石製品が小形石棒2点、石棒・石剣未製品5点、垂飾り2点である。用途別には、狩猟具（石鏃）

が16.0%、漁撈具（石錘・浮子）が7.4%、土木具（磨製石斧・打製石斧）9.7%、加工・調理具（石鎌・敲石・磨石・棒状凹石・凹石・石皿）63.6%、祭祀・装身具（石棒・石剣・垂飾り（未製品含む））3.3%である。石材は緑色片岩・千枚岩・角閃石片岩などの多賀山地南部の基盤層を構成する日立変成岩類が主体で、次いでチャートや砂岩、頁岩、瑪瑙など在地で産出される石材が多く用いられている²⁾。

表7 石器・石製品 器種・石材別点数一覧表

器種		石材											総計
		石磯	石鎌	磨製石斧	打製石斧	石錘	敲石	磨石	棒状凹石	凹石	石皿	石棒・石剣	
変成岩	緑色片岩			3	9	3	5	3	52	38	5	3	121
	千枚岩				6	5			3	4		3	21
	緑色岩				1	3		2	4	3			13
	角閃石片岩			1		3			3	3	1		11
	ホルンフェルス			1									1
火成岩	黒曜石	4											4
	石英隕岩							9	1				10
	安山岩							1			1		2
堆積岩	砂岩			1	1	2		10	7	7			28
	泥岩						1					1	2
	頁岩	3	1		2	2							8
	凝灰岩	1	1							1			3
	チャート	25	2		1								28
	瑪瑙	9											9
	石英	1						3					4
総計		43	4	6	20	18	6	28	70	56	7	7	265

4 遺跡の様相

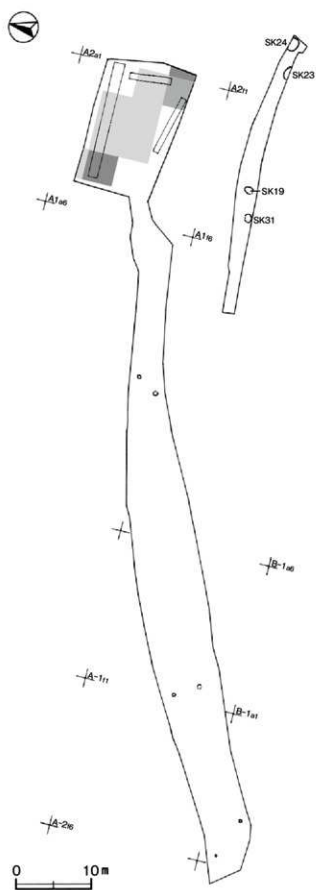
(1) 縄文時代

中期前半（第212図）

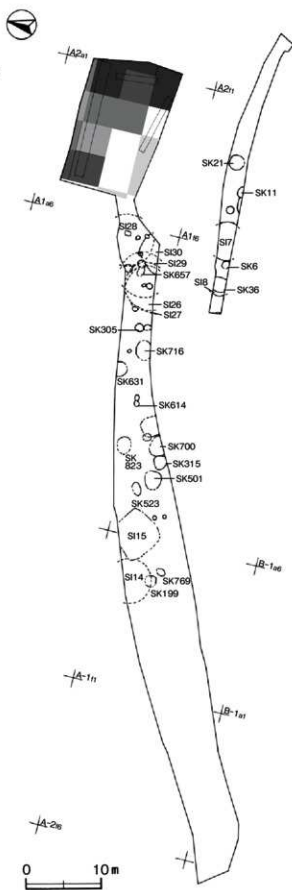
調査区南東部の段丘縁辺の緩斜面部において、阿玉台式期前半のフラスコ状土坑5基（第12・19・23・24・31号土坑）が確認できた。いずれも掘り込みが深く、壁が大きく内彎・内傾する形状である。第19号土坑からは阿玉台I b式の深鉢3点が底面から押しつぶされた状態で出土している。また、阿玉台I b式・大木7b式期は、第1号遺物包含層への廃棄行為が本格的に開始される時期で、出土土器は包含層の北西部を中心とした北西・南東方向の帯状の範囲に分布している。なお、第1号遺物包含層から五領ヶ台式・阿玉台I a式・阿玉台II～IV式・大木8a式の土器が出土していることから、阿玉台I b式期より古い時期から集落が形成され、以後も断続的に営まれていた可能性がある。

中期後半（第213図）

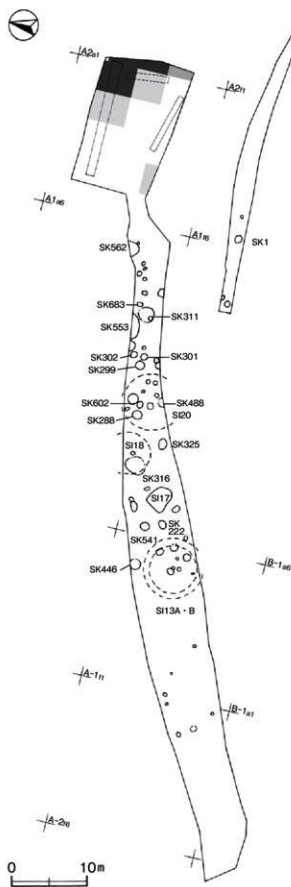
遺構は調査区南東部から中央部にかけて展開するようになり、加曾利E I～E IV式期の竪穴住居跡9軒（第7・8・14・15・26・27・28・29・30号住居跡）、加曾利E式期前半のフラスコ状土坑6基（第6・315・501・700・716・823号土坑）、加曾利E式期後半の円筒状土坑4基（第11・36・505・801号土坑）などが確認できた。第1号遺物包含層からは加曾利E I式・大木8b式の土器が多量に出土している。分布範囲も包含層全体に広がっており、廃棄行為のピークを迎えている。なお、加曾利E II式期以降の出土量の減少は、竪穴住居跡などの遺構が継続して形成されていることから、廃棄場所が別地点に移動したためと考えられる。



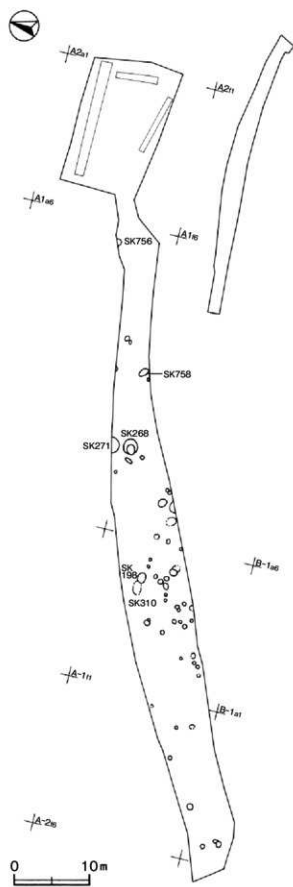
第 212 圖 中期前半遺構分布圖



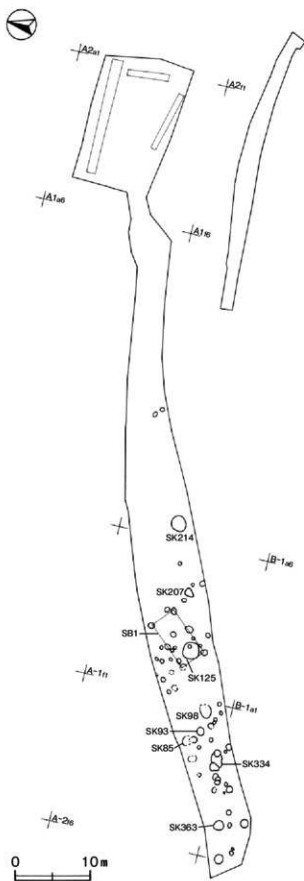
第 213 圖 中期後半遺構分布圖



第 214 図 後期前半遺構分布図



第 215 図 後期後半遺構分布図



第 216 図 晩期遺構分布図

後期前半 (第 214 図)

遺構の分布範囲は前段階と重複しているが、段丘面の平坦な部分へと移動している。称名寺期の円筒状土坑 3 基 (第 446・539・541 号土坑)、堀之内期の竪穴住居跡 2 軒 (第 17・20 号住居跡)、円筒状土坑 4 基 (第 288・613・710・781 号土坑) のほか、後期前半と考えられる竪穴住居跡 3 軒 (第 13 A・B・18 号住居跡) や炭化したクルミが多量に出土した第 562 号土坑 (称名寺 I 時期) などが確認されている。第 1 号遺物包含層からは称名寺 I・II 式・網取 I 式の土器が多く出土しており、分布範囲は北東部に集中している。また、後期前葉以降は出土量が激減していることから、廃棄行為が停止したと考えられる。

後期後半 (第 215 図)

遺構は調査区中央部の平坦部に集中している。確認できた遺構は柱穴の可能性のある小土坑が中心である。出土土器は細片のため明確でないが、加曾利 B 式期の粗製土器の破片が多く出土している。

晩期 (第 216 図)

調査区西部の平坦部から谷部にかけて分布している。桁行 2 間、梁行 1 間、柱間 3.4m の第 1 号掘立柱建物跡、複数回の火を用いた形跡が確認できた第 214 号土坑、大形柱穴の可能性のある第 207・363 号土坑など、一般的な集落とは異なる性格をうかがわせる遺構群である。第 214 号土坑出土の炭化材と第 363 号土坑出土の柱材については、C14 放射性炭素年代測定の結果、ともに今から 2560 年前を前後する時期であることが分かった。出土土器は大洞 A 1 式期に比定でき、これまでの実年代研究の結果とも符合している。

以上、当遺跡は、調査区の制約があり、集落の全体像を推測することは困難であるが、調査区東側の緩斜面部から中央部の平坦面、西側の谷部へと時期が下るごとに移動していったことが判明した。

(2) 弥生時代

当時代の遺構は土坑墓1基（第365号土坑）、土坑2基（第360・404号土坑）が確認でき、いずれも調査区西部の谷部に位置している。第365号土坑は、北西部から壺が甲しつぶされた状態で、東部から8点の管玉が破砕された状態でそれぞれ出土している。再掘削の痕跡が認められないことから土坑墓と判断した。坑内の南半部にスペースがあることから埋葬方法は屈葬と推測でき、北半部から出土した壺や管玉はいずれも副葬品と考えられる。時期は出土土器から中期前葉と比定できる。また、管玉を砕いて副葬する例は、福島県宮崎遺跡・柏山遺跡・鳥内遺跡、群馬県岩櫃山麓の果岩陰遺跡、新潟県緒立遺跡などで確認されている。管玉を破砕する行為は、福島県内陸部を中心とした東北地方が優勢であり、阿武隈山地西部から久慈川水系経由で当地へもたらされた風習と考えられる。

(3) 平安時代

当時代の遺構は、竪穴住居跡6軒、溝跡1条が確認できた。第1・2号住居跡は東部、第9・11号住居跡は中央部西寄り、第12号住居跡は中央部、第25号住居跡は中央部東寄りにそれぞれ位置している。いずれも一辺が4m前後の小形の住居跡で、主軸方向は東に振れているもの（第2・25号住居跡）と、西に振れているもの（第1・9・11・12号住居跡）に分けられる。時期は、第2号住居跡が9世紀後葉、第1・25号住居跡が10世紀前葉、第11号住居跡が10世紀中葉、第9・12号住居跡が10世紀前半で、10世紀前葉段階を前期に集落景観に変化が認められる。第1号溝跡は、調査区東部に位置し、後出する時期の住居跡と方向を同じくしている。時期は10世紀前半に比定でき、住居跡と同時期であることから、区画溝としての機能が想定される。なお、隣接する根岸西遺跡でも同時期の住居跡が確認されており、両遺跡とも10世紀前半の短期間で集落が廃絶するのが特徴である。

(4) 中世

当時代の遺構は、井戸跡3基が確認できた。いずれも中央部西寄りに位置し、互いに1.5～2.0mの距離を置いた範囲にまとまっている。第3号井戸跡の覆土中層からはほぼ完形の土師質土器内耳輪が出土しており、時期は中世後半に比定できる。また、旧表土中から室町時代の和鏡が出土している。和鏡は、縁の上部に2か所の孔が空いており、懸け鏡として使用されたものである。当遺跡の名称の由来となった「十王堂思想」との関連性がうかがえる興味深い資料である。

5 おわりに

以上、十王堂遺跡で確認された縄文時代の遺構と遺物及び遺跡の様相について述べてきた。

当遺跡は、大正期より縄文時代後期の遺跡として注目されていたが、今回の調査で縄文時代中期前葉から晩期後葉、弥生時代、平安時代、中世に至る長期間にわたって土地利用がなされていたことが判明した。縄文時代の集落は、時期が下るごとに東から西へと移動しており、こうした土地利用の変遷を明らかにできたことは大きな成果といえよう。また、出土した多量の縄文土器は北関東と南東北の土器型式が共存する多様な様相を示しており、弥生時代の土坑墓には破砕された管玉を副葬する東北地方の影響が認められることから、各時代を通じて人的・物的な交流が盛んであったことがうかがえる。集落構造や土器様相の詳細、石材の流通など、当遺跡の全容については今後の調査事例を含めたさらなる分析が必要であるが、今回の調査成果が当地域における歴史解明の一助となれば幸いである。

註

- 1) 縄文土器の編年については、以下の文献に依拠した。

大川清・鈴木公雄・工業善通編 『日本土器事典』雄山閣 1996年12月

小林達雄編 『総覧 縄文土器』アム・プロポーション 2007年12月

- 2) 石器・石製品の石材については、以下の資料を参照とした。

柴田徹 『河原の石のCD岩石鑑定図鑑』有限会社考古石材研究所 2005年2月

参考文献

- ・小川和博 「上の内遺跡発掘調査報告書」「日立市文化財調査報告書」第61集 日立市教育委員会 1998年3月
- ・設楽博己 『弥生再興と社会』塙書房 2008年5月
- ・進藤敏雄・合田恵美子・後藤信祐 『御霊前遺跡Ⅰ 県営広域農道整備事業（芳賀地区）に伴う発掘調査』『栃木県埋蔵文化財調査報告』第236集 財団法人栃木県文化振興事業団 2000年3月
- ・塚原孝一 『小鍋前遺跡 経営体育基盤整備事業荒川南部地区における埋蔵文化財発掘調査』『栃木県埋蔵文化財調査報告』第313集 財団法人栃木県文化振興事業団 2008年3月
- ・松本茂 『東北横断自動車道遺跡調査報告11 法正尻遺跡』『福島県文化財調査報告書』第234集 財団法人福島県文化センター 1991年3月
- ・渡邊浩実 『主要地方道日立笠岡線道路改良工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書 根岸西遺跡』『茨城県教育財団文化財調査報告』第261集 2006年3月

付 章

十王堂遺跡出土遺物の自然科学分析

パリオ・サーヴェイ株式会社

1 はじめに

十王堂遺跡は、桜川右岸の海岸段丘上から低地にかけて立地する縄文時代中期から中世にかけての複合遺跡である。今回の自然科学分析では、第214号土坑と第363号土坑から出土した炭化材や木柱を対象として、遺構の年代を確認するために放射性炭素年代測定を、木材利用を明らかにするために樹種同定を実施した。

2 試料

試料は、第214号土坑から出土した炭化材と第363号土坑から出土した柱材の2点である。いずれも年代測定と樹種同定を実施した。年代測定は、 β 線係数法で実施する予定であったが、第363号土坑の柱材については β 線計数法に必要な量を得られなかったため、AMS法で実施した。なお、第214号土坑、第363号土坑は出土土器からいずれも縄文時代晩期後葉のものと考えられている。

3 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HClにより炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOHにより腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分の除去を行う（酸・アルカリ・酸処理）。

試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅（II）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃（30分）、850℃（2時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO₂を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO₂と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

AMS法では、化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX-II）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に13C/12Cの測定も行うため、この値を用いて δ 13Cを算出する。

一方、 β 線係数法では、試料中に含まれる炭素を酸化させて二酸化炭素とし、さらに精製ラインを用いて、二酸化炭素からアセチレンを合成する。 β 線計数装置の気体比例計数管で、14Cの崩壊数を計測する。測定が終了したアセチレンガスから再び二酸化炭素を作製し、安定同位体比測定用質量分析装置で試料中の δ 13Cを測定する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma68%）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02（Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ

Reimer) を用い、誤差として標準偏差 (One Sigma) を用いる。

暦年較正は、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5,568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い (^{14}C の半減期 $5,730 \pm 40$ 年) を較正することである。暦年較正に関しては、本来 10 年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1 年単位で表している。今回の試料は、いずれも植物素材であることから、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。

暦年較正は、測定誤差 σ 、 2σ 双方の値を計算する。 σ は統計的に真の値が 68% の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が 95% の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、 σ 、 2σ の範囲をそれぞれ 1 とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

(2) 樹種同定

剃刀の刃を用いて木口 (横断面)・柀目 (放射断面)・板目 (接線断面) の 3 断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラル (抱水クロラル、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液) で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。炭化材は、自然乾燥させた後、横断面の柀断面を作製して実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。各試料の観察で確認された特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等については、高地・伊東 (1982) や Wheeler 他 (1998) を参考にする。また、日本産木材の組織配列については、林 (1991) や伊東 (1995, 1996, 1997, 1998, 1999) を参考にする。

4 結果

放射性炭素年代測定および樹種同定結果を表 1、暦年較正結果を表 2 に示す。同位体効果による補正を行った測定値は、第 214 号土坑の炭化材が $2630 \pm 70\text{BP}$ 、第 363 号土坑の柱材が $2520 \pm 40\text{BP}$ を示す。また、測定誤差を σ として計算させた暦年較正結果は、第 214 号土坑の炭化材が calBC901-670、第 363 号土坑の木柱が calBC775-554 である。

測定を行った試料は、第 214 号土坑の炭化材がイネ科タケ亜科、第 363 号土坑の木柱がクリに同定された。解剖学的特徴等を記す。

・イネ科タケ亜科 (Gramineae subfam. Bambusoideae)

試料は、直径約 $3\text{mm} \times 2\text{mm}$ の棒状で、中空となる。横断面では、原生木部の小径の道管の左右に 1 対の大型の道管があり、その外側に篩部細胞がある。これらを厚壁の繊維細胞 (維管束鞘) が囲んで維管束を形成する。維管束は柔組織中に散在し、不斉中心柱をなす。

いわゆるタケ・ササ類であるが、節部分が残存していないため、タケ類・ササ類の区別はできない。

・クリ (Castanea crenata Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔環部は 3-4 列、孔環外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15 細胞高。

表1. 放射性炭素年代測定および樹種同定結果

遺構	試料名	種類	樹種	方法	補正年代 BP	$\delta^{13}C$ (‰)	測定年代 BP	Code No.	Measurement No.
SK214	炭化材	炭化材	イネ科タケ重料	β 線	2630 \pm 70	- 25.2	-	10530 - 1	IAA - 1176
SK363	本柱	生木	クリ	AMS	2520 \pm 40	- 30.64 \pm 0.82	2610 \pm 30	10530 - 2	IAAA - 90325

- 1) 年代値の算出には、LIBBYの半減期5,568年を使用。
 2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
 3) 付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

表2. 暦年較正結果

試料名	補正年代 (BP)	暦年較正年代 (cal)										相対比	Code No.			
SK214 炭化材	2630 \pm 72	σ	cal	BC	901	-	cal	BC	739	cal	BP	2851	-	2709	0.951	10530 - 1
			cal	BC	683	-	cal	BC	670	cal	BP	2633	-	2620	0.049	
		2 σ	cal	BC	972	-	cal	BC	959	cal	BP	2922	-	2909	0.008	
			cal	BC	937	-	cal	BC	704	cal	BP	2887	-	2654	0.768	
			cal	BC	695	-	cal	BC	539	cal	BP	2645	-	2489	0.225	
			cal	BC	775	-	cal	BC	747	cal	BP	2725	-	2697	0.219	
SK363 本柱	2518 \pm 34	σ	cal	BC	688	-	cal	BC	665	cal	BP	2638	-	2615	0.184	10530 - 2
			cal	BC	645	-	cal	BC	588	cal	BP	2595	-	2538	0.422	
		2 σ	cal	BC	581	-	cal	BC	554	cal	BP	2531	-	2504	0.175	
			cal	BC	793	-	cal	BC	538	cal	BP	2743	-	2488	1.000	

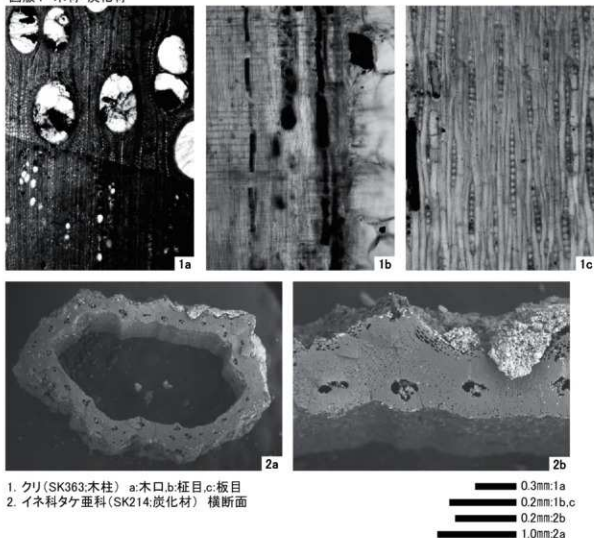
- 1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.01 (Copyright 1986-2005 M Stuiver and P J Reimer)を使用した。
 2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。
 3) 1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
 4) 統計的に真の値が入る確率は σ は68%、2 σ は95%である。
 5) 相対比は、 σ 、2 σ のそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

5 考察

第214号土坑は、長径2.14m、短径1.86m、深さ89cmの楕円形を呈する土坑で、覆土中層に炭化層と焼土層が互層に堆積し、複数回火を使った痕跡が確認されている。炭化材は、直径2～3mmの細い枝状を呈しており、多数が束状になって出土している。時期は、出土土器から縄文時代晩期後葉と考えられている。炭化材の年代測定の結果は、calBC901-670である。また、炭化材は全てタケ重料であり、形状から径の細いササ類や枝等が選択的に利用された可能性がある。

第363号土坑は、谷部から検出されており、長径1.49m、短径1.28m、深さ113cmの楕円形を呈する土坑で、底面から直径41.1～43.6cm、高さ20cmの円柱状の木材が出土している。時期は、出土土器から縄文時代晩期後葉と考えられている。木材の年代測定結果は、calBC775-554を示しており、過去の炭素濃度の変動で暦年較正年代が区分しにくい時期(弥生時代移行期; 小林, 2006)に相当する。樹種は、強度・耐朽性に優れた広葉樹のクリに同定され、強靱で腐りにくい木材を選択した可能性がある。クリは、縄文時代の建築部材等に多く利用される種類として知られており、当遺跡でも利用されていた可能性がある。当地域では、縄文時代晩期～弥生時代中期にかけての木材利用に関する資料がほとんど無いため、当該期の木材利用についてはさらに資料を蓄積していくことが望まれる。

図版1 木材・炭化材



1. クリ(SK363;木柱) a:木口・柾目;c:板目
2. イネ科タケ垂科(SK214;炭化材) 横断面

0.3mm:1a
0.2mm:1b,c
0.2mm:2b
1.0mm:2a

引用文献

- ・林 昭三.1991.日本産木材 顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.
- ・伊東 隆夫.1995.日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料.31.京都大学木質科学研究所.81-181.
- ・伊東 隆夫.1996.日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料.32.京都大学木質科学研究所.66-176.
- ・伊東 隆夫.1997.日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料.33.京都大学木質科学研究所.83-201.
- ・伊東 隆夫.1998.日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料.34.京都大学木質科学研究所.30-166.
- ・伊東 隆夫.1999.日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料.35.京都大学木質科学研究所.47-216.
- ・小林 謙一.2006.東日本における年代測定の実績.西本 豊弘(編)「新弥生時代のはじまり第1巻 弥生時代の新年代」.雄山閣.97-100.
- ・高橋 謙・伊東 隆夫.1982.国産木材組織.地球社.176p.
- ・Wheeler E.A,Bass P. and Gasson P.E.(編).1998.広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東 隆夫・藤井 智之・佐伯 浩(日本語版監修).海書社.122p. [Wheeler E.A,Bass P. and Gasson P.E.(1989)IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification]

写 真 図 版



調査区全景（東から）



遺跡全景（東から多賀山地を望む）



遺跡全景（西から太平洋を望む）

PL2



調査区東部
完掘状況



調査区中央部
完掘状況



調査区西部
完掘状況

第7号住居跡
完掘状況



第7号住居跡
炉跡完掘状況



第13号住居跡
完掘状況



PL4



第14号住居跡
炉跡完掘状況



第15号住居跡
完掘状況



第15号住居跡
遺物出土状況

第15号住居跡
炉跡完掘状況



第17号住居跡
遺物出土・完掘状況



第17号住居跡
遺物出土状況





第20号住居跡
完掘状況



第20号住居跡
遺物出土状況



第20号住居跡
炉跡遺物出土状況

第 26・27・29 号
住 居 跡
完 掘 状 況



第 26・27・29 号
住 居 跡
遺 物 出 土 状 況 ①



第 26・27・29 号
住 居 跡
遺 物 出 土 状 況 ②





第26号住居跡
炉跡完掘狀況



第27号住居跡
炉跡完掘狀況



第28号住居跡
炉跡完掘狀況

第29号住居跡
炉跡完掘状況



第30号住居跡
完掘状況



第30号住居跡
遺物出土状況





第1号掘立柱建物跡
完掘状況



ピット1完掘状況



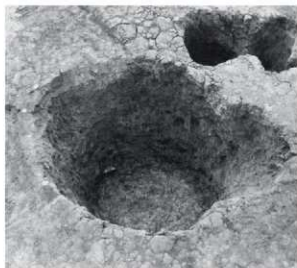
ピット1土層セクション



ピット2完掘状況



ピット2土層セクション



ピット3完掘状況



ピット3土層セクション



ピット4完掘状況



ピット4土層セクション



ピット5完掘状況



ピット5土層セクション

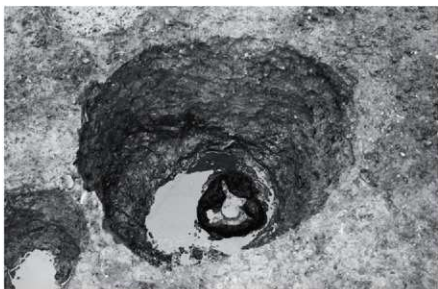
PL12



第207号土坑完掘状況



第207号土坑土層セクション



第363号土坑
完掘状況



第363号土坑断割
土層セクション

第 1 号 土 坑
遺 物 出 土 状 況



第 19 号 土 坑
遺 物 出 土 状 況



第 23 号 土 坑
土 層 セ ク シ ョ ン





第 24 号 土 坑
完 掘 状 况



第 24 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况



第 36 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况

第 124 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况



第 214 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况 ①



第 214 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况 ②





第 222 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况



第 315 号 土 坑
完 掘 状 况



第 523 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况

第 501 号 土 坑
遺物出土状況①



第 501 号 土 坑
遺物出土状況②



第 541 号 土 坑
遺物出土状況





第 562 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况



第 602 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况



第 683 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况

第 710 号 土 坑
遺物出土・完掘状況



第 710 号 土 坑
遺物出土状況



第 723 号 土 坑
遺物出土・完掘状況



PL20



第1号遺物包含層
基本層序



第1号遺物包含層
土層セクション



第1号遺物包含層
遺物出土状況①

第1号遺物包含層
遺物出土状況②



第1号遺物包含層
遺物出土状況③



第1号遺物包含層
完掘状況





第1号遺物包含層
遺物出土状況④



第1号遺物包含層
遺物出土状況⑤



第1号遺物包含層
遺物出土状況⑥

第 365 号 土 坑
遺物出土状況①



第 365 号 土 坑
遺物出土状況②



第 404 号 土 坑
遺物出土状況





第2号住居跡
完掘状況



第11号住居跡
完掘状況



第12号住居跡
完掘状況



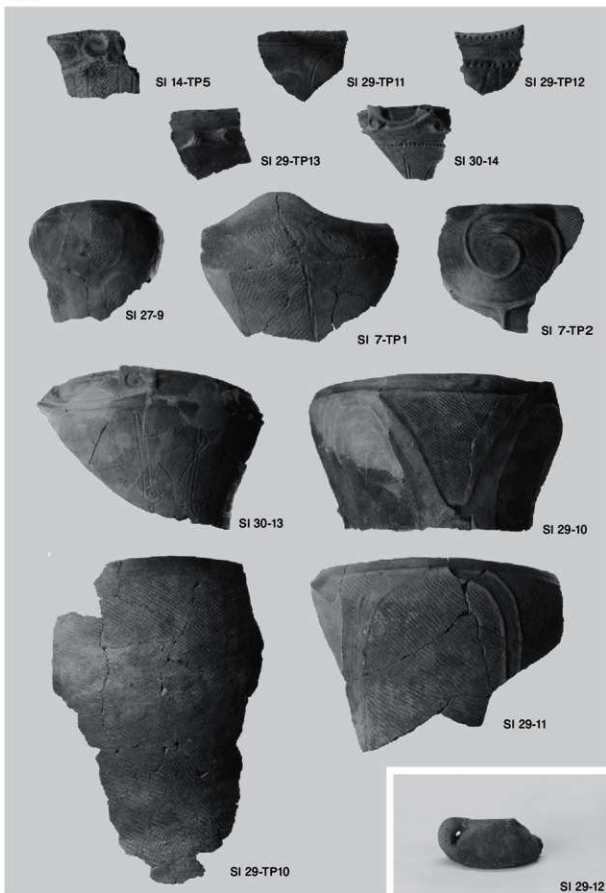
第 1 号 溝 跡
完 掘 状 況



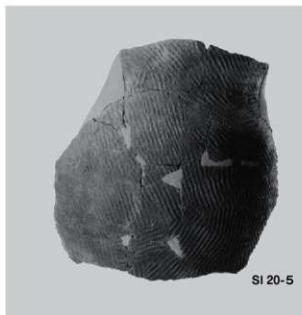
第 2 号 井 戸 跡
完 掘 状 況



第 3 号 井 戸 跡
遺 物 出 土 状 況



第7・14・27・29・30号住居跡出土遺物









SK1-TP28



SK723-68



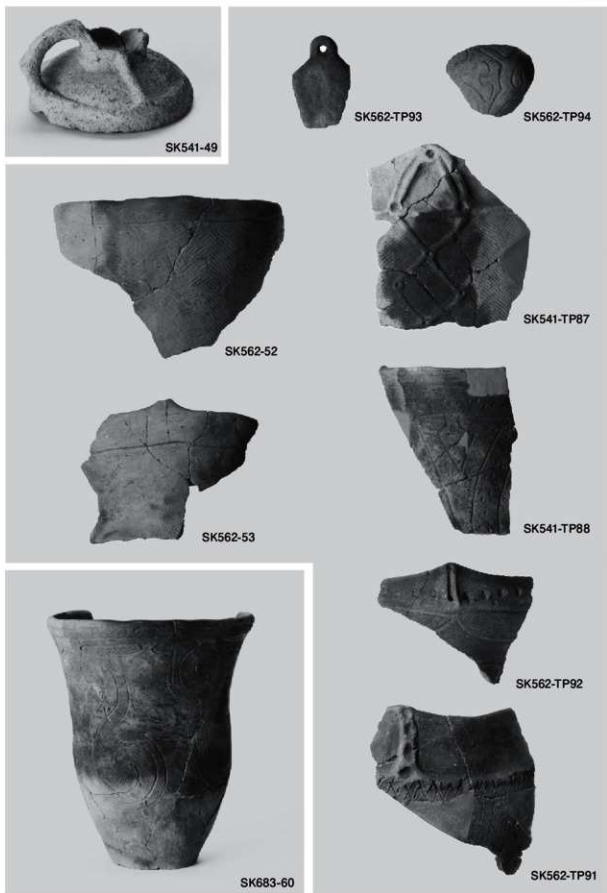
SK648-59



SK801-TP102



SK1-17



第 541·562·683 号土坑出土土遗物



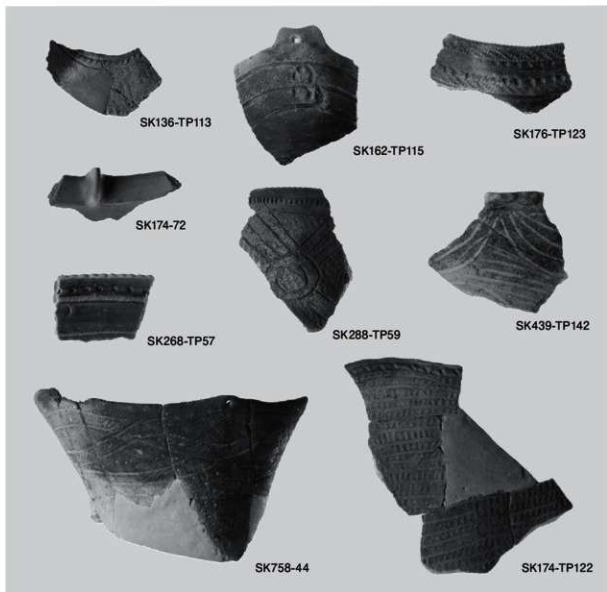
第 710 号土坑出土遺物



SK602-55



SK282-73



SK136-TP113

SK162-TP115

SK176-TP123

SK174-72

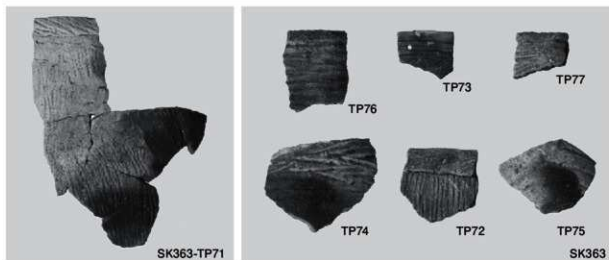
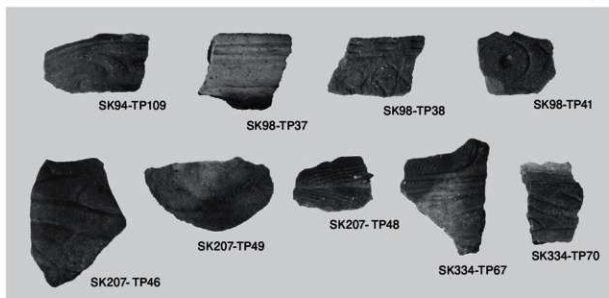
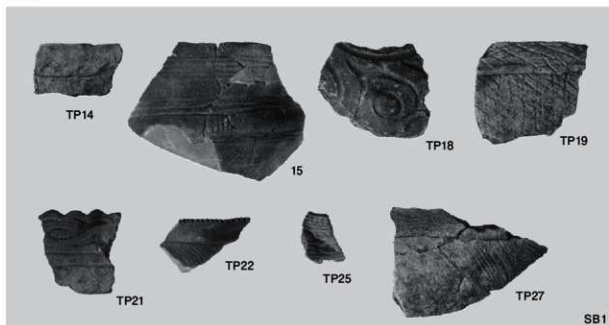
SK288-TP59

SK439-TP142

SK268-TP57

SK758-44

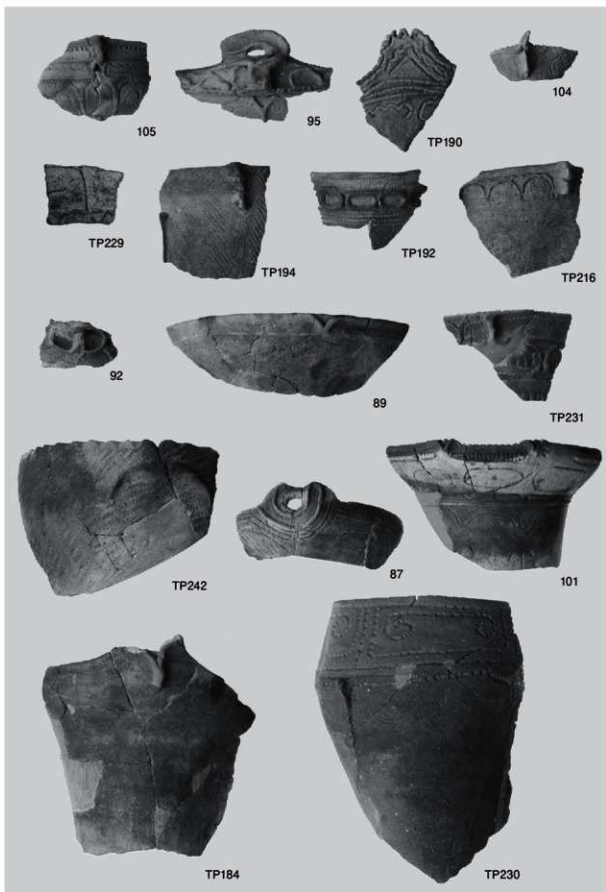
SK174-TP122



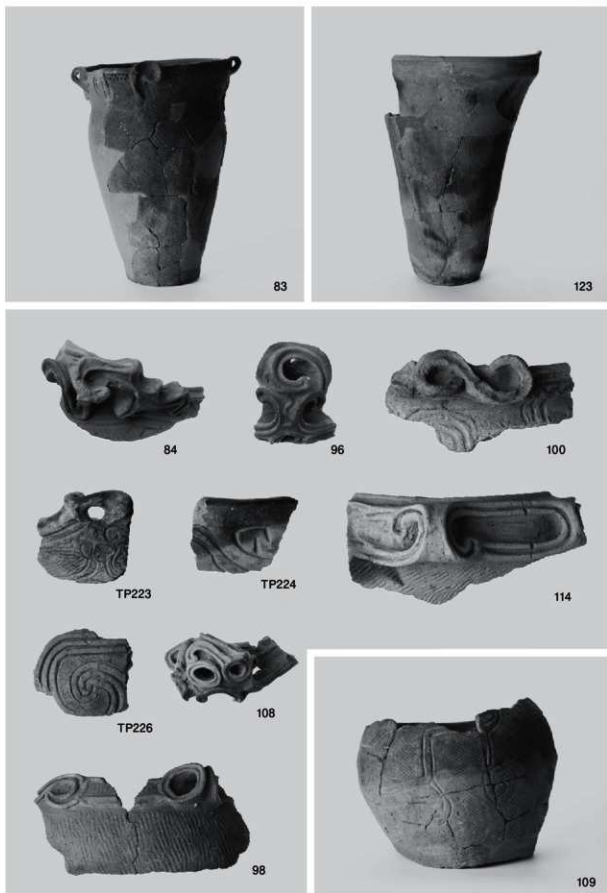
第1号掘立柱建物跡，第94・98・207・334・363号土坑出土遺物



第 214·365·404 号土坑出土遗物



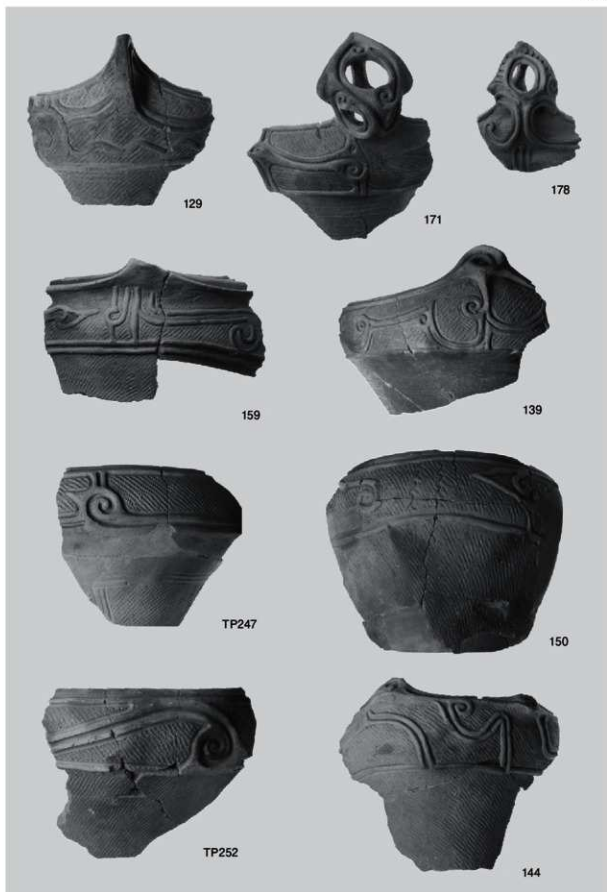
第1号遺物包含層出土遺物 (1)



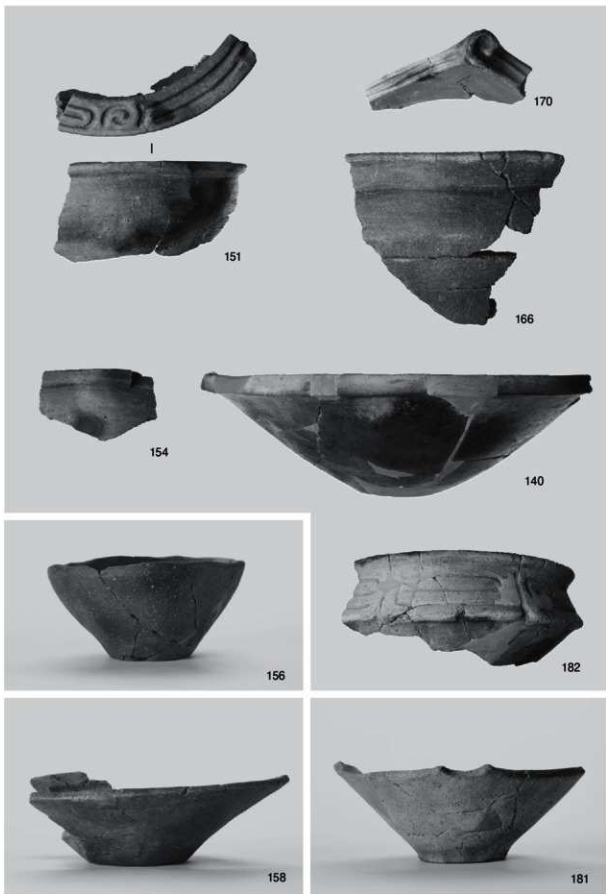
第1号遺物包含層出土遺物 (2)



第1号遺物包含層出土遺物 (3)



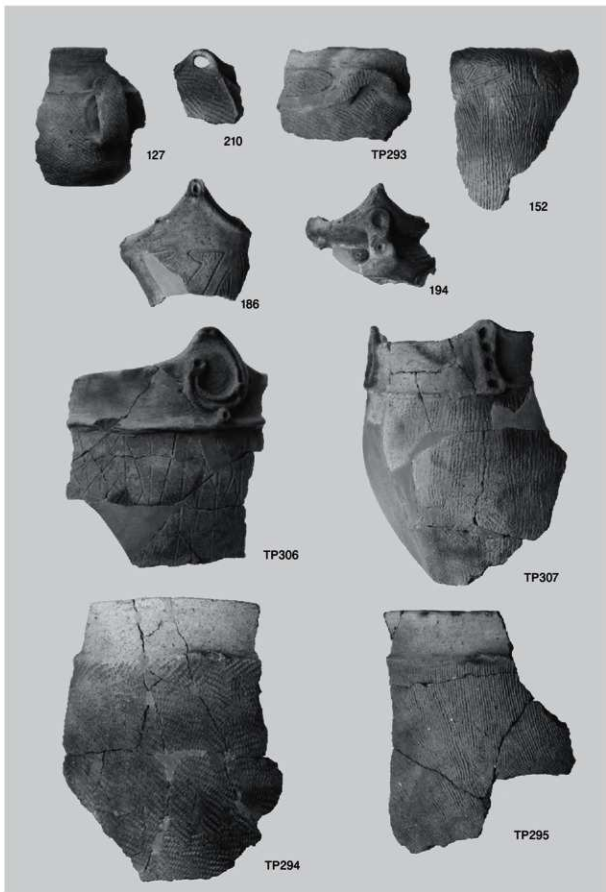
第1号遺物包含層出土遺物 (4)



第1号遺物包含層出土遺物 (5)



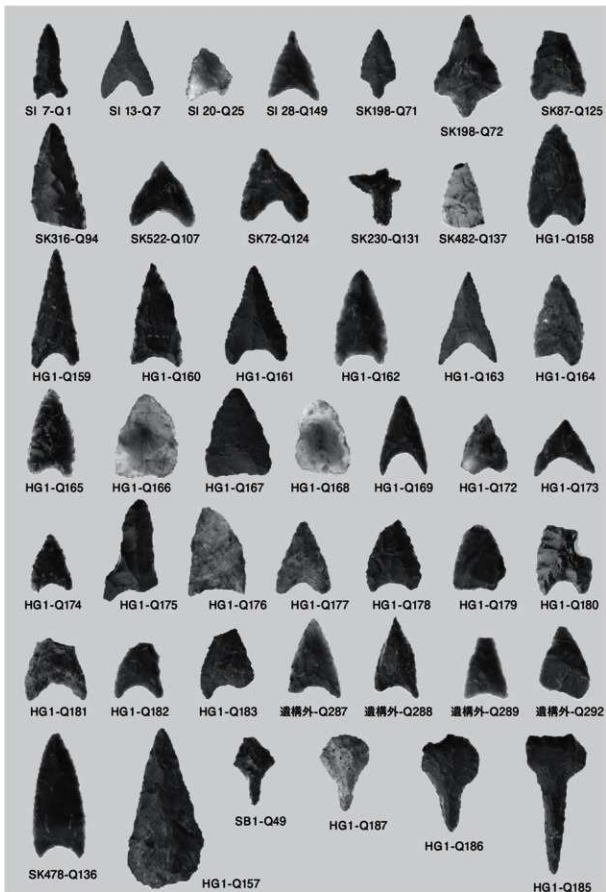
第1号遺物包含層出土遺物 (6)



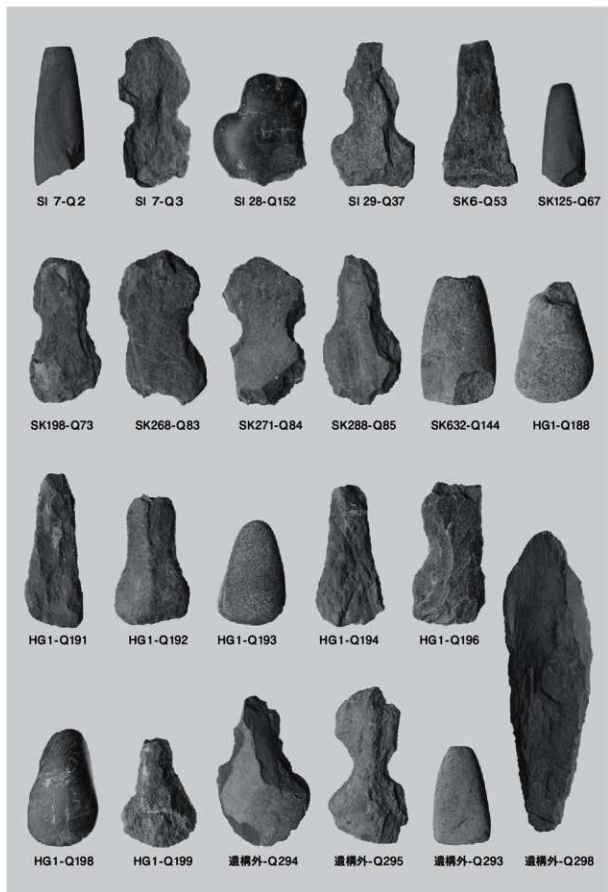
第1号遺物包含層出土遺物 (7)



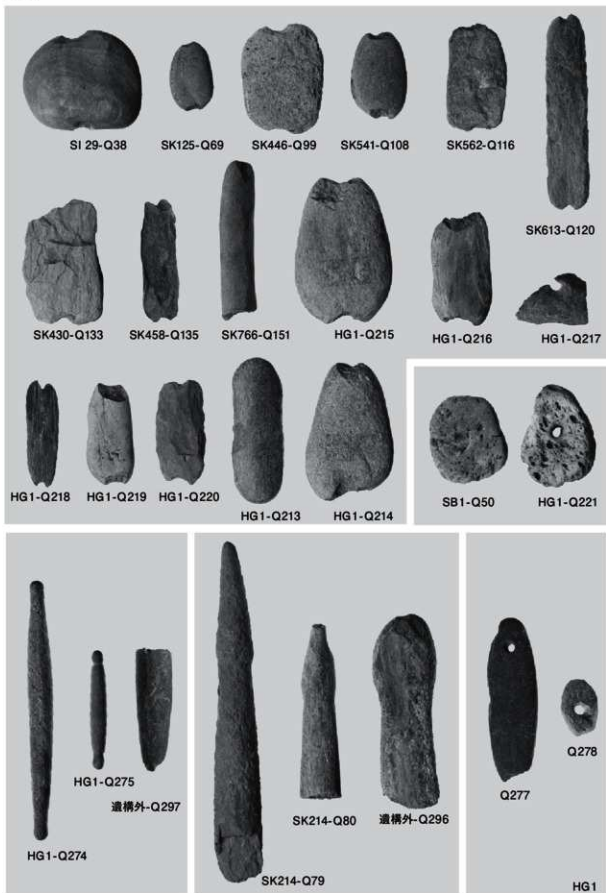
第1号遺物包含層出土遺物，土製品（耳栓・土偶）



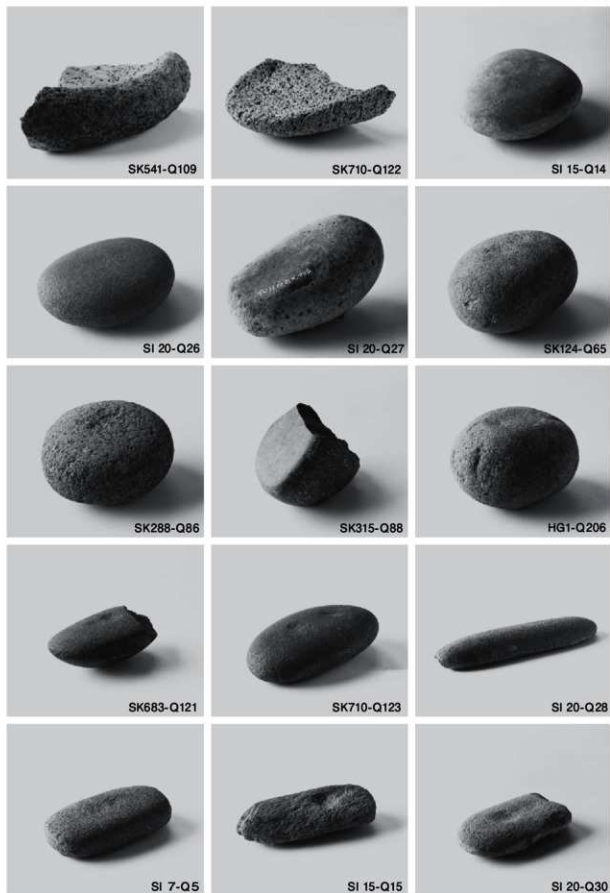
石器（石鏃・石錐）



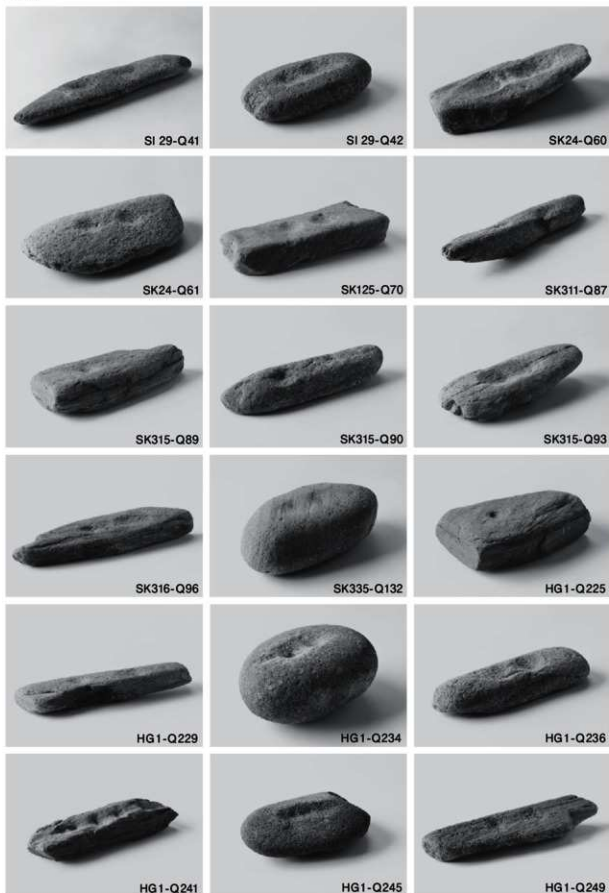
石器（磨製石斧・打製石斧）



石器（石錘・浮子）・石製品（石棒・石剣・垂飾切）



石器（石皿・磨石・敲石・棒状凹石）



石器 (棒状凹石)



SI 14-Q10



SI 15-Q12



SI 15-Q13



SI 14-Q8



SI 14-Q9



SI 15-Q18



SI 15-Q19



SI 20-Q31

石器 (石皿・凹石)



SI 27-Q33



SI 29-Q46



SK488-Q100



SK615-Q142



HG1-Q255



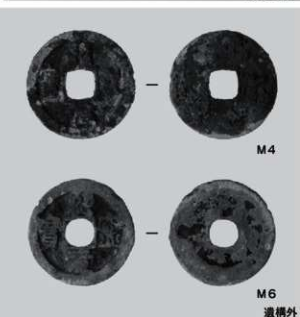
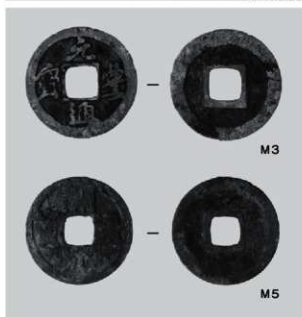
HG1-Q259



HG1-Q261



HG1-Q266



遺構外

第1・2・11・25号住居跡，第3号井戸跡出土遺物，遺構外出土金属製品



SK365-Q279~Q286

第 365 号土坑出土石製品 (管玉)



遺構外-M2

遺構外出土金属製品 (懸け鏡)

抄 録

ふりがな	じゅうおうどういせき							
書名	十王堂遺跡							
副書名	主要地方道日立笠間線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書							
巻次								
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告							
シリーズ番号	第332集							
著者名	清水 哲 齋藤貴史							
編集機関	財団法人茨城県教育財団							
所在地	〒310 - 0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029 - 225 - 6587							
発行日	2010 (平成22) 年3月24日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
十王堂遺跡	茨城県日立市 末広町5丁目 174-2番地ほか	08202 - 099	36度 33分 27秒	140度 37分 09秒	59 ~ 60 m	20080401 ~ 20080930	1,269 m ²	主要地方道日立笠間線道路改良工事に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
十王堂遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡	14軒	縄文土器(深鉢・鉢・浅鉢・注口土器・壺形土器・蓋・ミニチュア土器)、土製品(土偶・耳栓・土器片内蔵)、石器(石鏃・石錐・磨製石斧・打製石斧・磨石・敲石・石錘・浮子・棒状凹石・凹石・石皿)、石製品(石棒・石剣・垂飾り)、木製品(柱材)	縄文時代晩期末葉の2間×1間の掘立柱建物跡や径40cmの柱材が確認されている。また、弥生時代の土坑墓からは壺と破砕された管玉が出土している。		
		平安時代	竪穴住居跡	6軒	土師器(環・高台付碗・高台付皿・甕・飯)、須恵器(甕)、灰釉陶器(瓶)、鉄製品(刀子)			
		中世	井戸跡	3基	土師質土器(小皿・内耳鍋)、陶器(甕)、銅製品(懸け鏡・鏡貨)			
		幕城	弥生時代	土坑墓	1基	弥生土器(鉢・壺)、石製品(管玉)		
		その他	時期不明	溝跡	1条	縄文土器		
要約	縄文時代中・後・晩期、弥生時代中期、平安時代中期の各時代の集落跡が確認されている。縄文時代から弥生時代の集落域は、時代が下るごとに調査区の東部から西部へ移動しており、土地利用の変化がみられる。また、表土中から中世の懸け鏡も出土している。							

印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows XP Professional Version2002.ServicePack3
	編集	Adobe Indesign CS3
	図版作成	Adobe Illustrator CS4
	写真調整	Adobe Photoshop CS4
	Scanning	6×7 film Nikon SUPER COOLSCAN 9000 ED 図面類 EPSON GT-X750
使用Font	OpenType	リュウミンPro・L
写真	線数	モノクロ175線以上 カラー210線以上
印刷	印刷所へは、	Adobe Indesign CS3でレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第332集

十王堂遺跡

主要地方道日立笠間線道路改良
工事地内埋蔵文化財調査報告書

平成22(2010)年 3月19日 印刷

平成22(2010)年 3月24日 発行

発行 財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内

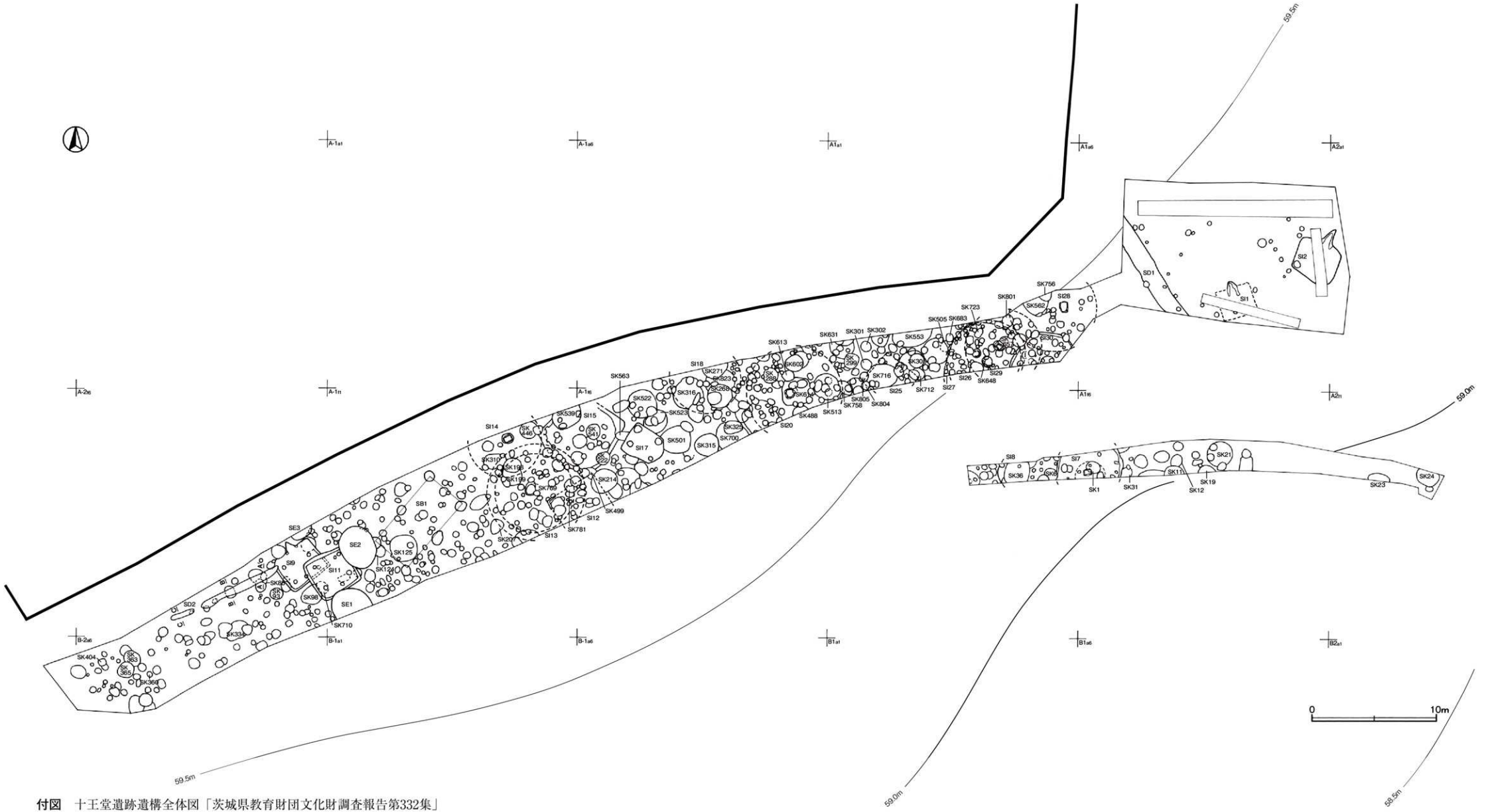
TEL 029-225-6587

H P <http://www.ibaraki-maibun.org/>

印刷 株式会社あけほの印刷社

〒310-0804 水戸市白梅1丁目2番11号

TEL 029-227-5505



付図 十王堂遺跡遺構全体図「茨城県教育財団文化財調査報告第332集」